

クラス		受験番号	
出席番号		氏名	

2012年度 全統マーク高2模試
学習の手引き【解答・解説集】

国語・地理歴史・公民

【2013年2月実施】

•国 語	1
•地理歴史	
世界史B ①「古代～中世」選択	28
②「近現代」選択	37
日本史B ①「原始～中世」選択	47
②「近現代」選択	55
地 理B	65
•公 民	
現代社会	79
倫 理	90
政治・経済	103
倫理、政治・経済	114

本冊子の解答・採点基準をもとに自己採点を行ってください。「自己採点シート」は学習の手引き〈英語〉編冊子の巻末にありますのでご利用ください。

河合塾

【解答・採点基準】

【国語】

(200
点満点)

第3問 自己採点小計	第3問					第2問					第1問					番問題 設問 番解 号答 正解 配点 自己採点												
	問6		問5		問4	問3		問2	問1		問6		問5		問4	問3		問2	問1									
									(イ) (ア) (ウ)										(イ) (ア) (ウ)									
	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	①	③	②	④	②	①	⑤	③	⑥	④	③	⑤	④	②	①	④	①	③	④	⑤	①	④	②	①	⑤	③	④	
	(50)	8	7	7	7	6	5	5	5	(50)	5	5	8	8	7	8	3	3	3	(50)	8	8	8	8	8	2	2	2

第4問 自己採点合計	第4問					番問題 設問 番解 号答 正解 配点 自己採点			
	問6	問5		問4	問3	問2	問1		
		(ii)	(i)				(2)	(1)	
	35	34	33	32	31	30	29	28	
	②	①	⑤	④	①	④	②	③	
	(200)	(50)	9	5	5	8	8	7	4

※の正解は順序を問わない。

【解説】

第1問 現代文

【出典】

佐々木毅『学ぶはどういうことか』（講談社）二〇一二[年刊]よりの出題。問題作成の都合上、途中に一部省略がある。

佐々木毅（ささき・たけし）は、西洋政治思想史を専門とする政治学者。一九四二年生まれ。東京大学法学部卒業。東京大学法学部教授を経て、東京大学総長を歴任。主な著書に『マキアヴェッリの政治理想』『アラートンと政治』『政治理学講義』『政治理学の名著30』『民主主義という不思議な仕組み』『政治の精神』などがある。

【本文解説】

本文は、「学び」の対象である情報や知識が社会や現実と深く関わっていることを論じ、情報や知識と権力との関係を歴史的に見直すことをも通して、「学ぶ」ことによる問題点を浮き彫りにするとともに、「学ぶ」際には情報や知識を多様な視点から解釈し、開放的な思考態度を維持することが重要であると述べた文章である。

本文は十一の形式段落から成るが、便宜的に三つの部分に分け、内容を確認していく。

I 「学ぶ」という行為（第一段落・第三段落）

多くの人間は、人生の中で挫折を味わったり現実の非合理性に違和感を抱いたりして、現状を超えたといふ思いを抱く。実際、現実の改革を唱える言説は数多くあるが、前世紀の社会や経済の仕組みが大きく変化し新しい生き方が求められるうえ、経済の停滞や少子高齢化などの問題を抱える今の日本では、固定観念が通用しなくなり、「学ぶ」ことが渴望されている。その意味で現在の日本は「学び」の時代にある。このように、個々人の「学ぶ」という行為には、「人間と社会や現実との関わり」という問題が伏在しているのである。

現在は、社会的に大きな変動がある

新しい生き方や働き方が求められる

固定観念にとらわれず、「学ぶ」ことが求められる
←
「学ぶ」ことには、人間と社会や現実との関わりと
いう問題が伏在している

II 情報や社会の非中立性（第四段落・第六段落）

人間が情報や知識に従つて生活している以上、それらは社会や現実には「管理・指揮命令関係」のような直接的なものから、「説得」を含む社会的な統合」という比較的緩やかなものまで、さまざまな権力・利害関係が存在する。「情報や知識」と「権力・利害関係」とは、ともに現実や社会を構成しながら複雑に絡み合う関係にある。

そもそも情報や知識において、「絶対的に「中立的」な」ものは「そう多くのあるわけではない」。情報や知識が社会の中で常に「中立的」な立場を保つていろいろであれば、それはさまざまな権力関係から一定の距離を置いて存在できるかもしれない。しかし、現実にはそのようなことは起こりにくい。

情報や知識のうち、「中立度」が高いものは自然科学に関する情報や知識であり、それらは権力関係と共生の余地が大きい。しかし、権力に利用される恐れがある。

自然科学とは異なり、社会に関する情報や知識は、少なくからず権力関係やその中に入る人々に影響を及ぼす可能性がある。たとえば、ある情報や知識が広範に流通することが、既存の権力関係やその担い手にとってマイナスとなる場合、政治権力の担い手がそれらの情報や知識の流通を制限し隠蔽（ひんぺい）するということが生じかねない。極端な場合には、権力者が自らにとつて都合の良い情報や知識しか供給せず、情報や知識と権力関係とが相互補強的な関係を形成し、人々から現実そのものが隠蔽されることもあり得る。権力関係がこのようにして自らを守り、自らの力を強大なものにしてようとした例としては、戦争中のプロパガンダ（＝主義・主張などを宣伝すること）。たとえば、第二次世界大戦中にはラジオ・映画などさまざまなメディアを使って、権力が自らの主張を喧伝（けんてん）したや独裁体制などを思い浮かべてみればよい。このような事態に陥ると、もはや政治学は消滅してしまう。現代でも、ウェブサイトやソーシャル・ネットワークなどを用いて政治を改革しようとするなど、それらが政治的変動の大好きな媒体になつている事例は数多くあり、政権の多くの重要な要素であること、また、どのような「現実」が作られるかによつて「人々や集団の位置取り」が変化することを考えると、われわれは「情報や知識とそこに潜む社会的利益志向との交錯に目配りをする必要がある」ことがわかる。情報や知識の世界は、われわれが想像するほど中立的なものではなく、

さまざまの意図がグローバルに（＝地球規模で）せめぎ合っているのが現状だ。現代において権力が露骨な暴力として行使されることは少なくなつたが、それは情報や知識などを通して「日常的」に作動しているのである。これらのことから筆者は、情報や知識を学ぶ者は、ナイーヴ（＝素朴）であつてはならず、「学ぶ」と自身が一種の知的なチャレンジの意味を持つことを自覚して、情報や知識の多様な「読み解き方」を学び、「開放的な思考態度を維持する」ことが求められている、と述べる。「学び」の対象である情報や知識がさまざまな権力・利害関係の影響を受けかねない以上、それらをそのまま受動的に取り入れるのではなく、情報や知識を多様な視点から解釈することをも学び、常に開かれた柔軟な思考態度を維持することが重要なのである。

『社会を形成する重要な要素である情報や知識』

- ・自然科学に関する情報や知識＝中立性が高い
- ・権力関係との共存の可能性
- ・権力関係に利用される恐れがある
- ・社会に関する情報や知識＝中立性が高くない
- ・権力関係に重大な影響を及ぼす可能性がある

『学ぶ』という行為

- ・権力関係に不利な情報や知識の抑圧
- ・……厳しい緊張関係
- ・権力関係に有利な情報や知識の推進
- ・……相互補強的な関係

開放的な思考態度の必要性

III 情報・知識と社会・現実の関係の歴史的な変化

（第七段落～最終段落）

【本文解説】IIの部分では、社会や現実を形成する重要な要素である情報や知識と、社会や現実に渾巣く

権力・利害関係との関係を考察した。次に筆者は、情報や知識が社会や現実とどのような関係にあつたのか、その歴史的な変化を振り返る。

『学問のすゝめ』（福沢諭吉著。明治五年～九年刊）は、明治初期の代表的啓蒙書として有名だが、筆者はその基本的な構想に注目する。そこには、「学問の有

無が人生の行方を決定する大きな要因である」と、「実学」が決定的に重要であることが述べられているが、それは明治初期がそれまでの社会と異なり、学問が大きな役割を持つ時代になつたことを物語つている。また、学問を重視することが「文明状態の決定的な特徴である」ことも指摘されている。学問に対するこのようなあり方は、産業革命という大きな「経済・社会変革」や、アメリカ独立革命やフランス革命という「政治革新」に遡（さかのば）って考えることができる。

まず、そうした変革が起きる以前の社会においては、「情報や知識は主として現状の再生産や自然の観照（＝対象を、主觀を交えずに冷静に見つめること）のために存在していた」。ヨーロッパの学問観の骨格を形成したアリストテレスは、「『変えられない』対象をもつばら観照すること」を「自然学」の目的としたという。これに対して「政治学」は、「『より良い生活を実現するための実践学』であり、「現実を変える知的な活動」とされたが、それは「政治体制の変革」を意味するもので、「貧困」のような事態は「自然現象」のようには変えられないものと捉えられていた。情報や知識が、主に「現実の再生産やその受身の解釈」のために用いられ、既存の権力関係に従属していたのである。第九段落の言葉を使えば、「人間が現実にてかん諦め（あきらめ）」をもつて従属している時代のことである。

筆者は、現実に従属している情報や知識が「現実を作り変える」基盤へと変化したのが、過去二世紀であると述べる。たとえば、この間にもたらされた発見や発明、また技術革命によって、古い社会経済関係は急速に解体していったが、それらを背景として生まれた「哲学」に基づいてフランス革命が起り、その後も「唯物論」という「観念」に根ざす「哲学」を基にした革命が世界で相次いだ。ちなみに「唯物論」とは「物質を根本的実在とし、精神や意識をも物質還元して捉える考え方」という意味であるが、「唯物論」という「観念」はここでは、「歴史の発展の原動力は、社会的生産における物質的生産力とそれに照応する生産関係とからなる社会の経済的構造にあるとするマルクス主義の哲学」を指している。過去二世紀は、こうした「哲学」によつて、実際に世界が作り変えられたいた時代なのである。

そして、この産業化・文明化が広がりつつある時代の雰囲気を伝えていたのが、先に挙げた『学問のすゝめ』である。この時代には、それまで人間が「諦観」をもつて接するしかなかつた現実を、情報や知識によつて変革ができるようになった。だからこそ福沢は、「学問の有無が人生の行方を決定する大きな要因である」と述べたのだろう。しかし、その一方で

この時代の情報と知識には、「西欧列強による帝国主義的侵略という権力的な側面が露骨につきまとつてゐた」。「情報や知識を武器に人間が現実を『作り変え』ようになつた」ということは、「権力欲の無限の解放」も付隨していたのである。【本文解説】Ⅱで確認したように、本来絶対的に中立的な情報や知識といふものは少なく、それらは権力関係やその扱い手によつて利用されることもあれば、権力を衰退させたり補強したりすることもある。西欧列強という権力が自らに有利な情報や知識を流通させるとき、そこに帝国主義的な侵略が生じることはうなづける。

このように考へると、情報や知識に対する評価は両義的なものになる。情報や知識が社会を望ましい方向に変革する可能性がある一方で、それらが人間の幸福や便益に反して用いられ、大量破壊兵器の開発のように、人間に恐怖をもたらす可能性もある。「人間的な現実がブーメランのよう人に自身に反映し、襲いかかる」とは、このような状況を言つたものであろう。

こうして現実が作り変え可能なものになり、現実に対する手応えが失われてくると、逆に「伝統的世界の持つていた」「安定性」に憧れるという事態も生じてくる。しかし、「伝統的世界」もあくまで「作られるもの」であり、権力関係の組み換えによって生じるものにすぎない。そして、こうした考えをおし進みると、目の前の現実を軽視し、不斷の権力行使によつて権力者の思うように現実を組み換えるということ、それに付随して人間自身も作り変えられる（洗脳される）といふことが生じてくる。このよくな、権力による社会や人間の現実の変革は、すでに二十世紀の「全体主義体制」で経験されたことである。

【本文解説】Ⅱで確認したように、「情報や知識」は

「社会的な現実を『作り上げる』重要な要素」であり、「現実を『どのように作り上げるか』」によつてさまざまの人々や集団の位置取りが違つてくる（第六段落）。そしてそのとき権力は、その権力が属する現実によつて制限を受けることになる。しかし、権力が社会や人間の現実を自由に変革できるということになれば、そこには権力の「自己運動」があるだけだ。現代社会を生きるわれわれは、この点に十分注意しなければならないだろう。その意味でも、第六段落で述べられていて、情報や知識の「多様な『読み解き方』」を学ぶことで、「開放的な思考態度を維持すること」が重要になつてくると思われる。

〈かつての社会〉

- ・情報や知識が、主として現状の再生産やその受身の解釈のために用いられた

・現実を変革することは困難

《過去二世紀から現在に至る社会》

・情報や知識が現実を変革する基盤となつた

情報や知識が権力関係から独立

情報や知識の有無は人生を決定する大きな要因（『学問のすゝめ』）

・情報や知識が権力的な側面が露骨につきまとつことも生じた

権力欲の無限の解放

権力によつて社会や人間の現実を作り変える可能性

【設問解説】 問1 漢字の書き取り問題

(1)は「世に広まること。広く知れ渡ること」という意味で「流布」と書く。(1)は「負債」。(2)は「交付」。(3)は「切符」。(4)は「布告」と書き、これが正解。(5)は「生まれつき。天性」という意味で「天賦」。

(1)は「同類のもののうち、その特徴を最もよく表しているもの」という意味で「典型」と書く。(1)は「拠点」。(2)は「展覧」。(3)は「正しく上品なこと。整つていてみやびやかなこと」という意味で「典雅」と書き、これが正解。(4)は「添加」。(5)は「移転」。

(1)は「いくつかのものが入り混じること」という意味で「交錯」と書く。(1)は「削減」。(2)は「搜索」。(3)は「搾取」。(4)は「著作」。(5)は「現実に起こっている事柄とと考えたが一致しないこと。あやまり。まちがい」という意味で「錯誤」と書き、これが正解。

(1)は「もとのままであるさま。前の通りであるさま」という意味で「依然」と書く。「以前」と書き誤まらないよう。(1)は「本人の願いによること」という意味で「依願」と書き、これが正解。(2)は「思つことが言葉によらず、互いの心から心に伝わること」という意味で「以心伝心」。(3)は「いきさつ。物事がこれまで展開してきたすじ道」という意味で「経緯」。(4)は「ゆだね任せること」という意味で「委任」。(5)は「学位」。

(1)は「影響が他に及んで現れること」という意味で「反映」と書く。前後の文脈をよく確認し、「さかえること」という意味の「繁栄」と間違えないようしよう。(1)は「社寺・宮殿などを建てること」

という意味で「造営」。②は「映写」と書き、これが正解。③は「榮枯」。「榮枯盛衰」は「人の一生や世の中は、盛んな時もあれば衰える時もあるということ」という意味である。④は「衛星」。⑤は「投影」。

問2 傍線部についての筆者の考え方を説明する問題

「個々人の『学ぶ』という行為」について「筆者」の「考え方」が問われている。「学ぶ」ことについて本文で直接言及されているのは、第二段落と第六段落である。

第二段落では、日本の現状が述べられている。現代は、さまざまな改革を唱える言説が大量に流布しているが、二十世紀に形成された社会や経済の仕組みが大きく変わり始め、人間の新しい働き方や生き方が模索されているという点で、現在の日本も固定観念を疑い、それを乗り越えなくてはならない時代に来ていると言える。特に、大きな経済成長が見込めず、少子高齢化が急速に進む中で、固定観念を超えて新しい生き方を模索するためには、「学ぶ」ということが重要になる。

「学ぶ」ためには、その対象となる「情報や知識」のあり方を吟味しなくてはならない。第四段落・第五段落に述べられているように、情報や知識は社会や現実を形成する重要な要素であるが、社会や現実にはさまざまな権力関係が渦巻いており、情報や知識は多かれ少なかれ権力関係に影響を及ぼすとともに、権力関係から影響を受ける可能性がある。情報や知識は必ずしも「中立的」なものとは言えないものである（詳しくは【本文解説】IIを参照のこと）。

そこで筆者は、第六段落で、「権力」が「情報や知識などを通して日常的に作動している」「今日において、「学ぶ」こと自身がナイーヴ（＝素朴）であってはならない」し、「学ぶ」こと自身が一種の知的なチャレンジの意味を持つことを自覚しなくてはならないと述べる。学ぶ対象である情報や知識が、社会や現実に根ざす権力関係からさまざまな影響を受けている可能性がある以上、それらを中立的なものとして無批判に受け入れ学んでいくことには危険が伴う。われわれは、情報や知識の「多様な『読み解き方』」をも学ばなくてはならない。そして、情報や知識を多様な視点から読み解き、理解するためには「開放的な思考態度を維持すること」が求められる。ある一つの考えに固執するのではなく、常に開かれた態度で柔軟に思考することが必要なのである。まとめれば、解答のポイントは次のようになる。

- a 社会や経済の仕組みが大きく変動する現代においては、「学ぶ」ことが重要である
- b 情報や知識をありのままに享受するという姿勢であつてはならない
- c 情報や知識を多様な視点から読み解いていくことが必要になる
- d そのためには、開放的な思考態度を維持することが求められる

したがつて、a・dのポイントを踏まえている④が正解。

①は、「社会や経済にとつて有用な情報や知識を精査し、合理的な社会の形成に役立てようとするべき」という部分が、右のc・dのポイントから外れており、不適当。

②は、「新しい情報や知識ができるだけ多く手に入れようとするべき」が右のb・c・dのポイントから外れており、不適当。「新しい」ものが良いとは限らないし「できるだけ多く」ということも本文に述べられていない。

③は、「今まで蓄積してきた多くの情報や知識のなかから、生の指針として信頼できる真実を見出すように努めるべき」が右のb・c・dのポイントから外れており、不適当。かつて「蓄積」したものから選ぶというあり方では、多様な視点や柔軟な思考は獲得できない。

⑤は、「身近な現実にとらわれることなく、グローバルな情報や知識を積極的に取り入れるべき」という内容が、本文にまったく述べられておらず、不適当。

問3 傍線部に関わる内容を説明する問題

「権力関係」と「情報・知識」との「関係」が問われている。傍線部に、両者の関係は「一筋縄ではいかない（＝普通の手段ではうまく扱うことができない）」と述べられているので、その複雑な関係を整理していく（詳しくは【本文解説】IIを参照のこと）。

傍線部の直前に、「人間が情報や知識といったものに従つて生活している以上、これらは否応なしに社会や現実を『作り上げている』側面がある」とあり、統いて、「社会や現実」においては「広い意味での権力・利害関係——管理・指揮命令関係から『说得』を含む社会的な統合——が網の目のように張り巡らされている」と述べられている。これに関連して、第六段落の冒頭でも「情報や知識が社会的な現実を『作り上げる』重要な要素であり、そして、この現実を『どのように作り上げるか』によつ

てさまざまな人々や集団の位置取りが違つてくる」と述べられている。つまり、情報や知識は社会や現実を形成する重要な要素であり、その社会や現実には直接的に間接的にもさまざまな形で「権力関係」が密接に絡み合っているため、形成された社会や現実のあり方によつてさまざまな人々や集団の立場や状況が変化するということだ。こうした現状の中で、「権力関係」と「情報や知識」とはどんな関係にあるのだろうか。第五段落を確認しよう。

まず、自然科学に関わる情報や知識は「中立度」が高い」という特徴がある。そのため権力関係と共生しやすい。しかし、権力関係やその扱い手が自らのためにそれらの情報や知識を利用することもあり得ることだ。

次に、社会に関する情報や知識は「少なからず権力関係やその中の当事者のポジションに影響を及ぼす可能性がある」。たとえば、情報や知識が既存の権力関係やその扱い手にマイナスの影響を与えるとき、それらが権力関係の衰退を導くこともあるだろう。そうしたとき権力は、その情報や知識を「危険なもの」と認識し、それらの流通を制限したり隠蔽したりしようとするかもしれない。そして、それが極端に進んだ場合は、既存の権力にとって都合のいい情報や知識のみが流通するという、権力関係と情報や知識とが「相互補強関係」に陥ることも考えられる。このような事態に至ると、現実そのものは隠蔽されてしまいかねない。「本来絶対的に『中立的』な情報や知識はそう多くあるわけではない」のだから、情報や知識はその性質によって権力関係とさまざまに複雑な関係を生じさせることになるのである。まとめれば、解答のポイントは次のようになる。

- a 情報や知識は社会や現実を形成する重要な要素である
- b 社会や現実には直接的にも間接的にもさまざまな権力関係が存在する
- c 絶対的に中立的な情報や知識を利用する場合
- 1 権力関係が情報や知識を利用する場合
- 2 情報や知識が権力関係の衰退を導く場合
- 3 権力関係にとって好都合な情報のみが流通する（権力関係が不利な情報や知識を制限・隠蔽する）ことによつて、相互補強的な関係が保たれる場合

したがつて、a～cの内容を踏まえている①が正解。設問では、「一筋縄ではないかない関係」を問う

ているのだから、cポイントの1・2・3のような複雑なあり方を説明している選択肢を選ぶことが肝要である。

②は、「権力者はにとって都合のいい情報や知識ばかりが流通するようになる」という部分が、cポイントのうち3にしか言及しておらず、一面的な説明であるため、不適当。

③は、「権力者は自己に影響を及ぼす情報や知識を避け、中立的なものだけを利用しようとすると傾向にある」という部分が不適当。権力は、自らに良い影響を及ぼす情報や知識ならば積極的に流通させようとするのであり、「中立的なものだけ」を利用するのではない。

④は、「権力にとって危険な情報や知識」というcポイントの2にしか言及しておらず、「一筋縄ではないかない」複雑な関係を説明できていないため、不適当。

⑤は、「多様な権力を統合しようとする者」や「社会にとって有益な情報や知識」という内容が本文に述べられておらず、不適当。

問4 傍線部に関わる内容を説明する問題

「貧困」が「自然現象」のように思われていた、ということの説明が求められている。傍線部の「自然現象」とはどういうことかを考えよう。

第八段落の初めに、「かつての情報や知識は主として現状の再生産や自然の観照（＝対象を、主觀を交えずに冷静に見つめること）のために存在していた」と述べられている。ここで「かつて」というのは、第七段落に述べられている「文明狀態」になる以前、すなわち「普通の日常生活にとって学問が大きな役割を持つ」より以前であり、様々な経済・社会变革、政治革新が起きる以前のことである。この「かつて」から現在への変化については、第九段落の冒頭に「情報や知識が一部の例外を除いて広い意味での現実の再生産やその受身の解釈から、現実を作り変える」基盤へと変化した」と述べられている（詳しく述べる〔本文解説〕IIIを参照のこと）。

では、学問やその対象である情報や知識が、現実を変革する役割を果たす前はどういう状況だったのか。第八段落に戻ろう。「かつて」は、情報や知識は主に「現状の再生産」つまり、現状を変革するのではなく、現状を追認するために存在していた。それは「自然」を「観照」するのと同様のあり方である。アリストテレスの時代以降ヨーロッパでは長い間、「自然学」というのは「変えられない」対象をもっぱら観照すること目的にしていた。「自然現

象」は人間が自由に変革できるものではないと考えられてきたのである。

それに対して、政治学は「現実を変える知的な活動」であり、確かに「政治体制の変革は一定のスピードで行われてきた」。しかし「貧困」については「さながら『自然現象』のように思われていた」。すなわち、「貧困」のような現象は、自然現象と同様に、人間が自由に見えることのできないもの、現状をそのまま受動的に受け入れていくしかないものと考えられていたのである。また、この時代の社会についてでは、第九段落に「人間が現実に諦観（＝諦め）をもつて従属している」、第十段落に「（変革しがたい）岩盤のように固い現実」が存在したと述べられている。まとめれば、解答のポイントは次のようになる。

- a 情報や知識が現状の再生産のために存在し、現実を変革する力を持たなかつた時代には
b 貧困のような社会現象は、人間が自由に変えられるものではなく、そのまま受け入れていくしかないと考えられていた

したがつて、a・bの内容を踏まえている⑤が正解。ちなみに「貧困」について問われているのだから、「たとえ不本意なものであつても」という説明は適切と言える。

①は、「学問の骨格がようやくでき始めたアリストテレスの時代には」という部分が、aのポイントの説明として間違っているため、不適当。
②は、「自然と異なり社会的現実は変革すべきものと考えられた」という部分が不適当。確かに「政治体制の変革は一定のスピードで行われてきた」が、「貧困」については、傍線部で述べられているように「自然現象」と同様のものだと思われていたのである。
③は、「現実を補強する知的な活動である政治学」という部分が不適当。「貧困」のような現象については変えられないと考えていたが、「政治学」自体は「現実を変える知的な活動」（第八段落）と捉えられており、「現実を補強する」ものではない。
④は、「ヨーロッパの学問観の骨格が形成されたアリストテレスの時代には」という部分が、①と同様、aのポイントの説明として間違っているため、不適当。

問5 傍線部に関わる内容を説明する問題

「権力」が「自己運動する」場合についての説明が求められている。傍線部の直前に「残るのは」と

あることに注目すると、ここで言う「自己運動」とは、「権力が自らを制限する現実をそれ自身が『作り変える』ことができるようになつた場合に生じる事態だとわかる。これはどういうことか。

「権力」と「現実」との関係について改めて確認していこう（詳しくは【本文解説】Ⅲを参照のこと）。過去二世紀の間に、かつて「広い意味での現実の再生産やその受身の解釈」という役割を果たしていた「情報や知識」が、「現実を『作り変える』基盤へと変化した」。それまで既存の権力に従属していた情報や知識が、権力から独立して現実を変革するようになつたのである。これは画期的なことであつた。しかし一方で、情報と知識は「西歐列強による帝国主義的侵略という権力的な側面」が露骨につきまとうものになつた。人間が情報や知識を武器にして現実を作り変えられるようになつたことは、「権力欲の無限の解放」をも伴つていたのである（第九段落）。

これらの結果、「人間によつて不斷に『作り変えられる』世界によつて人間は取り囲まれることになる（第十段落）。そして現実の『作り変え』は既存の権力関係の組み換えであり、破壊である以上、不斷の権力行使を必要とする」という事態が生じた（最終段落）。やがて権力は情報や知識を武器に社会の現実を変革しようとするだけでなく、人間自身のありようまでも変革しよう（人間を洗脳しよう）とする。そこには「かつてなかつたようなタイプの権力の誕生と『現実に対する軽蔑』が広範に見られる」と筆者は言う。第六段落に述べられていたように、現代において「情報や知識」は「社会的な現実を『作り上げる』重要な要素」であり、そこで形成された現実によって「さまざまな人々や集団の位置取りが違つて」いた。そこでは「権力」は情報や知識によって形成された「現実」によって何らかの制限を受けたはずである。しかし、傍線部の直前に述べられているように、「権力が自らを制限する現実をそれ自身が『作り変える』ことができるようになつた場合、すなわち、「権力」を「制限する」はずの「現実」（社会の現実や人間自身のありよう）を、権力自身が「作り変える」ことができるようになれば、そこに残るのは、「権力」自身の「運動」でしかなくなるのである。

以上から、「権力」が「自己運動する」場合とは、次のようにまとめられる。

a 権力が社会や人間の現実を変革できるようになり

b 現実が権力を制限する力をもたなくなる場合

したがって、a・bの内容を踏まえている④が正解。④以外の選択肢は、a・bのポイントから外れているという点で既に不適当であるが、それぞれの間違いの箇所も指摘しておく。

①は、「人々がおのずと安定した権力に憧れ、それを求めてしまうような場合」が不適当。人々が安定を求めるだけでは「権力」の「自己運動」は起こらない。

②は、「人々がそれぞれ権力を求めて情報や知識を競って手に入れようとするような場合」が不適当。そのようなことは本文に述べられていない。

③は、「人間はそれ（＝人間を大量抹殺するような横暴な権力）に」「成す術を持たないような場合」が不適当。権力が社会や人間の現実を変革するといふ点まで説明する必要がある。

⑤は、「人々が幸福と利益を求めて既存の権力関係を不斷に組み換えようとするような場合」が不適当。権力が「自己運動」する状態とは、権力が人間のありようまで作り変えようとする場合に生じるものであり、「人々」が「権力関係」を「組み換えようとする」場合に生じるのではない。

問6 文章の論の展開を説明する問題

文章の論の展開（進め方）が問われている問題では、大きく本文を幾つかの部分（意味段落）に分けて、それぞれの論旨を把握することが大切だ。本文の論の展開を、あらためて確認しよう。

【本文解説】Iで説明したように、本文ではまず、現在のように社会変動が大きい時代には、人々は新しい生き方や働き方を模索しなくてはならないことが述べられる。そして、そうした「個々人の『学ぶ』」という行為には「人間と社会や現実との関わり」という問題が伏在している（第三段落）と、問題点が明示される。

【本文解説】IIの部分では、「学び」の対象となる情報や知識の「非中立性」について述べられ、情報や知識が社会における権力・利害関係と一筋縄ではいかない関係にあることが論じられる。また、そうした考察を通して、「学ぶ」ことの問題点や「学ぶ」側に求められるものについて、筆者の考えが提示されている。

「学ぶ」という行為や「学び」の対象となる情報や知識にまつわる問題点が浮き彫りにされている。したがって、以上の論の展開を踏まえている⑧が正解。

①は、まず「情報や知識が、既存の権力関係を支えるばかりか、さらに権力者の欲望をどこまでも昂進させてしまうことを指摘し」という部分が限定的な説明になつていて、**【本文解説】**IIでは、情報や知識と権力関係の「一筋縄ではいかない関係」が述べられていて、**【本文解説】**IIIの部分では、情報・知識と社会・現実の関係について「歴史的な変化」が説明されていた。また、「学ぶ」という行為のはらむ危険性を訴えている」という部分も筆者の考え方と異なつていて、筆者はあくまで「学ぶ」ことを勧めているのであり、「学ぶ」ことにまつわる問題点を指摘してはいるが、「学ぶ」という行為が「危険性」のあるものだと「訴えて」いるわけではない。

②は、「情報や知識には、そもそも中立性は存在しえないことを確認し」という部分が不適当。第五段落に「自然科学に関わる知識は『中立度』が高い」と述べられており、「中立性は存在し得ない」と言うことはできない。

④は、「古典から『学ぶ』ことの大切さを提唱している」が不適当。そのようなことは本文に一切述べられていない。

⑥は、「『学ぶ』ことがかえって人間の自由を縛りかねない」という結論を導きだしているが不適当。筆者は、「学ぶ」ことにまつわる問題点を指摘しているが、「学ぶ」ことで人間が不自由になる、という「結論」を導いているわけではない。

第2問 現代文

【出典】

吉村昭「真昼の花火」の一節。ただし、問題作成の都合上、途中一部を省略したほか、表記を改めた箇所がある。小説「真昼の花火」は、「文学者」一九六二年二月号に掲載され、「真昼の花火」(二〇一〇年、河出書房新社刊)に収められた。

吉村昭(よしむら・あきら)は、一九二七年、東京生まれ。学習院大学在学中に同人誌「学習院文芸」を創刊。大学中退後、勤めながら、同人誌「文学者」(丹羽文雄主宰)などに短篇小説を発表。一九六六年『星への旅』で太宰治賞を受賞。一九七三年には、『戦艦武藏』『関東大震災』など一連のドキュメンタリー(『記録文学』)で菊池寛賞を受賞した。他に、『深海の使者』(文藝春秋読者賞)、「ふおん・しいほるとの娘』(吉川英治文学賞)、「冷い夏、熱い夏」(毎日芸術賞)、「破獄」(讀賣文学賞、芸術選奨文部大臣賞)など多数の著作がある。二〇〇六年、死去。

【本文解説】

本文は、実家の営むふとんの打ち直し業(=古くかたくなつた綿を再生して柔らかな状態にもどす仕事)を継がず、大手化學繊維会社で洋風ふとんの宣伝を担当する「私」が、そのことに矛盾を感じつつも仕事にはげむなかで、家でも会社でも孤立している様子や、否応なく会社の論理に巻き込まれていく様子を描いている。

本文を読解する際には、家や会社でのさまざまな出来事や人々とのやりとりが「私」の視点から描かれていることに留意し、「私」から見た家族と会社の人々のありようを丁寧に読み取るとともに、そのなかで搖れ動く「私」の心情を正確に理解したい。

本文は、空行によつて区切られた二つの部分から構成されている。それに従い、本文の内容を確認していく。

I 家でも会社でも孤立した存在であった「私」(冒頭～48行目「……孤立した存在になつていた。」)

リード文から明らかのように、「私」は大手化學繊維会社の寝具課で、化學繊維を使つた洋風ふとんの宣伝を担当している。現在の仕事は、商品を消費者に買わせるための宣伝文の作成である。それは商品の流通に先駆けて、その質の良さや利点を具体的に印象づけるものでなければならない。「私」は、従来の棉花わたりード文から明らかなように、「私」は大手化學繊維会社の寝具課で、化學繊維を使つた洋風ふとんと比べて、打ち直しの手間が不要であることなどを盛り込んだ宣伝文を作つた。それらはメディアを通じて「私」の住む町にも入ってきていた。

そんなある日、弟が洋風ふとんの売れ行きを「私」に尋ねることがあつた。弟は実家が営むふとんの打ち直し業を手伝つており、家業が洋風ふとんの勢いに圧倒されてしまうのではないかと不安なのだ。その不安を見て取つた「私」は明言を避ける。すると、それで黙っていた父が苛立つた様子で「くだらないことを考へるな」と二人の会話を割つて入つてくる。ただこの発言は自分ではなく、弟にだけ向けられたものだと「私」は感じる。「くだらないこと」とは、家業が洋風ふとんの勢いに圧倒されてしまうことを意味する。なぜそれが「くだらない」のか。これまでふとん業界に進出してきた新しいものは消え、結局棉花ふとんが生き残つてきたと父は言う。こうした父の経験に裏打ちされた言葉に従えば、打ち直し業は安泰であり、先行きに不安を抱く必要はないということになる。「ふとんは、やはり棉花だ。つまらぬ心配などしないで働いていればいいんだ」というきつぱりした口調からは、父の搖らぐことのない思いを読み取ることができ。こうして、弟と父は、家業という「一つの強い絆」で結ばれており、「私」はそこから「孤立している自分」を痛感することになる。

「私」が勤務する大手繊維会社は、旧来のふとん業界を攻撃しようとしているが、旧来のふとんから洋風ふとんへという流れは時代の趨勢(すうせい)でもある。この「父には想像もつかない大きなもの」によって、「私」の家も転業や廃業を余儀なくされるときが来るだろう——このようなことが分かつてゐながらも、「私」はそれを父と弟に知らせようとしない。「ふとんは、やはり棉花だ」と断言する父は、そのときが来ても頑固に家業にしがみついているのだろう。そんな父にふとん業界の行く末を知らせるのは残酷な気がして、「私は口を閉ざしているしかなかった。

会社の人間は、「私」の実家が打ち直し業を営んでいることを知つてゐる。あるとき、上司の水野が「君は、自分の仕事と家業とのことについて矛盾を感じていないのかね」と「私の顔をうかがいながら」言つたことがあつた。「私」の仕事は、洋風ふとんを売るためにそれが旧来のふとんより優れている点を強調しなくてはならず、それはいきおい家業を否定することにつながる。そうした状況を水野は「矛盾」と言つているのだ。

「矛盾」を感じずにいられるはずはないのだが、「仕事は、仕事ですから……」とかわす「私」に対して、水野は「それは立派だ。よく割り切れたね」と「私の顔をみつめていた」。ここに「私」は「水野の残忍(=むごいことを平氣で行う)な性格」を読み取る。それは、「私」の家業を蔑みながら、家業に背いて働く

いている「私」の出世意識をも見透かしてあざ笑うようなあり方であり、「私」の抱く矛盾にあえて触れることで、「私」の反応を「うかが」おうとするようなり方である。

同様の意識は他の課員たちにも共通したものであろう。そのうえ、「私」が宣伝担当という仕事を一人でこなし、洋風ふとんの順調な滑り出しに貢献したことであって、課員からの嫉妬や反感も強く感じられるようになつた。

このIの部分では、まず、家業を通じて結びついている父と弟の様子や、家業を否定するような仕事に就いている「私」の思いを通して、「私」が家族の中での孤立していることを理解しておこう。それとともに、水野とのやりとりや、課員たちの描写を通して、「私」が課内でも孤立した存在であることを理解しておこう。

II 否応なく会社の論理に巻き込まれていく「私」

(50行目「宣伝という私の仕事は……」(本文末)

宣伝という仕事は、全く実態のない奇妙な仕事である。というのも、消費者という不特定多数の存在に向けて、「キヤツチフレーズ」(=人の注意を引く簡潔な宣伝文句)を多額な費用をかけて提示していくだけのものであるからだ。

たとえば、これが商品を直接販売するような店であれば、来店した買い手とじかに接することでその反応を確かめることができるし、売買もその場で成立する。だが、「私」の担当する宣伝はマス・メディアを介して消費者に届くのだし、その宣伝を見聞きした人が商品を買うとは限らない。不特定の消費者を一人でも多く買う気にさせるように働きかけるのが、広告なのである。「私」の作成する宣伝文も、そのような役割を果たせなければ浪費にすぎない。それを考えると「私」は、「云い知れぬ不安な感情」に襲われる。

唯一の救いは、多額な費用をかけた宣伝が売り上げに貢献したという事実である。だが、販売状況の実態を把握できない「私」は「不安と期待の相半ばした不安定な立場」に立たされていた。

販売状況の全容を報告する会議で、町のふとん店では、値段の高さと新製品に対する消費者の不安から洋風ふとんがあまり売れていないということを聞き、「私」は不安を拭えない。さらに、ふとん店 자체が洋風ふとんを積極的に売りたがっていないという実態があり、その原因が「私」の作った宣伝文にあることを聞いて、「私」はひどく動搖し、同僚たちの厳しい視線を感じた。

そもそもふとん店にとってふとんは一度売ってしまえばおしまいなのではなく、打ち直しによって利益を得る商品なのであって、打ち直し不要を諂う洋風ふとんは「妙味」(=うまい)。この場合は、たやすく生じる利益)に欠けるのである。「私」は「羞恥」(=恥ずかしく感じること)と狼狽(=あわてふためくこと)に襲われる中で、実家に来る客のことを思い起こしながら課員の報告を確かなものとして認めざるを得なかつた。

「私」が家業のことを真剣に考慮しなかつたため、ふとん店の実情を踏まえないような宣伝文を作成してしまつたわけだが、このことによつて多額な宣伝費が「無効」(=売り上げに結びつかなかったこと)になつたばかりか、「悪い結果」(=ふとん店が棉花わたのふとんを売りたがること)をもたらすために費やされてしまつたようだ。「私」は責任を感じ、顔を上げることが出来なかつた。

寝具店係りの課員が今後は刺激的な宣伝文を避けるように提案すると、水野は苦笑し「私」の方に向き直つた。「私」は自分が水野から非難されることを予感するが、実際に非難されたのは寝具店係りの課員だった。

宣伝を通じて消費者を味方につけるためには棉花わたと打ち直しの不利な点を強調するのが当然であるとする水野の言葉を聞いて、「私」はそれまでの緊張がほぐれていくのを感じる。水野の主張は、自分の宣伝文を結果的に支持するものだつたからだ。これまで「私」が抱いていた、宣伝文やそれを作成する自分の立場に対する不安や心配はなくなつた。

水野は「私」に、ふとん店をはつきり敵と意識するよう宣伝文を直せと言う。この提案は家業に背くものではあるが、これまでの不安や心配から解放された今、「私」はこの提案を思わず受け入れてしまうのだった。

このIIの部分では、まず、宣伝という仕事に手ごたえを感じられない「私」が、課内での自分の立場を不安定なものだととらえていたことを理解しよう。また、会議の場面で課員の報告内容や同僚の視線、水野の表情や態度に敏感に反応する「私」の、心情の変化を読み取ろう。

【設問解説】

問1 語句の意味を答える問題

この問題は、基本的には語句の辞書的な意味を問う知識問題である。傍線部前後の文脈ばかりにとらわれず、傍線部の語句 자체がそもそもどういう意味かを考えたうえで、解答を選ぶことが大切である。

(ア)の「鎌首をもたげ」¹⁾²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾⁶⁾⁷⁾⁸⁾⁹⁾¹⁰⁾¹¹⁾¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾¹⁵⁾¹⁶⁾¹⁷⁾¹⁸⁾¹⁹⁾²⁰⁾²¹⁾²²⁾²³⁾²⁴⁾²⁵⁾²⁶⁾²⁷⁾²⁸⁾²⁹⁾³⁰⁾³¹⁾³²⁾³³⁾³⁴⁾³⁵⁾³⁶⁾³⁷⁾³⁸⁾³⁹⁾⁴⁰⁾⁴¹⁾⁴²⁾⁴³⁾⁴⁴⁾⁴⁵⁾⁴⁶⁾⁴⁷⁾⁴⁸⁾⁴⁹⁾⁵⁰⁾⁵¹⁾⁵²⁾⁵³⁾⁵⁴⁾⁵⁵⁾⁵⁶⁾⁵⁷⁾⁵⁸⁾⁵⁹⁾⁶⁰⁾⁶¹⁾⁶²⁾⁶³⁾⁶⁴⁾⁶⁵⁾⁶⁶⁾⁶⁷⁾⁶⁸⁾⁶⁹⁾⁷⁰⁾⁷¹⁾⁷²⁾⁷³⁾⁷⁴⁾⁷⁵⁾⁷⁶⁾⁷⁷⁾⁷⁸⁾⁷⁹⁾⁸⁰⁾⁸¹⁾⁸²⁾⁸³⁾⁸⁴⁾⁸⁵⁾⁸⁶⁾⁸⁷⁾⁸⁸⁾⁸⁹⁾⁹⁰⁾⁹¹⁾⁹²⁾⁹³⁾⁹⁴⁾⁹⁵⁾⁹⁶⁾⁹⁷⁾⁹⁸⁾⁹⁹⁾¹⁰⁰⁾¹⁰¹⁾¹⁰²⁾¹⁰³⁾¹⁰⁴⁾¹⁰⁵⁾¹⁰⁶⁾¹⁰⁷⁾¹⁰⁸⁾¹⁰⁹⁾¹¹⁰⁾¹¹¹⁾¹¹²⁾¹¹³⁾¹¹⁴⁾¹¹⁵⁾¹¹⁶⁾¹¹⁷⁾¹¹⁸⁾¹¹⁹⁾¹²⁰⁾¹²¹⁾¹²²⁾¹²³⁾¹²⁴⁾¹²⁵⁾¹²⁶⁾¹²⁷⁾¹²⁸⁾¹²⁹⁾¹³⁰⁾¹³¹⁾¹³²⁾¹³³⁾¹³⁴⁾¹³⁵⁾¹³⁶⁾¹³⁷⁾¹³⁸⁾¹³⁹⁾¹⁴⁰⁾¹⁴¹⁾¹⁴²⁾¹⁴³⁾¹⁴⁴⁾¹⁴⁵⁾¹⁴⁶⁾¹⁴⁷⁾¹⁴⁸⁾¹⁴⁹⁾¹⁵⁰⁾¹⁵¹⁾¹⁵²⁾¹⁵³⁾¹⁵⁴⁾¹⁵⁵⁾¹⁵⁶⁾¹⁵⁷⁾¹⁵⁸⁾¹⁵⁹⁾¹⁶⁰⁾¹⁶¹⁾¹⁶²⁾¹⁶³⁾¹⁶⁴⁾¹⁶⁵⁾¹⁶⁶⁾¹⁶⁷⁾¹⁶⁸⁾¹⁶⁹⁾¹⁷⁰⁾¹⁷¹⁾¹⁷²⁾¹⁷³⁾¹⁷⁴⁾¹⁷⁵⁾¹⁷⁶⁾¹⁷⁷⁾¹⁷⁸⁾¹⁷⁹⁾¹⁸⁰⁾¹⁸¹⁾¹⁸²⁾¹⁸³⁾¹⁸⁴⁾¹⁸⁵⁾¹⁸⁶⁾¹⁸⁷⁾¹⁸⁸⁾¹⁸⁹⁾¹⁹⁰⁾¹⁹¹⁾¹⁹²⁾¹⁹³⁾¹⁹⁴⁾¹⁹⁵⁾¹⁹⁶⁾¹⁹⁷⁾¹⁹⁸⁾¹⁹⁹⁾²⁰⁰⁾²⁰¹⁾²⁰²⁾²⁰³⁾²⁰⁴⁾²⁰⁵⁾²⁰⁶⁾²⁰⁷⁾²⁰⁸⁾²⁰⁹⁾²¹⁰⁾²¹¹⁾²¹²⁾²¹³⁾²¹⁴⁾²¹⁵⁾²¹⁶⁾²¹⁷⁾²¹⁸⁾²¹⁹⁾²²⁰⁾²²¹⁾²²²⁾²²³⁾²²⁴⁾²²⁵⁾²²⁶⁾²²⁷⁾²²⁸⁾²²⁹⁾²³⁰⁾²³¹⁾²³²⁾²³³⁾²³⁴⁾²³⁵⁾²³⁶⁾²³⁷⁾²³⁸⁾²³⁹⁾²⁴⁰⁾²⁴¹⁾²⁴²⁾²⁴³⁾²⁴⁴⁾²⁴⁵⁾²⁴⁶⁾²⁴⁷⁾²⁴⁸⁾²⁴⁹⁾²⁵⁰⁾²⁵¹⁾²⁵²⁾²⁵³⁾²⁵⁴⁾²⁵⁵⁾²⁵⁶⁾²⁵⁷⁾²⁵⁸⁾²⁵⁹⁾²⁶⁰⁾²⁶¹⁾²⁶²⁾²⁶³⁾²⁶⁴⁾²⁶⁵⁾²⁶⁶⁾²⁶⁷⁾²⁶⁸⁾²⁶⁹⁾²⁷⁰⁾²⁷¹⁾²⁷²⁾²⁷³⁾²⁷⁴⁾²⁷⁵⁾²⁷⁶⁾²⁷⁷⁾²⁷⁸⁾²⁷⁹⁾²⁸⁰⁾²⁸¹⁾²⁸²⁾²⁸³⁾²⁸⁴⁾²⁸⁵⁾²⁸⁶⁾²⁸⁷⁾²⁸⁸⁾²⁸⁹⁾²⁹⁰⁾²⁹¹⁾²⁹²⁾²⁹³⁾²⁹⁴⁾²⁹⁵⁾²⁹⁶⁾²⁹⁷⁾²⁹⁸⁾²⁹⁹⁾³⁰⁰⁾³⁰¹⁾³⁰²⁾³⁰³⁾³⁰⁴⁾³⁰⁵⁾³⁰⁶⁾³⁰⁷⁾³⁰⁸⁾³⁰⁹⁾³¹⁰⁾³¹¹⁾³¹²⁾³¹³⁾³¹⁴⁾³¹⁵⁾³¹⁶⁾³¹⁷⁾³¹⁸⁾³¹⁹⁾³²⁰⁾³²¹⁾³²²⁾³²³⁾³²⁴⁾³²⁵⁾³²⁶⁾³²⁷⁾³²⁸⁾³²⁹⁾³³⁰⁾³³¹⁾³³²⁾³³³⁾³³⁴⁾³³⁵⁾³³⁶⁾³³⁷⁾³³⁸⁾³³⁹⁾³⁴⁰⁾³⁴¹⁾³⁴²⁾³⁴³⁾³⁴⁴⁾³⁴⁵⁾³⁴⁶⁾³⁴⁷⁾³⁴⁸⁾³⁴⁹⁾³⁵⁰⁾³⁵¹⁾³⁵²⁾³⁵³⁾³⁵⁴⁾³⁵⁵⁾³⁵⁶⁾³⁵⁷⁾³⁵⁸⁾³⁵⁹⁾³⁶⁰⁾³⁶¹⁾³⁶²⁾³⁶³⁾³⁶⁴⁾³⁶⁵⁾³⁶⁶⁾³⁶⁷⁾³⁶⁸⁾³⁶⁹⁾³⁷⁰⁾³⁷¹⁾³⁷²⁾³⁷³⁾³⁷⁴⁾³⁷⁵⁾³⁷⁶⁾³⁷⁷⁾³⁷⁸⁾³⁷⁹⁾³⁸⁰⁾³⁸¹⁾³⁸²⁾³⁸³⁾³⁸⁴⁾³⁸⁵⁾³⁸⁶⁾³⁸⁷⁾³⁸⁸⁾³⁸⁹⁾³⁹⁰⁾³⁹¹⁾³⁹²⁾³⁹³⁾³⁹⁴⁾³⁹⁵⁾³⁹⁶⁾³⁹⁷⁾³⁹⁸⁾³⁹⁹⁾⁴⁰⁰⁾⁴⁰¹⁾⁴⁰²⁾⁴⁰³⁾⁴⁰⁴⁾⁴⁰⁵⁾⁴⁰⁶⁾⁴⁰⁷⁾⁴⁰⁸⁾⁴⁰⁹⁾⁴¹⁰⁾⁴¹¹⁾⁴¹²⁾⁴¹³⁾⁴¹⁴⁾⁴¹⁵⁾⁴¹⁶⁾⁴¹⁷⁾⁴¹⁸⁾⁴¹⁹⁾⁴²⁰⁾⁴²¹⁾⁴²²⁾⁴²³⁾⁴²⁴⁾⁴²⁵⁾⁴²⁶⁾⁴²⁷⁾⁴²⁸⁾⁴²⁹⁾⁴³⁰⁾⁴³¹⁾⁴³²⁾⁴³³⁾⁴³⁴⁾⁴³⁵⁾⁴³⁶⁾⁴³⁷⁾⁴³⁸⁾⁴³⁹⁾⁴⁴⁰⁾⁴⁴¹⁾⁴⁴²⁾⁴⁴³⁾⁴⁴⁴⁾⁴⁴⁵⁾⁴⁴⁶⁾⁴⁴⁷⁾⁴⁴⁸⁾⁴⁴⁹⁾⁴⁵⁰⁾⁴⁵¹⁾⁴⁵²⁾⁴⁵³⁾⁴⁵⁴⁾⁴⁵⁵⁾⁴⁵⁶⁾⁴⁵⁷⁾⁴⁵⁸⁾⁴⁵⁹⁾⁴⁶⁰⁾⁴⁶¹⁾⁴⁶²⁾⁴⁶³⁾⁴⁶⁴⁾⁴⁶⁵⁾⁴⁶⁶⁾⁴⁶⁷⁾⁴⁶⁸⁾⁴⁶⁹⁾⁴⁷⁰⁾⁴⁷¹⁾⁴⁷²⁾⁴⁷³⁾⁴⁷⁴⁾⁴⁷⁵⁾⁴⁷⁶⁾⁴⁷⁷⁾⁴⁷⁸⁾⁴⁷⁹⁾⁴⁸⁰⁾⁴⁸¹⁾⁴⁸²⁾⁴⁸³⁾⁴⁸⁴⁾⁴⁸⁵⁾⁴⁸⁶⁾⁴⁸⁷⁾⁴⁸⁸⁾⁴⁸⁹⁾⁴⁹⁰⁾⁴⁹¹⁾⁴⁹²⁾⁴⁹³⁾⁴⁹⁴⁾⁴⁹⁵⁾⁴⁹⁶⁾⁴⁹⁷⁾⁴⁹⁸⁾⁴⁹⁹⁾⁵⁰⁰⁾⁵⁰¹⁾⁵⁰²⁾⁵⁰³⁾⁵⁰⁴⁾⁵⁰⁵⁾⁵⁰⁶⁾⁵⁰⁷⁾⁵⁰⁸⁾⁵⁰⁹⁾⁵¹⁰⁾⁵¹¹⁾⁵¹²⁾⁵¹³⁾⁵¹⁴⁾⁵¹⁵⁾⁵¹⁶⁾⁵¹⁷⁾⁵¹⁸⁾⁵¹⁹⁾⁵²⁰⁾⁵²¹⁾⁵²²⁾⁵²³⁾⁵²⁴⁾⁵²⁵⁾⁵²⁶⁾⁵²⁷⁾⁵²⁸⁾⁵²⁹⁾⁵³⁰⁾⁵³¹⁾⁵³²⁾⁵³³⁾⁵³⁴⁾⁵³⁵⁾⁵³⁶⁾⁵³⁷⁾⁵³⁸⁾⁵³⁹⁾⁵⁴⁰⁾⁵⁴¹⁾⁵⁴²⁾⁵⁴³⁾⁵⁴⁴⁾⁵⁴⁵⁾⁵⁴⁶⁾⁵⁴⁷⁾⁵⁴⁸⁾⁵⁴⁹⁾⁵⁵⁰⁾⁵⁵¹⁾⁵⁵²⁾⁵⁵³⁾⁵⁵⁴⁾⁵⁵⁵⁾⁵⁵⁶⁾⁵⁵⁷⁾⁵⁵⁸⁾⁵⁵⁹⁾⁵⁶⁰⁾⁵⁶¹⁾⁵⁶²⁾⁵⁶³⁾⁵⁶⁴⁾⁵⁶⁵⁾⁵⁶⁶⁾⁵⁶⁷⁾⁵⁶⁸⁾⁵⁶⁹⁾⁵⁷⁰⁾⁵⁷¹⁾⁵⁷²⁾⁵⁷³⁾⁵⁷⁴⁾⁵⁷⁵⁾⁵⁷⁶⁾⁵⁷⁷⁾⁵⁷⁸⁾⁵⁷⁹⁾⁵⁸⁰⁾⁵⁸¹⁾⁵⁸²⁾⁵⁸³⁾⁵⁸⁴⁾⁵⁸⁵⁾⁵⁸⁶⁾⁵⁸⁷⁾⁵⁸⁸⁾⁵⁸⁹⁾⁵⁹⁰⁾⁵⁹¹⁾⁵⁹²⁾⁵⁹³⁾⁵⁹⁴⁾⁵⁹⁵⁾⁵⁹⁶⁾⁵⁹⁷⁾⁵⁹⁸⁾⁵⁹⁹⁾⁶⁰⁰⁾⁶⁰¹⁾⁶⁰²⁾⁶⁰³⁾⁶⁰⁴⁾⁶⁰⁵⁾⁶⁰⁶⁾⁶⁰⁷⁾⁶⁰⁸⁾⁶⁰⁹⁾⁶¹⁰⁾⁶¹¹⁾⁶¹²⁾⁶¹³⁾⁶¹⁴⁾⁶¹⁵⁾⁶¹⁶⁾⁶¹⁷⁾⁶¹⁸⁾⁶¹⁹⁾⁶²⁰⁾⁶²¹⁾⁶²²⁾⁶²³⁾⁶²⁴⁾⁶²⁵⁾⁶²⁶⁾⁶²⁷⁾⁶²⁸⁾⁶²⁹⁾⁶³⁰⁾⁶³¹⁾⁶³²⁾⁶³³⁾⁶³⁴⁾⁶³⁵⁾⁶³⁶⁾⁶³⁷⁾⁶³⁸⁾⁶³⁹⁾⁶⁴⁰⁾⁶⁴¹⁾⁶⁴²⁾⁶⁴³⁾⁶⁴⁴⁾⁶⁴⁵⁾⁶⁴⁶⁾⁶⁴⁷⁾⁶⁴⁸⁾⁶⁴⁹⁾⁶⁵⁰⁾⁶⁵¹⁾⁶⁵²⁾⁶⁵³⁾⁶⁵⁴⁾⁶⁵⁵⁾⁶⁵⁶⁾⁶⁵⁷⁾⁶⁵⁸⁾⁶⁵⁹⁾⁶⁶⁰⁾⁶⁶¹⁾⁶⁶²⁾⁶⁶³⁾⁶⁶⁴⁾⁶⁶⁵⁾⁶⁶⁶⁾⁶⁶⁷⁾⁶⁶⁸⁾⁶⁶⁹⁾⁶⁷⁰⁾⁶⁷¹⁾⁶⁷²⁾⁶⁷³⁾⁶⁷⁴⁾⁶⁷⁵⁾⁶⁷⁶⁾⁶⁷⁷⁾⁶⁷⁸⁾⁶⁷⁹⁾⁶⁸⁰⁾⁶⁸¹⁾⁶⁸²⁾⁶⁸³⁾⁶⁸⁴⁾⁶⁸⁵⁾⁶⁸⁶⁾⁶⁸⁷⁾⁶⁸⁸⁾⁶⁸⁹⁾⁶⁹⁰⁾⁶⁹¹⁾⁶⁹²⁾⁶⁹³⁾⁶⁹⁴⁾⁶⁹⁵⁾⁶⁹⁶⁾⁶⁹⁷⁾⁶⁹⁸⁾⁶⁹⁹⁾⁷⁰⁰⁾⁷⁰¹⁾⁷⁰²⁾⁷⁰³⁾⁷⁰⁴⁾⁷⁰⁵⁾⁷⁰⁶⁾⁷⁰⁷⁾⁷⁰⁸⁾⁷⁰⁹⁾⁷¹⁰⁾⁷¹¹⁾⁷¹²⁾⁷¹³⁾⁷¹⁴⁾⁷¹⁵⁾⁷¹⁶⁾⁷¹⁷⁾⁷¹⁸⁾⁷¹⁹⁾⁷²⁰⁾⁷²¹⁾⁷²²⁾⁷²³⁾⁷²⁴⁾⁷²⁵⁾⁷²⁶⁾⁷²⁷⁾⁷²⁸⁾⁷²⁹⁾⁷³⁰⁾⁷³¹⁾⁷³²⁾⁷³³⁾⁷³⁴⁾⁷³⁵⁾⁷³⁶⁾⁷³⁷⁾⁷³⁸⁾⁷³⁹⁾⁷⁴⁰⁾⁷⁴¹⁾⁷⁴²⁾⁷⁴³⁾⁷⁴⁴⁾⁷⁴⁵⁾⁷⁴⁶⁾⁷⁴⁷⁾⁷⁴⁸⁾⁷⁴⁹⁾⁷⁵⁰⁾⁷⁵¹⁾⁷⁵²⁾⁷⁵³⁾⁷⁵⁴⁾⁷⁵⁵⁾⁷⁵⁶⁾⁷⁵⁷⁾⁷⁵⁸⁾⁷⁵⁹⁾⁷⁶⁰⁾⁷⁶¹⁾⁷⁶²⁾⁷⁶³⁾⁷⁶⁴⁾⁷⁶⁵⁾⁷⁶⁶⁾⁷⁶⁷⁾⁷⁶⁸⁾⁷⁶⁹⁾⁷⁷⁰⁾⁷⁷¹⁾⁷⁷²⁾⁷⁷³⁾⁷⁷⁴⁾⁷⁷⁵⁾⁷⁷⁶⁾⁷⁷⁷⁾⁷⁷⁸⁾⁷⁷⁹⁾⁷⁸⁰⁾⁷⁸¹⁾⁷⁸²⁾⁷⁸³⁾⁷⁸⁴⁾⁷⁸⁵⁾⁷⁸⁶⁾⁷⁸⁷⁾⁷⁸⁸⁾⁷⁸⁹⁾⁷⁹⁰⁾⁷⁹¹⁾⁷⁹²⁾⁷⁹³⁾⁷⁹⁴⁾⁷⁹⁵⁾⁷⁹⁶⁾⁷⁹⁷⁾⁷⁹⁸⁾⁷⁹⁹⁾⁸⁰⁰⁾⁸⁰¹⁾⁸⁰²⁾⁸⁰³⁾⁸⁰⁴⁾⁸⁰⁵⁾⁸⁰⁶⁾⁸⁰⁷⁾⁸⁰⁸⁾⁸⁰⁹⁾⁸¹⁰⁾⁸¹¹⁾⁸¹²⁾⁸¹³⁾⁸¹⁴⁾⁸¹⁵⁾⁸¹⁶⁾⁸¹⁷⁾⁸¹⁸⁾⁸¹⁹⁾⁸²⁰⁾⁸²¹⁾⁸²²⁾⁸²³⁾⁸²⁴⁾⁸²⁵⁾⁸²⁶⁾⁸²⁷⁾⁸²⁸⁾⁸²⁹⁾⁸³⁰⁾⁸³¹⁾⁸³²⁾⁸³³⁾⁸³⁴⁾⁸³⁵⁾⁸³⁶⁾⁸³⁷⁾⁸³⁸⁾⁸³⁹⁾⁸⁴⁰⁾⁸⁴¹⁾⁸⁴²⁾⁸⁴³⁾⁸⁴⁴⁾⁸⁴⁵⁾⁸⁴⁶⁾⁸⁴⁷⁾⁸⁴⁸⁾⁸⁴⁹⁾⁸⁵⁰⁾⁸⁵¹⁾⁸⁵²⁾⁸⁵³⁾⁸⁵⁴⁾⁸⁵⁵⁾⁸⁵⁶⁾⁸⁵⁷⁾⁸⁵⁸⁾⁸⁵⁹⁾⁸⁶⁰⁾⁸⁶¹⁾⁸⁶²⁾⁸⁶³⁾⁸⁶⁴⁾⁸⁶⁵⁾⁸⁶⁶⁾⁸⁶⁷⁾⁸⁶⁸⁾⁸⁶⁹⁾⁸⁷⁰⁾⁸⁷¹⁾⁸⁷²⁾⁸⁷³⁾⁸⁷⁴⁾⁸⁷⁵⁾⁸⁷⁶⁾⁸⁷⁷⁾⁸⁷⁸⁾⁸⁷⁹⁾⁸⁸⁰⁾⁸⁸¹⁾⁸⁸²⁾⁸⁸³⁾⁸⁸⁴⁾⁸⁸⁵⁾⁸⁸⁶⁾⁸⁸⁷⁾⁸⁸⁸⁾⁸⁸⁹⁾⁸⁹⁰⁾⁸⁹¹⁾⁸⁹²⁾⁸⁹³⁾⁸⁹⁴⁾⁸⁹⁵⁾⁸⁹⁶⁾⁸⁹⁷⁾⁸⁹⁸⁾⁸⁹⁹⁾⁹⁰⁰⁾⁹⁰¹⁾⁹⁰²⁾⁹⁰³⁾⁹⁰⁴⁾⁹⁰⁵⁾⁹⁰⁶⁾⁹⁰⁷⁾⁹⁰⁸⁾⁹⁰⁹⁾⁹¹⁰⁾⁹¹¹⁾⁹¹²⁾⁹¹³⁾⁹¹⁴⁾⁹¹⁵⁾⁹¹⁶⁾⁹¹⁷⁾⁹¹⁸⁾⁹¹⁹⁾⁹²⁰⁾⁹²¹⁾⁹²²⁾⁹²³⁾⁹²⁴⁾⁹²⁵⁾⁹²⁶⁾⁹²⁷⁾⁹²⁸⁾⁹²⁹⁾⁹³⁰⁾⁹³¹⁾⁹³²⁾⁹³³⁾⁹³⁴⁾⁹³⁵⁾⁹³⁶⁾⁹³⁷⁾⁹³⁸⁾⁹³⁹⁾⁹⁴⁰⁾⁹⁴¹⁾⁹⁴²⁾⁹⁴³⁾⁹⁴⁴⁾⁹⁴⁵⁾⁹⁴⁶⁾⁹⁴⁷⁾⁹⁴⁸⁾⁹⁴⁹⁾⁹⁵⁰⁾⁹⁵¹⁾⁹⁵²⁾⁹⁵³⁾⁹⁵⁴⁾⁹⁵⁵⁾⁹⁵⁶⁾⁹⁵⁷⁾⁹⁵⁸⁾⁹⁵⁹⁾⁹⁶⁰⁾⁹⁶¹⁾⁹⁶²⁾⁹⁶³⁾⁹⁶⁴⁾⁹⁶⁵⁾⁹⁶⁶⁾⁹⁶⁷⁾⁹⁶⁸⁾⁹⁶⁹⁾⁹⁷⁰⁾⁹⁷¹⁾⁹⁷²⁾⁹⁷³⁾⁹⁷⁴⁾⁹⁷⁵⁾⁹⁷⁶⁾⁹⁷⁷⁾⁹⁷⁸⁾⁹⁷⁹⁾⁹⁸⁰⁾⁹⁸¹⁾⁹⁸²⁾⁹⁸³⁾⁹⁸⁴⁾⁹⁸⁵⁾⁹⁸⁶⁾⁹⁸⁷⁾⁹⁸⁸⁾⁹⁸⁹⁾⁹⁹⁰⁾⁹⁹¹⁾⁹⁹²⁾⁹⁹³⁾⁹⁹⁴⁾⁹⁹⁵⁾⁹⁹⁶⁾⁹⁹⁷⁾⁹⁹⁸⁾⁹⁹⁹⁾¹⁰⁰⁰⁾¹⁰⁰¹⁾¹⁰⁰²⁾¹⁰⁰³⁾¹⁰⁰⁴⁾¹⁰⁰⁵⁾¹⁰⁰⁶⁾¹⁰⁰⁷⁾¹⁰⁰⁸⁾¹⁰⁰⁹⁾¹⁰¹⁰⁾¹⁰¹¹⁾¹⁰¹²⁾¹⁰¹³⁾¹⁰¹⁴⁾¹⁰¹⁵⁾¹⁰¹⁶⁾¹⁰¹⁷⁾¹⁰¹⁸⁾¹⁰¹⁹⁾¹⁰²⁰⁾¹⁰²¹⁾¹⁰²²⁾¹⁰²³⁾¹⁰²⁴⁾¹⁰²⁵⁾¹⁰²⁶⁾¹⁰²⁷⁾¹⁰²⁸⁾¹⁰²⁹⁾¹⁰³⁰⁾¹⁰³¹⁾¹⁰³²⁾¹⁰³³⁾¹⁰³⁴⁾¹⁰³⁵⁾¹⁰³⁶⁾¹⁰³⁷⁾¹⁰³⁸⁾¹⁰³⁹⁾¹⁰⁴⁰⁾¹⁰⁴¹⁾¹⁰⁴²⁾¹⁰⁴³⁾¹⁰⁴⁴⁾¹⁰⁴⁵⁾¹⁰⁴⁶⁾¹⁰⁴⁷⁾¹⁰⁴⁸⁾¹⁰⁴⁹⁾¹⁰⁵⁰⁾¹⁰⁵¹⁾¹⁰⁵²⁾¹⁰⁵³⁾¹⁰⁵⁴⁾¹⁰⁵⁵⁾¹⁰⁵⁶⁾¹⁰⁵⁷⁾¹⁰⁵⁸⁾¹⁰⁵⁹⁾¹⁰⁶⁰⁾¹⁰⁶¹⁾¹⁰⁶²⁾¹⁰⁶³⁾¹⁰⁶⁴⁾¹⁰⁶⁵⁾¹⁰⁶⁶⁾¹⁰⁶⁷⁾¹⁰⁶⁸⁾¹⁰⁶⁹⁾¹⁰⁷⁰⁾¹⁰⁷¹⁾¹⁰⁷²⁾¹⁰⁷³⁾¹⁰⁷⁴⁾¹⁰⁷⁵⁾¹⁰⁷⁶⁾¹⁰⁷⁷⁾¹⁰⁷⁸⁾¹⁰⁷⁹⁾¹⁰⁸⁰⁾¹⁰⁸¹⁾¹⁰⁸²⁾¹⁰⁸³⁾¹⁰⁸⁴⁾¹⁰⁸⁵⁾¹⁰⁸⁶⁾¹⁰⁸⁷⁾¹⁰⁸⁸⁾¹⁰⁸⁹⁾¹⁰⁹⁰⁾¹⁰⁹¹⁾¹⁰⁹²⁾¹⁰⁹³⁾¹⁰⁹⁴⁾¹⁰⁹⁵⁾¹⁰⁹⁶⁾¹⁰⁹⁷⁾¹⁰⁹⁸⁾¹⁰⁹⁹⁾¹¹⁰⁰⁾¹¹⁰¹⁾¹¹⁰²⁾¹¹⁰³⁾¹¹⁰⁴⁾¹¹⁰⁵⁾¹¹⁰⁶⁾¹¹⁰⁷⁾¹¹⁰⁸⁾¹¹⁰⁹⁾¹¹¹⁰⁾¹¹¹¹⁾¹¹¹²⁾¹¹¹³⁾¹¹¹⁴⁾¹¹¹⁵⁾¹¹¹⁶⁾¹¹¹⁷⁾¹¹¹⁸⁾¹¹¹⁹⁾¹¹²⁰⁾¹¹²¹⁾¹¹²²⁾¹¹²³⁾¹¹²⁴⁾¹¹²⁵⁾¹¹²⁶⁾¹¹²⁷⁾¹¹²⁸⁾¹¹²⁹⁾¹¹³⁰⁾¹¹³¹⁾¹¹³²⁾¹¹³³⁾¹¹³⁴⁾¹¹³⁵⁾¹¹³⁶⁾¹¹³⁷⁾¹¹³⁸⁾¹¹³⁹⁾¹¹⁴⁰⁾¹¹⁴¹⁾¹¹⁴²⁾¹¹⁴³⁾¹¹⁴⁴⁾¹¹⁴⁵⁾¹¹⁴⁶⁾¹¹⁴⁷⁾¹¹⁴⁸⁾¹¹⁴⁹⁾¹¹⁵⁰⁾¹¹⁵¹⁾¹¹⁵²⁾¹¹⁵³⁾¹¹⁵⁴⁾¹¹⁵⁵⁾¹¹⁵⁶⁾¹¹⁵⁷⁾¹¹⁵⁸⁾¹¹⁵⁹⁾¹¹⁶⁰⁾¹¹⁶¹⁾¹¹⁶²⁾¹¹⁶³⁾¹¹⁶⁴⁾¹¹⁶⁵⁾¹¹⁶⁶⁾¹¹⁶⁷⁾¹¹⁶⁸⁾¹¹⁶⁹⁾¹¹⁷⁰⁾¹¹⁷¹⁾¹¹⁷²⁾¹¹⁷³⁾¹¹⁷⁴⁾¹¹⁷⁵⁾¹¹⁷⁶⁾¹¹⁷⁷⁾¹¹⁷⁸⁾¹¹⁷⁹⁾¹¹⁸⁰⁾¹¹⁸¹⁾¹¹⁸²⁾¹¹⁸³⁾¹¹⁸⁴⁾¹¹⁸⁵⁾¹¹⁸⁶⁾¹¹⁸⁷⁾¹¹⁸⁸⁾¹¹⁸⁹⁾¹¹⁹⁰⁾¹¹⁹¹⁾¹¹⁹²⁾¹¹⁹³⁾¹¹⁹⁴⁾¹¹⁹⁵⁾¹¹⁹⁶⁾¹¹⁹⁷⁾¹¹⁹⁸⁾¹¹⁹⁹⁾¹²⁰⁰⁾¹²⁰¹⁾¹²⁰²⁾¹²⁰³⁾¹²⁰⁴⁾¹²⁰⁵⁾¹²⁰⁶⁾¹²⁰⁷⁾¹²⁰⁸⁾¹²⁰⁹⁾¹²¹⁰⁾¹²¹¹⁾¹²¹²⁾¹²¹³⁾¹²¹⁴⁾¹²¹⁵⁾¹²¹⁶⁾¹²¹⁷⁾¹²¹⁸⁾¹²¹⁹⁾¹²²⁰⁾¹²²¹⁾¹²²²⁾¹²²³⁾¹²²⁴⁾¹²²⁵⁾¹²²⁶⁾¹²²⁷⁾¹²²⁸⁾¹²²⁹⁾¹²³⁰⁾¹²³¹⁾¹²³²⁾¹²³³⁾¹²³⁴⁾¹²³⁵⁾¹²³⁶⁾¹²³⁷⁾¹²³⁸⁾¹²³⁹⁾¹²⁴⁰⁾¹²⁴¹⁾¹²⁴²⁾¹²⁴³⁾¹²⁴⁴⁾¹²⁴⁵⁾¹²⁴⁶⁾¹²⁴⁷⁾¹²⁴⁸⁾¹²⁴⁹⁾¹²⁵⁰⁾¹²⁵¹⁾¹²⁵²⁾¹²⁵³⁾¹²⁵⁴⁾¹²⁵⁵⁾¹²⁵⁶⁾¹²⁵⁷⁾¹²⁵⁸⁾¹²⁵⁹⁾¹²⁶⁰⁾¹²⁶¹⁾¹²⁶²⁾¹²⁶³⁾¹²⁶⁴⁾¹²⁶⁵⁾¹²⁶⁶⁾¹²⁶⁷⁾¹²⁶⁸⁾¹²⁶⁹⁾¹²⁷⁰⁾¹²⁷¹⁾¹²⁷²⁾¹²⁷³⁾¹²⁷⁴⁾¹²⁷⁵⁾¹²⁷⁶⁾¹²⁷⁷⁾¹²⁷⁸⁾¹²⁷⁹⁾¹²⁸⁰⁾¹²⁸¹⁾¹²⁸²⁾¹²⁸³⁾¹²⁸⁴⁾¹²⁸⁵⁾¹²⁸⁶⁾¹²⁸⁷⁾¹²⁸⁸⁾¹²⁸⁹⁾¹²⁹⁰⁾¹²⁹¹⁾¹²⁹²⁾¹²⁹³⁾¹²⁹⁴⁾¹²⁹⁵⁾¹²⁹⁶⁾¹²⁹⁷⁾¹²⁹⁸⁾¹²⁹⁹⁾¹³⁰⁰⁾¹³⁰¹⁾¹³⁰²⁾¹³⁰³⁾¹³⁰⁴⁾¹³⁰⁵⁾¹³⁰⁶⁾¹³⁰⁷⁾¹³⁰⁸⁾¹³⁰⁹⁾¹³¹⁰⁾¹³¹¹⁾¹³¹²⁾¹³¹³⁾¹³¹⁴⁾¹³¹⁵⁾¹³¹⁶⁾¹³¹⁷⁾¹³¹⁸⁾¹³¹⁹⁾¹³²⁰⁾¹³²¹⁾¹³²²⁾¹³²³⁾¹³²⁴⁾¹³²⁵⁾¹³²⁶⁾¹³²⁷⁾¹³²⁸⁾¹³²⁹⁾¹³³⁰⁾¹³³¹⁾¹³³²⁾¹³³³⁾¹³³⁴⁾¹³³⁵⁾¹³³⁶⁾¹³³⁷⁾¹³³⁸⁾¹³³⁹⁾¹³⁴⁰⁾¹³⁴¹⁾¹³⁴²⁾^{1343)</}

そのような父の生き方を考慮して「口を閉ざしている」のである。

⑤は、まず「家業を廃業するしかないと気づいている弟」が本文から読み取れない。弟は「家業に対する不安」(17行目)をあらわにしたが、父の「つまらぬ心配などしないで働いていいればいい」(23・24行目)という発言に「口をつぐん」でいる。このときの弟の心情は具体的に説明されていないが、だからといって「家業を廃業するしかない」と気づいている」と確定はできない。

問3 傍線部のような発言をする「水野」に対する、「私」のとらえ方を答える問題

傍線部の「自分の仕事」とは、この化織会社で「私」が担当する洋風ふとんの宣伝を意味している。

「家業」とは、「私」の実家が営む、棉花わたのふとん打ち直し業を意味している。前者は、棉花わたのふとんより洋風ふとんが優れていることを宣伝するのだから、後者を否定することになる。それを水野は「矛盾」と言っているのだ。

水野のこのような発言に対しても、「私」は傍線部以下で次のように述べている。

・「私」自身は、仕事と家業との矛盾を感じずにはいられない。

・水野の発言には、「私」の家業を蔑む意識が感じられた。

・同時に、家業に背いて働いている「私」の出世意識をも見抜いた冷笑を感じられた。

やがて、傍線部が「どうだね……矛盾を感じていないのかね」という、一見相手の思いを問うだけの発言のようではあるが、実は「私の顔をうかがいながら」とあるように、「私」の反応を探ろうとするものとしてどちらかの点も合わせて考慮すべきである。

このようないくつかの「私」の思いやとらえ方に従えば、「それは立派だ。よく割り切れたね」／水野は、こじやら神妙な表情で私の顔をみつめていた」(40・41行目)という態度も、「私」には、わざと「私の矛盾を突いてくる水野の「残忍な性格」を感じさせるものだと受け取れるのである。

つまり、水野は「私」の家業を蔑みながら(a)、それに背いて働いている「私」の出世意識をも見透かしてあざ笑うような人物であり(b)、「私」の抱く矛盾にあえて触れることで、「私」の反応を「うかが」おうとする(c)ような残忍な人物だ(d)、ひいられれていることが読み取れる。

したがって、a～dの内容を正確に踏まえた④が

正解である。なお、選択肢中の「葛藤」とは「心中で相反する感情や欲求がかからみ合い、そのいずれをとるか思い迷う状態」という意味であり、「私」の「矛盾」を抱えた心情に該当する。

①は、まず「私を賞賛し」が不適当である。たしかに「『それは立派だ。よく割り切れたね』／水野は、ことさら神妙な表情で私の顔をみつめていた」(40・41行目)とあり、ここを「賞賛」の態度だと解釈した人もいたかもしれない。だが「私」はこの発言に「水野の残忍な性格」を感じている。設問では「私」のとらえ方を問うていて、それを忘れないようにしよう。また「会社の業績を上げようとする、責任感の強い人物」が、「私」のとらえる水野の人物像を踏まえていないという点でも不適当である。

②は、「家業に未練を残す私の思いを承知し」が不適当である。右で確認した通り、水野は「私」の「矛盾」について問い合わせ、私もそれを見抜かれたとらえているのである。「家業に未練を残す私」という言葉を踏まえて、「私」が家業を諦めきれない」という意味になってしまうが、そのようなことは本文から読み取れない。また「会社の方針に従うこと強要する」が、①同様、「私」のとらえる水野の人物像を踏まえていないという点でも不適当である。

③は、まず「出世欲を優先させる私に違和感を覚え……たしなめようとする」が不適当である。「出世欲」については「出世意識を見抜いた冷笑」(43行目)とあるが、これは「たしなめよう(=穏やかに注意を与えよう)とする」とする」とは異なる。また「冷静な人物」では、右で確認した水野の「残忍」さを説明したことにはならない。

⑤は、前半は「私」が抱える「矛盾」を踏まえているが、「的確なアドバイスを与える」とする」が不適当である。傍線部以下の部分で、水野は「私」に「アドバイスを与える」とはしていない。自らの問い合わせに「私」が答えるその反応を意地悪くうかがっているのである。また「思慮深い人物」というのも、右で確認した水野の人物像から大きくかけ離れている。

問4 「私」が傍線部の心情に襲われた理由を答える問題

傍線部の「羞恥」とは「恥ずかしく感じる」という意味であり、「狼狽」とは「あわてふためくこと」という意味である。これらの感情が「いちどきに襲ってきた」というのは、これらの感情を誘発するような状況に「私」が置かれていたからだと考えられる。ではこのときの状況を確認しよう。

50行目 「宣伝」という私の仕事は」から傍線部に至るまでの場面では、

- ・「私」は宣伝を「全く実態のない奇妙な仕事」だと思い、自分が「無駄な浪費」(52行目)をしているのではないかという「不安」(53行目)を抱いていた。

・「私」は、作成した宣伝文が多額な宣伝費に見合うだけの利益を上げているという事実を把握できず、「不安」と期待の相半ばした不安定な立場」(61行目)にあつた。

・販売会議で、洋風ふとんが町のふとん店ではあ

まり売れていないと聞いて、「私」は依然として「不安」(66行目)なままだつた。

・ふとん店の実情を知らなすぎる宣伝文への「反感」から、ふとん店が洋風ふとんを積極的に売りたがっていない、という報告を聞き、「私は『震んで行く』意識」の中で「同僚たちの

視線」(81行目)を強く感じた。

・打ち直しを財源とするふとん店にとって、打ち直し不要を説く洋風ふとんは魅力ある商品ではない、という報告を聞き、「羞恥と狼狽とがいちどきに襲ってきた」(傍線部)。

それらを受けて、傍線部の直後では、

・家業の実情を思いだして、課員の報告内容の確かさを認めざるを得なかつた。

・家業に関わって来なかつた「私」の作成した宣伝文が、ふとん店が「極力棉花のふとんをすすめる傾向」を生み出し不利益につながることがわかつた。

以上から、「私」がこの場面(販売会議の場)で「羞恥と狼狽」に襲われた理由をまとめると、次のようになる。

a 「私」はふとん店の実情を踏まえない宣伝文を作成したという事実を突きつけられた。

b 「私」は家業が打ち直し業であるにもかかわらず浅薄な知識しか持つていなかつたことを思はれられた。

c 多額な宣伝費が無駄になつたうえに、「私が作成した宣伝文が、洋風ふとんではなく棉花のふとんの売り上げにつながつてしまえば、会社に不利益な結果をもたらしかねないことがわかつた。

したがつて、a～cの内容を正確に踏まえた⑤が正解である。なお、「寝具店の内実に通じているはずの私」という表現がややわかりづらかったかもしれないが、これは35行目「課員たちは……私の家が

打ち直し業であることを知っている」を踏まえている。家業が打ち直し業であることは周知の事実なのだから、課員たちに「私」が「寝具店の内実に通じているはず」だと思われていることは読み取れる。このような人々の前で、家業についての無知が明らかになつたのだから、「私」が「羞恥と狼狽」に襲われるるのは必然だろう。

①は、ここで販売会議の場面に即した説明になつておらず、cの「会社への不利益」という内容もない。また、「今後うまくやつていく自信がない」と「つてきた」の部分も不適当。それでは「これまで自信」があつた」ということになるが、そのような内容を表す記述は本文にはない。

②は、「同僚たちに自分を攻撃する口実を与えてしまつた」が不適当である。「口実」とは「言いがかりをつけるための材料」という意味だが、これでは「課員たちは「私」に言いがかりをつけようとしており、「私」の失態がそのための材料になる」ということになつてしまつ。「私」が課員たちの「嫉妬」や「反感」を感じとつている(46・47行目)からといって、この会議の席で課員たちが「私」に言いがかりをつけようとしていると考えるのは、飛躍がある。

③は、a・bが踏まえられていないし、cの「多額な宣伝費が無駄になつた」という内容がない。また「自分の存在意義が失われたように感じた」が不適当である。その表現からは、「これまで「私」が宣伝文を作ることに「存在意義(=生きる意味)」を見出していた」という意味が読み取れてしまうが、むしろ「私は『云い知れぬ不安』(53行目)を抱いて仕事をしていたのである。

④は、まず「売り上げの不振を自分一人の責任であるかのように(課員から)吹聴された」が不適当である。「吹聴」とは「あちこちに言いふらすこと」という意味だが、課員は会議の席で「不振の原因をさぐる」(68行目)聞き取りの結果を報告したまでである。また「弁明の機会も与えられることなく」が不適当である。このように言うと、「私」は弁明するつもりがあつたのに、それができないこともあり「羞恥」と「狼狽」に襲われた」という意味になつてしまつ。「私は、課員の言葉のたしかさを認めざるを得なかつた」(89行目)とあり、「弁明」しようという気持ちは読み取れない。

問5 傍線部の「私」のあり方について答える問題

傍線部の場面を踏まえた上で、「私」の置かれている状況から「私」のあり方を正確に読み取ろう。

ここは、傍線部直前の、ふとん店を敵として意識した宣伝文を作成しろという水野の提案を、「私」が受け入れる場面である。ここに至るまでの「私」のあり方は以下のようにまとめられる（詳しくは【本文解説】IIを参照のこと）。

- ・不特定多数の消費者に訴えるために多額な費用をかける広告という仕事に、「私」は手ごたえを感じられないでいた。
- ・自分が作成した宣伝文が利益を生み出さなければ、多額な費用が無駄になるため、「私」は不安を抱えていた。
- ・会議の席で、自分の宣伝文が利益を生み出さなかつたばかりか、ふとん店の反感をあおってしまったという報告を聞いて、「私」は責任を感じた。
- ・上司である水野の主張は自分の宣伝文を結果的に支持するものだったの、これまで「私」が抱いていた不安や心配はなくなつた。

以上のように、水野の主張こそが課内での自分の立場を支持してくれ、仕事に対する不安を取り除いてくれるものだと感じて、「私」は水野の提案を受け入れてしまうのだ。ただし、これは同時に家業を敵に回すことにもなる。【本文解説】Iの後半で確認したように、「私」は仕事と家業との矛盾を感じていた。それでも水野の主張を受け入れたのは、それまでの会議の流れの中で、「私」が会社における自分の立場を考えていたからであろう。このことは、傍線部に「反射的に（＝瞬間に）反応する様子、思わず」という表現があることからも読み取れよう。

まとめるとき、解答のポイントは次のようになる。

- a 「私」は広告という仕事や自分の宣伝文の成果に手ごたえを感じられず不安だった。
- b 会議の席で、売り上げ不振の原因が自分の宣伝文にあると非難され、動揺した。
- c 水野の主張が自分の宣伝文を結果的に支持するものだったので、不安や心配から解放された。
- d 水野の主張は家業を敵に回すものであるが、会社での自分の立場を考え、それを「反射的に」受け入れた。

したがつて、以上のa～dの内容を正確に踏まえた③が正解である。

①は、まずaに触れていない点で不十分である。

aはbの前提として必要である。また「宣伝文の方針を一貫して支持してくれた」が不適当である。102

行目からの水野の主張は販売戦略として述べられたもので、「私」の宣伝文の方針を「一貫して支持」するものとは言えない。傍線部の直前で水野は「寝具店をはつきり敵として意識」するという方針で宣伝文を直すように指示している。さらに「上司に感謝し……つい同意してしまっている」が不適当である。このように言うと、「私」が「感謝」の気持ちから「同意」したという意味になってしまふが、不安や心配から解放されたこと（c）や会社での自分の立場を考える（d）といった内容が欠けている。

②は、「今後の方針を熱く語るその（＝水野の）姿に心を打たれ、上司についていこうと思つてい

る」が不適当である。まず水野の「姿に心を打たれ」が本文から読み取れない。また「私」が「うなずい」たのは「反射的に」であつて、「上司についていこうと思つてている」といった意志の働きからではない。

④は、「新たな営業戦略を指示する上司に残忍なものを感じ」が不適当である。「私」が水野に「残忍なものを感じ」たのは、水野が「営業戦略」を主張する前（42行目）であり、傍線部の場面では、

c・dポイントの内容が必要である。

⑤は、まず「私を非難するように見せかけて、不勉強な寢具係りの課員をやり込める」という水野の態度が、「駆け引き（＝状況や相手の出方に応じて態度を変え、自分に有利になるようはかること）」といった意図されたものだったのか不明である。また「ともに会社を発展させていこうとあらためて意気込んでいる」が不適当である。②と同様に、「私が「うなずい」たのは「反射的に」であつて、「意気込んで」のものだとは言えない。

問6 本文の表現の特徴について答える問題

近年、大学入試センター試験の小説問題の問6では、本文における具体的な表現や叙述に関する出題が続いている。こうした問題の場合でも、主観的な印象で解答を選ぶことなく、一つ一つの選択肢を本文と照合しながら丁寧に検討し、消去法を用いて解答を選ぶようにしよう。

①は、「洋風ふとん」の魅力を伝えるという使命に燃える「私」の自信に満ちた態度」が不適当である。「私」には「出世意識」（43行目）があるにせよ、問3で確認した通り、家業に背く形で洋風ふとんの宣伝をしているという「矛盾」した思いがある。また、仕事に「云々知れぬ不安」を抱いている（53行目）ことからも、この選択肢は誤りである。さらに「2・3行目の……比喩表現によつて」「私」

のそのような「態度が強調されている」も適当だと
は判断しがたい。

②は、「私の作り上げた宣伝文は、島のように孤立した町の中にも運びこまれてきていた」という描写には擬人法が用いられ」が不適当である。「擬人法」とは「人以外のものを人にたとえる表現法」であるが、ここには「擬人法」は用いられていない。

「孤立した（＝他の地域から離れた）町」自体は

「擬人法」ではなく、それをたとえている「島のよう」に」という表現も直喻であって「擬人法」ではない。
③は、「50行目の『宣伝』という私の仕事は、実態があるようでいて、事実は全く実態のない奇妙な仕事であった」以下は、現在の『私』が過去を回想している部分であり」が不適当である。該当する部分にあたる「宣伝」という私の仕事は……知らされることがだけであった」（50～55行目）は、「私」が自分の仕事に対して抱く思い「私をひどく戦慄させる」「云い知れぬ不安な感情が襲つてきていた」など）を述べている部分である。本文は全般に過去形で描かれており、この部分だけがとくに「過去を回想している部分」とは言えない。したがって、「現在の『私』が「過去と現在を織り交ぜながら」語っている、というのもおかしい。

④について。「66行目以降の小会議室の場面」では、「その席で提出された課員たちの報告」に対し

て、「なぜ」／水野の眼に、急に険しい光が凝集した」（75・76行目）、『それで、どうしたらいいんだね』／水野の声が、沈黙を破った」（92・93行目）、

「水野の眼は、寝具店係りの男に注がれていた。／『君、勉強が足りんね……』（101～105行目）など、

水野がそれを「追及する」といった「緊迫したやりとり」が描かれている。さらに【本文解説】Ⅱでも確認した通り、そうした状況の中で、「私は、急に血が頭に逆流して、意識が震んで行くのをおぼえた」（81行目）、「私の体に、羞恥と狼狽とがいちどきに襲つてきた」（88行目）、「私は、臆した眼を水野に向けた」（98行目）、「水野の残忍な言葉が、私の全身に浴びせかけられる予感が、私の体をふるわせた」（100行目）、「私は、凍つた体が、急に生温くぼぐれて行くのをおぼえていた」（108行目）といふように、「私」の心情が揺れ動く様子」が詳細に描かれている。したがって、一つ目の正解は④である。

⑤は、「水野の狼狽と当惑」が不適当である。たしかにこの場面では、会社の不利益が報告されていて、「私」は「羞恥と狼狽」に襲われている。だが、

水野が同じように「狼狽」「当惑」しているかとい
うと、それは本文から読み取れない。むしろ、「水
野の眼に、急に険しい光が凝集した」（76行目）、
「水野は、口もとを歪めて苦笑している」（99行目）
を踏まえれば、会社の不利益を指摘するにとどまる
課員に対して、不愉快さや苛立ちを感じていると言
えよう。

⑥について。本文には、「Fレイヨン一社だけではなく、他の化纖会社も一斉に鎌首をもたげはじめている」（28・29行目）とあるように、大手の化纖会社が新製品を携えて旧来のふとん業界に進出し始めた様子が描かれているので、「大企業の急速な台頭や新製品の普及といった題材を扱い」という部分は適当である。またマス・メディアを利用した大規模な宣伝が及ぼす影響や、旧来のスタイルを守ろうとする個人経営の工場や町の小売店にとつての先行きが暗いものであるという状況が描かれていることから、「社会の激変を背景に」という部分も適当である。そのような中で、勢いを増す会社側の人々や、おそらく有効な手立ても持ち得ない旧来の業界の人々や、会社側の論理に巻き込まれていく「私」が描かれているという点で、「その渦中で翻弄される（＝操られる）人々の姿を鮮やかに描き出している」と言えるだろう。したがって、二つ目の正解は⑥である。

第3問 古文

【出典】
『小夜衣』

成立 鎌倉時代から南北朝時代か

ジャンル 擬古物語

作者 未詳

内容 内容

『小夜衣』では、実父に助け出されるのである。

姫君は、その後、妻に先立たれた兵部卿宮と再会し、兵部卿宮は姫君を自邸に迎えとった。帝は、姫君のことを忘れられず、その苦しさから解放するために仏道修行をしたいと譲位し、兵部卿宮が東宮（＝皇太子）となり、姫君もその御息所となる。年月を経て、東宮は帝に、姫君は中宮になった。継子いじめの物語では、主人公が最後に幸せになつて大団圓を迎えるのが常だが、この作品もまた同様である。

今回の本文は『中世王朝物語全集9 小夜衣』（笠間書院刊）に掲るが、出題にあたり、読解の便をはかつて、一部表記を改めている。

【本文解説】

今回の本文は物語の中盤で、前書きにあるように、帝が姫君に思いを寄せていることを、女御方の人々が知り、姫君が苦悩する場面から始まる。姫君は、女御として入内した北の方の娘に母代として付き添つているのにすぎないのであるから、帝との噂が親の耳に入つたら

i 「父君のいかやうにか思ひ給はんづらん」（＝父の大納言がどう思うだろうか）

ii 「我がけしからぬ心づかひとこそ、北の方も言ひなし給はめ」（＝私自身のとんでもない横恋慕

だと、北の方はことさらに言うだろう）

と、その二点で思い悩み、そのため局に引きこもりがちになる。すると帝はものさびしく思い、姫君の局に顔を出したところ、姫君はもの思いに沈んだ様子で横になっていた（「局」というのは、宮中や貴人の邸宅内で、それぞれ別に仕切られている部屋をいう。上級の女官・女房が起居する部屋である）。

帝はすぐさま姫君のそばに腰を下ろす。姫君は恐ろしく感じて引き下がろうとするが、それを帝は引き止めて、自らの思いがかりそめではないことを切々と訴え、姫君が冷淡な態度をとることを嘆き、はては「いざ、たゞひなき世語りにも伝へてん（＝さあ、またとない世間の語りぐさになるようにも伝えていこう）」とまで言う。姫君にとつては、帝のその態度も、世間の噂になることも恐ろしくつらいことであり、思わず泣いてしまう。帝は「誰もとがめる者などいないうえ、自分ほど（女性に対して）おつとりした男はいない」と言うが、人の声がする気配がしたのを機に、姫君が恐れふるえるのももつともなことだと氣の毒にも思い、部屋を出ようとすると。ちょうどその時、帝は、

継母である北の方の娘は、時の帝のもとに、女御として入内することになつていた

が、継母は、姫君の美しさと琴の腕前を見込み、娘の母代（＝母代わりの世話係）として

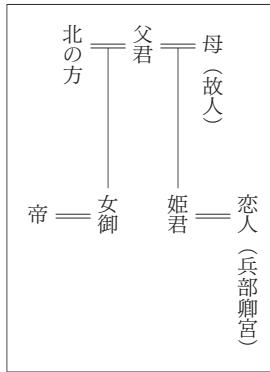
付き添わせることにした。ところが、帝は、

女御に付き添う姫君の方に心奪われてしま

う。姫君には帝の気持ちを受け入れるつもりはなく、戸惑うばかりであった。ここが今回の出題箇所である。継母はこのような事態に危機感を抱き、自らの縁者を使って姫君を連れ出し幽閉するが、囚われの身となつた姫君を救出したのは、継母の計画を知った実父の大納言であった。『落窓物語』や『住吉物語』では、姫君は男主人公から救われるが、この

姫君の机に梅襲の薄様に巻いた手紙があることに気づき、それを手に取る。そこには「あさかりし色と恨みし小夜衣……」という歌が書かれていた。「私との仲を浅い縁だといつて恨んだあなたは、今では誰と深い契りを結んでいることか」という歌の内容から、帝は、手紙の送り主は姫君の恋人なのだと悟る。姫君に恋人がいることもさることながら、たきしめられた薰り、筆跡のみごとさが、帝には気にかかるところであり、中まで読もうとするのを、姫君がさつと取り返してしまった。その態度に恋人への思いが見え、帝は癪だと思い、「どのような人のお手紙なのだろう。このような恋人を持ちなさっているので、薄情なのも道理だ」と言つて恨みつつ、「あさくこく何に染むらん……」と、「あなたの恋人が誰なのかを知りたい」という内容の歌を詠むのである。しかし、【出典】でも述べたが、この時、手紙の送り主である兵部卿宮は閑白の娘と結婚し、また、姫君も女御の母代として宮中に付き添つてゐるため、二人は本文の時点では離れ離れになつてゐる。そもそも兵部卿宮のことを帝に言うことができるはずもない。それで、姫君は「あさきこき色とも知らず……」と、「恋人のことなどわかりません」という内容の歌を詠み、はぐらかすのであつた。人が近くに来る気配なので、帝は帰つて行くのだが、このような姫君とのやりとりを契機として「いかにも、人の知らば知れ（＝いざれにせよ、他の人が私の思いを知るならば知つてしまえ」と、姫君への思いを強くしていく帝の様子を描くところで本文は終わる。

ちなみに、本文における人物関係は次のようになつてゐる。確認しておこう。



【全文解釈】

（姫君は）このような（＝帝に恋慕されながらの）宮仕えだけは、あつてはならないことだとお悟りになるにつけても、「父君が（帝と私の噂を聞いて）どのようにお思いになるだろうか。私の（帝に恋慕するような）不届きな心づかいだと、北の方も言い立てなさるだろう」と、あれやこれやと自然と悲しみで心が暗くなつて、自分が自分であるとも思われずいとわしく

思われるでの、「世の中には思い悩まない人もいるだろう（に）」など、「比べるものがないほどに情けなかつた（我が）身だなあ」と自然と身にしみて感じられるので、涙ばかりでつい悲しみにくれて、自室にこもりがちでいらっしゃるので、帝は、（姫君に会えない）ものさびしさをつらくお思いになつて、昼ごろ、（姫君の部屋を）のぞきなさつたところ、（姫君は）紅梅の二重織物の小挂に、梅襲の唐衣などを、はなやかに着こなして、袖もところどころ涙に濡れて、もの思いに沈んで横になつてゐる。

（帝は姫君の部屋に入ると）すぐさま（姫君の）そばにおすわりになつたので、（姫君は）とても恐ろしく、その場を離れるのを、（帝は）引き止めなさつて、「とにかく氣楽にお思いなさい。あなたにそのお気持ちもないのに、世間の男性などのように強引にふるまひ、思いやりがない料簡は、お見せするはずがないのに。（あなたの）冷たいお心の思いやりのなさを、お恨み申しあげようと思うので（こうしているのです）」などと語りかけなさつて、「（あなたを）ほんのちょつと初めて見申しあげてからは、人知れず（あなたへの）思いにあれこれ悩んでばかりですが、冷たいご様子だけが増さるので、たいそう薄情にも（感じ）、また我が身のつらさも自然と身にしみて感じられます。物語中のたいそううちとけにくい姫君も、そのようによく冷たく知らん顔をしている人はいないだらうよ。さあ、（二人の仲を）またとない世間の語りぐさになるようにも伝えていこう」とおっしゃるので、本当にこのように（帝が）近くにいるご様子を、（姫君は）恐ろしくつらく（感じ）て、「そうでないとしても、このような（帝の）お気持ちを人々もみな見知つておりますので、世間の語りぐさでもございましよう。たいそう恐ろしくござりますのに」と泣くと、（帝は）「たいそうめつたにないことでもあるよ。どのようなことを、どうだと、人々が思い咎めるでしょうか。私こそ、やはり手本にできるほど、気持ちがゆつたりと落ち着いている点では他の男と違つている気がしていります」などと語りなさつて（いるうちに）、人の声がする気配なので、（姫君が）恐れふるえるのも、もつともなことだと気の毒で、引き下がりなさる時に、小さい机にさまざまな色の紙などがある中に、梅襲の薄い鳥の子紙に包んだ手紙があるので、（帝が）手に取つてご覧になると、

浅かつた色だといつて恨んだ夜の衣を、今ごろいつたい誰がいつそう深い色に染めていることだらうか。（私との仲を浅い縁だといつて恨んだあなたは、今では誰と深い契りを結んでいることだか。）

(と書いてある。) (たきしめられた) 薫りなども、普通の人のものとは思われない上に、筆跡などのすばらしさも並々ではないので、(帝が、手紙の) 奥の方まで開いてご覧にな（ろうとす）るので、(姫君は) 驚いて、取り返してしまったのも、たいそう癪である。

(帝は) 「どのような人のお手紙なのだろうか。このような恋人を持ちなさっているので、薄情なのも道理(だね)」など、恨みなさつて、(だね) 浅い色と濃い色と、どんな色に(夜の衣は) 染まっているのだろう。夜の衣(を染めたの) がどのような色なのか、どうやつて知つたものだろうか。(あなたの恋人が誰なのか知りたいものだ) とおつしやるのが、(姫君は) やるせなくつらい。

浅い色とも濃い色ともわかりません。(思うにまかせない) つらい身の上の私には、涙に朽ちた夜の衣のことは。(恋人のことなど私にはわかりません) とだけ言つてはぐらかす様子も格別にすばらしいが、人が近く参上し近寄つてくるので、(帝は) お帰りになるにつけても、「これは滑稽な私の心だよ」と(また) 「いずれにせよ、他の人が(私の思いを) 知るならば知つてしまえ。無理に隠さなければならぬ(私の心か(いやそうではないよ))」といふお考えになつた。

【設問解説】

問1 短語句の解釈の問題

センター試験の古文の問1では、短語句の解釈が三つ出題される形式がほぼ定着しているが、センター試験のみならず、短語句の解釈は多くの大学が入試で扱つているものである。古語の意味や文法だけで正解が決まる場合、文脈による判断を必要とする場合とさまざまであるが、古語や文法などの、基本的な知識がなくては正解にたどりつくことは難しい。基礎知識の習得が第一だと心得て、きちんと逐語訳ができるようになろう。

(ア) 「かきくらされて」

「かきくらさ／れ／て」と品詞分解され、「かきくらさ」は動詞「かきくらす」の未然形、「れ」は助動詞「る」の連用形、「て」は接続助詞である。

かきくらす (サ行四段活用動詞)

- 空を暗くする。雨や雪などがあたり一面を暗くして降る。
- 心を暗くする。悲しみにくれる。

「かきくらす」の解釈から、正解は③の「悲しみで、心が暗くなつて」だとわかるが、助動詞「れ」の

意味を確認しておこう。この「れ」は、四段活用動詞の未然形に接続しているので、「自発・受身・可能・尊敬」の助動詞「る」だとわかり、ここでは「かきくらす」という心情を表す語に接続しているので、自発の意味と考えられる。また、直後には、「ながら我ともおぼえず(//自分が自分であるとも思われず)」という表現があり、姫君が自分の心を制御できない状態であることからも、やはり自発がふさわしいと考えられ、正解は③と確認される。

(イ) 「ことわりにいとほしくて」

「ことわりに／いとほしく／て」と品詞分解され、「ことわりに」は形容動詞「ことわりなり」の連用形、「いとほしく」は形容詞「いとほし」の連用形、「て」は接続助詞である。

ことわりなり (ナリ活用形容動詞)

- 当然である。もつともである。道理に合つている。

2 言うまでもない。もちろんである。

いとほし (シク活用形容詞)

- かわいそうだ。気の毒だ。ふびんだ。
- かわいい。いじらしい。
- いわしい。嫌だ。
- つらい。みつともない。

「ことわりに」は⑤の「もつともなことだ」が該当し、「いとほしく」は③の「かわいそうで」、⑤の「気の毒で」が該当することから、正解は⑤と決まる。③の「道理」は「ことわりなり」の意味に該当するが、「合はず」と打ち消しているので、不適切である。文脈を確認すると、ここは、帝が姫君のそばに座つて自らの思いを訴えている場面であるが、そこに人の声がする気配を感じて姫君は恐れふるえ。そのことに対し、帝が「ことわりにいとほしく」思つて「立ち退き給ふ」という配慮を見せるのだから、その流れから考えても⑤がふさわしい。

(ウ) 「つつむべき心かは」

「つつむ／べき／心／か／は」と品詞分解され、「つつむ」は動詞「つつむ」の終止形、「べき」は助動詞「べし」の連体形、「心」は名詞、「か」は係助詞、「は」も係助詞である。

つつむ (マ行四段活用動詞)

- くるむ。包む。
- 隠す。秘める。

「慎む」
1 はばかる。つつしむ。

2 遠慮する。気おくれする。

右のように、「つつむ」には「包む」と書く場合と「慎む」と書く場合とがあるが、①の「隠さ」、③の「秘めた」、④の「覆い隠す」が「包む」の意味に該当し、「慎む」の訳と認められる選択肢はないと、「包む」の方だと判断される。

かは (係助詞「か」+係助詞「は」)

1 ～か。(疑問)
2 ～か、いや、～ない。(反語)

「かは」が疑問なら『つつむべき心』か』、反語なら『つつむべき心』か、いや『つつむべき心』ではないとなるが、ここは帝が姫君の部屋を出る際、姫君に対する自らの思いを「いかにも、人の知らば知れ(=いずれにせよ、他の人が私の思いを知るならば知つてしまえ)」と思つた後に続く表現なので、反語で解釈するとよい。①・③・④を吟味すると、③は「かは」を反語でとらえているようにみえるが、「べき」が誤出されていない上、「誰にもわからぬ」と解釈できる要素はない。④は、「かは」を疑問としている点が文脈に合わない。また、「べき」を適當(～がよい)の用法で訳しているが、「人の知らば知れ」に続く表現としては適切とはいえない、また「心」の訳出もない。①は、「かは」が一見疑問のようにもみえるが、文脈を確認すると、「隠さなければならぬ心か、いや、そうではない」の「いや、そうではない」という表現を省略した反語表現だとみることができる。また、「べき」を当然義務(～はずだ・～なければならぬ)の用法でとり、正確に解釈している。よつて正解は①である。

問2 文法問題

センター試験の古文の問2では、文法問題が出題されることがほとんどである。近年は語の識別を問うものが多いが、敬語に関する問題も出題されている。今回は「ぬ」「る」「に」の識別を出題した。それぞれを確認していこう。

a 「もの思はぬ」

「もの／思は／ぬ」と品詞分解され、「もの」は名詞、「思は」は八行四段活用動詞「思ふ」の未然形、「ぬ」は助動詞である。助動詞「ぬ」には次の二つがある。

1 助動詞「ぬ」の識別

完了の助動詞「ぬ」の終止形

↓活用語の連用形に接続する。

2 打消の助動詞「ず」の連体形

↓活用語の未然形に接続する。

この「ぬ」は、ハ行四段活用動詞の未然形である「思は」に接続しているので、右記2の打消の助動詞「ず」の連体形である。

b 「さしのぞき給へる」

「さしのぞき／給へ／る」と品詞分解され、「給へ」はハ行四段活用動詞「給ふ」の已然形(命令形)、「る」は助動詞である。助動詞「る」には次の二つがある。

助動詞「る」の識別

1 自発・受身・可能・尊敬の助動詞「る」の終止形

↓四段活用動詞・ナ行変格活用動詞・ラ行変格活用動詞の未然形に接続する。

2 完了・存続の助動詞「り」の連体形

↓サ行変格活用動詞の未然形と四段活用動詞の已然形(命令形)に接続する。

この「る」は、ハ行四段活用動詞の已然形(命令形)である「給へ」に接続しているので、右記2の完了の助動詞「り」の連体形である。補助動詞の「給ふ」は下二段活用をすることもあるが、「自発・受身・可能・尊敬」の助動詞「る」も、完了・存続の助動詞「り」も下二段活用動詞には接続しないので、この「給へ」は四段活用であり、「る」は完了・存続の助動詞だと確認できる。

c 「御文にか」

「御文／に／か」と品詞分解され、「御文」は名詞(体言)、「か」は係助詞である。「に」は多くの識別を要する語であるが、選択肢の「格助詞・断定の助動詞・完了の助動詞」について確認しよう。

「に」の識別

1 格助詞

↓体言・連体形に接続し、「～に」と訳し出す。

2 断定の助動詞「なり」の連用形

↓連体形・非活用語に接続し、下に補助動詞の「あり」「おはす」「侍り」「候ふ」などを伴うことが多い。「～である」と訳し出す。

3 完了の助動詞「ぬ」の連用形

↓連用形に接続し、直下に助動詞「き」「けり」「たり」「けむ」が続く。

この「に」は、名詞(体言)「御文」に接続して

いるので、前記1の格助詞、2の断定の助動詞「なり」の連用形のどちらかである。「に」の直下に係る「か」があるが、ここで文が終止しているので、「か」の結びにあたる語を含む部分が省略される「結びの省略」となっている。一般的には、ラ行変格活用動詞「あり」に推量の助動詞が接続した「あらむ」が省略されていると考えられるが、ここもそれに該当し、このような場合における「に」は、格助詞ではなく、断定の助動詞である。省略された部分も含めて訳してみると「どのような人のお手紙であるだろうか」となり、内容的にも適切なので、この「に」は断定の助動詞だと確認できる。

以上の検討から、正解は②である。

問3 傍線部の内容説明問題

まず傍線部を確認すると、

副詞	名詞	格助詞	ワ上・未然	尊敬・連用
やがて	かたはら	に	ゐ	させ
八四・連用	完了・連体	接続助詞		
給ひ	つる	に		

であるが、その中のポイントとなる語を確認していく。

やがて（副詞）

- 1 そのまま。
2 すぐに。ただちに。

かたはら（名詞）

そば。わき。

ゐる（ワ行上一段活用動詞）

【居る】

- 1 いる。その場に存在する。
2 座る。

【率る】

- 1 連れて行く。伴う。

さす（助動詞）

- 1 ～させる。（使役）
2 ～なれる。（尊敬）

給ふ（ハ行四段／ハ行下二段活用動詞）

- 1 お与えになる。（尊敬の本動詞・四段活用）
2 ～なさる。お～になる。（尊敬の補助動詞・四段活用）
3 ～させていただく。～ます。（謙譲の補助動詞・下二段活用）

これらの語の中で、「給ひ」は四段活用の連用形であるため尊敬の意で、助動詞に接続していることから補助動詞だとわかるが、「やがて」「ゐる」「さす」については、それぞれが前記のどの意になるのか、文脈判断が必要とされる。【本文解説】でもふれたが、ここの「姫君が部屋に引きこもりがちになつたことを帝がものさびしく思い、姫君の部屋に顔を出すという場面に統いている。その主体は帝か姫君のどちらかであるが、傍線部の直下を見ると、「いと恐ろしく、立ち退くを」とある。姫君に会いたくて、その部屋にやつて来た帝が「恐ろしく」感じて「立ち退く」はずもないため、それは姫君の行為であり、するとの原因となつた「やがてかたはらにさせ給ひつる」は、帝の動作と考えられる。第一段落の終わりに「ながめ臥したり」とあるように、帝がやつて来た時に、姫君は「もの思いに沈んで横になつている」という状況であった。帝は、姫君に会いたいがためにやつて来たのだから、そのような姫君の「かたはら」は「そば」に「やがて」「ゐる」というとき、「やがて」の意は前記2の「すぐに」、「ゐる」は「率る」ではなく「居る」で、前記2の「座る」の意と考えられる。助動詞「さす」は、直下に尊敬の補助動詞「給ふ」がある場合には、使役と尊敬とどちらの意の可能性もあるが、ここは「誰々に」という使役の対象を文脈から読みとれないと、尊敬の意と考えられる。以上のことから、主語を補つて現代語訳すると、「帝はすぐに（姫君の）そばにお座りになったので」となり、主体と行動の二点が確認されるのは④で、これが正解となる。

①と③は、主体が姫君になつていて誤りである。また、①の「何気ない様子で迎え入れた」、③の「くつろいで」「帝にその姿を見られてしまつたことを恥じ」といった記述は本文にはない。この点でも不適切である。

②は、「やがて」「かたはらに」の訳をふまえておらず、また「姫君の袖をそつと引っ張り、ひそかに自室まで連れて行こうとした」というのも誤りである。ポイントとなる語として確認したが、この「ゐ」は「居」である。それを「率」ととつて「連れて行こ（う）」としているが、直後の「いと恐ろしく、立ち退く」姫君を「ひきとどめ」る帝の行為としては、「姫君のそばに座つた帝が、恐ろしくて引き下がらうとした姫君を引き止める」と読む方がより自然であると考えられる。

⑤は、まず帝が「静かに」部屋に入つてきたとするが「やがて」に「静かに」の意はない。また、姫

君が「逃げようとする」というのも不適切である。

傍線部の後に、「逃げる」動作に近い「立ち退く」があるが、姫君がこの動作をしたのは、帝が「おさせ給ひつる」の後であり、順番が逆である。「姫君の袖をとらえて」という記述もない。また、「おせ」は前述のように尊敬の意と考えられるため、使役の意味にとり、「姫君を自分のそばに座らせようとした」と読むことはできない。

問4 心情の説明問題

姫君が泣いた時の心情を説明する問題である。傍線部の直前を見ると、「『やめづとも／＼いと恐ろしく侍るもの』とうち泣くに」と、姫君の言葉がある。まずその「さら／＼とも、かかる御心を人々もみな見知りて侍れば、世語りにも侍りなん。いと恐ろしく侍るもの』という言葉を逐語訳してみよう。ポイントとなる語を確認していく、

さらず「然らず」(連語)

そうではない。

とも(接続助詞)

／＼としても。(逆接の仮定条件)

かかり(ラ行変格活用動詞)

このようである。こんなである。

侍り(ラ行変格活用動詞)

1 お仕え申しあげる。お控え申しあげる。

(謙譲の本動詞)

2 あります。いります。(丁寧の本動詞)

3 ～です。～ます。(丁寧の補助動詞)

ば(接続助詞)

1 ～ならば。(順接の仮定条件・未然形に接続する)

2 ～ので。～すると。(順接の確定条件・已然形に接続する)

世語り(名詞)

世間の語りぐさ。世間話。

なん(完了・強意の助動詞「ぬ」の未然形+推量の助動詞「む」)
(きっと)～だろう。～てしまうだろう。

ものを(接続助詞)
～のに。～けれども。(逆接の確定条件)

より、全体では次のように現代語訳される。

「かかる御心(=このようなお気持ち)」とは、「御心」と尊敬の接頭語があることから「帝の心」であり、姫君は、「帝のこのようなお気持ちをみな見知っているので、世間の語りぐさになることが恐ろしく」で泣いているのだとかかる。

次に姫君がこのように発言するにいたった経緯を考えよう。姫君の発言は、その直前に「仰せらるれば」と表現された帝の発言に対するものであるので、その帝の言葉を見ていくことで、姫君が「このようなお気持ち」と言つた帝の思いも確認できる。

ほんのちょっと初めて見申しあげてからは、(I)はかなく／見そめ／奉り／て／より／は、人知れず(あなたへの)思いにあれこれ悩んでばかりです／人／知れ／ぬ／心／ばかり／は／碎き／侍れが、冷たい様子だけが増さるので、(II)いみじく／氣遠き／物／の／姫君／も、／そのように冷たく知らん顔をしている人ややうに／つれなく／そらおぼめき／し／たる／は／あら／じ／な。

(I)初めて見た時から姫君に恋心を抱いているが、その冷淡な態度をつらく思う。

(II)物語の中のたいそううちとけにくい姫君も、そのようによく思ひ知ら／れ／侍る。

(II)姫君のようによく思ひ知ら／れ／侍る。

人はいないだろう。

(III)いざ／／たゞひなき／世語り／＼に／＼

るようにも伝えていこう
も／ 伝へ／て／ん

(III) 一人の仲をまたとない世間の語りぐさになるようにしよう。

すなわち、帝は、(I) (II) のように、初めて見た時から恋い焦がれる姫君に対し、その冷淡さを恨みつつも、(III) にあるように、「一人の仲を広めて世間の語りぐさになるようにしよう」と言っているのである。また、問3でも検討したように、その時に帝は姫君のそばに座り、「いとかう近々なる御気色(＝本当にこのように近くにいる様子)」と、姫君に接近していた。姫君の部屋まで出向いて来て間近で迫るその強引な態度と、ただでさえ女御方の人々に知られておびえる姫君に、「二人の仲を広めよう」とまで言う積極的なその言葉を、姫君は「恐ろしく心苦しく」感じ、前述の言葉を口にして泣いたのである。これらの要素をすべて満たしているのは②で、これが正解である。

①は、「人目を避けて会いに来るのがつらい」とあるが、前記(I)より、帝が「つらくも」と言うのは、姫君の冷たさであり、それを恨みに思つてゐるのだとわかる。また、「このままではいつか自分は帝に捨て去られ、周囲の物笑いの種になつてしまふのではないか」とあるが、姫君は、自分の身の上ではなく、帝の発言や態度を恐ろしくつらく思つてゐるのである。

③は、「女御には申し訳ないが、こんなに帝に愛されていることを嬉しくも思つてゐる」という部分が誤りである。姫君は帝の発言や態度を恐ろしく思つてゐるのである。

④は、「どんな良家の姫君であつても、帝である自分の求愛をすげなく断るなど」ということは許されない」とあるが、帝はそのようなことは言つておらず、また、姫君は思つていないし、また、帝は前記(III)のように「世間の語りぐさになろう」と言つてゐるだけで、「冷たいのは世間の語りぐさになることを恐れ無関心を装うあなたの方だ」などと姫君を責めているわけではない。

⑤は、「今は変わらぬ愛を誓つてくれていてもい

ずれは自分に冷淡になつてしまふのではないか」などと姫君は思つていないし、また、帝は前記(III)

のように「世間の語りぐさになろう」と言つてゐるだけで、「冷たいのは世間の語りぐさになることを恐れ無関心を装うあなたの方だ」などと姫君を責めているわけではない。

問5 和歌の説明問題

センター試験の古文において、和歌の設問は頻出である。和歌の趣旨や内容、解釈を問うことなどに加えて、修辞法などの表現技法が問われることもある

る。修辞法も含めて、しっかりと取り組みたい。今回は、三首の和歌の詠み手、和歌から読み取れる内容を問うてみた。

まずAの歌は、姫君の机にあつた梅裏の薄い鳥の子紙に包んだ手紙に書かれていた。それを見た帝が「いかなる人の御文にか(＝どのような人のお手紙なのだろうか)」と尋ねていることから、手紙は姫君宛てのもので、歌は姫君に手紙を出した相手がなんだものであると考えられる。

この歌は、「あさかりし／色と恨みし／小夜衣／ふかくは誰か／染めまさるらん」と句に分けられ、「誰か染めまさるらん」の「か～らん」で係り結びを形成し、疑問を表している。現代語訳すると、「浅かつた色だと、いつ恨んだ夜の衣を、今ごろ誰がいつそう深く染めているのだろうか」となるが、「小夜衣」とは(注6)にあるように、「夜着」のことで、また、この歌を見た帝が「恨みさせ給ひて」と嫉妬の感情をあらわにすることから、単に「小夜衣」を「色染めする」といった内容ではなく、恋の思いを表す歌だと考えられる。手紙を出した相手はおそらく姫君の恋人であり、瀕瀕の際の小夜衣の色の「浅い」「深い」というのは契りの深さを表していると推測され、一首は「かつては浅かつた契りだと恨んだ夜の衣だが、今ごろ誰と深い契りを結んでいるのだろうか」といった趣旨だと解される。姫君の恋人が、かつて自分の仲を浅い契りだと恨んだ姫君に、今は誰か新しい恋人がいるのではないかと問う内容で、そこには、姫君が心変わりしたのではないかという相手の不安な気持ちが込められている。

Bの歌は、「いかなる人の御文にか。かかる思ふ人～ことわり」という発言に続いて詠まれており、その発言者で、手紙の差出人を知らない帝が詠んだものだと考えられる。

この歌は、「あさくこく／何に染むらん／小夜衣／いづれの色と／いかで知らまし」と句に分けられ、二句の「らん」は、疑問を表す語である「何」を受けて連体形となつてると判断でき、ここで意味が切れるので、二句切れとなつていて。「あさくこく」はAの歌を踏まえると、色の「浅く濃く」だとわかる。そして、「いかで」という疑問を表す副詞の存在から、助動詞「まし」は「うたものだろうか」と詐出するためらいの意志と判断され、これより、「浅い色と濃い色と、どんな色に染まつているのだろう。夜の衣がどのような色なのか、どうやつて知ったものだろうか」と現代語訳される。Aの歌で検討したように、「小夜衣の色」は「契りの深さ」

を表しているが、帝は手紙を手にして「薰りなども、ただ人のとは見えぬに、手などのうつくしさないので」、それを書いた人物に思いをはせ、また、「いかなる人の御文にか」と姫君に尋ねている

のだから、「いづれの色といかで知らまし」の「いづれの色」には、姫君と契りを結んだ相手の意も込められていると考えられる。帝は「姫君と契りを結んでいるのは誰なのか、どうやつて知ったものだろうか」と詠むことで、姫君の恋人が誰かを知ろうとしているのである。

Cの歌は、Bの帝の歌を受けて詠まれたものであり、直後に「言ひまきらはす（＝言つてはぐらかす）」とあることから、姫君が詠んだものであると考えられる。

この歌は、「あさきいき／色とも知らず／うき身には／涙に朽ちし／小夜の衣を」と句に分けられ、二句の「ず」が、打消の助動詞「ず」の終止形と判断できることから、二句切れである。また、結句が「小夜の衣を」で終わっていることから、語順を逆にすることで、その言いたい内容を強調する倒置法が用いられていて考えられる。現代語訳すると「浅い色とも濃い色ともわからない。つらいわが身には涙で朽ちた夜の衣のことは」となる。この歌は、「いづれの色」に姫君の恋人の意を込め、それが誰なのか知りたいというBの帝の歌への返歌なのだから、「浅い色とも濃い色とも知らない」というのは、「浅かるうが深かるうが契りを結んだ恋人などわからない」の意で、姫君は「恋人などいるかいないのかわからない」と答えているのである。三句以下を合わせると、「つらいわが身は涙を流し、その涙でぼろぼろに朽ちた夜の衣の色は、浅いとも濃いともわからない」となり、つらいわが身には、恋人の存在などわからない、という趣旨である。

以上の検討から、正解は③であるとわかる。

①は、詠み手を姫君だとしている点が誤りである。Aは姫君に手紙を出した相手が詠んだものである。また、「今でもあなたを深く愛している」と姫君に告げているのでもない。

②は、「姫君を深く思つている」という気持ち」という部分が誤りである。相手は「誰が深くあなたと契りを結んでいるのだろうか」と姫君に問い合わせているのである。また、「あさ」に「朝」の意をかけているという点も、歌意が通じず、不適切である。

④は、「私に手紙を出した相手は、私の気持ちがわからずにつらい思いをし、涙を流しているだろ

う」という部分が誤りである。「うき身」とは姫君自身のことを表しており、「つらい思いをし、涙を流している」のは姫君である。

⑤は、Bは帝が詠んだものだが、Cの詠み手も帝

としている点が誤りである。Cは姫君が詠んだものである。また、帝は、姫君に恋人がいることを知り、ねたましく思つてはいるが、Bは、「恋人が誰なのか知りたい」と願つてはいるだけで、恋人の存在により「落胆」しているという内容の歌ではない。

問6 文章の表現の特徴と内容に関する説明問題

センター試験の古文では、近年、本試験・追試験ともに表現に関する問題が出題されており、今後もひき続き出題されると考えられる。このような問題は内容合致問題と比べて読み取るのに時間がかかり面倒ではあるが、本文と選択肢を照らし合わせて判断ができるようにならない。

①は、まず「自らの立場に苦惱する姫君の心理描写から始まり」という点で合致している。【本文解説】でも述べたように、本文は、帝とのことが女御方の人に知られ、「かかる住まひのみ、あるまじき事と思しとる（＝このような帝に恋慕されながらの宮仕えだけは、あつてはならないことだと悟りになる）」という姫君の苦悩から始まっている。また、帝と姫君との会話や和歌のやりとりにもふれ、最終的に「いかにも、人の知らば知れ（＝いづれにせよ、他の人が私の思いを知るならば知つてしまえ）」と姫君への恋心をより強くする帝の様子を指摘しており、どれも正しい。よつて、①が正解である。

②は、姫君の着物や手紙の描写は確かになされているが、それが「宮中生活ならではの華美な様子を表す」までの描写には至っていない。また、姫君は華美な宮中生活に「嫌気がさしている」のではなく、本文の冒頭にあるように、父君や北の方が帝との仲を邪推するのではないかということを恐れて宮中での生活を嫌がっているのである。

③は、「言ひなし給はめ」とは、本文2行目にあらが、ここは、姫君が「（北の方も）言い立てなさるだらう」と推量しているのである。父親の言動なども、姫君が「父君のいかやうにか思ひ給はんずらん（＝父君がどのようにお思いになるだろうか）」と推量しているだけであり、その「言動を克明に」描いてはいけない。

④は、姫君の手元にあつた手紙によつて、帝は姫君に「かかる思ふ人持ち給へれ（＝このような恋人を持ちなさつてはいる）」と言つてはいるが、その恋人が複数である根拠は描写されていない。また、帝は

「恨みさせ給ひて」と、恨めしく思つてはいるが

「憤慨」しているとまでは言えず、よつてこの文脈において、「いづれ帝は姫君を見捨てることになる」という結末が暗示されているとも言い難い。

⑤は、「地の文では、帝の行為にのみ尊敬語が用いられる」が不適切である。帝が登場する前の、本文一行目の「あるまじき事と思しこる」、3～4行目の「局がちにのみおはします」という尊敬語は、姫君の行為に用いられている。また、高貴な帝の登場以降は、地の文では帝にしか尊敬語が用いられないが、それは作者から帝に敬意を表す待遇表現であつて、「帝の意向にあらがえない姫君の弱い立場」を表すことにはならない。

第4問 漢文

【出典】 紀昀『閱微草堂筆記』

紀昀は清代の学者。乾隆帝の命によつて『四庫全書』の編纂の責任者を務めた。『四庫全書』が完成した後、紀昀はかつて見聞きした奇談・怪談を書き綴り、五度にわたつて刊行した。その後、門人によつて全二十四巻にまとめられたのが『閱微草堂筆記』である。『閱微草堂』は紀昀の書齋の名。本文は、『閱微草堂筆記』のうち、最初に刊行された「漢陽消夏錄」の一文である。

【本文解説】

中国では昔から、死後の世界（冥界）にも現世と同じような役所（冥府）があると考えられていた。そこには人が生前行つた善行や悪行をすべて記載した帳簿があり、死者はその帳簿に基づいて審判を受けることになるのである。

本文は、鄭蘇仙という人物がある日夢の中で体験した出来事である。蘇仙が夢の中で冥府に行つたところ、死者の生前の罪状を吟味している閻魔大王のもとに、隣村の老婦人がやってきた。すると、閻魔大王は態度を引き締めて敬礼を行い、お茶を振る舞つた上ですみやかに恵まれた環境に生まれ変わらせるに至ったのであった。冥府を統括する閻魔大王が一老婦人を礼遇したこと驚いた蘇仙は、そのことを冥界の役人に尋ねる。役人によると、この老婦人は生前一片の私欲もなかつたのだと言う。自分が得をしようと考える心は人を傷つけるものであり、私欲が原因であらゆるたくらみや怨みが生じ、ひいては後世に汚名を残すことになつたり、世の中に害毒をまき散らすことになつたりする。賢明な知識人であつても私欲からはなかなか逃れられないものであるから、その私欲を抑えることができた老婦人に閻魔大王が敬意を払つたとしてもなんら不思議はない、と役人は言うのである。蘇仙は日頃から心の中で損得勘定をすることが多い人物であったので、死後にはその私欲の有無が問題にされるのだということを知つて震え上がり、目が覚めたのであつた。

【書き下し文】

北村の鄭蘇仙、一日夢に冥府に至り、閻羅王の方に録するを見る。隣村の一姫の殿前に至るあり。王を改め拱手して、賜ふに杯茗を以てす。冥吏に命じて速かに送りて善処に生まれしむ。鄭苏仙に冥吏に叩ひて曰はく、「此れ農家の老婦なり。何の功德かある」と。冥吏曰はく、「是の姫一生おれに己を利し人を損ふの心無し。夫れ己を利する心。賢士大夫と雖も

あるいは免れず。然して己^{おの}を利用^{する}は必ず人^{ひと}を損ふ。種^{しゆ}の機^き、是^ぜに因りて生じ、種^{しゆ}の冤愆^{あんけん}、是^ぜに因りて造る。甚だしきは臭^{くせ}を万年に貽^{はなねん}し、毒^{どく}を四海^{しふく}に流すに至る。皆此^{みなこ}の一念^{いっねん}害^をを為すなり。此^れ一村^{いちそん}婦^めなれども、能く自ら其^{その}の私心^{わいしん}を制す。読書講学^{よくぶ}の儒^{じゆ}も、之^に対して愧^{くろ}づる色^{いろ}多し。何ぞ王^{わう}の礼^{れい}を加^ふるを怪しまんや」と。鄭素^{しの}より心計^{しんけい}有り、之^をを聞きて惕然^{てきぜん}として寤^さむ。

【全文解釈】

北村の鄭蘇仙は、ある日夢の中で冥界の役所に行き、閻魔大王がちょうど罪人を取り調べているのを見た。(鄭の)隣村の一老婦人が宮殿の前までやつてきた。閻魔大王は態度を引き締めて両手を合わせて礼をし、一杯のお茶を振る舞つた。(大王は)冥界の役人に命じて(この老婦人を)すみやかに良い境遇のもとへ生まれ変わらせた。鄭はこつそりと冥界的役人に問い合わせて言つた、「こいつは農家の老婦だぞ。どんな功德があつたのだ」と。冥界的役人が言う、「この老婦人は一生涯、自分が得をしようと考えたり他人を傷つけようと考えたことがなかつたのだ。そもそも自分が得をしようとする心というのは、賢明な知識人でもついつい抱いてしまう場合がある。そして自分が得をしようと考えることは、必ず他人を傷つけることにながる。様々ないつわりたくらむ心が、これによつて生じ、様々なうらみや仲違いも、これによつてできる。ひどい場合には後世に汚名を残したり、世の中に害毒を流したりすることになるのだ。すべて、自分が得をしようと考えるこの心が災いをもたらすのである。この方はただの田舎の婦人ではあるが、私欲を抑えることができたのだ。書物を読み学問を研究する儒者であつても、この老婦人の前では恥じ入つた顔つきになること(=引け目を感じてしまう点)が多いだらう。どうして大王様が(この老婦人を)丁重にもてなしたことか不思議に思うことがあらうか」と。鄭は日頃から計算高い人物であつたので、これを聞いて震え上がつて目を覚ました。

【重要語・基本句形】

I 重要語

- 一日 ||ある日
- 方 ||ちょうど
- 改容 ||あらたなようふ
- 以二 ||以二

——を□する(目的) · ——によつて□する(手段・方法) · ——のために□する(理由・原因) · ——と

○夫 ^{ひつ}	○妻 ^{さい}
○雖 ^ま	たとえ——である(逆接の仮定条件) · ——であるが(逆接の確定条件)
○或 ^{ある}	自分も・いつたい
○自 ^じ	自分でも・いつたい
○能 ^{のう}	たとえ——であつても(逆接の仮定条件) · ——であるが(逆接の確定条件)
○素 ^{もと}	そもそも・いつたい
○或 ^{ある}	自分も・いつたい
○自 ^じ	自分でも・いつたい
○能 ^{のう}	自分も・いつたい
○素 ^{もと}	自分も・いつたい
○或 ^{ある}	自分も・いつたい
○自 ^じ	自分も・いつたい
○能 ^{のう}	自分も・いつたい
○素 ^{もと}	自分も・いつたい

【設問解説】

問1 語句の意味の問題

(1) 「改^メ容^ム」の「容^ム」は、目的語なので名詞である。「容^ム」は、名詞としては(ア)「姿・顔の表情」(姿・容貌)、(イ)「立ち居振る舞い」(礼容)などの意味がある。「改^メ容^ム」の意味は、直後の内容に着目して判断する。「拱^キ手^て、賜^{タス}以^テ杯^盃茗^{めい}」(両手を合わせて礼をし、一杯のお茶を振る舞つた)とあるように、閻魔大王は老婦人を礼遇しているわけであるから、「改^メ容^ム」は老婦人に対して敬意を表す態度であり、③「態度を引き締めて」が正解である。なお「容^ム」には、動詞としては「中に入れる・受け入れる」などの意味もある。

(2) 「素^{ヨリ}」は、「もとより」と読み「日頃から・まえから」の意味である。正解は②である。

問2 返り点と書き下し文の問題

傍線部が白文で、返り点の付け方と書き下し文が問われている。基本句形・重要な語などに着目するとともに、文脈から傍線部の意味を推測することも大切である。

まず、使役形「命^{めい} A □」(Aに命令して□させ^る)に着目する。傍線部の主語は「閻羅王」であり、その「閻羅王」の命令を受けたのは「冥吏」である。使役形にしたがつて「冥吏に命じて□しむ」と読んでいるのは、④・⑤である。

次に、どこに送り仮名「しむ」を施すべきかを考える。使役形「命^{めい} A □」は、Aにさせる行為(=□)に使役の助動詞「しむ」をつけて読むのがポイントである。④は「速かに送りて善処に生まれ

しむ」、⑤は「速かに送らしめ」と、「しむ」の位置が異なっているが、傍線部が「閻魔大王が役人に命じて老婦人をすみやかに送り届けさせ」その上「良い境遇のもとへ生まれ変わらせた」の意味であることは明らかなので、「生まれしむ」と読んでいる④が正解である。

問3 解釈の問題

「利^{フルヲ}己」は、「利己的」「利己主義」などの熟語からもわかるように、「自分一人の利益をはかる」という意である。③・④「自分を向上させようとする」や、⑤「自分の能力をうまく生かしたい」は、いずれも適当ではない。

後半部分は、「雖^{いへども}——ト」(たとえ——であつても)と「或^{あらうハ}——」(——場合がある)に従つて直訳すると、「賢明な知識人であつても、逃れられない場合がある」となる。②・④「賢明な知識人なら」⑤「賢明な知識人だけが」は、「雖^{いへども}——ト」の意味から外れているので誤り。③「なかなか持てないものである」は「或^{いへば}不免」の解釈が間違つていて、正解は①である。

問4 内容説明の問題

前半部分「讀書講學之儒」の解釈は、いずれの選択肢も同じで「書物を読み学問を研究する儒者であつても」となつていて、

後半部分はポイントが二つ。まず、「對^{シテ}之」の「之」の指示内容を考えなければならない。傍線部は、直前の「此^レ村婦^ヲ而能^ク自制^ミ其私心^(ノ)」(この方はただの田舎の婦人ではあるが、私欲を抑えることができたのだ)を受けているので、この「之」は「一村婦」を指す。「閻魔大王」としている①・②、「自分自身」としている⑤は誤り。「この老婦人」としている③・④に絞ることができる。次に「多^ニ愧^{はづ}色^ヲ」の内容を考える。「色」は「顔つき・顔の表情」の意味で、「愧^{はづ}色」は「恥じ入る顔つき」という意味になる。この場合の「恥じ入る顔つき」とは、私欲を抑えることができる「一村婦」より自分が劣っていることを恥じる心情が顔に表れたものである。「尊大な態度」にしている③は誤り。正解は④である。

問5 書き下し文と解釈の問題

(i) 書き下し文の問題

まず、「怪^ミ王之加^レ礼」の読み方を考える。「怪^ミ」を動詞として「怪しむ」と読み、「王之加^レ礼」を「怪^ミ」の目的語として読んでいることは、いずれの選択肢も同じである。さらに、その目的語の「王之

加^レ礼」について考えると、「王」「礼を加ふる」の読みは各選択肢に共通するが、「之」の読みが異なっている。「之」は、指示代名詞、あるいは倒置を示す語として「これ」、動詞として「ゆく」、格助詞として「の」と読む。傍線部を含む会話文は冥吏の発言であり、閻魔大王が老婦人を礼遇したことに疑問を感じた鄭蘇仙への返答であつた。その点を踏まえると、「礼を加ふる」の主語は「王」でなければならず、「之」は「の」と読み主格を表す格助詞とするのが正しい。①の「之れ」は指示代名詞ではなく、倒置を示しており、「王之^{ニシテ}加^レ礼」では、「王に」礼を加えたことになるので誤り。②・③は、「之」を動詞「ゆく」と読んでいるが、老婦人が閻魔大王の前にやつてきたのであって大王が老婦人の前に進み出たわけではないから、誤り。

次に、「何——乎」という形に注目する。疑問・反語を表す副詞と助詞が用いられているので、次の三つの意味を考えなければならない。

・どうして——なのか【疑問形】→結びは「連体形十や」

・どうして——であろうか、いや——ではない【反語形】→結びは「未然形十んや」

・なんと——であろう【詠嘆形】→結びは「連体形十や」

こ^レは、冥吏が前文で「老婦人は私欲を抑えることができる、たゞいまれな人物なのだ」と、大王が老婦人を礼遇した理由を説明しているのであるから、「どうして不思議に思うことがあるうか」という反語形に解釈し、句末は「怪しまんや」と読まなければならない。残りの選択肢④・⑤のうち、④「怪しむかな」は明らかに誤りである。正解は⑥である。

(ii) 解釈の問題

(i) で検討した正しい書き下し文「何ぞ王の礼を加ふるを怪しまんや」を訳出してみよう。反語形や「之」などに留意して直訳すると、「どうして大王様が礼遇したことを不思議に思うことがあるうか(いや、不思議に思うことなどない)」となる。この訳に合致する①が正解である。

③・④は疑問形、⑤は詠嘆形に捉えていいことが誤り。また、②・③「進み出で」は、「之」を動詞「ゆく」と解釈していることが誤り。

問6 内容合致の問題

【本文解説】にも述べたように、鄭蘇仙は冥界に行つた夢を見た。冥界を統括する閻魔大王は自ら老婦人を手厚くもてなし、良い境遇へと生まれ変わらせたのだが、それはこの老婦人が生前に一片の私欲

もなかつたからである。鄭蘇仙は日頃から心の中で損得勘定をするような人物であったので、それを聞いて震え上がつたところで目が覚めた。以上のような本文の内容と一致する②が正解である。

①については、老婦人が手厚くもてなされたのは私欲を持たなかつたからであり、「信仰心」の有無

は問題にされていない。③は「まともな死に方ができるない」「私欲を持たない人間に生まれ変わるべきだと考えた」、④は「過ちを悔い改めることができれば」「ただちにこの世に生き返らせてもらえる」、⑤は「冥界の役人に抜擢された」が、それぞれ本文の内容と一致していない。

【地理歴史】

世界史B①「古代～中世」選択

【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解番 答号	正解	配点	自己採点
第1問	A	問1 <input type="checkbox"/> 1	④	3	
		問2 <input type="checkbox"/> 2	③	3	
		問3 <input type="checkbox"/> 3	①	2	
	B	問4 <input type="checkbox"/> 4	③	3	
		問5 <input type="checkbox"/> 5	②	3	
		問6 <input type="checkbox"/> 6	④	2	
	C	問7 <input type="checkbox"/> 7	①	3	
		問8 <input type="checkbox"/> 8	②	3	
		問9 <input type="checkbox"/> 9	②	3	
第1問 自己採点小計		(25)			
第2問	A	問1 <input type="checkbox"/> 10	③	3	
		問2 <input type="checkbox"/> 11	④	2	
		問3 <input type="checkbox"/> 12	④	3	
	B	問4 <input type="checkbox"/> 13	②	2	
		問5 <input type="checkbox"/> 14	①	3	
		問6 <input type="checkbox"/> 15	③	3	
	C	問7 <input type="checkbox"/> 16	④	3	
		問8 <input type="checkbox"/> 17	③	3	
		問9 <input type="checkbox"/> 18	①	3	
第2問 自己採点小計		(25)			
第3問	A	問1 <input type="checkbox"/> 19	②	3	
		問2 <input type="checkbox"/> 20	①	2	
		問3 <input type="checkbox"/> 21	③	3	
	B	問4 <input type="checkbox"/> 22	②	3	
		問5 <input type="checkbox"/> 23	③	3	
		問6 <input type="checkbox"/> 24	③	3	
	C	問7 <input type="checkbox"/> 25	②	2	
		問8 <input type="checkbox"/> 26	①	3	
		問9 <input type="checkbox"/> 27	④	3	
第3問 自己採点小計		(25)			

問題番号	設問	解番 答号	正解	配点	自己採点
A	問1	<input type="checkbox"/> 28	③	3	
	問2	<input type="checkbox"/> 29	①	3	
	問3	<input type="checkbox"/> 30	③	3	
B	問4	<input type="checkbox"/> 31	②	3	
	問5	<input type="checkbox"/> 32	②	3	
	問6	<input type="checkbox"/> 33	③	2	
C	問7	<input type="checkbox"/> 34	③	3	
	問8	<input type="checkbox"/> 35	①	3	
	問9	<input type="checkbox"/> 36	④	2	
第4問 自己採点小計				(25)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第1問 宗教の成立と宗派の形成

【出題のねらい】

宗教の成立と宗派の形成について、Aでは仏教を、Bではキリスト教を、Cではイスラーム教を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 1 ④

④ヒンドゥー教は、バラモン教に民間信仰などが融合して成立した宗教で、シヴァ神やヴィシュヌ神など多くの神々を信仰する多神教である。①前5世紀頃にジャイナ教を創始したのは、カーリダーサではなくヴァルダマーナ(マハーヴィーラ)。ジャイナ教は、身分制度のヴァルナを否定し、苦行や禁欲による解脱を説いた。カーリダーサは、グプタ朝時代のサンスクリット文学を代表する詩人・戯曲作家で、『シャクンタラー』などを著した。②マウリヤ朝で仏教を保護したのは、カニシカ王ではなくアショーカ王。前3世紀のアショーカ王は、シャカの遺骨を納めたとされるストゥーパを建立し、シャカの教説を収集して經典を編纂する仏典結集を行った。また、ダルマ(法)に基づく統治方針を示した石柱碑や磨崖碑を各地に建立した。2世紀のカニシカ王はクシャーナ朝全盛期の王で、仏教を保護し、彼の時代に大乗佛教やガンダーラ美術が発展した。③ゾロアスター教の經典『アヴェスター』は、インドのグプタ朝ではなくイランのササン朝で編纂された。

問2 2 ③

③顧愷之は東晋の画家で、「女史箴図」を描いた。
 ①郭守敬は、魏晋南北朝時代ではなく元代に、イスラーム天文学の影響を受けて授時暦をつくった。②華麗な詩文を集めて『文選』を編纂した昭明太子は、東晋ではなく南朝の梁の皇族。④顏真卿は、魏晋南北朝時代ではなく唐代に活躍した書家である。魏晋南北朝時代に活躍した書家としては、東晋の王羲之が有名。

問3 [3] ①

①ドンソン文化は、前4世紀頃から東南アジア一帯に広まり、銅鼓などの青銅器や鉄器を使用した。
 ②扶南が真臘を滅ぼしたのではなく、真臘が扶南を滅ぼした。扶南は、1世紀から2世紀頃にインドシナ半島南部に成立した国家で、オケオ遺跡の遺物にみられるように海上交易で繁栄した。真臘は、6世紀にメコン川中流のカンボジアにクメール人が建てた国で、7世紀に扶南を滅ぼしたのちにアンコール朝のもとで全盛期を迎えた。ヒンドゥー教寺院のアンコール・ワットを造営した。③中国で林邑と呼ばれたのはシュリーヴィジャヤではなく、インドシナ半島東南部にチャム人が2世紀末に建てたチャンパ。シュリーヴィジャヤは、7世紀にスマトラ島に建国され、中国では三仏齊などと呼ばれた。④ボロブドゥールはジャワ島にのこる大乗佛教の石造建築物で、クディリ朝ではなくシャイレンドラ朝が建設した。シャイレンドラ朝は8世紀から9世紀にジャワ島で成立したとされ、大乗佛教を保護した。クディリ朝は10世紀にジャワ島で成立し、ワヤンと呼ばれる影絵芝居など独自の文化で繁栄した。

B

問4 [4] ③

③ローマ皇帝のディオクレティアヌスは、共和政の伝統を無視したドミナトゥス(専制君主政)を3世紀後半に開始するとともに、四分統治(四帝分治制、テトラルキア)を施行した。また、皇帝崇拜を拒否するキリスト教徒の大迫害を行った。①ローマ皇帝のネルウ(ヴ)アではなく3世紀のカラカラが、ローマ帝国内の全自由民にローマ市民権を付与した。ネルウアは1世紀末に即位し、五賢帝最初のローマ皇帝となった。②2世紀後半のマルクス=アウレリウス=アントニヌスは五賢帝最後のローマ皇帝で、『神の国(神国論)』ではなく『自省録』をストア派哲学にもとづいて著した。『神の国』の著者は、キリスト教の教義確立につとめた教父の代表的人物アウグスティヌス。④『ローマ法大全』を編纂させたのは、テオドシウスではなくビザンツ(東ローマ)皇帝のユスティニアヌス。テオドシウスは4世紀後半

のローマ皇帝で、キリスト教を国教とした。また、テオドシウスの死後にローマ帝国は東西に分裂した。ユスティニアヌスは6世紀のビザンツ皇帝で、ゲルマン人が建国した北アフリカのヴァンダル王国やイタリアの東ゴート王国を滅ぼして地中海沿岸の大部分を支配した。また、中国から養蚕技術を導入して絹織物業を興した。主要なローマ皇帝については、次頁の表を参照。

問5 [5] ②

②ア. 5世紀前半に開催されたエフェソス公会議では、ネストリウス派が異端とされた。ネストリウス派はササン朝や中国に伝わり、中国では景教と呼ばれた。イ. 唐の都は長安で、渭水流域の現在の西安にあった。長安では、景教の寺院だけでなく、祆教と呼ばれたゾロアスター教の寺院も建立された。
 ③④ア. 4世紀前半にローマ皇帝のコンスタンティヌスが開催したニケア公会議では、アタナシウス派が正統とされ、アリウス派が異端とされた。アリウス派は、その後ゲルマン人の間に広まった。①③イ. 建康は東晋や南朝の都で、現在の南京。

問6 [6] ④

④北宋は、遼や西夏への銀・絹などの歳幣と官僚の増加による人件費の増大などで財政難に陥り、11世紀後半の神宗の時代に宰相の王安石が富国強兵をめざして新法を実施した。しかし、司馬光ら旧法党の反対でこの改革は失敗に終わり、その後、新法党と旧法党の対立が激化した。①フランスで、パリ伯ユーグ=カペーが王位についてカペー朝が成立したのは、10世紀。②イタリアのモンテ=カシノにベネディクトゥスが修道院を建てたのは、6世紀。③モンゴル高原で、トルコ系のウイグルがキルギスに滅ぼされたのは、9世紀。

C

問7 [7] ①

①②ムハンマド(マホメット)死後の正統カリフ時代に、第4代カリフとなったのはアリーである。アリーが暗殺されると、ウマイヤ家のムーアヴィヤがカリフとなってウマイヤ朝を始めた。③アルサケスはパルティアの建国者。中国でパルティアを安息と呼んだのは、パルティアが建国者にちなんでアルサケス朝と呼ばれていたことに由来する。④トゥグリル=ベクは、11世紀に中央アジアでセルジューク朝を建設し、バグダードに入城してブワイフ朝を滅亡させ、世俗君主に与えられるスルタンの称号をアッバース朝のカリフから獲得した。

問8 [8] ②

②イスラーム暦(ヒジュラ暦)の元年は西暦622年

で、ムハンマドが生まれた年ではなく、ムハンマドがメッカからメディナに移住したヒジュラ(聖遷)の年である。①イスラーム教では、ユダヤ教徒とキリスト教徒は啓典の民とされ、ジズヤ(人頭税)を払えば信仰の維持が認められた。③イスラーム教の経典『コーラン(クルアーン)』は、ムハンマドがアッラーから授かったとされる啓示の記録で、正統カリフ時代に成立した。④イスラーム教では、ウラマーと呼ばれた学者による形式化に対する反発から、神との精神的合一をめざす神秘主義のスーアイズムが興り、神秘主義者のスーアイー・スーアイー教団が各地で布教につとめた。

問9 [9] ②

②ウマイヤ朝は、イベリア半島に進出して西ゴート王国を征服したが、8世紀前半のトゥール・ポワティエ間の戦いで、メロヴィング朝フランク王国の宮宰(マヨル＝ドムス)であったカール＝マルテルの軍に敗れた。①ウマイヤ朝は、イラクのバグダードではなくシリアのダマスクスに都を置いた。バグダードはアッバース朝の都。③8世紀後半に即位したハールーン＝アッラシードは、ウマイヤ朝ではなくアッバース朝の全盛期のカリフ。④アズハル学院は、ウマイヤ朝ではなくファーティマ朝時代にエジプトのカイロに創建されたマドラサ(学院)である。

第2問 人々の移動

【出題のねらい】

人々の移動について、Aではアフリカから的人類の移動を、Bでは『アイスランド＝サガ』(谷口幸男訳、新潮社)を用いてノルマン人の移動を、Cでは移動生活をおくる遊牧民を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 [10] ③

③aネアンデルタール人は、新人(現生人類)ではなく旧人。新人には、ヨーロッパのクロマニヨン人や中国の周口店上洞人などが含まれる。b新人のクロマニヨン人が、フランスのラスコーやスペインのアルタミラに洞穴絵画をのこしたとされる。

問2 [11] ④

④エチオピアには、モノモタバ王国ではなくアクスム王国が建国された。アクスム王国は、4世紀にナイル川上流域のクシュ王国を滅ぼした。モノモタバ王国は、11世紀頃にアフリカ南東部に建設された。①アフリカ東岸のキルワやモンバサなどの港市は、イスラーム商人との交易で繁栄した。この結果、東アフリカの現地語とアラビア語が融合してスワヒリ語が成立した。②西アフリカのニジェール川流域には、7世紀頃からガーナ王国・マリ王国・ソ

オクタウ(ヴ)ィアヌス	前1C～後1C	アウグストゥス プリンキパトゥス(元首政)を開始
ネロ	1C後半	キリスト教徒の迫害
ネルウ(ヴ)ア	1C末	五賢帝の最初
トラヤヌス	1C末～2C初め	五賢帝の第2番目 帝国領最大
ハドリアヌス	2C前半	五賢帝の第3番目
アントニヌス＝ピウス	2C前半～後半	五賢帝の第4番目
マルクス＝アウレリウス＝アントニヌス	2C後半	五賢帝の最後 『自省録』の著者 大秦王安敦
カラカラ	3C初め	ローマ帝国の全自由民に市民権付与
ウ(ヴ)アレリアヌス	3C半ば	ササン朝のシャープール1世に敗北
ディオクレティアヌス	3C後半～4C初め	ドミナトゥス(專制君主政)を開始 四分統治(四帝分治制、テトラルキア) キリスト教徒大迫害
コンスタンティヌス	4C前半	ミラノ勅令でキリスト教を公認 ニケア公会議を主催 コンスタンティノープルに遷都
ユリアヌス	4C後半	「異教」の復活を企図
テオドシウス	4C後半	キリスト教を国教化 死後、ローマ帝国は東西分裂

主要なローマ皇帝とその事績

ンガイ王国が、西アフリカの金とサハラ砂漠の岩塩を交換するサハラ縦断交易で繁栄した。トンブクトゥは、マリ王国やソンガイ王国の時代にこの交易で栄えた交易都市。③北アフリカのベルベル人は、11世紀にムラービト朝を建て、マラケシュを都とした。ムラービト朝は、アフリカ西部のガーナ王国を事実上滅ぼしたことでも知られる。ムラービト朝は、12世紀に同じベルベル人の建てたムワッヒド朝に征服された。

問3 [12] ④

④古代アメリカ文明は、アメリカ大陸原産のアトウモロコシ栽培などを基盤として成立した。中央アメリカには、4世紀以降にユカタン半島やグアテマラを中心としてイ・マヤ文明が栄え、絵文字を使用し、階段ピラミッドを建設した。①②ア・小麦は、アメリカ大陸ではなく西アジアが原産地とされる穀物。①③イ・インカ文明(帝国)は、1200年頃から16世紀まで南アメリカのアンデス高原を中心に栄え、キープ(結繩)を用いて情報を伝達したが、文字は持たなかった。そのほかの古代アメリカ文明には、メキシコ高原に栄えたテオティワカン文明やアステカ文明(王国、帝国)などがある。

B

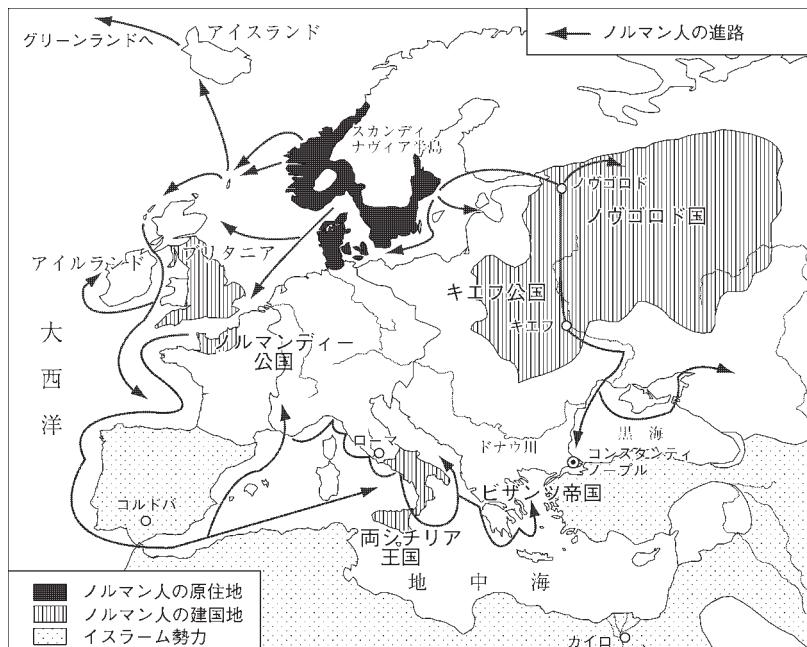
問4 [13] ②

②節度使の安禄山と部下の史思明が、唐の玄宗時代に反乱を起こしたのは、8世紀中頃。この安史の

乱はウイグルの援助などによって鎮圧されたが、唐はこれ以降衰退に向かっていった。①日本における最初の武家政権である平氏政権が成立したのは、12世紀。平氏は宋との貿易で富を築いた。③アッティラはフン人の王で、5世紀に現在のハンガリーを拠点として大帝国を築いたが、カタラウヌムの戦いに敗北し、フン人の帝国もまもなく崩壊した。④クローヴィスがフランク王国のメロヴィング朝を創始したのは、5世紀後半。クローヴィスはアナシウス派(ローマ=カトリック)に改宗し、これによってフランク王国とローマ教会との結びつきが強まっていった。

問5 [14] ①

①ヴァンダル人はゲルマン人の一派で、5世紀にイングランドではなく北アフリカに王国を建設した。イングランドに侵入して王国を建設したゲルマン人は、アングロ=サクソン人。②デーン人はイングランドに侵入したノルマン人のことで、デーン人のクヌート(カヌート)は、11世紀前半にイングランドを征服してイングランド王となった。さらにノルウェーやデンマークを支配下に収め、北海を中心とした王国を築いた。ノルマン人の移動と活動については、下の地図を参照。③ノルマンディー公ウィリアムは、11世紀後半にイングランドに上陸してヘースティングズの戦いに勝利し、ウィリアム1世としてノルマン朝を創始した。この出来事をノルマン征



ノルマン人の移動と活動

服(ノルマン = コンクエスト)と呼ぶ。④12世紀半ばにノルマン朝が断絶すると、フランスの諸侯アンジュー伯がイングランド王ヘンリイ2世となり、プランタジネット朝が建てられた。プランタジネット朝はフランスにも広大な領地を保有し、やがてフランスのかへー朝と対立するようになった。

問6 [15] ⑧

③a 古代アテネの重装歩兵部隊は、奴隸ではなく成年男性市民を中心として編制された。古代アテネの奴隸は、おもに家内奴隸や農業奴隸として市民に使役された。b 西ローマ帝国の領域に多くのゲルマン人国家が建設されていくと、西ローマ帝国の勢力は急速に衰え、5世紀後半にゲルマン人の傭兵隊長オドアケルが西ローマ帝国を滅ぼし、イタリアに自らの王国を建設した。

C

問7 [16] ④

④a. 6世紀に即位したササン朝のホスロー1世は、トルコ系のイ・突厥と同盟して中央アジアのエフタルを滅ぼし、ササン朝の全盛期を築いた。また、ビザンツ皇帝のユスティニアヌスと抗争した。突厥は、柔然を倒してモンゴル高原から中央アジアを支配したトルコ系の騎馬遊牧民で、隋代に東西分裂し、東突厥・西突厥ともに唐に服属した。その後東突厥は自立したが、8世紀に同じトルコ系のウイグルに滅ぼされた。①②a. シャープール1世は3世紀のササン朝の王で、ローマの軍人皇帝ウ(ヴ)アレリアヌスに勝利し、西北インドのクシャーナ朝を事実上滅ぼした。①③i. スキタイは、黒海北岸の草原地帯を拠点とした騎馬遊牧民で、彼らの騎馬文化はモンゴル高原の匈奴などに大きな影響を与えた。

問8 [17] ③

③宋代に長江下流域では、日照りに強い占城稻(チャンパー米)の導入や新田開発の進展などによって農業生産が増大し、「蘇湖(江浙)熟すれば天下足る」といわれるようになった。①世界最初の紙幣として交子が発行されたのは、東晋時代ではなく北宋時代。交子につづく紙幣としては、南宋の会子や金・元代の交鈔がある。②唐代の華北地域では粟などの栽培が中心で、稻作は行われていなかった。稻作は、長江の中・下流域など中国南部で行われた。④元代にジャムチ(站赤)と呼ばれたのは、商人の同業組合ではなく駅伝制である。商人の同業組合としては、宋代に結成された行がある。なお、宋代では手工業者の同業組合は作と呼ばれた。

問9 [18] ①

①a バトゥは、モンゴル(蒙古)帝国のオゴタイ=ハン(太宗)の命を受けてヨーロッパ遠征を行った。バトゥを総司令とするモンゴル軍はロシアのキエフ公国を征服し、さらにポーランドでのワールシュタット(リーグニッツ)の戦いで、ドイツ・ポーランド連合軍を撃破した。その後バトゥは、南ロシアにキチャク=ハン国を建てた。②bは、フラグの西アジア遠征を示したものである。モンケ=ハン(憲宗)に派遣されたフラグは、13世紀中頃にバグダードを占領してアッバース朝を滅ぼし、イランにイル=ハン国を樹立して西アジアを支配した。③cは、フビライ=ハン(世祖)が命じた日本への遠征路の一つである。フビライ=ハンによるこの遠征は日本では元寇と呼ばれ、この遠征路以外に朝鮮半島の高麗からも軍隊が派遣されたが、鎌倉幕府の抵抗や暴風雨などで日本の征服は失敗に終わった。④dは、ビルマ(ミャンマー)のパガン朝への遠征路。この遠征によってパガン朝は崩壊し、ビルマは分裂状態となつた。

第3問 都市国家と領域国家

【出題のねらい】

世界各地でみられた都市国家の成立と領域国家について、Aでは古代オリエント世界を、Bでは古代ローマを、Cでは古代中国を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 [19] ②

②a. ウルは、シュメール人がメソポタミア南部に建設した都市国家で、中心部にはジッグラト(聖塔)がつくられた。シュメール人の都市国家には、ウルのほかにウルクなどがあった。i. セム語系のアッカド人が建設した王国は、シュメール人などの都市国家を征服し、前24世紀頃に初めてメソポタミアを統一した。③④a. イラン西南部にあったスサは、インド=ヨーロッパ語系のペルシア人が前6世紀に樹立したアケメネス朝の都。①③i. カッシートは、バビロン第1王朝(古バビロニア王国)がヒッタイトに滅ぼされたのち、前16世紀頃からメソポタミア南部を支配した。

問2 [20] ①

①a ソグド人は中央アジアのイラン系民族で、オアシスの道(絹の道、シルク=ロード)を通じて古くから東西交易に活躍し、中国の絹などの物産を西方に運んで利益を得た。また、イラン起源のゾロアスター教やマニ教を中央アジアや中国に伝えた。b イスラーム商人は、ダウ船を用いてインド洋での交易

に活躍し、インド・東南アジアの物産や中国の絹・陶磁器などを運んだ。なお、中国の商人が用いた船はジャンク船と呼ばれた。ダウ船とジャンク船については、次の写真を参照。



ダウ船



ジャンク船

問3 [21] ⑧

⑧ヒッタイトは小アジアに王国を建てたインド＝ヨーロッパ語系の民族で、古王国ではなく新王国時代のエジプトと、地中海東岸のシリアの支配をめぐって争った。前16世紀初めには、メソポタミアを侵入してバビロン第1王朝を滅ぼした(問1 ①⑧イ。の解説参照)。鉄製武器を使用して強大化したが、前12世紀に「海の民」の侵入で滅亡した。①インド＝ヨーロッパ語系のメディアはイラン高原を支配し、新バビロニア(カルデア)と結んでアッシリアを滅ぼしたが、前6世紀半ばにアケメネス朝によって滅亡した。②イスラエル王国は、セム語系のヘブライ人が建てた王国が南北に分裂したのちに北部を支配した国で、前8世紀にアッシリアに滅ぼされた。

なお、南部を支配したユダ王国は前6世紀に新バビロニアに滅ぼされ、このとき住民は新バビロニアの都バビロンに連れ去られた。これをバビロン捕囚という。④バビロン第1王朝は、セム語系のアムル(アモリ)人がユーフラテス川中流のバビロンを都として建設した王国で、全盛期のハンムラビ王は前18世紀頃に同書復讐法と厳格な身分法を特色とするハンムラビ法典を制定した。

B

問4 [22] ②

②a 十二表法は、ローマで前5世紀に慣習法を成文化した法律。これによって貴族(パトリキ)による法の独占が打破された。c リキニウス・セクスティウス法は、2名のコンスル(執政官、統領)のうち1名を平民(プレブス)から選ぶ法律で、前4世紀に制定された。また、この法律で、有力者による公有地の占有が制限された。b ホルテンシウス法は、平民会の決議を元老院の承認なしに国法とする法律で、前3世紀に制定され、これによって平民と貴族の法的平等が達成された。

問5 [23] ③

⑨北イタリアのカノッサでローマ教皇グレゴリウス7世に許しを請うたのは、神聖ローマ皇帝のオットー1世ではなくハインリヒ4世。聖職叙任権をめぐって神聖ローマ皇帝とローマ教皇が対立する叙任権闘争が起こると、11世紀後半にグレゴリウス7世がハインリヒ4世を破門したため、ハインリヒ4世はカノッサで教皇に許しを請うた。この事件がカノッサの屈辱である。オットー1世は、10世紀後半に創始された神聖ローマ帝国の初代皇帝とされる。①両シチリア王国は、ノルマンディー公国のノルマン人が12世紀にシチリア島やイタリア南部などを支配して成立した(第2問問5の地図参照)。この国では、ノルマン・ビザンツ・イスラームの各文化が融合した独自の文化が生まれた。②ゲルマン人の一派である東ゴート人のテオドリック(大王)は、5世紀末にオドアケルを倒してイタリアに東ゴート王国を建設した。④ラヴェンナのサン=ヴィターレ聖堂には、6世紀にこの地を支配したビザンツ皇帝ユスティニアヌスのモザイク壁画がある。モザイク壁画は、円屋根(ドーム)とともにビザンツ様式建築の特色である。その他のビザンツ様式の聖堂としては、コンスタンティノープルのハギア(セント)=ソフィア聖堂が有名。

問6 [24] ③

③「内乱の1世紀」とは、前2世紀から前1世紀までのローマの混乱期のことである。同盟市戦争

は、イタリアの諸都市のうちローマ市民権を与えられなかった同盟市が前1世紀初めに起こした反乱で、閥族派（オブティマテス）のスラに鎮圧された。その後、反乱に参加した同盟市の全自由民にもローマ市民権が与えられ、ローマ市民権はイタリア半島の自由民全体に拡大した。①前1世紀前半に奴隸を率いて反乱を起こした剣奴は、ハンニバルではなくスパルタクスである。このスパルタクスの反乱は、ポンペイウスやクラッスに鎮圧された。ハンニバルは、前3世紀に起こったポエニ戦争でローマと戦ったカルタゴの將軍で、一時はローマ軍に勝利したが、北アフリカのザマの戦いで結局ローマのスキピオに敗北した。②前2世紀後半にグラックス兄弟の改革が失敗に終わると、元老院を基盤とした閥族派ではなく平民会を基盤とする平民派（民衆派、ポプラレス）のマリウスと、平民派ではなく閥族派のスラが争った。マリウスは一時政権を握り、無産市民を志願兵とする軍制改革を行ってローマ市民軍の兵力不足を補った。③平民派のカエサル（シーザー）は、第2回ではなく第1回の三頭政治に参加した。前1世紀前半の第1回三頭政治では、カエサル・ポンペイウス・クラッスが盟約を結んで元老院に对抗した。カエサルは、ガリア遠征などで勢力を強め、ポンペイウスを倒して一時独裁的権力を握ったが、共和主義者に暗殺された。第2回三頭政治は、カエサルの養子のオクタウ（ヴ）ィアヌス、カエサルの部下であったレピドゥスとアントニウスによって行われた。

C

問7 [25] ②

② a 中国の周代に行われた封建制度は、周王の一族や功臣などの諸侯に封土を与え、代わりに軍役や貢納を課す地方統治制度で、周王と諸侯はそれぞれ卿・大夫・士という直属の家臣をもち、彼らに領地を与えて世襲させた。b ヨーロッパの封建制度は、ゲルマンではなくローマの恩貸地制度とローマではなくゲルマンの従士制が結びついて成立したとされ、血縁的氏族関係にもとづく中国の封建制度とは異なり、主君と臣下における個人間の双務的契約によって成り立っていた。

問8 [26] ①

① 戰国時代の荀子は、春秋時代末の孔子を祖とする儒家の思想家で、人間の本性は惡であるという性惡説をとなえ、社会秩序を保つために礼を強調した。一方、戰国時代の孟子は、人間の本性は善であるとする性善説や、王朝交替の理論である易姓革命をとなえた。②孔子と同時代の人とされる老子は、

儒家ではなく道家の祖で、自然の原理に従って生きる無為自然をとなえた。老子の思想は戦国時代の莊子に継承されたため、道家は老莊思想とも呼ばれる。③春秋時代末から戦国時代初めの墨子は、法家ではなく墨家の祖で、平等の愛を説く兼愛や侵略戦争を否定する非攻などを主張した。法家は法による法治主義を主張し、法家の思想家には商鞅や韓非、秦の始皇帝に焚書坑儒を建議した李斯らがいる。④孫子は法家ではなく、兵法や戦略を説いた兵家の思想家。諸子百家については、次の表を参照。

学派	人物	内 容
儒家	孔子	仁の重視 德治主義
	孟子	性善説 易姓革命
	荀子	性惡説 法家に影響
道家	老子 莊子	無為自然
法家	商鞅・韓非・李斯	法治主義
墨家	墨子	兼愛 非攻
陰陽家	鄒衍	陰陽五行説
縱横家	蘇秦・張儀	外交
兵家	孫子	兵法 戰略

主要な諸子百家

問9 [27] ④

④後漢の末期に起こった農民反乱は赤眉の乱ではなく、太平道の張角が指導した黃巾の乱である。赤眉の乱は、前漢を倒して王莽が樹立した新の末期に起こった農民反乱。①中国統一に成功した秦の始皇帝は、青銅製の半両錢を統一貨幣とした。また、中国の統治にあたっては、それまでの封建制度（問7 ②a の解説参照）をやめ、全国を郡県に分けて中央から官吏を派遣して統治する郡県制を施行した。②前漢を建てた高祖（劉邦）は、郡県制と封建制度を併用する郡国制を実施した。③前漢の武帝は、匈奴を挾撃するために張騫を中央アジアの大月氏へ派遣した。目的には失敗したが、張騫のもたらした西域の情報は、武帝の中央アジアへの進出と支配に貢献した。

第4問 ギリシア文化とその影響

【出題のねらい】

ギリシア文化とその影響について、Aではギリシア文化の成立と特徴を、Bではヘレニズム文化とその伝播を、Cではギリシア文化のイスラーム圏への流入と西ヨーロッパへの伝播を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 [28] ③

③ドイツのシュリーマンは、ミケーネ文明の遺跡を発掘した。また、小アジア西北岸のトロイア(トロヤ)遺跡の発掘者でもある。④イギリス人のエヴァンズは、ミケーネ文明に先行するクレタ文明(ミノス文明)の遺跡クノッソスの発掘者。⑤ヘロドトスは前5世紀のギリシアの歴史家で、ペルシア戦争を叙述した『歴史』の著者。⑥古代アテネの歴史家トウキディデスは、ペロポネソス戦争を記述した。

問2 [29] ①

①アテネは、ドーリア人ではなくイオニア人が建設したポリスである。ドーリア人が建設したポリスには、スパルタがある。②アテネのクレイステネスは、前6世紀末に僭主の出現を防止するためにオストラシズム(陶片追放)を創始し、民主政の基礎を確立した。③マラトンの戦いは、ペルシア戦争中の前5世紀初めにアテネの重装歩兵軍がアケメネス朝のペルシア軍に勝利した戦い。④前5世紀後半に起こったペロポネソス戦争で、アテネを中心とするデロス同盟は、スパルタ中心のペロポネソス同盟に敗北した。戦争後、スパルタがギリシアの覇権を握ったが、やがてテーベ(テーバイ)に敗北して覇権を奪われた。

問3 [30] ③

③ギリシア人は前8世紀頃から前6世紀頃にかけて、地中海や黒海の沿岸にさかんに植民市を建設し、南フランスにはaのマッサリア(現在のマルセイユ)を建てた。そのほかのギリシア人の植民市としては、ネアポリス(現在のナボリ)・シラクサ・ビザンティオン(現在のイスタンブル)などがある。②セム語系のフェニキア人は、東地中海のティルスやbのシドンを拠点に地中海貿易で活躍し、北アフリ

カのカルタゴなど多くの植民市を建設した。ギリシア人とフェニキア人の植民活動については、下の地図を参照。

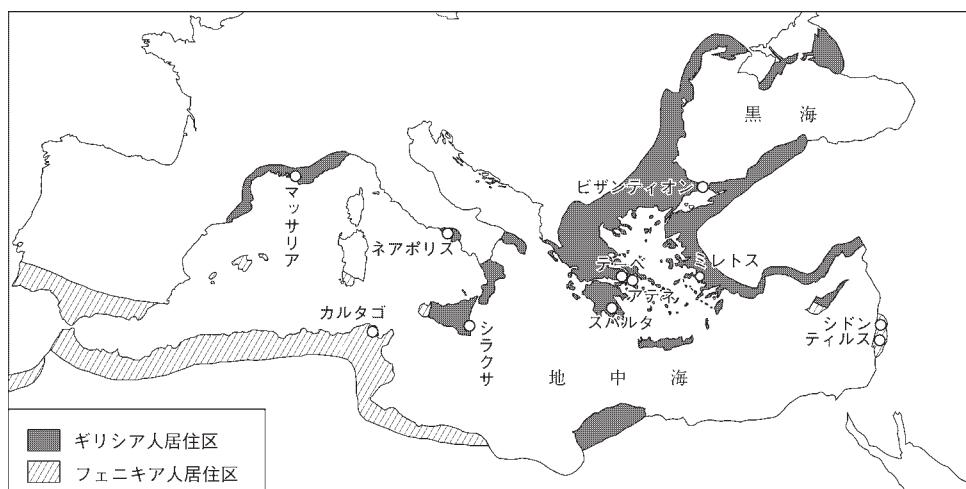
B

問4 [31] ②

②前4世紀にマケドニアのアレクサンドロス(アレクサンダー)大王は、東方(ペルシア)遠征を行い、アケメネス朝のダレイオス3世を地中海東岸のイッソスの戦いで破り、その後の遠征のなかでアケメネス朝は滅亡した。①カイロネイアの戦いは、アレクサンドロス大王の父であるマケドニアのフィリッポス(フィリップ)2世が、前4世紀にアテネ・テーベ連合軍を破った戦い。フィリッポス2世は、その後コリントス(ヘラス)同盟を結成してギリシアを支配した。③アクティウムの海戦は、オクタウィアヌスが前1世紀後半にアントニウスとブトレマイオス朝のクレオパトラとの連合軍を破った戦い。翌年ブトレマイオス朝は滅亡し、ローマによる地中海支配が完成した。④サラミスの海戦はペルシア戦争中の前5世紀前半の戦いで、アテネのテミストクレス率いるギリシア艦隊がペルシア艦隊を擊破した。この戦いで三段櫂船のこぎ手として活躍した無産市民の政治的発言力が高まり、戦後の前5世紀後半にペリクレスのもとで、すべての成年男性市民で構成される民会を最高機関とするアテネ民主政が完成した。

問5 [32] ②

②王立研究所のムセイオンは、シリアのセレウコス朝ではなくエジプトのブトレマイオス朝の都アレクサンドリアに開設され、自然科学研究の中心となった。セレウコス朝は、アレクサンドロス大王の死後に建国されたヘレニズム国家の一つで、西アジア



ギリシア人とフェニキア人の植民活動

の大半を支配したが、前3世紀に王国の東部でギリシア系のバクトリアとイラン系のパルティアが自立した。①従来のポリス社会が崩壊したヘレニズム時代には、国家や民族の枠を越えた世界市民主義(コスモポリタニズム)の考えが広まった。③ヘレニズム時代の天文学者アリストタルコスは、地球の公転・自転や太陽中心説をとなえた。また、同時代の天文学者エラトステネスは、地球の周囲の長さを計測した。④ヘレニズム時代の哲学者ゼノンは、禁欲による心の平安を追求するストア派を創始した。一方、同時代のエピクロスは、快楽主義のエピクロス派を創始した。

問6 [33] ⑧

⑧新羅では、特權的な身分制度である骨品制が施行された。①4世紀前半に楽浪郡を滅ぼして朝鮮半島北部を支配したのは、衛氏朝鮮ではなく高句麗。衛氏朝鮮は前2世紀に前漢の武帝に滅ぼされ、その地には楽浪郡など朝鮮4郡が設置された。②高句麗は、7世紀前半に隋の煬帝の遠征を撃退したが、7世紀後半に唐・新羅の連合軍に滅ぼされた。したがって10世紀に雲南に成立した大理の侵攻を受けていない。なお大理は、13世紀にモンゴル帝国のモンケ＝ハンが派遣したフビライに征服された。④10世紀に朝鮮半島を統一した高麗の都は、慶州ではなく開城。慶州に都を置いたのは新羅。

C

問7 [34] ⑧

⑧第3回十字軍は、サーマーン朝ではなくアイユーブ朝のサラディン(サラーフ＝アッディーン)によるイエルサレム征服を契機として12世紀末に派遣されたが、イエルサレム奪回には失敗した。サーマーン朝は、9世紀後半に中央アジアに成立したイラン系イスラーム王朝で、10世紀末にトルコ系のカラ＝ハン朝に滅ぼされた。①②ローマ教皇ウルバヌス2

世は、11世紀末にクレルモン宗教会議(公会議)で、イスラーム教徒に占領された聖地イエルサレムの奪回をめざす十字軍の派遣を提唱し、翌年派遣された第1回十字軍は、イエルサレムを占領してイエルサレム王国を建設した。④十字軍のさいには、ドイツ騎士団などの宗教騎士団が結成され、聖地の守護や巡礼者の医療活動などにあたった。

問8 [35] ①

①a イベリア半島を支配したゲルマン人の西ゴート王国は、8世紀初めにウマイヤ朝のイスラーム軍に滅ぼされた。その後、ウマイヤ朝軍は北上してフランク王国に侵入したが、トゥール・ポワティエ間の戦いでカール＝マルテルに敗北し(第1問問9②の解説参照)，イベリア半島に撤退した。8世紀半ばにウマイヤ朝が滅亡すると、その一族がイベリア半島にのがれ、コルドバを都として後ウマイヤ朝を建国した。フランク王国のカロリング朝の国王カール大帝(シャルルマーニュ)は、イベリア半島に遠征して後ウマイヤ朝のイスラーム軍と戦ったが、わずかな領土を獲得するにとどまった。

問9 [36] ④

④ア. 北イタリアのボローニャ大学は、法学で有名な中世の大学。医学で知られる南イタリアのサレルノ大学とともに、西ヨーロッパ最古の大学の一つとされる。イ. 10世紀から11世紀のイブン＝シナー(アヴィケンナ)は、ギリシア・アラビア医学を集大成したイスラーム世界の医学者で、その著書はラテン語に翻訳されて中世西ヨーロッパの医学に大きな影響を与えた。①②ア. イギリスのオックスフォード大学は、フランスのパリ大学とともに神学で知られた大学。①③イ. 11世紀から12世紀に活躍したウ(オ)マル＝ハイヤームは、四行詩集『ルバイヤート』を著した。

●写真・図版提供

P P S 通信社

世界史B②「近現代」選択

【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第5問	A	問1 [41]	②	3	
		問2 [42]	②	3	
		問3 [43]	①	2	
	B	問4 [44]	②	3	
		問5 [45]	③	3	
		問6 [46]	④	3	
	C	問7 [47]	①	3	
		問8 [48]	①	2	
		問9 [49]	④	3	
第5問 自己採点小計			(25)		
第6問	A	問1 [50]	③	3	
		問2 [51]	①	3	
		問3 [52]	②	3	
	B	問4 [53]	①	3	
		問5 [54]	②	2	
		問6 [55]	④	3	
	C	問7 [56]	④	3	
		問8 [57]	③	2	
		問9 [58]	②	3	
第6問 自己採点小計			(25)		
第7問	A	問1 [59]	②	3	
		問2 [60]	①	3	
		問3 [61]	②	2	
	B	問4 [62]	①	3	
		問5 [63]	③	3	
		問6 [64]	③	3	
	C	問7 [65]	④	3	
		問8 [66]	⑤	2	
		問9 [67]	②	3	
第7問 自己採点小計			(25)		

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第8問	問1	[68]	②	2	
	問2	[69]	④	3	
	問3	[70]	①	3	
B	問4	[71]	③	3	
	問5	[72]	④	3	
	問6	[73]	②	3	
C	問7	[74]	③	3	
	問8	[75]	③	3	
	問9	[76]	①	2	
第8問 自己採点小計				(25)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第5問 革命と農民

【出題のねらい】

世界史上の革命と農民とのかかわりについて、Aでは産業革命を、Bではフランス革命を、Cではロシア革命を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 [41] ②

②イギリスのワットは、従来の蒸気機関に改良を加え、機械の動力として用いられるようにした。①イギリスのクロンプトンは、力織機ではなくミュール紡績機を発明した。力織機を発明したのはイギリスのカートライト。③アメリカ合衆国のフルトンは、蒸気機関車ではなく蒸気船を実用化した。蒸気機関車を実用化したのはイギリスのスティーヴンソン。産業革命時の改良や発明については、次頁の表を参照。④バーミンガムは、綿工業ではなく製鉄業・機械工業の都市である。イギリスにおける綿工業の中心都市は、マンチェスター。

	人物名	国	発明・改良
綿工業関連	ジョン＝ケイ	英	飛び杼(梭)
	ハーグリーヴズ	英	ジェニー(多軸)紡績機
	アークライト	英	水力紡績機
	クロンプトン	英	ミュール紡績機
	カートライト	英	力織機
	ホイットニー	米	綿織り機
動力	ニューコメン	英	蒸気機関の改良
	ワット	英	ニューコメンの蒸気機関を改良
交通	フルトン	米	蒸気船の実用化
	スティーヴンソン	英	蒸気機関車の改良

産業革命時の改良や発明

問2 [42] ②

②ア. アイルランドでは、イングランド人地主のもとで小作人となっていた人々が多く、主食はジャガイモであった。19世紀半ばにジャガイモに病気が発生すると、大飢饉となって餓死者が続出し、多くのアイルランド人が移民としてアメリカ合衆国などに移住した。イ. 自由党のグラッドストン内閣は、19世紀後半にアイルランド自治法案を議会に提出したが、成立しなかった。アイルランド自治法は1914年に成立したものの、第一次世界大戦の勃発によって自治の実現は延期され、戦後の1922年に自治領のアイルランド自由国が成立した。③④ア. トウモロコシは、ジャガイモと同じくアメリカ大陸原産であったが、アイルランドで主食になることはなかった。①③イ. ロイド＝ジョージは自由党の政治家で、第一次世界大戦中にイギリス首相となり、第一次世界大戦後のパリ講和会議にイギリスの代表として出席した。

問3 [43] ①

①a モルッカ(マルク、香料)諸島は、東南アジアにおける香辛料産地として知られる。16世紀にポルトガルがヨーロッパ諸国としては最初に来到してこの地の香辛料を独占したが、17世紀にオランダがポルトガルを破ってモルッカ諸島の支配権を獲得した。b オランダは、17世紀前半にモルッカ諸島のアンボイナでイギリスの商館員を虐殺し、イギリスをモルッカ諸島から駆逐した。これをアンボイナ事件と呼び、その後イギリスはインドへの進出を強めていった。

B

問4 [44] ②

②食糧の価格高騰に苦しんだパリの女性らは、1789年にヴェルサイユ宮殿に乱入し、国王ルイ16世

一家をパリに連行し、国民議会(憲法制定議会)もパリに移転することになった。これをヴェルサイユ行進と呼ぶ。①人権宣言(人間および市民の権利の宣言)は、立法議会ではなく国民議会で採択された。1789年に成立した国民議会は、バティーユ牢獄襲撃後に封建的特権の廃止を決定し、ラ＝ファイエットらが起草した人権宣言を採択した。国民議会では1791年憲法が制定され、この憲法にもとづく制限選挙で成立したのが立法議会である。③フランス革命で王権停止のきっかけとなった事件は、テルミドール(9日)のクーデタではなく8月10日事件。8月10日事件は、義勇兵とサンキュロットと呼ばれた都市の民衆が、1792年にパリの王宮を襲撃して国王を捕らえた事件である。この事件を機に、立法議会は王権停止を宣言して解散し、国民公会で王政が廃止されて共和政が成立した。テルミドールのクーデタは、国民公会で恐怖政治の中心人物であったロベスピエールらが打倒されて処刑された事件。④国民公会では、ジロンド派ではなくジャコバン(山岳)派によって恐怖政治が行われた。ジロンド派は富裕な商工業者を基盤とし、立法議会時に政権を獲得した。1792年に立法議会に代わって男性普通選挙による国民公会が成立すると、下層市民を支持基盤とする急進的なジャコバン派が台頭した。ジロンド派を追放して政権を獲得したジャコバン派は、恐怖政治を行って反革命容疑者などの弾圧を強行した。

問5 [45] ③

③ナポレオン＝ボナパルトは、国民投票で19世紀初めにフランス皇帝に即位してナポレオン1世となり、アウステルリツの戦いでオーストリアとロシアに、敗北ではなく勝利した。この戦いは、3人の皇帝が戦ったことから三帝会戦とも呼ばれる。①エジプト遠征から帰国したナポレオンは18世紀末に、ブリュメール18日のクーデタと呼ばれる軍事クーデタで総裁政府を倒して統領政府を樹立した。②統領政府の第一統領となったナポレオンは、1802年にイギリスとアミアンの和約を結び、これによって第2回対仏大同盟が解消された。④ナポレオン1世が1806年に発布した大陸封鎖令(ベルリン勅令)は、イギリスと大陸諸国との通商を禁止する内容であった。ロシアが大陸封鎖令に違反してイギリスへの穀物輸出を再開すると、ナポレオン1世はロシアに遠征したが、失敗した。

問6 [46] ④

④シュタインは、プロイセンがナポレオン1世に敗北したあと、19世紀初めに首相となり、農民解放や行政改革などの近代化改革を行った。このプロイ

セン改革は、その後に首相となったハルデンベルクに継承された。①タレーランはフランスの外相で、ウィーン会議に参加し、フランス革命前の主権と領土を正統とする正統主義を主張した。②メッテルニヒはウィーン会議を主催したオーストリアの外相で、のちには宰相としてウィーン体制維持の中心となつた。③ケロッグはアメリカ合衆国の国務長官で、フランスの外相ブリアンとともに、国際紛争の解決に武力を用いないという不戦条約(ケロッグ・ブリアン条約)を1928年に成立させた。

C

問7 [47] ①

①サライエヴォ事件は、1914年にオーストリアの帝位継承者夫妻がボスニアのサライエヴォでセルビア人青年に暗殺された事件。この事件を機にオーストリアがセルビアに宣戦すると、イギリス・フランス・ロシアなどの連合国(協商国)とドイツ・オーストリアを中心とする同盟国との間で第一次世界大戦が勃発した。②フランスがドイツの進軍を阻止したのは、タンネンベルクの戦いではなくマルヌの戦いで、1914年のこの戦い以降、西部戦線は膠着状態に陥った。1914年のタンネンベルクの戦いは、ドイツがロシアに勝利した東部戦線での戦い。③無制限潜水艦作戦は、交戦海域における船舶を無差別に攻撃するもので、イギリスではなくドイツが1917年に強行し、アメリカ合衆国が連合国側で参戦する口実となつた。④三国同盟に参加していたイタリアは、第一次世界大戦当初は中立を維持したが、「未回収のイタリア」割譲を約束する秘密協定にもとづき、同盟国側ではなく連合国側で参戦した。

問8 [48] ①

①三月革命(ロシア暦二月革命)の契機となった事件は血の日曜日事件ではなく、第一次世界大戦の戦局が悪化するなか、ペテルブルクを改称してペトログラードと呼ばれていた首都で1917年に起こった食糧危機を訴えるデモやストライキであった。三月革命が起こると、労働者と兵士がソヴィエト(評議会)を組織する一方、立憲民主党を中心とする臨時政府が成立して二重権力状態となり、皇帝ニコライ2世が退位してロマノフ朝は滅亡した。血の日曜日事件は、日露戦争中の1905年にロシア帝国の首都ペテルブルクで起こった事件で、民衆の平和嘆願デモに対して宮殿の警備隊が発砲し、多くの死傷者を出した。これを機に第1次ロシア革命が起つた。②社会革命党的ケレンスキイは三月革命後に臨時政府に参加し、のちに首相となつた。③ボリシェヴィキのレーニンが、四月テーゼで権力のソヴィエトへの集

中と戦争の即時停止を訴えると、ソヴィエト内部におけるボリシェヴィキの支持が広がり、十一月革命(ロシア暦十月革命)でケレンスキイ政権を打倒した。④憲法制定議会を解散して独裁権を掌握したボリシェヴィキは、トロツキーを代表としてドイツと和平交渉を行い、1918年にドイツなどの同盟国とブレスト=リトフスク条約を結んで第一次世界大戦から離脱した。

問9 [49] ④

④A. フランスの人民戦線内閣は、社会党のイ・ブルムを首相として1936年に成立し、共産党などと協力してファシズムに対抗した。①②A. イギリスでは、人民戦線内閣が成立していない。フランス以外で人民戦線内閣が成立した国には、スペインがある。①③イ. シュトレーゼマンは、第一次世界大戦後のドイツにおいて、経済の回復と平和外交を推進した政治家。極度のインフレーションを新紙幣レンテンマルクの発行で収拾し、1925年にはライン蘭トの非武装と相互不侵略を約したロカルノ条約を締結した。

第6問 16世紀から18世紀のヨーロッパ

【出題のねらい】

16世紀から18世紀のヨーロッパについて、Aでは大航海時代を、Bでは宗教改革を、Cでは絶対主義国家を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 [50] ③

③イタリアのジェノヴァに生まれたとされるコロンブスは、トスカネリの大地球体説を信じ、大西洋を西航してアジアへの到達をめざした。1492年にスペインのイサベル(イザベラ)女王の援助を受けて出帆し、現在のキューバ北東に位置する島にいたり、この島をサンカルバドル島と命名した。以後3回航海するが、死去するまでその地をインドの一部と信じていた。①1488年にアフリカ南端の喜望峰に到達したのはアメリゴ=ヴェスپッチではなく、ポルトガルのバルトロメウ=ディアス。アメリゴ=ヴェスپッチはフィレンツェの航海者で、スペインの支援を受けて南アメリカを探検し、この地が新大陸であると主張した。アメリカ大陸という名称は、彼の名にもとづく。②15世紀末にインドに向かう途中で現在のブラジルに漂着したのは、ヴァスコ=ダ=ガマではなくカブラル。ポルトガルのカブラルが漂着したブラジルの地は、すでに結ばれていたトルデシリヤス条約によるポルトガルとスペインの植民地分界

線にもとづき、のちにポルトガル領となった。ヴァスコ・ダ・ガマもポルトガルの航海者で、アフリカ南端をまわって1498年にインド西岸のカリカットに到達した。④パナマ地峡を横断して太平洋に到達したのは、マゼラン(マガリャンイス)ではなくスペインのバルボア。ポルトガル人のマゼランは、スペイン王カルロス1世の援助によってヨーロッパから西回りでアジアをめざして航海し、アメリカ大陸の南端から太平洋をへてフィリピンに到達した。マゼラン自身はそこで死去したが、彼の部下がスペインに帰還して世界周航を達成した。大航海時代の航海者とその航路については、以下の地図を参照。

問2 [51] ①

①ドイツのグーテンベルクは、15世紀に活版印刷を実用化した。②19世紀にダイナマイトを発明したのは、キュリー夫妻ではなくスウェーデンのノーベルで、彼の遺言でノーベル賞が創始された。キュリー夫妻はフランスの科学者で、19世紀末に放射性物質のラジウムを発見した。③エディソンは19世紀から20世紀のアメリカ合衆国の発明家で、電灯(白熱電球)などを発明したが、電信機は発明していない。電信機は、19世紀にアメリカ合衆国のモールスが発明した。④電話機を発明したのは、ジェンナーではなくアメリカ合衆国のベル。ジェンナーはイギリスの医師で、18世紀に天然痘を予防する種痘法を開発した。

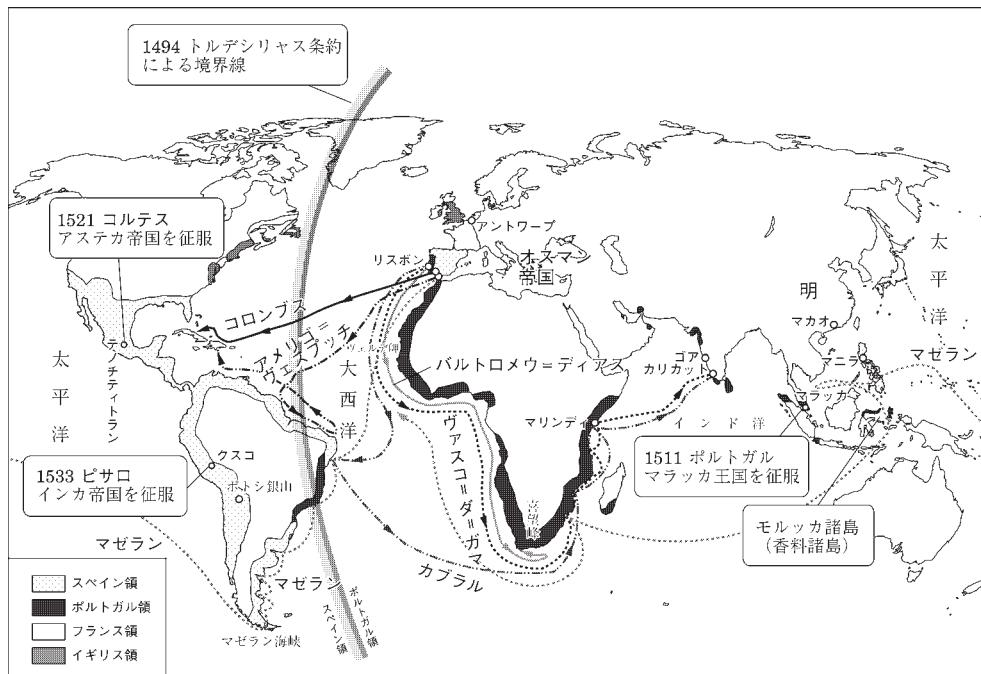
問3 [52] ②

②サン=マルティンは植民地生まれの白人であるクリオーリョで、19世紀前半に**b**のアルゼンチンやチリ・ペルーの独立運動を指導した。③④トゥサン=ルーヴェルチュールは、ハイチのフランスからの独立運動を指導した黒人。ナポレオン軍に捕らえられて19世紀初めのハイチ独立直前に獄死した。①③**a**はベネズエラで、クリオーリョのシモン=ボリバルの指導でスペインから独立した。

B

問4 [53] ①

①ローマ教皇レオ10世が、サン=ピエトロ大聖堂の建築費を捻出するために神聖ローマ帝国での贖宥状(免罪符)の販売を推進すると、マルティン=ルターが1517年に九十五カ条の論題を発表してこれを批判し、宗教改革が開始された。②シュマルカルデン同盟は、神聖ローマ帝国のカトリック諸侯ではなくルター派の新教諸侯が、神聖ローマ皇帝に対抗して結成した。③カルヴァンは、スイスのチューリヒではなくジュネーヴで神政政治(神権政治)を行った。チューリヒで宗教改革を行ったのは、ツヴィングリ。④16世紀前半に首長法(国王至上法)を発布したのは、メリヤー1世ではなくヘンリイ8世。テューダー朝のヘンリイ8世は離婚問題をめぐって教皇と対立し、首長法を発布してイギリス国王を首長とするイギリス国教会を成立させた。ヘンリイ8世の娘のメア



大航海時代の航海者と航路

リ1世は、イギリスにカトリックを復活させて新教徒を弾圧した。

問5 [54] ②

a ベトナムの阮福映(映)は、フランス人宣教師のピニョーなどの支援を得て19世紀初めに阮朝越南国を創始した。b ドイツは、19世紀末に起こったドイツ人宣教師殺害事件を口実に、旅順・大連ではなく膠州湾を占領し、1898年にこの地を租借した。膠州湾は、中国の山東半島南岸に位置する。旅順・大連は遼東半島南端にあり、1898年にロシアが租借した。

問6 [55] ④

④17世紀前半の三十年戦争は、ハプスブルク家のペーメン(ボヘミア)王に対してペーメンの新教徒が反乱を起こしたことから始まり、神聖ローマ帝国のハプスブルク家を中心とする旧教側と新教側とに分かれて戦った。スウェーデンは国王グスタフ=アドルフのもとで、デンマークについて新教側で参戦し、旧教側の傭兵隊長ヴァ(ワ)レンシュタインを撃破するなどして活躍した。講和条約のウェストファリア条約では、スウェーデンはドイツ北部の西ポンメルンなどを獲得してバルト海の覇権を握った。①オランダ独立戦争中の16世紀後半、南部10州ではなく北部7州がネーデルラント連邦共和国(オランダ)の独立を宣言した。南部10州は、独立宣言以前にオランダ独立戦争から離脱してスペイン領にとどまった。②ユグノー戦争は、サンバルテルミの虐殺を機に開始されたのではない。この虐殺事件は、16世紀後半にフランスで開始されたユグノー戦争中に起こり、カルヴァン派のユグノーが旧教徒に多数虐殺された。③ナントの王令(勅令)を発布したのは、フランス王のルイ14世ではなくアンリ4世。アンリ4世は、ユグノー戦争中に即位してブルボン朝を成立させ、16世紀末にナントの王令を出してユグノーの信教の自由を認め、ユグノー戦争を終息させた。ルイ14世は、17世紀半ばから18世紀初めのブルボン朝の国王で、宰相マザランの死後に親政を開始してフランス絶対主義の全盛期を築いた。国内ではナントの王令を廃止し、対外的にはスペイン継承戦争など多くの戦争を起こした。

C

問7 [56] ④

④ブガチョフの反乱は、18世紀後半にロシアで起こった農民反乱で、コサックのブガチョフが指導して農奴制の廃止を掲げたが、啓蒙專制君主の一人とされるエカチェリーナ2世に鎮圧された。①ヴェルサイユ宮殿は、プロイセン(プロシア)ではなくフラン

スのルイ14世が造営したバロック式の建築。プロイセンでは、フリードリヒ2世(大王)がロココ式のサンスーシ宮殿を都のベルリン郊外に造営した。②オーストリアは、プロイセンからシュレジエン(シレジア)を奪ったのではなく、プロイセンに自國領のシュレジエンを奪われた。オーストリアのマリア=テレジアは、18世紀前半のオーストリア継承戦争でプロイセンのフリードリヒ2世にシュレジエンを奪われ、18世紀後半の七年戦争ではフランスと結んで再びプロイセンと戦ったが、シュレジエンを取り戻すことはできなかった。なお、オーストリア継承戦争後にオーストリアがフランスと結んだことは、従来のオーストリアとフランスの敵対関係を解消するもので、外交革命と呼ばれる。③17世紀末から18世紀前半の北方戦争では、スウェーデンがロシアに勝利したのではなく、ロシアがスウェーデンに勝利した。ロシアのピョートル1世(大帝)はスウェーデンのカール12世を擊破してこの戦争に勝利し、バルト海に進出した。また、戦争中に建設された新都ペテルブルクは、バルト海への出口として栄えた。

問8 [57] ③

③b ピューリタン革命が起こったのは17世紀前半で、スチュアート朝の国王チャールズ1世が処刑されイギリスは共和政(コモンウェルス)となった。しかし、独立派のクロムウェルによる独裁が行われ、彼の死後チャールズ1世の子のチャールズ2世が即位し、王政が復活した。a イギリス議会がチャールズ2世の次の国王ジェームズ2世に対して名誉革命を起こしたのは17世紀後半で、これによってジェームズ2世は亡命し、オランダから王の娘メアリとその夫であるオラニエ公ウィレムが招かれた。メアリとオラニエ公ウィレムは、国王に対する議会の優越を示した権利の宣言を認めてメアリ2世・ウィリアム3世として即位し、権利の宣言は権利の章典として法文化された。c イングランドとスコットランドが合併して大(グレート=)ブリテン王国が成立了のは、ウィリアム3世の次の王であったアン女王時代の18世紀初め。

問9 [58] ②

②『コモン=センス』(『常識』)を著したのは、ジェファソンではなくトマス=ペイン。この書のなかでトマス=ペインは、アメリカの13植民地がイギリスから独立する必要性を説き、独立の機運を高揚させた。ジェファソンはアメリカ独立宣言を起草した政治家で、19世紀初めにはアメリカ合衆国の大統領に就任した。①18世紀後半、13植民地で発行される出版物に印紙を貼ることを義務づける印紙法が出さ

ると、植民地側は「代表なくして課税なし」と主張して反発し、翌年同法は撤廃された。③イギリスは、1775年に始まったアメリカ独立戦争中のヨークタウンの戦いに敗北すると、1783年のパリ条約によってアメリカ合衆国の独立を認め、ミシシッピ川以東のルイジアナを割譲した。④ワシントンはアメリカ独立戦争時の植民地軍総司令官で、独立達成後にアメリカ合衆国初代大統領となった。

第7問 アジア・アフリカの民族運動

【出題のねらい】

アジア・アフリカの植民地化と民族運動について、Aでは西アジアとアフリカを、Bでは南アジアと東南アジアを、Cでは東アジアを、それぞれ扱って出題した。なお、Bの資料は、『光は暗黒を越えて』(カルティニ著、早坂四郎訳、河出新書)を引用した。

【設問別解説】

A

問1 [59] ②

②19世紀後半から急速に工業化を進展させたA。アメリカ合衆国では、同一業種の企業が合併などによってその業種を独占的に支配するイ。トラストが発達した。③④ア。イタリアでは、帝国主義は発達しなかった。①⑤イ。カルテルは、市場独占と価格の維持を目的に、同じ業種の複数の企業が価格や生産量を協定することである。なお、コンツェルンは、さまざまな業種の企業が結合した独占形態。

問2 [60] ①

①ウィーン体制下の19世紀前半に起こったギリシア独立戦争では、イギリス・フランス・ロシアがギリシアを支援したためオスマン帝国は敗北し、ギリシアの独立を承認した。②③19世紀前半からタンジマート(恩恵改革)と呼ばれる西欧化改革を開始したのは、ムスタファ＝ケマル(ケマル＝パシャ)ではなくアブデュル＝メジト1世。ミドハト憲法を19世紀後半に発布したオスマン帝国のスルタンは、アブデュル＝メジト1世ではなくアブデュル＝ハミト2世である。ムスタファ＝ケマルは第一次世界大戦後に起こったトルコ革命の指導者で、トルコ共和国の初代大統領となった。④カルロヴィッツ条約は、ロシアではなくオーストリアなどとオスマン帝国が17世紀末に結んだ条約で、オスマン帝国はハンガリーなどをオーストリアに割譲した。19世紀以降のオスマン帝国とロシアは、クリミア戦争後のパリ条約やロシア＝トルコ(露土)戦争後のサン＝ステファン条約・ベルリン条約などを結んだ。

問3 [61] ②

②エチオピアは、19世紀末のアドワの戦いで、イタリア軍を撃退して独立を維持した。なお、20世紀初めにアフリカで独立していた他の国としては、アメリカ合衆国で解放された黒人奴隸が入植して19世紀半ばに独立を宣言したリベリア共和国がある。①コンゴは、スタンリーのコンゴ探検を援助したベルギー国王が19世紀後半に私領とした。これにイギリスなどが反発すると、ドイツのビスマルクが提唱してベルリン会議が開かれ、ベルギー王領のコンゴ自由国が成立するとともに、アフリカ分割の原則が承認された。③北アフリカのアルジェリアは、19世紀前半にフランスのシャルル10世に占領され、やがてフランスの植民地となった。④アフリカ中央部西岸のカメルーンは、ドイツが植民地化に着手し、20世紀初めに領有した。アフリカ分割については、次頁の地図を参照。

B

問4 [62] ①

①オランダは、ジャワ島・スマトラ島やボルネオ島南部などを領有し、20世紀初めにオランダ領東インドを形成した。②フィリピンは16世紀以降スペインの植民地であったが、19世紀末のアメリカ＝スペイン(米西)戦争の結果、アメリカ合衆国領となった。③タイは、東南アジアで唯一植民地化されることなく、ラタナコーシン(チャクリ)朝が独立を維持した。④ビルマ(ミャンマー)のコンバウン(アラウンパヤー)朝は、19世紀のビルマ戦争に敗れてイギリスの植民地となり、インド帝国に併合された。

問5 [63] ③

③1877年にインド帝国を成立させたイギリスの首相は、保守党的ディズレーリ。また、インド帝国皇帝はイギリス国王が兼ねたため、ヴィクトリア女王が初代インド皇帝となった。①②ウォルポールはホイッグ(ウィッグ)党の政治家で、ハノーヴァー朝初期の18世紀前半に首相となった。彼の辞任のさいに、内閣は議会に対して責任を負うという責任内閣制が成立したとされる。②④ジョージ1世は、ステュアート朝断絶後に成立したハノーヴァー朝の初代国王。

問6 [64] ③

③イギリスは、第一次世界大戦中にインド人の戦争協力を得るため、戦後の自治を約束していた。しかし、第一次世界大戦後にインドの民族運動を弾圧するローラット法を制定したため、国民会議派のガンディーが指導する非暴力・不服従の抵抗運動が起こった。①イギリス東インド会社のインド人傭兵を中心とする反英運動は、バーブ教徒の乱ではなく19

世紀半ばのシパーイー(セポイ)の反乱(インド大反乱)で、反乱軍はムガル皇帝を擁立するなどしてイギリスと戦ったが鎮圧された。反乱中にイギリスは、ムガル帝国を滅ぼすとともに、東インド会社を解散してインドを直接支配した。バーブ教徒の乱は、19世紀半ばにカージャール朝支配下のイランで起こった農民反乱で、反乱の中心はシア派系新宗教のバーブ教の信徒であった。②英貨排斥・スワデーシ(国産品愛用)・スワラージ(自治獲得)・民族教育の4綱領を採択したのは、全インド＝ムスリム連盟ではなく国民會議派。ベンガル地方をヒンドゥー教地域とイスラーム教地域に分割するベンガル分割令が20世紀初めに出されると、この4綱領が国民會議派のカルカッタ大会でティラクを中心に採択され、イギリスに対する民族運動が高揚した。全インド＝ムスリム連盟は、イギリスの支援で20世紀初めに結成されたイスラーム教徒の政治団体。④ワフド党は、インドではなくエジプトで第一次世界大戦後に結成された民族主義的政党で、イギリスに対する独立運動の中心となった。

C

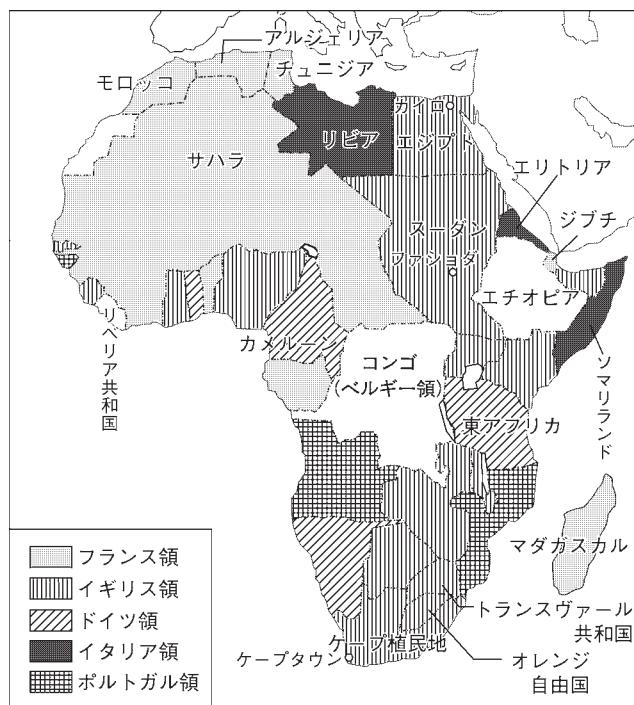
問7 [65] ④

④1840年に起こったアヘン戦争の講和条約は、地図中**b**の南京で1842年に結ばれた南京条約。この条約では、イギリスへの香港(島)の割譲、上海など5

港の開港、外国貿易を独占していた公行の廃止などが決められた。①地図中**a**の北京で1860年に結ばれた北京条約は、アロー戦争(第2次アヘン戦争)の講和条約。天津など多くの都市が開港され、外国公使の北京駐在やキリスト教布教の自由などが定められた。また、北京では義和団事件の講和条約である北京議定書(辛丑和約)が1901年に結ばれ、外国軍隊の北京駐在などが定められた。

問8 [66] ⑥

⑤c 19世紀後半、朝鮮王朝(李朝、李氏朝鮮)の都であった漢城の沖合いにある江華島付近で、日本の軍艦が砲撃される事件が起こった。この江華島事件を機に、日本は武力を背景に朝鮮王朝と日朝修好条規(江華島条約)を結び、釜山などの開港や日本の領事裁判権を認めさせた。a 日清戦争後に朝鮮王朝を改称した大韓帝国(韓国)に対し、日露戦争のポーツマス条約で韓国における優越権を獲得した日本は、第2次日韓協約で韓國統監府を設置して韓国を保護国化し、伊藤博文が韓國統監となつた。こうした日本の動きに対して韓国では反日義兵闘争が起り、ハーグ密使事件後に日本が高宗を退位させ、韓国の軍隊を解散すると義兵闘争はさらに激化した。義兵の安重根が伊藤博文を暗殺すると、日本は1910年に韓国を併合して支配下に置き、朝鮮総督府を設置した。b 1937年に日中戦争が始まると、戦争への動員



ヨーロッパ諸国によるアフリカ分割(20世紀初め)

のために朝鮮の人々を天皇の臣民とする皇民化政策を実施し、神社参拝と学校などの日本語の使用を強制するとともに、日本風の姓名への変更を強要する創氏改名などを実施した。

問9 [67] ②

②1919年の五・四運動のあと、孫文は大衆政党の中国国民党を結成し、その後コミニテルンの指導で中国共産党も結成された。中国国民党は、軍閥を打倒して中国の統一をめざす国民革命のため、1924年に中国共産党との協力体制を実現させた。これが第1次国共合作で、ソ連との連携、共産党员の受け入れ、労働者と農民の支援を意味する「連ソ・容共・扶助工農」の新方針を掲げた。①辛亥革命によって1912年に成立した中華民国の初代臨時大總統となったのは、袁世凱ではなく孫文であり、またこれは五・四運動以前の出来事である。強大な軍事力を保持していた袁世凱は、孫文ら革命派との取り引きによって1912年に宣統帝(溥儀)を退位させて清を滅ぼし、孫文に代わって臨時大總統となり、中華民国の首都を南京から北京に移した。③長征(大西遷)を行ったのは、中国国民党ではなく中国共産党。1927年に中国国民党の蒋介石が多数の共産党员や労働者を弾圧した上海クーデタを機に第1次国共合作が崩壊したのち、蒋介石が指揮する国民党軍は、中華ソヴィエト共和国臨時政府の首都であった江西省の瑞金を攻撃した。共産党的紅軍は、1934年に瑞金を逃れ、大移動して陝西省の延安に拠点を移した。この出来事を長征と呼び、その途中で共産党における毛沢東の軍事面での主導権が確立し、1935年には国民党に抗日民族統一戦線の結成を呼びかける八・一宣言が出された。④満州事変の発端となったのは、盧溝橋事件ではなく柳条湖事件。柳条湖事件は、1931年に奉天郊外で日本の関東軍が南満州鉄道を自ら爆破した事件で、関東軍は中国側による爆破だとして満州を軍事制圧し、翌年に溥儀を執政に擁立して満州國を建国した。盧溝橋事件は、1937年に北京郊外で日中両軍が衝突した事件で、これを発端として日中戦争が開始された。

第8問 19世紀のヨーロッパにおける文化と科学
【出題のねらい】

19世紀のヨーロッパにおける文化と科学について、**A**では写真の普及と印象派を、**B**では記念碑建設の流行とロダンの彫刻を、**C**ではダーウィンの進化論を、それぞれ扱って出題した。

【設問別解説】

A

問1 [68] ②

②19世紀前半のスペインでは、ウィーン体制下でブルボン朝が復活して專制政治が行われた。これに対して立憲革命が起こったが、フランスの干渉で弾圧された。①ヴァイマル(ワイマール)共和国は、ドイツ帝国が第一次世界大戦に敗北したあと、20世紀前半の1919年に成立し、社会民主党のエーベルトが初代大統領となった。③ポーランド分割は、18世紀後半の出来事。16世紀のヤグウォ(ヤグロー)朝断絶後に行われた選挙王制によって弱体化していたポーランドに対し、隣国のプロイセン・オーストリア・ロシアが領土獲得をめざして分割を行い、18世紀末に国家としてのポーランドは消滅した。④エジプトでスエズ運河が開通したのは、19世紀後半の1869年。スエズ運河は、フランス人レセップスがフランスとエジプトの資金で建設したが、エジプトの財政難に乗りたイギリスのディズレーリ保守党内閣が、1875年にスエズ運河会社のエジプト持ち株を買収した。

問2 [69] ④

④ア. 19世紀半ばのクリミア戦争では、イギリスはフランス・サルデニャ(サルディニア)とともに、ロシアを支援したのではなく、オスマン帝国を支援してロシアと戦った。主戦場となったのは、黒海や黒海北岸の**b**クリミア半島であった。**a**はバルカン半島。イ. クリミア戦争はパリ条約で終結し、ロシアの南下政策は阻止された。戦後、ロシアの近代化の必要を自覚した皇帝アレクサンドル2世は、1861年に農奴解放令を発布した。

問3 [70] ①

①ピカソは20世紀の画家で、立体派(キュビズム)の創始者の一人。1874年の第1回印象派展のときは、まだ生きていない。②モネと④ルノワールは印象派の画家で、⑧セザンヌは印象派の画家であったが、のちに後期印象派の代表的画家となった。

B

問4 [71] ③

③**a**ワスプ(WASP)は、白人・アングロ=サクソン・プロテスタントの英語の頭文字をならべた言葉で、東ヨーロッパや南ヨーロッパからの移民ではなく、アメリカ合衆国を建国したイギリス系移民をさす。**b**1924年の移民法では、東ヨーロッパ・南ヨーロッパからの移民が制限されるとともに、日本を含むアジアからの移民は事実上禁止された。

問5 [72] ④

③④プロイセン王国の首相ビスマルクは、武力によってドイツを統一しようとする鉄血政策を進め、プロイセン＝フランス(普仏)戦争中の1871年に、フランクフルト国民議会ではなくフランスのヴェルサイユ宮殿でドイツ帝国を成立させた。プロイセン王のヴィルヘルム1世がドイツ帝国皇帝に即位し、ビスマルクはドイツ帝国宰相に就任した。フランクフルト国民議会は、1848年のドイツ三月革命のあとに招集され、オーストリアを中心としてドイツの統一を進めようとする大ドイツ主義とプロイセン中心にドイツを統一しようとする小ドイツ主義の対立をへて小ドイツ主義が優勢となったが、結局このときは統一は実現しなかった。①イタリアの統一は、ナポリ(両シチリア、シチリア)王国ではなくサルデニャ王国を中心に進められた。ナポリ王国はガリバルディが千人隊(赤シャツ隊)を率いて占領し、サルデニャ王のヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世に献上した。そして、1861年にヴィットーリオ＝エマヌエーレ2世を初代国王とするイタリア王国が成立した。②イタリア王国は、シュレスヴィヒ・ホルシュタインを併合していない。プロイセン＝オーストリア(普墺)戦争にさいしてヴェネツィアを、プロイセン＝フランス戦争にさいしてローマ教皇領を、それぞれ併合した。しかし、南チロルやトリエステなどが「未回収のイタリア」としてオーストリア領にのこった。イタリアの統一については、下の地図を参照。シュレスヴィヒ・ホルシュタインは、プロイセンとオーストリアがデンマークと戦ってデンマークから獲得したが、その帰属問題からプロイセン＝オーストリア戦争が起こった。

問6 [73] ②

②ドレフュス事件は、第三共和政時代の19世紀末にドイツのスパイ容疑でユダヤ系軍人ドレフュスが捕らえられて有罪となった冤罪事件。^{えんざい}真犯人があきらかになったが、軍部がドレフュスの無罪を認め

ず、国論は二分されて政治問題化し、ユダヤ人の民族国家をパレスチナに建国しようとするシオニズム運動も高揚した。①フランスの第三共和政は、ルイ＝フィリップではなくナポレオン3世の退位によって成立した。1870年、ナポレオン3世はプロイセン＝フランス戦争中にスダン(セダン)の戦いで捕虜となって退位し、第二帝政が崩壊して第三共和政が成立した。ルイ＝フィリップは、1830年に七月革命で成立した七月王政の王で、1848年の二月革命で退位し、これによって第二共和政が成立した。この第二共和政の大統領ルイ＝ナポレオンが、クーデタと国民投票をへて第二帝政の皇帝ナポレオン3世となつた。③マクドナルド労働党政権は、第一次世界大戦後の20世紀前半に、フランスではなくイギリスで成立した。④ルイ＝プランの主張で国立作業場が設置されたのは、第二共和政の時期。

C

問7 [74] ③

③『種の起源』は、イギリスのダーウィンが進化論を主張した著作で、1859年に出版された。①『パンセ(瞑想録)』は、17世紀フランスの哲学者パスカルの著作。②『プリンキピア』は、万有引力の法則を明らかにしたイギリスの物理学者ニュートンが17世紀に刊行した著作。④『資本論』は、資本主義の分析と社会主義の必然を説いた19世紀の社会主義者マルクスの著作。マルクスの死後はエンゲルスが遺稿を編集した。

問8 [75] ③

③④オーストリアとニュージーランドは、20世紀初めにイギリスの自治領となった。委任統治は、第一次世界大戦後に旧オスマン帝国領やドイツの旧植民地などを、国際連盟から委任された国々が統治する形態で、フランスの委任統治領となったのはシリアなどである。①②ニュージーランドの先住民は、アボリジニーではなくマオリ人。アボリジニー



イタリアの統一

は、オーストラリアの先住民である。

問9 [76] ①

① **a** オランダ東インド会社は、17世紀にアフリカ南端の地に植民を開始し、ケープ植民地を形成した。これ以降ケープ植民地に入植したオランダ系移民の子孫は、ブル(ボーア)人と呼ばれた。 **b** イギリスは、19世紀前半のウィーン議定書でオランダからケープ植民地を獲得し、19世紀後半にはアフリカ

北部のエジプトを事実上の保護国とした。この両地域を結ぼうとしたのがアフリカ縦断政策であり、西アフリカやサハラ砂漠とアフリカ東部のジブチ・マダガスカルなどを結ぶフランスのアフリカ横断政策と対立した。両国は19世紀末にスーダンでファシヨダ事件を起こして軍事衝突の危機を迎えたが、フランスの譲歩で軍事衝突は回避された。

●写真・図版提供

PPS通信社

日本史B①「原始～中世」選択

【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第1問	A	問1	1	①	3
		問2	2	③	3
		問3	3	③	3
	B	問4	4	②	3
		問5	5	③	3
		問6	6	④	3
第1問 自己採点小計			(18)		
第2問	A	問1	7	①	3
		問2	8	③	3
	B	問3	9	④	3
		問4	10	④	3
	C	問5	11	③	3
		問6	12	②	3
		問7	13	③	2
第2問 自己採点小計			(20)		
第3問	A	問1	14	①	3
		問2	15	③	3
		問3	16	③	2
		問4	17	⑤	3
	B	問5	18	④	3
		問6	19	④	3
		問7	20	②	3
第3問 自己採点小計			(20)		
第4問	A	問1	21	②	2
		問2	22	④	3
		問3	23	①	3
	B	問4	24	③	3
		問5	25	④	3
		問6	26	①	2
	C	問7	27	④	3
		問8	28	②	2
第4問 自己採点小計			(21)		

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点	
第5問	A	問1	29	②	3	
		問2	30	③	3	
		問3	31	②	2	
		問4	32	①	3	
	B	問5	33	①	2	
		問6	34	④	3	
		問7	35	①	2	
		問8	36	②	3	
第5問 自己採点小計			(21)			
自己採点合計			(100)			

① 日本史
原始～中世 B

【解説】

第1問 原始・古代～中世前期の日中関係

【出題のねらい】

本問では、弥生時代～鎌倉時代の日中関係を素材に、当該期の外交を中心に総合的に問うた。日本史は、近隣の東アジア諸国との関係を抜きには語れないので、今回は中国との関係をとりあげたが、今後の学習のなかで朝鮮などの関係にも視野を広げていってほしい。なお、出題形式は高校生と大学生の姉の会話文とした。それはセンター試験の第1問が高校生を登場させた会話形式をとることが多いからである。高2生段階ではあるが、こうした形式にも慣れておきたい。

【設問別解説】

A ここでは、原始・古代の日中関係について、国家間の正式な交流に着目して、外交中心に問うた。

問1 1 ①

正しい組合せは①。空欄アには、煬帝が入る。607年に遣隋使が派遣された際、小野妹子が持参した国書には「日出づる処の天子、書を日没する処の天子に致す」とあり、日本の統治者の自称として「天子」という用語が使われていた。文脈から、これに激怒した隋の皇帝が問われているので、隋の第2代皇帝煬帝である。天子は中国皇帝ただ一人のみと考える隋側には容認できない表現であったが、当時の隋は高句麗と対立しつつあったことなどから、返礼の使者として裴世清を日本に派遣してきた。空欄イには、奴国が入る。1世紀に後漢に朝貢したという点から判断してほしい。現在の福岡県福岡市付近にあったとされる小国で、『後漢書』東夷伝によると1世紀半ばに後漢の光武帝に遣使し、印綬

を授けられた。江戸時代に福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」と刻まれた金印が、その印にあると考えられている。なお、原始・古代の倭のようすを断片的にとはいえることができる史料について、以下にまとめておいた。参考にしてほしい。

◆史料にみえる原始・古代の倭(日本)

『漢書』地理志 紀元前1世紀
百余国に分立 楽浪郡へ定期的に遣使
『後漢書』東夷伝 1～2世紀
奴国王の遣使(57年)…印綬を与えられる
倭国王帥升等の遣使(107年) 生口を献上
倭国大乱(2世紀後半)
『魏志』倭人伝 3世紀
邪馬台国を中心とする小国連合体の成立
女王卑弥呼の宗教的権威による支配
卑弥呼が帶方郡を通じて魏に遣使
…「親魏倭王」の称号
「高句麗好太王碑文」 4世紀末～5世紀初め
倭(日本)の朝鮮半島進出
高句麗と交戦
『宋書』倭国伝 5世紀
倭の五王(讚・珍・濟・興・武)の遣使
倭王武の上表文
朝鮮半島南部に対する政治的地位の強化
をねらう

問2 [2] ③

正しい組合せは③。Xは誤っている。倭との交戦が記されている石碑は、高句麗の好太王(広開土王)の業績を記したものであり、倭と高句麗の交戦について記している。4世紀ころの倭は、朝鮮半島南部の伽耶地方を拠点に半島進出を進めており、4世紀末～5世紀初めにかけて、南下を進める高句麗と激しく対立していた。Yは正しい。朝鮮半島南部に対する倭の政治的影響力拡大を図って、倭の五王があいついで中国南朝の皇帝の権威を借りようと朝貢したことが『宋書』倭国伝に記されている。5人目の「武」は、雄略天皇を指すと考えられ、同じく雄略天皇と考えられる「ワカタケル大王」の地方支配の様子がわかる二つの遺物の銘文(埼玉県稻荷山古墳出土鉄劍銘・熊本県江田船山古墳出土鉄刀銘)も併せて確認しておきたい。

問3 [3] ⑧

正しい配列は⑧。年代配列問題の場合、まず各文のなかから、時期を判断できるキーワード(語句・人名など)を探すことが肝要である。時代順に解説しよう。Iキーワードは、「高向玄理」である。諸

君が知っているのは、遣隋使に随行して中国に渡り、帰国後は改新政権において国博士に就任して国政を助けたことであろう。その後、遣唐使として唐に渡ったことは知らなかったと思うが、少なくとも7世紀半ばころに活躍した人物であると特定できる。Iキーワードは「唐僧鑑真」である。鑑真是、日本から戒律を伝えてほしいと懇願され、度重なる苦難を乗り越えて来日した僧である。東大寺に戒壇を設け、聖武太上天皇・孝謙天皇に戒を授けた。こうした東大寺や天皇との関係を想起できれば、8世紀半ばころに活躍した人物であると特定できる。IIIキーワードは「円仁」である。最澄の弟子であった天台僧円仁は、天台宗の密教化をはかるため9世紀前半の遣唐使(838年派遣で、実際に渡唐した最後の遣唐使)に随行し、経典収集や聖地巡礼を行った。少なくとも最澄の弟子であることを知っていれば、9世紀ころの人物であると特定できたであろう。

B ここでは、主に日宋貿易・日元貿易といった日中間の民間貿易に焦点をあて、文化や経済なども問うた。

問4 [4] ②

正しい組合せは②。空欄□には、陶磁器が入る。中国産の陶磁器は奈良時代にも「唐三彩」などとして珍重されていたが、宋代にもそれは継続しており、貴族の愛好した「唐物」の代表的な品目である。ちなみに、硫黄は日本から中国への輸出品で、火起しや薬品、火薬の原料として利用された。空欄□には、大輪田泊が入る。「摂津国」とあるので判断できたであろう。平清盛は從来、大宰府で行われていた日宋貿易を畿内で行うため、摂津国の大輪田泊を整備した。大輪田泊は瀬戸内海航路における古代からの重要な港であったが、清盛は、貿易振興のためにより大型の船が接岸できる港として整備した。

問5 [5] ③

正しいのは③。③は扇面古写経で、12世紀後半に製作された装飾経である。扇形の紙に下絵を描き、写経したものを冊子状に綴じてある。同時代に作成された装飾経である巣島神社平家納経とあわせて、院政期文化(平安末期文化)の代表的作品として覚えておきたい。①は高松塚古墳壁画であり、白鳳文化的な代表的絵画作品の一つである。②は正倉院鳥毛立女屏風である。正倉院宝庫に伝來した奈良時代の世俗画の優品であり、現在は失われてしまったが、唐風の女性像の頭髪や衣服などに鳥の毛を装飾として用いていたことが名称の由来である。天平文化の代表的絵画作品として覚えておこう。④は北野天神縁

起絵巻で、鎌倉文化の作品である。菅原道真の生涯や北野天神創建の由来などが描かれている。

問6 [6] ④

誤っているのは④。鎌倉時代における経済発展は交通・流通の発展もともなっていた。物流の拠点となる港湾には問(問丸)とよばれる業者が発達し、年貢や商品の輸送・保管などにあたった。なお、駅家は律令制下の駅制における公用の官吏のための施設である。①は正しい。遠隔地との取引には重量のある米や銭は不便だったので、米・銭の預かり証書である割符(手形)を利用する為替が使われた。②も正しい。鎌倉時代には毎月三回、定期的に市が開かれる三斎市が各地でみられるようになった。開催日は毎月4の付く日などと決められ、様々な商品が取りされた。③も正しい。借上は鎌倉時代の高利貸であった。

第2問 遺物・遺跡からみる原始・古代 【出題のねらい】

本問は、縄文時代～古墳時代の遺物や遺跡を素材に、当該期の社会・政治などの基本事項を中心に問うたものである。この時期は文献史料が乏しく、遺物や遺跡などから得られる情報は、きわめて重要な役割を果たしてくれる。遺物や遺跡を通じて、当時の社会や人びとの生活について考えてみてほしい。

【設問別解説】

A 主として食料採集経済だった縄文時代には、さまざまな呪術的風習がみられた。屈葬された遺体や抜歯の跡が残る人骨、幾何学的模様を持つ土版などが発見されている。今回はそのなかでも土偶をとりあげ、縄文時代の人びとの生活などについて問うた。

問1 [7] ①

誤っているのは①。大型動物であるナウマン象が棲息していたのは旧石器時代である。更新世から完新世に変わり、気候が温暖化するなかで、大型動物は絶滅し、シカ・イノシシなど中小動物が出現した。従来の大型動物とは異なる動きの速い動物を捕獲するために弓矢が発明された。②は正しい。気候の温暖化にともない、漁労が発達したことと縄文時代の特徴で、釣針や鉛などの骨角器や網が用いられた。③も正しい。土器が発明され、煮炊きや木の実のアツ抜きなどに用いられ、食用可能なものの範囲が拡大した。④も正しい。黒曜石は長野県和田峠など産地が限定されるが、その黒曜石製の石器は広い範囲から出土しており、交易が行われていたことが推定されている。他には、新潟県姫川流域を産地とする硬玉(ひすい)なども交易の対象であったとみら

れる。

問2 [8] ③

正しい組合せは③。Xは誤っている。縄文時代の共同墓地で屈葬が広くみられることは確かだが、貧富・身分の差を意味する「多くの副葬品」はみられない。縄文時代は、統率者はいても、著しい貧富・身分の差がなかった時代とされており、個人の富や権力を示すような副葬品は出土していない。Yは正しい。抜歯の風習は、通過儀礼の一つとして行われたと考えられる。

B 弥生時代になると、水稻農耕が本格化するなど生産経済へと移行した。それにともなって人びとは土地や余剰生産物などをめぐって争い、その結果、集落の統合が進み、各地に小国が形成された。ここでは、こうした状況を青銅製祭器の出土分布を事例にとりあげて確認した。

問3 [9] ④

誤っているのは④。弥生前期は低湿地での湿田の比重が高かったが、弥生後期には鉄製の刃先の鋤や鋤の使用が広がり、より生産力の高い乾田の開発が進んだ。①は正しい。弥生前期から糞を直播きする方法と田植えとがあった。②も正しい。収穫は、石包丁を用いた穗首刈りが行われた。弥生後期には、金属器の普及にともない鉄鎌が用いられるようになった。③も正しい。収穫物は貯蔵穴や高床倉庫に保管された。なお、以下に弥生時代の道具について整理しておくので参考にしてほしい。

◆弥生時代の道具

◇石器

石包丁…収穫具

◇金属器

鉄器：実用具として使用 工具・農具

青銅器：主に祭器として使用

銅矛・銅戈 銅劍 銅鐸

◇木製農具

木鋤・木鋤 田下駄

木臼・堅杵

◇弥生土器

壺…貯蔵用 壺…煮炊き用 高坏…盛り付け用

問4 [10] ④

正しい組合せは④。空欄Aには、九州北部が入る。青銅製祭器の出土分布には地域的な特徴がみられ、銅矛・銅戈は九州北部、平形銅劍は瀬戸内海中部、銅鐸は近畿地方を中心に、それぞれ分布している。空欄Bには、荒神谷が入る。大量の銅劍が発見されたこと、銅矛・銅鐸も一緒に発見された

ことなど決め手は多いが、少なくとも「島根県」で判断できよう。なお、吉野ヶ里遺跡は佐賀県の遺跡であり、大規模な環濠集落として知られる。

C 大規模な個人墓である古墳の築造は、強大な権力者の存在を示している。出現期の古墳で巨大なもののは大和地方に多く、この地域に大きな政治連合の中心があったと考えられる。ここでは、古墳の変化とヤマト政権の動向の関連をとりあげた。

問5 [11] ③

誤っているのは③。朝鮮半島伝来の技術で作られる硬質で灰色の土器は、須恵器である。土師器は弥生土器の系統を受け継いだ土器であり、区別して覚えておきたい。①は正しい。豪族は民衆の集落から離れた場所に環濠などをめぐらした居館を築いた。なお、民衆は依然として堅穴住居や平地住居に住んだ。②も正しい。古墳時代にも呪術的風習はみられた。太占は、シカなどの獣骨を焼いて割れ具合で吉凶を占う方法であった。盟神探湯は、熱湯に手を入れさせ、手がただれるかどうかで証言の真偽を判断する方法であった。④も正しい。春には豊作を祈る祈年祭、秋には収穫を感謝する新嘗祭といった農耕儀礼が行われた。

問6 [12] ②

正しい組合せは②。Xは正しい。大王を中心とするヤマト政権は、しだいに勢力範囲を拡大していく、服属した豪族を国造に任命し、その地の支配を行なわせた。Yは誤っている。田莊は豪族の私有地、部曲は豪族の私有民である。ヤマト政権の直轄領は屯倉で、直属民は名代・子代である。

問7 [13] ③

正しい組合せは③。aは誤っている。副葬品に呪術的・宗教的な道具が多いのは、古墳時代前期の特徴である。そこから、被葬者が司祭的性格であったことがわかる。なお、中期になると武器など軍事的なものが増え、被葬者が武人的性格になったことがわかる。bは正しい。古墳時代後期になると、從来からの円筒埴輪などに加え、家形や人物・動物などの形象埴輪がさかんに作られ、墳丘上に並べられた。なお、埴輪からは当時の住居や衣服などの風俗を推測することもできる。cは正しい。古墳時代後期には小型の円墳などが集中的に築造される群集墳がみられるようになる。被葬者は、台頭が顕著であった有力農民層と考えられる。dは誤っている。古墳時代後期になると、從来の堅穴式石室に代わり、追葬可能な横穴式石室が一般化した。

第3問 律令体制の成立と変遷

【出題のねらい】

本問は、推古天皇から嵯峨天皇にかけての時期の政治史を、律令体制の成立と変遷を中心に概観した。古代日本は、東アジア情勢の動向を背景に中央集権化を進め、中国の律令制度を導入したことが特徴である。律令体制の形成過程と変遷は、入試でも頻出テーマであり、早い時期にマスターしておきたい。

【設問別解説】

A 推古天皇から文武天皇までの動向を扱い、中央集権体制確立にともなう豪族の官僚化の過程を冠位・位階の制度に焦点をあてて問うた。

問1 [14] ①

正しい組合せは①。空欄[A]には、臣が入る。ヤマト政権の支配制度である氏姓制度では、豪族たちの血縁関係などをもとにして氏が構成され、大王は氏に対して政権内での身分称号である姓を与えた。姓には臣・連などがあり、臣は地名を氏の名とした畿内の葛城・蘇我などの有力豪族に与えられた。連は職掌を氏の名とした大伴・物部などの有力豪族に与えられた。なお、伴造は品部とよばれる集団を率いて軍事・財政・祭祀などの職掌を分担した。空欄[I]には、大宝律令が入る。「文武天皇の時代に」制定があるので判断できたであろう。養老律令は718年に制定され、757年に施行された。

問2 [15] ③

正しい組合せは③。推古天皇は国際的緊張のもとで国家組織の整備に努め、603年に冠位十二階、翌年に憲法十七条を定めた。Xは誤っている。大連の物部守屋は6世紀末に大臣の蘇我馬子により滅ぼされている。なお、その蘇我馬子には冠位は与えられていない。むしろ冠位を与える側にいたと考えておこう。Yは正しい。憲法十七条には、儒教や仏教などの考えがとり入れられており、豪族たちに国家の官僚としての心がまえなどが説かれた。

問3 [16] ③

正しいのは③。大化改新とは、645年に蘇我蝦夷・入鹿父子が滅ぼされたのち、皇極天皇の後に即位した孝徳天皇のもとで進められた諸改革をいう。改新の詔は646年に出された政治方針で、豪族による人民・土地の私有を否定し、公地公民の方針などを表明したものであった。①は誤っている。孝徳天皇の政権は、中大兄皇子を皇太子、阿倍内麻呂・蘇我倉山田石川麻呂を左・右大臣、中臣鎌足を内臣、高向玄理・曼を国博士として構成されていた。②も誤っている。都は飛鳥から難波に遷され、政治改革が進められた。④も誤っている。大化改新当時に地

方行政組織として各地に設置されたのは評であった。郡は大宝令以後の地方行政組織である。大宝令以前は「評」であったことは、藤原京跡から出土した木簡の分析により確かめられた。

問4 [17] ⑤

正しい配列は⑤。天智天皇・天武天皇・持統天皇の3代の天皇の時期は中央集権体制が確立していく時期であり、重要事項が多いため、入試でも頻出の時期である。以下、年代順に説明しよう。Ⅲは天智天皇の政策である。庚午年籍は最初の全国的な戸籍とされる。Ⅰは天武天皇の政策である。672年の壬申の乱に際し、大友皇子側についた畿内有力豪族が衰え、乱に勝利して即位した天武天皇の勢力が強まった。天武天皇は律令国家建設を本格的に進め、八色の姓を定め、豪族を天皇中心の身分秩序に再編成した。Ⅱは持統天皇の時代である。持統天皇の時代には、飛鳥淨御原令が施行され、庚寅年籍が作成された。また、律令国家にふさわしい都として中国の都城に倣った藤原京が建設され、694年に遷都した。藤原京は持統・文武・元明の3代の天皇にわたる都となった。

◆天智～持統朝の政策

天智天皇	近江大津宮
	近江令
	庚午年籍
672	壬申の乱：大友皇子 VS 大海人皇子 →大海人皇子が勝利→天武天皇として即位
天武天皇	飛鳥淨御原宮
	天皇・皇族主導の政治…皇親政治
	八色の姓
	律令・国史の編纂開始
持統天皇	飛鳥淨御原宮・藤原京
	天武天皇の政治の継承
	飛鳥淨御原令の施行
	庚寅年籍
	本格的都城への遷都…藤原京

B 律令体制下の大政官の構成員の変遷をたどりつつ奈良時代・平安時代初期の政治を問うた。

問5 [18] ④

正しい組合せは④。空欄[ウ]には、官位相当の制が入る。律令制では、まず官人には位階が与えられ、その位階に対応した官職に任命された。このシステムを官位相当の制という。なお、蔭位の制は、位階が五位以上の子(三位以上は孫も)には、21歳以上になると父(祖父)の位階に応じた所定の位階が与えられるという制度である。空欄[エ]には、薬子

の変(平城太上天皇の変)が入る。嵯峨天皇の兄平城太上天皇が藤原式家の薬子・仲成と結んで天皇への復位と平城京還都を図ったが失敗した事件である。この薬子の変に際して、嵯峨天皇は藤原北家の冬嗣を蔵人頭に任命し、機密の漏洩を防いだ。

問6 [19] ④

正しいのは④。孝謙太上天皇に寵愛された道鏡を排除しようと、藤原仲麻呂(恵美押勝)が挙兵したが、敗死した。①は誤っている。藤原仲麻呂は藤原南家の祖の武智麻呂の子である。②も誤っている。墾田永年私財法は、聖武天皇の治世下、橘諸兄政権が定めたものである。③も誤っている。橘諸兄の子奈良麻呂は、孝謙天皇の治世下で勢力を伸ばす藤原仲麻呂を排除しようとしたが、捕らえられ獄死した。

問7 [20] ②

正しい組合せは②。Xは正しい。格は律令の補足・修正、式は律令の施行細則である。弘仁格式は、嵯峨天皇のもとで、それらの格式を分類・編集したものである。格式はその後、清和天皇の時代に貞觀格式、醍醐天皇の時代に延喜格式が編纂され、弘仁格式とあわせて三代格式という。Yは誤っている。勘解由使の設置は桓武天皇の時代である。嵯峨天皇の時代に設置された令外官としては蔵人頭と検非違使を覚えておきたい。

第4問 平安時代の政治・社会

【出題のねらい】

本問では、平安時代の中央や地方の動向などを題材にして、10～12世紀の政治や社会についての理解を問うた。この時期は、律令体制が衰退し変容するなかで、中世社会の基盤が形成されてゆく時期である。前後関係が混乱しがちな範囲があるので、政治史を軸に各時期の特徴を明確に把握しつつ各自復習を徹底してほしい。

【設問別解説】

A 9世紀末に即位した醍醐天皇と、10世紀半ばに即位した村上天皇は、親政を展開し、律令体制存続のための最後の努力を行った(延喜・天暦の治)。しかし、一方でこの時期は、政府による地方支配が変質し、土地制度や税制度も大きく転換するなど、律令体制の実質的な解体が進行した時期でもあった。

問1 [21] ②

正しい組合せは②。ここでは「延喜・天暦の治」の時期の政策について問うた。aは正しい。醍醐天皇の時代には、班田の励行がはかられる一方、延喜の荘園整理令が出された。bは誤っている。大宰府

管内に公営田が設置されたのは、9世紀前半の嵯峨天皇の時代である。cは誤っている。『凌雲集』の編纂も嵯峨天皇の時代である。dは正しい。村上天皇の時代には、律令国家の錢貨としては最後となる乾元大宝が発行された。元明天皇の和同開珎から、村上天皇の乾元大宝にいたる政府発行の錢貨を総称して「本朝(皇朝)十二銭」とよぶ。なお、入試では「最初の～」、「最後の～」とされる用語が問われることが多いが、延喜・天暦の治は、時代の転換点であることを象徴して、そうした用語が多いので、以下に整理しておく。

◆延喜・天暦の治

延喜の治 醍醐天皇

班田の励行(902年)…最後の班田

延喜の莊園整理令(902年)…最初の莊園整理令

『日本三代実録』の編纂…最後の六国史

『古今和歌集』の編纂…最初の勅撰和歌集

天暦の治 村上天皇

乾元大宝の鋳造…最後の本朝(皇朝)十二銭

問2 [22] ④

10世紀の土地制度・税制度の転換を主にあつかった。誤っているのは④。政府は、国司に一定額の税の納入と引き換えに、任国支配を一任した。そうした国司の権限拡大の結果、郡司の支配力は相対的に弱体化していった。①は正しい。律令体制の動搖にともない、地方では戸籍・計帳にもとづき、公民一人一人を把握する体制は形骸化していた。三善清行は醍醐天皇に「意見封事十二箇条」を提出し、戸籍・計帳の形骸化など地方政治の混乱を具体的に指摘した。②も正しい。口分田など公田は名という微税単位に再編され、有力農民である田堵に耕作を請け負わせ、納税させた。③も正しい。戸籍の形骸化などに対し、政府は庸調など人頭税中心の税制を転換し、官物など土地税中心の税制に変更した。

問3 [23] ①

正しい配列は①。時代順に説明する。Iは10世紀前半の出来事。関東地方においては平将門が、瀬戸内地方では藤原純友がほぼ同時期に反乱を起こした。これをあわせて承平・天慶の乱といい、時期的には、延喜・天暦の治の間の朱雀天皇の治世にあたる。将門の乱は地方武士である藤原秀郷・平貞盛が鎮圧し、純友の乱は源経基らが鎮圧したが、この反乱を通じて朝廷の軍事力の低下が明らかになるとともに、武士の実力が中央政界に認知されることとなつた。IIは11世紀前半の出来事。房総半島で平忠常が反乱を起こし、これを源頼信が鎮圧したことによ

り、源氏が東国に進出するきっかけとなった。IIIは11世紀後半の出来事。頼信の子と孫にあたる頼義・義家は、出羽の清原氏の援軍を得て、陸奥の安倍氏の反乱を鎮圧した。これを前九年合戦とよぶ。なお、前九年合戦後、東北地方で勢力を強めた清原氏に内紛が起こり、義家が介入・平定した(後三年合戦)。これにより、義家の名声が高まり、東国における源氏の基盤が強化された。このように11世紀を通して東国に進出し、武家の棟梁としての地位を高めた源氏であるが、この後、平正盛が白河上皇と結んで台頭したことを契機に源氏の勢力は一時後退し、平清盛が平氏政権を樹立するに至る。その過程もあわせて復習しておこう。

B 10世紀後半の安和の変以後、摂関常置の体制となり、藤原北家は一層勢力を強めた。その後の一族間の争いを制して、10世紀末以降、摂関政治全盛期を築いた道長・頼通親子の時期の動向を扱った。

問4 [24] ③

正しい組合せは③。空欄[A]には、安和の変が入る。醍醐天皇の皇子である源高明が、藤原北家の陰謀により大宰府に左遷された事件が安和の変で、これにより北家の他氏排斥が完了し、以後摂関が常置されることとなった。空欄[I]には、成功が入る。中・下級貴族は、國家の儀式費用などに私財を出し、その功によって受領などの官職に任じてもらう成功や、同様にして同一の官職に任じてもらう重任を行った。この空欄は、やや判断に困ったかも知れないが、受領の収益が「中央にもたらされ、国家財政を支えていた」といった記述からたどり着いてほしい。なお、遙任は、任地に赴任せずに国司としての収入のみを受け取ることである。

問5 [25] ④

正しい組合せは④。Xはbの定期の説明である。定期は、寄木造の技法で平等院鳳凰堂阿弥陀如来像を制作した。なお、寄木造は仏像の大量生産が可能な技法であり、浄土教が普及するにつれて高まりをみせていた貴族社会における阿弥陀如来像の需要に応えるものでもあった。Yはdの紫式部の説明である。国風文化の時期には、宮廷の女性たちを中心とする文学が発達し、多くの作品が生み出された。紫式部の『源氏物語』、清少納言の『枕草子』、藤原道綱の母の『蜻蛉日記』などを覚えておこう。

問6 [26] ①

『栄花物語』を用いて、法成寺造営に際しての受領の動向を読み取ることを要求した問題である。正しい組合せは①で、X・Yとともに正しい。Xが正しいことは、史料3~4行目の表現から読み取りた

い。Yについては、史料5行目「国々の守ども」から史料末尾までの内容をふまえ、正文と判断したい。

C 11世紀後半から12世紀後半までを対象とした。この時期は、いわゆる院政期であり、白河・鳥羽・後白河の三上皇が院政を展開した時期である。摂関政治と院政の政治のあり方の相違などに留意したい。

問7 [27] ④

誤っているのは④。後白河法皇は、民間で流行していた歌謡である今様を愛し、自ら『梁塵秘抄』を編纂した。『性靈集』は、平安時代前期に活躍した空海の漢詩などを集めたものである。①は正しい。上皇の意思は院宣によって太政官に伝えられた。②も正しい。院政期の三上皇はいずれも深く仏教に帰依し、自ら出家し法皇となった。この時期には、法勝寺など六勝寺が建立され、また紀伊国の熊野・高野山への参詣などがさかんに行われた(熊野詣・高野詣)。その費用も成功・重任などにより調達された。③も正しい。法皇の仏教保護もあり権威を高めた寺院にも荘園の寄進が増加した。大寺院は荘園を保持するため、利害の対立する受領の罷免などを求め、僧兵を組織して朝廷に強訴を行った。興福寺(南都)と延暦寺(北嶺)の僧兵が代表的なものである。また強訴の鎮圧には武士が登用されたため、武士が中央政界に進出する契機ともなった。

問8 [28] ②

誤っているのは②。租税免除の特権を不輸の権といい、国司の派遣する検田使などの立ち入りを拒否できる特権を不入の権という。①は正しい。荘園領主のうち、開発領主から直接寄進を受けた者を領家といい、領家からさらに寄進を受けた上級貴族などを本家という。③も正しい。上級貴族や皇族などを知行国主とし、国司の推薦権と公領からの収益権を与える知行国制が広まった結果、公領は知行国主の私領のようになった。④も正しい。荘園・公領とともに、^{みょうじゅ}名主は年貢(米など)・公事(手工業製品・特産物など)などを負担した。

第5問 鎌倉時代の戦乱と文化

【出題のねらい】

本問は、鎌倉時代の戦乱を題材に、政治と文化を中心に関うたものである。政治と文化を切り離して学習する受験生がいるが、両者は密接な関係にあることが少なくない。本を通して、政治と文化を関連づけて学習することの重要性を学んでほしい。

【設問別解説】

A 治承・寿永の内乱と東大寺再建を題材として、鎌

倉初期の政治と文化を問うた。鎌倉文化を学んだときに、なぜ鎌倉彫刻が奈良に多く存在するのか不思議に思ったことがないだろうか。問題文を読むことで確認してほしい。

問1 [29] ②

正しい組合せは②。Xは正しい。信濃で挙兵した源義仲は、北上して北陸で平氏と戦い勝利した。その後、義仲軍は京都を目指し、その情報が京都に伝わると、平氏は一族郎党を引き連れて西国に都落ちした。Yは誤っている。平清盛の孫、つまり娘徳子の子は、安徳天皇である(高倉天皇は安徳天皇の父)。平氏は都落ちの後、摂津国の一の谷や、讃岐国の中島で源義経が率いる軍に敗れ、ついに長門国の壇の浦で滅亡し、平氏の権威の象徴である安徳天皇も入水した。

問2 [30] ③

正しい組合せは③。空欄Aには、玉葉が入る。九条兼実の日記という点から判断してほしいが、『吾妻鏡』を消去してもよい。『玉葉』は平安末期から鎌倉初期のことを知ることができる一級史料で、守護・地頭の設置に関する部分など有名である。一方、『吾妻鏡』は、13世紀後半までの鎌倉幕府の歴史書ともいべき書物である。空欄Bには、重源が入る。鎌倉初期に、陳和卿の協力を得て東大寺や東大寺大仏の再建を果たした人物であることが読み取れるであろう。重源が朝廷から任じられた「勧進職」の「勧進」とは、社寺などの造営・修復のために寄付を募ることを目的とする活動のことであり、重源はその責任者に任命された。なお、一遍は鎌倉後期に活躍し、踊念仏で有名な時宗の開祖とされる僧侶である。

問3 [31] ②

正しい組合せは②。aは正しい。侍所は1180年に設置され、初代別当には武士の和田義盛が就任した。bは誤っている。裁判事務を司るのは問注所である。公文所は一般公文を扱い、初代別当は公家出身の大江広元である。cは誤っている。大犯三箇条は守護の主な職務であるが、その内容は大番催促・謀叛人の逮捕・殺害人の逮捕である。京都大番役そのものが該当するわけでもないし、鎌倉番役も関係ない。なお、大番催促は、天皇や上皇の御所を警護する京都大番役にあたっている御家人を招集・統率することである。dは正しい。荘園・公領に設置された地頭には御家人が任命され、治安維持や徵税などにあたった。

問4 [32] ①

正しいのは①。これは東大寺南大門の金剛力士像

である。本来は、口を開けた「阿形」と、口を閉じた「吽形」の2体構成で、運慶・快慶ら慶派の合作である。^②は天平文化の作品で興福寺阿修羅像、^③は弘仁・貞觀文化の作品で観心寺如意輪觀音像、^④は飛鳥文化の作品で法隆寺金堂釈迦三尊像であり、いずれも重要な作品ばかりである。

B 後鳥羽上皇による文化事業の推進と承久の乱を題材に、鎌倉時代の政治と文化に関して問うた。

問5 [33] ①

正しい組合せは①。空欄[ワ]には、藤原定家が入る。『新古今和歌集』の撰集を行った人物という点から判断できよう。定家の家は、父である俊成も後白河法皇の命で『千載和歌集』を撰集したように、和歌に優れた家であった。ちなみに、定家の子の後妻が『十六夜日記』を残した阿仏尼である。なお、紀貫之は、醍醐天皇の命を受けて『古今和歌集』を編纂している。空欄[工]には、北条義時が入る。承久の乱に際して、追討対象となった鎌倉幕府第2代執権である。なお、北条泰時はのちに第3代執権となる人物で、承久の乱に際しては、叔父時房とともに鎌倉幕府軍の総大将をつとめた。

問6 [34] ④

誤っているのは④。源実朝は、藤原定家に師事し、万葉調の和歌を多く残した。実朝の歌集は『金槐和歌集』である。なお、『山家集』は西行の歌集である。^①は正しい。軍記物の代表作といえる『平家物語』は、琵琶法師によって平曲として語られ、人びとに広められた。^②も正しい。有職故実とは、朝廷の儀式や先例を研究する学問である。^③も正しい。北条実時は、武藏国に金沢文庫を建て、和漢の書物を集めた。

問7 [35] ①

誤っているのは①。承久の乱の中心人物として、乱後、後鳥羽上皇は隠岐に配流となった。佐渡に配流となったのは順徳上皇である。^②は正しい。幕府は、仲恭天皇を廢し、後堀河天皇を擁立した。やや

難度が高い事項なので、判断を保留してもよい。^③も正しい。從来の京都守護に代えて、六波羅探題を設置し、北条泰時・時房が就任している。^④も正しい。このときの地頭のうち、のちに新補率法が適用された地頭を新補地頭とよぶ。

問8 [36] ②

正しい配列は②。I 御成敗式目の制定は、3代執権北条泰時の時代である。承久の乱後の土地紛争増加などを背景に、最初の武家法典として制定された。II 霜月騒動が起こったのは、9代執権北条貞時の時代である。霜月騒動は、元寇後、勢力を強めた御内人(北条氏の家督を継ぐ得宗の家来)と御家人の対立を背景として起こった。III 宗尊親王が將軍に就任したのは、5代執権北条時頼の時代である。以上から、I—I—IIの順となる。幕府政治の展開については、以下の整理も参照してほしい。

◆幕府政治の展開

北条時政	源実朝を將軍に擁立(1203) →政所別当となり、執権とよばれる
北条義時	和田義盛を滅ぼす(1213) →政所・侍所両別当を兼任 →執権の地位確立
	承久の乱(1221)
北条泰時	連署・評定衆の設置(1225) 御成敗式目の制定(1232)
北条時頼	宝治合戦で三浦泰村を滅ぼす(1247) →得宗尊制の萌芽 引付衆の設置(1249) 宗尊親王を將軍に迎える(皇族將軍)
北条時宗	元寇
北条貞時	霜月騒動(1285) →内管領平頼綱が安達泰盛を滅ぼす →得宗尊制の確立 永仁の徳政令の発令(1297)

●写真提供・協力

飛鳥園／観心寺／北野天満宮／国(文部科学省)／興福寺／四天王寺／正倉院／
東京国立博物館 Image: TNM Image Archives／東大寺／法隆寺

日本史B②「近現代」選択

【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第6問	A 問1	41	①	3	
	A 問2	42	②	3	
	A 問3	43	①	3	
	B 問4	44	③	3	
	B 問5	45	④	3	
	B 問6	46	③	3	
第6問 自己採点小計			(18)		
第7問	A 問1	47	②	3	
	A 問2	48	④	3	
	A 問3	49	②	3	
	B 問4	50	③	3	
	B 問5	51	③	3	
	B 問6	52	①	3	
	B 問7	53	④	3	
第7問 自己採点小計			(21)		
第8問	A 問1	54	③	2	
	A 問2	55	④	3	
	A 問3	56	③	2	
	B 問4	57	④	3	
	B 問5	58	②	3	
	B 問6	59	②	2	
	C 問7	60	①	3	
	C 問8	61	②	2	
第8問 自己採点小計			(20)		
第9問	A 問1	62	②	3	
	A 問2	63	②	3	
	A 問3	64	④	3	
	B 問4	65	③	3	
	B 問5	66	②	3	
	B 問6	67	①	3	
	B 問7	68	⑤	2	
第9問 自己採点小計			(20)		

問題番号	設問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点
第10問	A 問1	69	①	3	
	A 問2	70	③	3	
	A 問3	71	②	2	
	A 問4	72	②	3	
	B 問5	73	④	2	
	B 問6	74	④	3	
	B 問7	75	③	2	
	B 問8	76	③	3	
第10問 自己採点小計				(21)	
自己採点合計				(100)	

【解説】

第6問 近代製糸業の発展

【出題のねらい】

本問では、近代の製糸業をテーマとする問題文を素材に、近代産業の発展に関する基本事項の確認をはかった。また、センター試験の第1問は、研究発表のメモ、レポート、会話などの形式をとることが多く、本問もそれにならった。社会経済史は、政治史に比べて難しいという印象をもつ諸君が多いが、もしそうなら、本問の学習を通じて、そうした印象をとり払い、社会経済史克服の第一歩としてほしい。

【設問別解説】

A 近代製糸業の確立をテーマに幕末の開港から明治初期の殖産興業までをあつかった。

問1 41 ①

誤っているのは①。幕末における最大の貿易相手国はイギリスである。日本開国の立役者はアメリカであったが、開港後は南北戦争の影響などもあって日本との貿易は振るわなかった。②は正しい。貿易開始当初は、横浜・長崎・箱館の3港で貿易が行われたが、横浜港での取引が一番多かった。③も正しい。輸入品や輸出品が国内経済に与えた影響は、キチンと確認しておこう。④も正しい。当時の金銀の交換比率は、日本では金1：銀5、欧米では金1：銀15であったため、外国人が銀貨をもち込み、金貨を安く手に入れた。その結果、大量の金貨が海外に流出した。なお、幕末の貿易の状況については、次頁の整理も参照のこと。

◆幕末の貿易

○貿易の状況

- 貿易相手国：イギリスが中心
貿易港：輸出・輸入とも横浜が大半を占める
輸出品：生糸・茶など
輸入品：毛織物・綿織物など
- 貿易の影響
- 製糸・製茶業の発展(←輸出の拡大)
綿織物業に打撃(←原料生糸の不足)
綿花栽培・綿織物業の不振(←安価な輸入品)
金貨の海外流出(←金銀比価の相違)
物価の高騰(←国内の品不足など)

問2 [42] ②

正しい組合せは②。空欄 [ア] には、五品江戸廻送令が入る。「生糸貿易などの統制をはかった」といった点から判断できたと思う。日米修好通商条約など安政の五カ国条約締結にともない、外国との貿易が開始されると、生糸などの輸出品が産地の商人らにより横浜へと直送されたため、江戸の問屋を中心とする旧来の流通機構が動搖し、江戸では品不足によって物価が高騰した。そこで幕府は1860年、五品江戸廻送令を発令し、生糸・雑穀・水油・蠟・呉服の五品については江戸の問屋を経由して横浜へ送ることを命じた。これは江戸の問屋の保護と物価の抑制をはかるものであったが、日本人商人や外国の反発により効果はあがらなかった。なお、改税約書は、1866年に幕府が欧米列強と締結した輸入関税率の引き下げなどを内容とするものである。改税約書により輸入関税率が大幅に下がったこともあって、貿易状況は当初の輸出超過から輸入超過に転じることとなった。空欄 [イ] には、フランスが入る。明治政府は貿易赤字を減らすため、最大の輸出品である生糸の品質向上と生産拡大をはかり、1872年に官営模範工場として群馬県に富岡製糸場を設立した。富岡製糸場は、製糸業の先進国であるフランスの技術を導入し、フランス人技師の指導の下、近代的な製糸技術の伝習に大きな役割を果たした。

問3 [43] ①

正しい組合せは①。aは正しい。明治政府は官営事業という形で近代的な産業の導入・育成をはかり、その推進機関として1870年に工部省を、73年に内務省を設置した。bは誤っている。官営八幡製鉄所が設立されたのは日清戦争後の1897年であり、明治中期である。cは正しい。近代的な貨幣・金融制度の確立をめざす明治政府は、1871年に新貨条例を定めて円・銭・厘を単位とする貨幣制度を採用し、

翌72年には渋沢栄一を中心に国立銀行条例を制定し、民間銀行による兌換銀行券の発行をはかった。しかし、銀行設立に応じるものは少なく、兌換制度はただちには確立できなかった。dは誤っている。明治政府は、北海道の開発のため開拓使を設置してアメリカ式の大農場制度の導入をはかり、1876年には札幌農学校を開校して、アメリカ人のクラークを教頭として招いた。なお、コンドルは鹿鳴館などを設計したイギリス人建築家である。

◆お雇い外国人

- ロエスレル(独)…帝国憲法起草に協力
モッセ(独)…地方制度
ボアソナード(仏)…民法起草
クラーク(米)…教育 札幌農学校
コンドル(英)…建築 鹿鳴館・ニコライ堂

B 製糸業が産業発展に果たした役割をテーマに、企業勃興・産業革命から大戦景気までをあつかった。

問4 [44] ③

誤っているのは③。臥雲辰致が発明したガラ紡は、綿糸を生産するための簡易な紡績機械であり、綿織物生産の機械ではない。産業革命期の綿織物業では、豊田佐吉が考案した力織機が普及した点などをおさえておきたい。①は正しい。渋沢栄一らの尽力によって設立された大阪紡績会社は、輸入綿花・輸入機械を用いた大規模経営により成功した。これに刺激を受け、民間の紡績会社が続々と設立されることとなった。②も正しい。産業革命期の鉄鋼業では、官営八幡製鉄所が操業を開始し、日露戦争後に発展した点が重要であるが、民間製鋼会社として日本製鋼所などが設立されたこともおさえておきたい。④も正しい。精度の高い旋盤の国産化成功は、工作機械工業発展の基礎をつくった。なお、産業革命期には、三菱経営の長崎造船所など日本の造船技術も世界水準に達している。

問5 [45] ④

正しい組合せは④。センター試験定番の図表の読み解きを含む設問である。自分の知識と図表の内容とを対照させつつ解答したい。Xは誤っている。表をみると、器械製糸の生産割合がはじめて5割を超えたのは1894年であるが、金本位制は日清戦争の賠償金を基礎に、1897年に制定された貨幣法で確立した。貨幣法はセンター試験としてはやや難度が高い用語だが、金本位制の確立が日清戦争の賠償金を前提としていること、すなわち少なくとも下関条約(1895年)以後であることがわかっていれば判断できる。Yも誤っている。ウは、表から「最大の輸出相

手国」であるとの判断が可能であり、とすれば、それはアメリカである。産業革命期の輸出品と市場について、生糸はアメリカ、綿糸は中国・朝鮮と覚えておこう。なお、中国(清)は日本と同じ生糸輸出国であり、日本は1909年に中国を抜いて世界第1位の生糸輸出国となった。

◆産業革命の進展

○軽工業

製糸業…アメリカ向け輸出の拡大
器械製糸生産量 > 座織製糸生産量
(1894)

紡績業…中国・朝鮮向け輸出の拡大
綿糸輸出量 > 輸入量(1897)

○重工業など

鉄鋼業…官営八幡製鉄所(1901操業開始)
日本製鋼所(1907 初の民間製鋼所)
造船業…日露戦後、造船技術が世界水準に
鉄道業…鉄道国有法(1906)で主要幹線を国有化

問6 [46] ③

誤っているのは③。産業革命期の工業原動力は蒸気力が一般的であったが、大戦景気の時期には水力発電の発達などを背景に電力が主流となった。①・②・④は正しい。大戦景気の状況については、以下の整理を参照のこと。

◆大戦景気

○軽工業

アジア市場独占→アジア向け綿製品の輸出増大
アメリカ向け生糸の輸出増大

○重工業など

海運・造船業の発展→「船成金」の誕生
満鉄鞍山製鉄所の設立(1918)

○化学工業

ドイツからの輸入途絶→化学製品の国産化

○電力業

水力発電の発達
→工業原動力として電力が蒸気力を上回る

○その他

輸入超過から輸出超過へ
債務国から債権国へ
工業生産額が農業生産額を上回る
男子工場労働者の増加

ものである。江戸幕府は1867年の大政奉還をもって滅亡するが、その支配体制を支えた藩が解体するのは、1871年の廃藩置県においてである。そこで本問では、ペリー来航から廃藩置県までを対象とし、貿易関係は第6問で扱っているので、政治史を中心に設問を配置した。幕末の政治史は、段階を追って対立軸やその構造が変化していくので、混乱しないように整理しておこう。

【設問別解説】

A ここでは、ペリー来航から文久の改革までを扱った。

問1 [47] ②

正しい組合せは②。空欄 [A] には下田が入る。日米和親条約では下田と箱館の開港が約されるとともに、領事の駐在が認められ、これに基づきハリスが総領事として下田に着任した。空欄 [I] には井伊直弼が入る。幕末に登場する4人の老中・大老の区別は明確にしておきたい。以下の整理を参考に学習しておいてほしい。

◆幕末の老中・大老

阿部正弘(老中)

ペリー来航

日米和親条約締結

安政の改革…講武所(江戸)・海軍伝習所(長崎)

堀田正睦(老中)

13代將軍家定の後継問題

一橋派(一橋慶喜)と南紀派(徳川慶福)の対立

ハリスとの通商条約締結交渉

→条約勅許獲得失敗→失脚

井伊直弼(大老)

日米修好通商条約締結

徳川慶福を將軍後継に決定→14代家茂

安政の大獄…一橋派など反対派弾圧

→桜田門外の変で暗殺

安藤信正(老中)

公武合体策を推進

→和宮降嫁決定

→坂下門外の変で負傷→失脚

問2 [48] ④

誤っているのは④。アメリカに最惠国待遇を認めることを初めて規定したのは、日米和親条約である。日米和親条約では、開港場にアメリカ船が寄港することと領事の駐在は認めたが、アメリカ商人の日本居住や貿易は認めていなかった。そこで、貿易を開始する上で必要な条項を規定したのが日米修好通商条約である。ここで、開港地に居留地を設け、

第7問 「開国」と幕藩体制の崩壊

【出題のねらい】

本問は幕末の開国から明治新政府成立の過程を問う

そこにアメリカ人が居留することを認め(①は正しい), 自由貿易を承認した。しかし, 貿易に際して日本に関税率の決定権がない協定関税制であったうえ(②も正しい), アメリカに領事裁判権を承認している(③も正しい)など, 日本に不利な不平等条約であった。

問3 [49] ②

正しい組合せは②。文久の改革についての知識を問う問題である。aは正しく, bは誤っている。文久の改革では, 将軍後見職に一橋慶喜, 政事總裁職に松平慶永(越前藩), 京都守護職に松平容保(会津藩)が任命された。cは誤っている。長崎に海軍伝習所が設置されたのは1855年で, 阿部正弘による安政の改革のときである。dは正しい。やや難度が高い事項なので, 判断を保留してもかまわない。文久の改革では参勤交代が緩和され, 三年一勤となつた。なお, 江戸居住が義務づけられていた大名の妻子の帰国も許可された。

B ここでは, 長州藩の攘夷決行から廃藩置県までを扱つた。

問4 [50] ③

正しい配列は③。以下, 時代順に説明しよう。勅使をともなった島津久光の要求で幕府が文久の改革を行っているころ, 京都に入り御所警備の任を得た長州藩は, 藩論に「尊王攘夷」を掲げ, 尊攘派の公家三条実美らと結んで幕府に攘夷決行を迫った。幕府は1863年5月10日を期して攘夷を決行する旨を諸藩に命じ, これを受け同日長州藩は下関海峡を通過する外国船を砲撃した。こうした動きに対して薩摩・会津の両藩は, 同年8月18日, クーデタを起こして朝廷の実権を握り, 長州藩と尊攘派の公家を京都から追放した(八月十八日の政変・II)。このころから各地で尊攘派の反乱が起り, 幕府の取締りが厳しくなるなか, 1864年, 京都の池田屋で集会中であった尊攘派の志士を幕府の新選組が急襲して殺傷し(池田屋事件・I), これを契機に長州藩の急進派が京都に攻めのぼったが, 萨摩・会津などの藩兵に敗れた(禁門の変・III)。幕府はただちに第1次長州征討を開始し, ちょうど同時期に英・仏・蘭・米の四国艦隊が下関を襲った(四国艦隊下関砲撃事件)ため, 長州藩内では保守派が実権を握り, 幕府に対し降伏した。以上から, II - I - IIIとなる。

問5 [51] ③

正しい組合せは③。空欄[ウ]には坂本竜馬が入る。坂本竜馬は土佐藩の脱藩士で, 倒幕派を結集すべく中岡慎太郎とともに薩長同盟を仲介した。吉田松陰は長州藩士で, 安政の大獄で刑死した人物であ

る。彼の松下村塾には高杉晋作や伊藤博文など幕末から維新期に活躍する多くの長州藩士が集っていた。空欄[工]には大政奉還, 空欄[才]には王政復古が入る。長州藩では, クーデタによって高杉晋作らが実権を掌握したため藩論は討幕となり, これに対し, 幕府は第2次長州征討を試みた。しかし, 薩長同盟を秘密裏に結んでいた薩摩藩は動かず, 戦いは長州藩が優位であった。幕府は將軍家茂の死を理由に征討を中止したが, その弱体化は明らかとなり, 薩長両藩は密かに岩倉具視らの公家と結んで討幕の準備に入った。これに対し土佐藩は武力討幕に反対する坂本竜馬の意見を入れて, 前藩主山内豊信が15代将軍徳川慶喜に大政奉還を献策した。1867年10月14日, 慶喜は大政奉還を上表し, 一方, 討幕派は討幕の密勅を得たが, 大政奉還によりその理由を失った。機先を制された討幕派は12月9日にクーデタを起こし, 王政復古の大号令を発して, 天皇を中心とした新政府の樹立を宣言した。

問6 [52] ①

正しいのは①。史料は五箇条の誓文であり, 1868年3月に発せられた。これは, 天皇が神々に誓うという形式をとって, 公議世論の尊重や開国和親といった新たな政治方針を宣言したものである。有名な史料なので, 第一条の「広ク會議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」あたりは覚えておこう。なお, 五榜の掲示は, 旧幕府の民衆統治方針を引き継いだものであり, 五箇条の誓文公布の翌日に掲げられた。

問7 [53] ④

正しい組合せは④。廃藩置県については版籍奉還との混同が狙われやすいので注意したい。Xは誤っている。これは版籍奉還に関する説明である。Yも誤っている。知藩事は版籍奉還のときに旧藩主が任命されたもので, 廃藩置県ののちは, 中央から府知事・県令が派遣された。その他, 以下の整理で確認しておいてほしい。

◆版籍奉還と廃藩置県

版籍奉還

薩摩・長州・土佐・肥前の4藩主の出願

→全藩主に奉還命令

領地(版)・領民(籍)の支配権を天皇に返還

旧大名を知藩事に任命

徵税・軍事などの権限は藩に属したまま

廃藩置県

薩摩・長州・土佐の3藩から親兵を募り実施

知藩事は罷免され, 東京居住を命じられる

中央から府知事・県令を派遣

第8問 「自由党」の歴史

【出題のねらい】

本問は、日本最初の本格的政党である自由党の歴史をテーマに取りあげ、明治時代の政治を中心に問うたものである。1881年に結成された自由党は、その前身にあたる愛国社・国会期成同盟から、その後身にあたる立憲政友会までを含めれば、明治から昭和戦前にかけての歴史をもつことになり、その動向を追うことで、近代日本政治史の展開を概観することができる。本問では、明治時代の動向を、愛国社、自由党、立憲政友会の各ブロックに分けてあつかった。

【設問別解説】

A 愛国社を中心とりあげた。自由党の前身にあたる愛国社や国会期成同盟の結成・展開に関する問題文を通して、自由民権運動の動向を確認した。

問1 [54] ③

正しい組合せは③。空欄 [ア] には、1875年に大阪で設立された民権派の全国的組織ということから、愛国社が入る。愛国社は土佐の立志社などが中心となって各地方の民権政社を結集して結成され、民権運動の発展に努めようとした。しかし、財政難や板垣退助の政府復帰などすぐに自然消滅状態となつた。なお、明六社は森有礼らによって明治6年(1873年)に設立された啓蒙団体である。空欄 [イ] には、西郷隆盛らが起こしたということから、西南戦争が入る。これは1877年に起つた最大の不平士族の反乱で、この反乱失敗後、反政府運動は武装蜂起から言論活動中心になつていった。佐賀の乱は、佐賀の不平士族が江藤新平らをかついで蜂起した事件で、最初の不平士族の反乱である。

問2 [55] ④

誤っているのは④。1875年の大阪会議のときの政府首脳は大久保利通である。当時、内務卿であった大久保利通が、板垣退助や台湾出兵に反対して下野していた木戸孝允と大阪で会談を行い、その結果、板垣と木戸はいったん政府に復帰した。また、漸次立憲政体樹立の詔が出されるとともに、元老院・大審院・地方官会議が設置された。①は1873年の動向、②・③は1874年の動向で、それぞれの内容は正しい。以下に自由民権運動の経過について整理しておいたので、参考にしてほしい。

◆自由民権運動の経過

1874	民撰議院設立建白書提出 立志社設立
1875	愛國社設立 政府：大阪会議開催 讒謗律・新聞紙条例制定
1880	国会期成同盟結成 政府：集会条例制定
1881	明治十四年の政変(大隈重信の罷免) 自由党結成
1882	立憲改進党結成 福島事件
1884	加波山事件 自由党解党 秩父事件 大隈、立憲改進党離党
1885	大阪事件
1887	大同団結運動 三大事件建白運動 政府：保安条例制定

問3 [56] ③

正しいのは③。1880年の国会期成同盟の結成など国会開設請願運動の高揚に対して、同時に政府は集会条例を出して政社の活動を取り締まつた。①は1874年の動向で、内務省のもとに警視庁が設置された。②は1875年の動向で、上述の愛国社の設立に対して、政府は大阪会議で民権運動の懐柔をはかる一方、讒謗律・新聞紙条例といった弾圧法令を出して言論統制を強化した。④は1887年の動向で、民権派による三大事件建白運動の高揚に対して、政府は保安条例を出して民権派を東京から多数放逐した。民権派のそれぞれの動向に対して、政府がどのように対応したのかを上の整理で確認しておきたい。

B 自由党を中心とりあげた。自由党の結成から、その後の自由党系の政党による動向に関する問題文を通して、明治十四年の政変、松方財政、議会政治の展開を確認した。

問4 [57] ④

誤っているのは④。明治憲法の草案審議機関として枢密院が設置されたのは、1888年である。明治十四年の政変とは関係がない。①・②は正しい。政府内では、国会の早期開設を主張する大隈重信と、早期開設に慎重な伊藤博文が対立していたが、そうしたなか、開拓使官有物払下げ事件が起き、民権派の政府批判は激化した。伊藤らは、問題となった払下げを中止する一方、大隈重信の参議罷免を強行し、

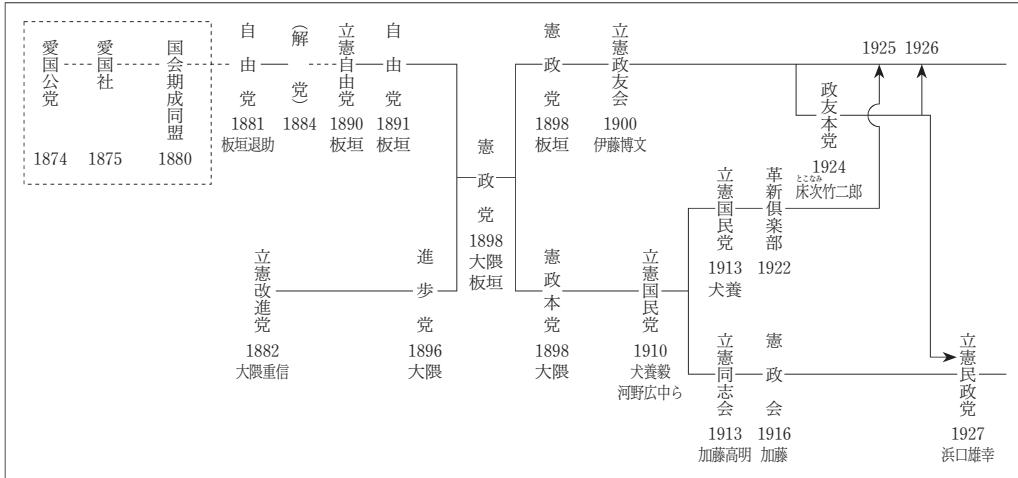
危機の乗り切りをはかった。③も正しい。民権派の政府批判をかわすために、政府は国会開設の勅諭を出し、1890年の国会開設を約束した。

問5 [58] ②

正しい組合せは②。Xは正しい。大蔵卿松方正義による財政政策では、インフレを収束させるために、酒造税などの増税の一方で、軍事費を除く歳出の削減が実施された。その結果、国内は深刻なデフレ不況となった。農民は、米価・繭価の下落で収入が減少するなかで、定額金納である地租の実質的な負担は重くなり、土地を失って小作人に転落するものが増加していった。Yは誤っている。松方デフレによる不況を背景に、各地で民権運動は激化し、福島事件や加波山事件・秩父事件などが起きた。大津事件は激化事件ではなく、青木周蔵外相による条約改正交渉の最中、来日したロシア皇太子が大津で巡査に斬られ負傷した事件である。この事件で青木は外相を引責辞任した。

問6 [59] ②

◆明治～昭和戦前期の政党の変遷



C 立憲政友会を中心とりあげた。政友会の結成から桂園時代までの動向に関する問題文を通して、明治期の新聞・雑誌、桂園時代の出来事を確認した。

問7 [60] ①

正しい組合せは①。X「陸羯南が中心となって発行」といった点から、『日本』が正しい。陸羯南は新聞『日本』を創刊し、政府の欧化政策や民権運動に対抗して国民主義を唱え、国民的統一と国家の独立を強調し、大きな影響を与えた。『平民新聞』は、幸徳秋水や堺利彦らが創刊し、日露戦争に対して非戦論を展開した新聞である。Y「北村透谷」「ロマン主義」から、『文学界』が正しい。日清戦争前後

正しい配列は②。年代順に解説する。I 「第2次伊藤博文内閣」、板垣内閣などから日清戦争直後の時期と判断したい。日清戦争後、政府と政党の提携がはかられ、自由党は第2次松方正義内閣を支持して板垣退助を入閣させた。続く第2次松方正義内閣も、進歩党の大隈重信を入閣させるなど提携がはかられた。II これは第1次大隈重信内閣(隈板内閣)の説明文である。第2次松方内閣のあと、第3次伊藤内閣が議会運営の見通しを失って退陣すると、かわって最初の政党内閣である第1次大隈内閣が憲政党を基盤に誕生した。III これは第2次山縣有朋内閣の説明文である。第1次大隈内閣が共和演説事件をきっかけに短命で終わると、かわって第2次山縣内閣が成立した。この内閣は、旧自由党系の憲政党の支持を得て地租増徴案を成立させたが、やがて政党の影響力を排除するために文官任用令を改正したり、軍部大臣現役武官制を制定したりした。なお、この時期の政党の変遷については、下の整理を参照してほしい。

には、感情や個性を重視するロマン主義文学が流行し、北村透谷らの雑誌『文学界』がその拠点となつた。『青鞆』は、平塚らいてう(明)らによって結成された青鞆社の機関誌で、女性解放運動の拠点となつた。

問8 [61] ②

誤っているのは②。1923年に起こった虎の門事件は、無政府主義者による摂政宮(のちの昭和天皇)狙撃事件であり、第2次山本権兵衛内閣はその責任を負って総辞職した。したがって、桂園時代の出来事ではない。①は正しい。日露戦争は、第1次桂太郎内閣の時代の1904年に勃発した。③・④も正しい。

とともに1906年の出来事で、第1次西園寺公望内閣の時代にあたる。西園寺内閣は日露戦後経営を最大課題として軍備拡張と鉄道国有化をすすめ、1906年には鉄道国有法を制定した。また、同内閣は社会主義に寛容な立場をとり、日本社会党を合法政党として公認した。しかし、翌年には幸徳秋水ら直接行動派が優勢となつたため、解散を命じた。

第9問 第一次世界大戦前後の外交・政治 【出題のねらい】

本問は第一次世界大戦前後の時期の外交・政治について確認することを目的に作成した。本問で扱った時期は短い期間ではあるが、外交面では、日本の第一次世界大戦参戦と権益拡大策、国際社会における日本の立場の変化、政治面では、大正デモクラシーの風潮が高まるなかでの本格的政党内閣である原敬内閣の成立など、大正期から昭和初期にかけての外交・政治全体を理解するための重要な要素が詰まっている。本問を利用して、大正・昭和初期の外交・政治の理解の一助としてほしい。

【設問別解説】

A 日本の第一次世界大戦参戦と権益拡大策、それが国際社会に与えた影響などについて扱った。

問1 [62] ②

正しい組合せは②。空欄[A]には、日英同盟が入る。日英同盟は日英間の軍事同盟で、第一次世界大戦が勃発すると、日本はこの同盟を理由にドイツに宣戦し、中国におけるドイツの拠点である山東省の青島を攻略する一方、赤道以北のドイツ領南洋諸島の一部を占領した。なお、日露協約は、日露両国が満蒙権益を維持するなどのために4次にわたって結んだ条約である。空欄[I]には、石井・ランシング協定が入る。日本が中国に二十一カ条の要求を行ったことにより、欧米諸国が日本に対する警戒を高めた。また、アメリカが第一次世界大戦に参戦し、連合国の一員となったこともあり、アメリカとは石井・ランシング協定を締結して関係を調整した。この協定で、アメリカの従来からの中国問題に関する政策である中国の門戸開放や領土保全を確認する一方、日本は中国における特殊権益を承認された。なお、桂・タフト協定は1905年、日露戦争末期に日米間で締結されたもので、日本はアメリカから韓国の保護国化を承認された。日本は同じ時期に同様の内容を第二次日英同盟やポーツマス条約でも承認され、これらを背景として、第二次日韓協約を締結して、韓国の外交権を奪い、統監府を設置した。

問2 [63] ②

正しい組合せは②。二十一カ条の要求の主要な内容は、山東省のドイツ権益の継承、旅順・大連租借期限の99年延長など南満州および東部内蒙ゴの権益の強化、中国政府における日本人顧問の採用などであった。日本は最後通牒を発し、日本人顧問採用の条項などをのぞいた大部分の要求を中国政府に受諾させたが、中国国内では激しい反発が起つた。Xは正しい。第2次大隈重信内閣(外相加藤高明)が要求をつきつけたのは、袁世凱政権であった。Yは誤っている。旅順・大連は遼東半島の都市であり、ここでの要求は、「割譲」ではなく、租借期限の延長であった。

問3 [64] ④

パリ講和会議の結果や影響について問うた。誤っているのは④。アメリカ大統領威尔ソンの提唱により国際連盟が設立され、日本はイギリス・フランス・イタリアとともに常任理事国となった。しかし、アメリカは上院の反対により国際連盟には参加しなかつたので、「米・英などとともに常任理事国となった」という部分が誤っている。①～③は正しい。以下に、パリ講和会議とその影響について整理しておく。

◆ パリ講和会議とその影響

パリ講和会議(1919) 全権：西園寺公望ら
ヴェルサイユ条約の締結(1919)

日本の利得

山東省旧独権益の継承

赤道以北の旧独領南洋諸島の委任統治権

国際連盟の設立(米は不参加)

日本は英・仏・伊とともに常任理事国

朝鮮への影響

三・一独立運動(1919)：反日独立運動

民族自決の国際世論の高揚が背景

中国への影響

五・四運動(1919)：反日運動

日本の山東省旧独権益の継承などに反発

B 大正デモクラシーの風潮を支えた理論、デモクラシーの風潮が高まるなか、米騒動を契機に初の本格的政党内閣である原敬内閣が成立したこと、また、原内閣の政策などについて扱った。

問4 [65] ③

正しい組合せは③。空欄[W]には山本権兵衛が入る。大正政変をうけ、立憲政友会を与党として成立した第1次山本権兵衛内閣は、文官任用令の再改正、軍部大臣現役武官制の改正などによって、政党の影響力を拡大させたが、海軍の汚職事件であるジ

ーメンス事件が発生して退陣に追い込まれた。なお、加藤友三郎はワシントン会議で首席全権をつとめた人物で、その後首相となつたが、在任中に死去し、そのあと山本権兵衛が再度組閣した。この第2次山本内閣は、関東大震災の処理にあたつたが、虎の門事件(61)の解説参照)が発生して退陣した。第1次・第2次山本内閣の区別をしっかりとおこう。空欄 [工] には、3(円)が入る。原敬内閣は、普通選挙の実現要求が高まるなか、社会主義勢力の進出に対する警戒などから普通選挙を時期尚早として反対し、選挙権の納税資格を1900年の第2次山県有朋内閣のときに定められた直接国税10円以上から3円以上に引き下げるにとどめ、同時に大政党に有利な小選挙区制を導入した。こうして改められた選挙制度のもと実施された総選挙では、原が率いる立憲政友会が圧勝したが、その大きな要因は、原内閣の進めた産業振興や交通機関の整備など選挙民に利益をもたらす積極政策であった。

問5 [66] ②

誤っているのは②。「日本労働総同盟の結成」は米騒動のことである。米騒動は、その後の社会運動勃興の背景の一つとなり、そうしたなかで労働運動も高揚し、1912年に結成されていた友愛会は1919年に大日本労働総同盟友愛会に、さらに1921年には日本労働総同盟に改組され、労資協調路線から階級闘争路線へと転換していった。①は正しい。大戦景気にともない物価が上昇するなか、スペリア出兵を見越した米の買占めが横行して米価が急騰し、民衆の生活が圧迫された。これにより、米の安売りを求めて米商人などを襲撃する米騒動が発生した。③も正しい。米騒動は富山県の漁村の婦人の行動をきっかけに広がり、東京・大阪をはじめ全国にひろがった。④も正しい。図版の右側をみると、白い服の警察官や馬に乗る憲兵の姿が描かれていることがわかる。警察官と憲兵の違いがわからなかったとしても、ときの寺内正毅内閣が、鎮圧のため軍隊も出動させたことは知っておきたい事項であり、少なくとも誤文との判断は避けられるはずである。

問6 [67] ①

大正デモクラシーを支えた理論について確認した。正しい組合せは①。Xは民本主義について記した文であり、これを唱えたのはaの吉野作造。Yは天皇機関説について記した文であり、これを唱えたのはcの美濃部達吉。民本主義の特徴は主権の所在は問わず、天皇主権の大日本帝国憲法下において民衆本位の政治の実現を目指した点にあり、吉野は民衆本位の政治を行うため、普通選挙と政党内閣の実

現を主張した。一方、天皇機関説は統治権の主体を国家におき、天皇は国家の最高機関として憲法の規定にしたがって統治権を行使するものとする、つまり君主権を制限されたものとみなす学説である。

問7 [68] ⑥

明治・大正期の高等教育機関の整備の過程について確認した。正しい配列は⑥。Ⅲ1877年、政府は最初の官立大学である東京大学を設立して、多くのお雇い外国人教師を招いた。I 1886年、初代文部大臣森有礼のもとで、帝国大学令・師範学校令・中学校令・小学校令などいわゆる学校令が公布された。この頃、教育は国家主義的な方向に改められていき、帝国大学でも国家が必要とする学術の教育と研究がめざされた。また、帝国大学令の公布にともない、東京大学は帝国大学に改組された(1897年、京都帝国大学設立にともない帝国大学は東京帝国大学と改称)。Ⅱ高等教育の充実を基本政策の一つとした原敬内閣は、1918年に大学令を定めて単科大学や公立・私立大学を公認した。こうした高等教育の充実には、資本主義経済が発達して、これを支える高度な専門的知識や技術をもつ人材が求められたという社会的な背景があった。

第10問 犬養毅と大正・昭和戦前期の政治

【出題のねらい】

政治家犬養毅を素材にして、大正・昭和戦前期を概観した。犬養は、教科書では第一次・第二次護憲運動、犬養内閣、五・一五事件で繰り返し出てくる、近代史ではお馴染みの人物である。ただ、そうは言っても、多くの生徒は犬養という人物について調べたことなどないであろう。本問は、センター試験で出題が続いている、いわゆる「人物史形式」の大問である。それらに共通しているのは、人物そのものを詳細に知つておく必要はない、日本史の基本的な知識さえあれば解答可能な設問が並んでいるということである。そこで、本問でも、こうした形式に戸惑うことなく挑戦し、大正・昭和戦前期の時代像をつかんでほしい。

【設問別解説】

A 犬養毅は、第1回総選挙から連続当選し、第一次・第二次護憲運動で活躍した。ここでは、犬養がめざす政治を実現するうえで宿願とした普通選挙法成立までをとりあげた。

問1 [69] ①

正しい組合せは①。空欄 [ア] には立憲国民党がある。犬養毅は、最初に立憲改進党結成に参加した。立憲国民党の前身は憲政本党であり、改進党の系譜をひく政党であった。なお、立憲民政党は、昭

和前期に憲政会と政友本党が合同し結成された政党である。政党名は類似した名称もあり苦手とする諸君が多いが、根気よく、各時期に登場する政党名を正確に覚えていくより方法はない(59 の解説中の「明治～昭和戦前期の政党の変遷」参照)。空欄 1 には清浦奎吾が入る。清浦奎吾は官僚出身で、貴族院を基盤とする内閣を組閣したところ、第二次護憲運動がはじまった。

◆第一次・第二次護憲運動

第一次護憲運動(1912～13)

第3次桂太郎内閣に対して

スローガン：「閥族打破・憲政擁護」

性格：国民的運動

指導者：尾崎行雄(立憲政友会)

犬養毅(立憲国民党)

第二次護憲運動(1924)

清浦奎吾内閣に対して

スローガン：「普選廻断行・貴族院改革」など

性格：政党中心の運動

護憲三派：憲政会(加藤高明)

立憲政友会(高橋是清)

革新俱楽部(犬養毅)

問2 [70] ③

誤っているのは③。第一次護憲運動の背景と経緯について確認した。①・②は正しい。第3次桂太郎内閣の前は、立憲政友会党首の西園寺公望が第2次内閣を組閣していた。この内閣は、行財政整理に取り組み、その結果、陸軍の2個師団増設の要求を拒否したため陸軍・長州閥との対立が深まった。西園寺内閣に対して、陸相が単独で辞任しその後陸軍が後任を推薦しなかったため、同内閣は軍部大臣現役武官制の制約により退陣を余儀なくされた。③は誤っている。その後、組閣したのが、陸軍・長州閥を代表する桂太郎であった。彼は、すでに宮中に入り大正天皇の補佐役である内大臣(摂政ではない)をしていたので、天皇に詔勅をだしてもらうことで組閣した。第一次護憲運動は、こうした陸軍・長州閥の動きに反発して「閥族打破・憲政擁護」を掲げた。④は正しい。やや細かい情報なので、④は判断保留とし、一方③は明らかに誤っていると判断し解答してもよい。桂太郎は、第一次護憲運動の鎮静化を図るために、議会停会中に新党結成を表明したが、運動は収まらなかった。このときの新党が、のちの立憲同志会となつた。

問3 [71] ②

正しい組合せは②。史料の読み取り問題である。

史料中に「歐州大戦」「大戦後」「ワシントン會議」「海軍勢力を節減する」といった言葉が出てくることから、第一次世界大戦後に、海軍軍縮とアジア・太平洋地域の秩序形成のために開催されたワシントン會議(1921～22)に関するものであると判断している。演説は1921年2月に、犬養の後援会で行われたものである。Xは正しい。史料の2行目から3行目にかけての「諸国共戦禍に懲りて」「再び繰り返さぬようにしたい」の箇所に注目すれば、判断可能である。Yは誤っている。史料の下から2行目から最後の行にかけて「陸軍をも各国協定して減少すると云ふ風潮を造り出すことは極めて必要である」と述べていることから、犬養は陸軍軍縮についても協定が結ばれることを期待していたと考えられる。

問4 [72] ②

正しい組合せは②。aは正しい。1924年の総選挙では護憲三派が圧勝するが、なかでも、加藤高明が率いる憲政会が最大議席数を獲得した。このため、元老は加藤高明を天皇に推薦し、加藤を首班とする護憲三派内閣が組閣された。bは誤っている。政友本党は、清浦内閣を支持する人々が政友会から脱党して結成した政党である。護憲三派に入っていたのは政友会である。cは誤っている。護憲三派内閣は普通選挙法を成立させ、満25歳以上の男子に選挙権を認めたが、その規定に基づく第1回の普通選挙の実施は、法案成立直後ではなく3年後の田中義一内閣のときであった。dは正しい。普通選挙法の成立とソ連との国交樹立により、国内での社会主義・共産主義勢力の拡大が予想されたことから、護憲三派内閣は治安維持法を成立させた。

B 犬養が大政党である政友会の党首となり、やがて組閣し暗殺されるまでの時代をとりあげた。山東出兵、昭和恐慌、満州事変、テロ・クーデタなど、昭和前期は激動の時代である。政治・外交・経済を関連づけて整理したい。

問5 [73] ④

誤っているのは④。ロンドン海軍軍縮条約は、浜口雄幸内閣のときに締結された。次の整理を参考してほしい。①・②は正しい。昭和前期、憲政会とその後身の立憲民政党は、幣原喜重郎を外相とし、对中国内政不干渉主義を掲げていたのに対して、田中義一を党首とする政友会は对中国強硬外交を掲げていた。1927年に第1次若槻礼次郎憲政会内閣が金融恐慌の処理に失敗して総辞職した後に成立した田中政友会内閣は、金融恐慌の処理を行うとともに、中国で起こっていた統一戦争の北伐に干渉するため山東半島へ出兵した。これを山東出兵という。また、

その際、对中国積極外交の方針を確認したのが東方會議である。③も正しい。田中内閣は、欧米に対しては協調外交の姿勢を維持し、パリで不戦条約に調印した。

◆海軍軍縮条約

ワシントン海軍軍縮条約(高橋是清内閣)

全権：加藤友三郎

内容：主力艦の保有量制限

→海軍軍縮を実施する(加藤友三郎内閣)

ロンドン海軍軍縮条約(浜口雄幸内閣)

全権：若槻礼次郎

内容：補助艦の保有量制限

→国内で統帥権干犯問題が起こる

問6 [74] ④

正しいのは④。昭和恐慌のときは農村も大きな打撃を受けた。当時、農村では主に米と繭を生産していたが、恐慌による農産物価格の下落や、アメリカ向けの生糸輸出激減による繭価の暴落で苦境に陥っていた。「娘の身売り」「欠食児童」の用語は、当時の社会問題として新聞などでとりあげられた。①は誤っている。震災手形の処理が問題となったのは、昭和になってまもなく起こった金融恐慌(1927)のときである。②も誤っている。金解禁政策は浜口雄幸内閣により実施されたが、1917年の金輸出禁止時の為替相場で解禁(旧平価解禁)したため、この当時の実勢相場に比べ円は切り上げ(円高)となった。このため、円高不況となり、世界恐慌の影響とあいまって、昭和恐慌となった。なお、「円安」になるのは、高橋財政での金輸出再禁止のことである。③も誤っている。切符制・配給制がはじまつたのは、日中戦争が長引くなつて統制経済が強まつた1930年代末からである。

問7 [75] ⑧

正しい配列は⑧。満州事変の経緯を順に説明していく。Ⅱ関東軍は満州での軍事行動を画策し、自ら警備していた満鉄線路を爆破し、それを中国軍の仕業として軍事行動を開始した。この事件を、地名か

ら柳条湖事件(1931年9月)という。Ⅰ中国の国民政府は国際連盟に提訴し、リットン調査団の派遣が決まった。関東軍は、その前に既成事實をつくるため、満州を占領すると、清朝最後の皇帝であった溥儀を執政とする「満州國」を建国した(1932年3月)。しかし、実態は日本の傀儡国家であった。Ⅲリットン調査団は、日本・中国各地をまわって調査し、一定程度日本の利権は認めるが自衛の軍事行動とはいえないとする報告書を作成した。1933年2月の国際連盟臨時総会で、リットン報告書に基づいた日本軍の撤退を求める対日勧告案が採択されたため、翌月、日本は国際連盟からの脱退を通告した。満州における軍事行動も、それからまもなく停戦協定が結ばれ、一旦停止となつた。以上より、Ⅱ-I-Ⅲとなる。

問8 [76] ③

誤っているのは③。「すべての政党が解散した」のは大政翼賛会の発足前であった。国家総動員法(1938年制定)は、日中戦争が始まったときの内閣である第1次近衛文麿内閣が制定したもので、人員・物資などの統制・運用を、帝国議会による審議の必要がない勅令により可能とする法律であった。一方、大政翼賛会は、第2次近衛内閣が組閣されてまもない1940年、新体制づくりをめざして設立された。多くの官製組織が下部組織として組み込まれ、政府の上意下達機関として機能した。なお、近衛内閣については、第1次・第2次・第3次のどの内閣のときに行われた政策なのかが大切となる。区別できるようにしたい。①は正しい。1936年に起きた二・二六事件についての説明文である。クーデタは失敗するが、皇道派と対立していた統制派の政治力が強まつた。②・④はともに正しい。満州事変・日中戦争・太平洋戦争については、何を契機に開戦となつたのか、開戦時の内閣は何かを整理しておきたい。日中戦争は、第1次近衛内閣のとき、盧溝橋事件を契機に始まつた。太平洋戦争は、東条英機内閣のとき、海軍の真珠湾奇襲、陸軍のマレー半島上陸により始まつた。

●写真提供・協力

徳川美術館所蔵 ©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

地理 B

【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解番 答号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	①	3	
	問2	2	③	3	
	問3	3	②	3	
	問4	4	②	3	
	問5	5	④	2	
	問6	6	⑥	3	
第1問 自己採点小計			(17)		
第2問	問1	7	②	3	
	問2	8	②	2	
	問3	9	②	3	
	問4	10	①	3	
	問5	11	②	3	
	問6	12	①	3	
第2問 自己採点小計			(17)		
第3問	問1	13	②	2	
	問2	14	④	3	
	問3	15	③	3	
	問4	16	②	3	
	問5	17	④	2	
	問6	18	①	3	
第3問 自己採点小計			(16)		
第4問	問1	19	⑤	3	
	問2	20	②	2	
	問3	21	②	3	
	問4	22	①	3	
	問5	23	④	3	
	問6	24	②	3	
第4問 自己採点小計			(17)		
第5問	問1	25	③	2	
	問2	26	④	3	
	問3	27	④	3	
	問4	28	②	3	
	問5	29	②	3	
	問6	30	⑥	3	
第5問 自己採点小計			(17)		

問題番号	設問	解番 答号	正解	配点	自己採点
第6問	問1	31	②	3	
	問2	32	③	3	
	問3	33	②	2	
	問4	34	④	3	
	問5	35	①	2	
	問6	36	④	3	
第6問 自己採点小計			(16)		
自己採点合計			(100)		

【解説】

第1問 世界の気候環境

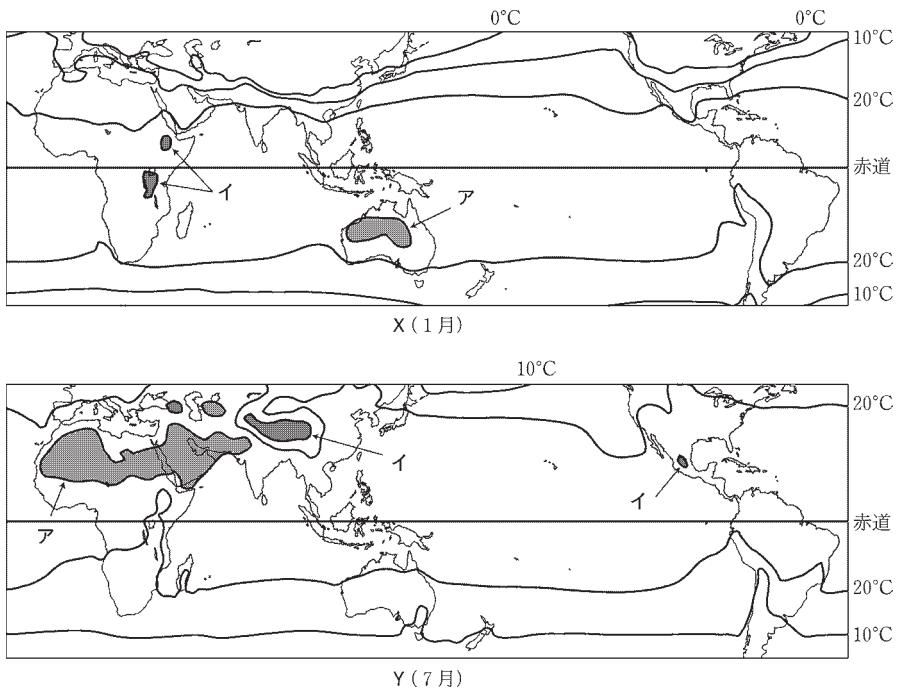
【出題のねらい】

気温と降水量の地域的な差異とその理由を中心に、世界の気候環境について問うた。気候の分野は、「なぜそうなるのか?」という成因を理解することが大切である。地図帳に掲載されている世界の等温線図や降水量分布図を活用し、理解を深めてほしい。雨温図やハイサーグラフの読図も頻出である。早い段階で習熟してほしい。

【設問別解説】

問1 1 ①

7月は北半球が夏、1月は南半球が夏となる。図1に赤道を引くと(アフリカならばヴィクトリア湖、南アメリカならばアマゾン川の河口部を通る)、赤道に最も近い等温線(20°C)が、Xでは南半球側に、Yでは北半球側に寄っていることがわかり、Xは南半球が夏の1月、Yは北半球が夏の7月と判断できる(図①参照)。また、低緯度地域で夏に最も高温となるのは、大陸内部で砂漠気候の分布する地域である。よって、南半球が夏のXの図でオーストラリアのアの地域と、北半球が夏のYの図で北アフリカから西アジアにかけてのアの地域は、ともに砂漠気候地域で周囲より高温となる。植生の乏しい砂漠気候地域は、植生の蒸散作用(植物が大気中に水蒸気を放出する現象)によって気候が緩和されず、寒暖差が大きくなる。また、気温を押し下げる降水が少なく、日射を遮る雲も発達しないため、地表面に強い日射が当たり、夏は高温となりやすい。一方、イの地域は、周囲よりも標高の高い高原(アフリカ東部、チベット高原、メキシコ高原)となっているところである。標高の高い高原や山地では、気温の遞減(標高が1000 m 上がるごとに、気温は $5\sim 6^{\circ}\text{C}$ 下がる)により周囲より低温となる。



図①

問2 [2] ③

アフリカ大陸と南アメリカ大陸付近における南半球の低緯度の海域では、ともに大陸の西側が東側に比べて低温となっている。これは、沖合を流れる寒流の影響を受けるためで、アフリカ南部ではベンゲラ海流が、南アメリカではペルー海流が、それぞれ大陸の西側を北上している。

問3 [3] ②

図2の年降水量250 mm未満の地域は、北極海沿岸地域を除いて、主に乾燥帯の砂漠気候(BW)である。①誤り。多くの砂漠は、回帰線付近に分布するが、これは、年間を通じて亜熱帯高圧帯の影響を受けるためで、北アフリカのサハラ砂漠からアラビア半島の砂漠、オーストラリアの砂漠がその例である。よって①は、亜寒帯低圧帯が誤りで、亜熱帯高圧帯に直せば正しい文となる。一般に降雨をもたらす雲は、水蒸気を含む大気が上昇すると発生するが、高圧帯では下降気流が卓越するため、雲が発生しにくい。②正しい。ユーラシア大陸の内陸に広がる砂漠(モンゴルのゴビ砂漠、中国北西部のタリム盆地のタクラマカン砂漠など)は、海洋から離れた内陸に位置するため、海洋から供給される水蒸気が到達しにくく、たとえ上昇気流が生じても雲が発生しにくい。③誤り。北極海沿岸が少雨なのは、気温が低く、大気に含まれる水蒸気が少ないことに加

え、極高圧帯の影響を受けるためである。ただし、蒸発量も少ないため、砂漠は形成されない。④誤り。海からの湿潤な風が山地にぶつかると、山地の風上側では上昇気流が生じ多雨となるが、山地の風下側では乾いた風が吹き下ろして少雨となる。こうした成因で砂漠となっている例は、アルゼンチン南部のパタゴニア地方である。南アメリカ大陸の西岸のように、低緯度地方の大西洋岸で砂漠がみられるのは、沖合を流れる寒流により大気の下層が冷却され、上昇気流が生じにくいためである。このようにして形成される砂漠を海岸砂漠といい、アフリカのアンゴラ海岸からナミブ砂漠にかけてと、南アメリカのペルー海岸からアタカマ砂漠に典型的にみられる。よって④は、⑧の文の後半のように直せば正しくなる。また、寒流の影響で少雨となるのは低緯度地方だけであるから北極海沿岸には当てはまらない。

問4 [4] ②

ハイサーグラフは、縦軸に月平均気温、横軸に月降水量をとり、月の順に線でつなぎだものである。特徴的な気候は、その形から判断することもできる。今のうちに見慣れておこう。図3のハイサーグラフは形が夏少雨、冬湿潤の右下がりであり、地中海性気候(Cs)が該当する。地中海性気候は、大陸西岸の30~40度に分布し、夏は亜熱帯高圧帯の影響

で乾燥、冬は亜寒帯低圧帯の影響で湿潤となる気候で、地中海沿岸のほか、北アメリカ大陸西岸(サンフランシスコ)や南アメリカ大陸西岸(チリ中部)、アフリカ大陸南西部(ケープタウン)、オーストラリア南西部(パース)などにみられる。

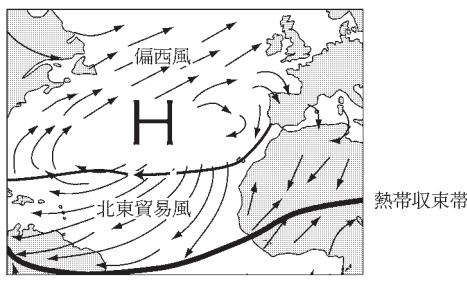
図3は、1月が夏、7月が冬となっているため、南半球のキ(パース)が該当する。ク(サンフランシスコ)も地中海性気候であるが、北半球に位置するため少雨となるのは7月である。カ(マダガスカル東部)は、年間を通じて吹く南東貿易風に対して山地の風上側に位置するため、年中多雨の熱帯雨林気候(Af)である。ケ(チリ南部)は、年中湿潤な西岸海洋性気候(Cfb)である。西岸海洋性気候は、地中海性気候の高緯度側(大陸西岸の40~60度)に分布し、年間を通じて偏西風の影響を受けるため、年中湿潤な気候となる。チリ南部は、年間を通じて吹く偏西風に対してアンデス山脈の風上側に位置するため、多雨となる。

問5 5 ④

熱帯雨林気候は赤道付近に分布する。①正しい。赤道付近では太陽高度の季節変化が小さいため、**気温の年較差**(最暖月平均気温と最寒月平均気温の差)は中・高緯度地域に比べて小さく、2~4°C程度である。太陽が照りつける日中は高温となるが、夜は冷え、**気温の日較差**は、気温の年較差より大きくなる。②正しい。熱帯雨林気候が年中多雨なのは、赤道付近に位置し、年間を通じて**赤道低圧帯**の影響を受けるためである。③正しい。日射によって熱くなった地面付近の大気が上昇して積乱雲が発生し、スコールとよばれる激しい雨が降る。④誤り。スコールは、昼すぎ頃に降る激しい雨であり、一時的なもので、しばらく雨宿りをしていると止む。日本の梅雨のように一日中しとしと降り続いているわけではない。

問6 6 ⑥

7月の風系と往路(1492年8月3日~10月12日)



帆船時代の航海には風や海流が利用された。コロンブスは、往路はまず、北緯28度付近に位置するカナリア諸島まで南下し、そこから西へ向かった(図②参照)。これは、亜熱帯高圧帯から赤道低圧帯(熱帯収束帯)に向かって吹く**北東貿易風**として利用するためである。復路は、北緯40度付近まで北上し東へ向かった。亜熱帯高圧帯から亜寒帯低圧帯に向かって吹く**偏西風**を利用するためである。

第2問 地形と人間生活

【出題のねらい】

大地形(安定陸塊や古期造山帯、新期造山帯)の分布、氷河地形、扇状地の地形図読図などについて問うた。地形は、気候と同様、成因とともに、地図帳を活用して、その分布を確認しておいてほしい。地形図は、集落立地や土地利用を水利条件と関係づけて見ていくことが重要である。地形図は、苦手意識を持つ受験生が多いが、実際の地形図は多色刷りで非常に見やすい。一度、本物の地形図を眺めてみよう。苦手意識はなくなるはずである。なお、図2で使用した地形図は、国土交通省国土地理院発行の2万5千分の1地形図「海津」である。

【設問別解説】

問1 7 ②

大地形は、造山運動を受けた時期によって、安定陸塊、古期造山帯、新期造山帯に分類される(表①参照)。安定陸塊は、先カンブリア代に造山運動を受けた後、長年の侵食によって現在では起伏の小さな平原や高原となったところで、楯状地と卓状地に分けられる。造山帯のうち、古期造山帯は、古生代に造山運動を受け、その後の侵食によってなだらかな山地となったところである。新期造山帯は、中生代末から新生代に造山運動を受けて隆起して高峻な山地となったところで、環太平洋造山帯とアルプス・ヒマラヤ造山帯に分けられる。新期造山帯は、

1月の風系と復路(1493年1月16日~3月3日)



図②

現在も地殻運動が続く変動帶で、地震が多発し、火山活動が活発なところもある。

①正しい。Aはラプラドル高原で、安定陸塊のカナダ楯状地に位置する。カナダ楯状地は、最終氷期には大陸氷河に覆われており、その南側に位置し、カナダとアメリカ合衆国の国境にもなっている五大湖は、冰食を受けた凹地に湛水した氷河湖である。

②誤り。Bはブラジル高原で、安定陸塊のブラジル楯状地に位置し、火山はみられない。③正しい。Cはエチオピア高原で、安定陸塊のアフリカ楯状地に位置するエチオピア高原には、プレートの広がる境界にあたるアフリカ大地溝帯が北東から南西にかけて走っている。プレートの広がる境界は、おもに三大洋に位置し、大西洋中央海嶺やインド洋中央海嶺、東太平洋海嶺など海嶺が形成されるが、アフリカ大地溝帯は広がる境界が大陸に位置する例で、大陸の裂け目となっている。④正しい。Dはチベット高原で、新期造山帯のアルプス・ヒマラヤ造山帯に位置し、大陸プレートどうしの衝突によって形成された標高4000～5000m前後の高原となっている。プレートの狭まる境界は、海洋プレートの沈み込みによって海溝が形成されたもののほかに、大陸プレートどうしの衝突によって大山脈が形成されたものがあり、ヒマラヤ山脈はその例である。海洋プレートが沈み込むところでは、プレートのへりに火山帯ができるが、大陸プレートどうしが衝突したところでは、高く険しい山脈となり、地震は多いが、火山はあまりみられない。

問2 [8] ②

アフリカの北西端に位置するFは、新期造山帯（アルプス・ヒマラヤ造山帯）に属するアトラス山脈である（表①参照）。よってこれが該当せず、②が正

解となる。アメリカ合衆国東部のE（ア巴拉チア山脈）、アフリカ南部のG（ドラケンスバーグ山脈）、オーストラリア東部のH（グレートディヴィアイディング山脈）は、いずれも代表的な古期造山帯の山脈である。古期造山帯は、長期間の侵食によってなだらかな山地となっているものも多いが、中国北西部のテンシャン山脈は、その後のプレートの衝突（インド・オーストラリアプレートとユーラシアプレート）の影響で再隆起し、高峻な山脈となっている。

問3 [9] ②

海岸地形には、陸地の沈降や海面の上昇によって形成された沈水海岸と、陸地の隆起や海面の低下によって形成された離水海岸に大別される。沈水海岸には、冰食を受けたU字谷が沈水したフィヨルド、河食を受けたV字谷が沈水したリアス海岸のほか、平野の河口部が沈水してラッパ状の入り江となったエスチュアリー（三角江）がある。

K地域のノルウェーの西岸では、フィヨルドが発達している。フィヨルドは、氷期に氷河が侵食してきたU字谷に、海水が侵入した海岸である。氷期が終わって温暖な間氷期になり、海面上昇とともに深い海水がU字谷に沿って侵入したこと、水深の大きな細長く奥深い入り江となっている。よって、①～③のうち、②が誤りである。フィヨルドは、ノルウェーの西岸のほか、アラスカやカナダの太平洋岸、チリ南部、ニュージーランド南島南西部など、海からの偏西風が山脈にぶつかって降水量の多い山脈の風上側でみられる（④は正しい）。

②のV字谷は、河川の侵食によって刻まれた谷であり、複数のV字谷に海水が侵入したものがリアス海岸である。

問4 [10] ①

表① 世界の大地形

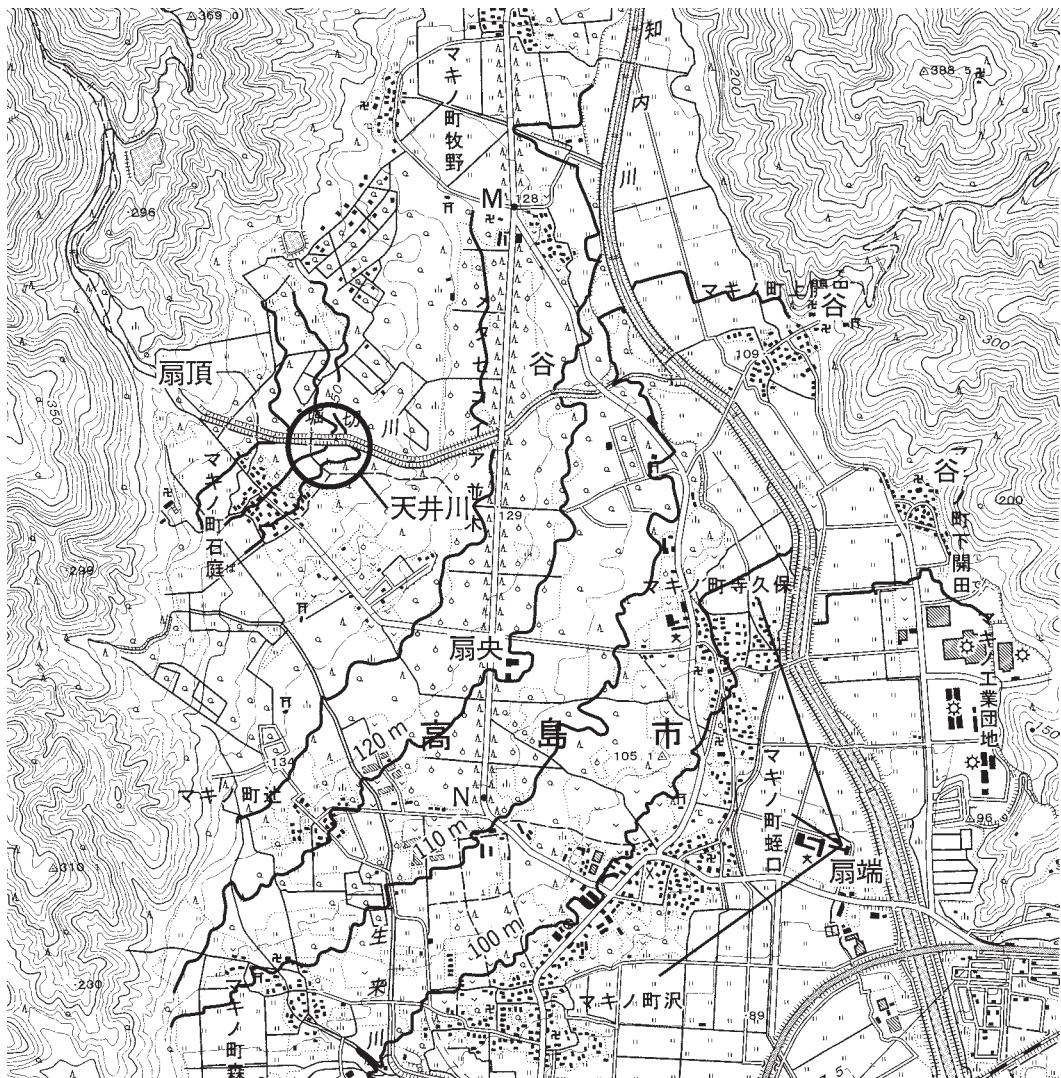
特 色	安定陸塊	古期造山帯	新期造山帯	
			地殻運動が継続中の高峻な山地 地震活動が活発（火山活動が活発なところもある）	環太平洋造山帯
代表例	ギニア楯状地 ブラジル楯状地 アフリカ楯状地 オーストラリア楯状地 インド地塊 アラビア楯状地 南極大陸 カナダ楯状地 ロシア卓状地 シベリア卓状地	スカンディナヴィア山脈 ペニン山脈 ウラル山脈 テンシャン山脈* ア巴拉チア山脈 グレートディヴィайдィング山脈 ドラケンスバーグ山脈 *テンシャン山脈は、その後の断層作用によつて高峻となつてゐる。	アトラス山脈 ピレネー山脈 アルプス山脈 イラン高原 ヒマラヤ山脈 チベット高原 スンダ列島	日本列島 フィリピン諸島 ニューギニア島 ニュージーランド島 ロッキー山脈 西インド諸島 アンデス山脈

aは正しい。河川アは、ラプラタ川であり、河口部にはエスチュアリー(三角江)がみられる。上流から運搬される土砂が少ない河川では、河口部で土砂の堆積が進まず、氷期後の海面上昇で川ぞいの低地に海水が侵入してラッパ状の入り江となる。エスチュアリーは、ラプラタ川のほか、テムズ川やセーヌ川、エルベ川などヨーロッパに比較的多い。フィヨルドやリバース海岸と異なり、背後が平野になっていることが多いため、ロンドン(テムズ川)、ルアーブル(セーヌ川)、ハンブルク(エルベ川)などの都市が、水運の要地として発達した。bは正しい。河川イは、ナイル川であり、上流から運搬されてきた土砂が河口部に堆積した**三角州**(デルタ)がみられる。三角州は低湿なため、アジアでは、古くから稻作が

行われてきた。ヨーロッパでもライン川やドナウ川は、上流域が高峻な山地で土砂運搬量が多く、河口部が三角州となっている。

問5 [11] ②

①誤り。図2の西側一帯は、山地から知内川へと流入する堀切川によって形成された**扇状地**であり、メタセコイア並木とその周辺部は、その扇状地の**扇央**にあたる。透水性の高い砂れきなど粒の粗い堆積物からなる扇状地の扇央は、一般に水の得にくい乏水地となり、畑や桑畠、果樹園などに利用されることが多い。地図記号を読み取ると、メタセコイア並木の周辺地域は、茶畠(..)ではなく果樹園(○)として利用されている。②正しい。マキノ町寺久保、蛭口、沢の集落は扇状地の**扇端**に位置している。扇状



図③

地の扇端では、扇央を伏流した水が湧水し、古くから集落が立地してきた。③誤り。水無川は破線で描かれるが、堀切川は、メタセコイア並木より上流、下流ともに実線で描かれ、水無川となっていない。また、メタセコイア並木より下流では、並木のあたりを除いて等高線は下流から上流に向かって食い込んでおり、天井川にはなっていない。河床が周囲よりも高い天井川は、河川の周りの等高線が上流から下流に張り出す形で描かれ、メタセコイア並木の上流部でそれが読み取れる。④誤り。自然堤防は、河川が氾濫した際に、河川が上流から運搬した土砂が河道の両側に堆積してできた微高地である。マキノ町上開田、下開田の集落は、それぞれ東の山地の谷口に立地した集落である。

問6 [12] ①

2万5千分の1の地形図上では、実際の1kmは4cmで描かれる。地図上のM-N間は、約8cmであり、実際の距離は約2kmとなる。また、M地点のあたりに標高点(128m)があることから、N地点が128mよりも高いか低いかをみてみると、N地点は110m～120mの間にあることがわかる。よって、MのほうがNよりも高い。

第3問 ヨーロッパの自然と農牧業

【出題のねらい】

ヨーロッパの自然環境(地形、気候、土壤)、土地利用、農牧業、国別の農産物自給率について問うた。ヨーロッパ(旧ソ連構成国を除く)は、自然、産業、民族のほか、国別の特徴など、さまざまな面から問われる頻出地域である。今のうちに、地図帳で国の位置を確認しながら、ていねいに学習していこう。

【設問別解説】

問1 [13] ②

ヨーロッパの地形は、南部のピレネー山脈やアルプス山脈など新期造山帯を境に、北・中部と南部に分けることができる。

①正しい。北・中部はおもに安定陸塊や古期造山帯からなる比較的低平な地形で、フランス北部から北ドイツ平原にかけては構造平野が広がっている。パリ盆地には、構造平野のケスタがみられる。硬層と軟層が交互に堆積した地層がわずかに傾いて侵食を受けた場合、軟らかい地層は侵食を受けるが、硬い地層が侵食されずに残り、急傾斜と緩傾斜が続く丘陵列が形成される。こうした地形をケスタ地形といい、パリ盆地はその代表例である。②誤り。大部分が温帯に属するヨーロッパでは、褐色森林土がおもに分布するが、亜寒帯に属するスカンディナヴィ

ア半島の内陸部からフィンランドにかけては、成帶土壤のポドゾルが分布している。亜寒帯では、低温のため落ち葉などの分解が進まず、土壤の表層が強酸性となって、鉄分などの鉱物を溶かしてしまい、石英の砂などが溶かされずに残った灰白色のポドゾルが分布する。ラトソルは、熱帯に分布する赤色の土壤である。③正しい。南部は新期造山帯に属し、高峻な山脈がみられる。ヨーロッパの火山は、プレートの広がる境界であるアイスランドと、新期造山帯の地中海周辺にみられる。イタリアのナポリに近いヴェズヴィオ山やシチリア島のエトナ山は有名である。④正しい。地中海沿岸部には、石灰岩が広く分布し、スロベニア共和国のカルスト地方は、石灰岩が溶食されたカルスト地形の名前の由来にもなっている。こうした石灰岩地域では、石灰岩が風化してできた間帯土壤のテラロッサ(「赤い土」の意)が分布している。

問2 [14] ④

ヨーロッパでは、アルプス山脈以南の地中海沿岸部や大西洋岸に地中海性気候(Cs)が、北・中部の大部分に西岸海洋性気候(Cfb)がみられる。北・中部でも高緯度地域や内陸部は亜寒帯湿潤気候(Df)となっている。

降水の季節配分に注目してみると、③は夏の降水量が少ない地中海性気候(Cs)であるため、里斯ボンである。最も低緯度に位置するため、気温も高い。年中湿潤な①・②・④のうち、1月、7月の気温がともに①・④より低い②は、最も高緯度に位置するオスロである。残った①・④が、ほぼ同緯度のパリとプラハだが、気温の年較差に注目すると、④のほうが、①に比べて気温の年較差は小さい。ヨーロッパは、暖流の北大西洋海流上を吹く偏西風の影響で、緯度の割に冬でも比較的温暖な気候となる。①・④はともに西岸海洋性気候(Cfb)であるが、同じ緯度の場合、偏西風の影響を受けやすい西側のほうが、冬の気温は下がりにくく、年較差は小さくなる(1月の0°Cの等温線はヨーロッパ中央部を南北に走る。図④参照)。よって、冬の気温が①よりも高く、年較差が小さい④が、西側に位置し、偏西風がもたらす海洋の影響を受けやすいパリである(①がプラハ)。あるいは、パリより東部・内陸に位置するプラハは、海洋の影響を受けにくく、気温の年較差が大きくなるため①と判断してもよい。②のオスロは、最寒月平均気温が-3°C未満となっているため、亜寒帯湿潤気候(Df)に分類されるが、スカンディナヴィア半島の西岸は、暖流と偏西風の影響で北端付近まで、温帯の西岸海洋性気候(Cfb・

Cfc)となっている。地図帳で確認しておこう。

問3 [15] ③

ヨーロッパでは、その地域の自然環境に応じた農業が行われ、冷涼で氷食を受けたやせ地が広がる北部では酪農、中部では混合農業、アルプス山脈やピレネー山脈の南側では地中海式農業がおもにみられる。また、EU加盟国では、農産物を統一価格で買い上げ、市場の統一を図る共通農業政策のもとで、特定の農産物への専門化も進んだ。

割合の高いものに注目すると、Aは耕地率、Bは牧場・牧草地率、Cは森林率がそれぞれ高いことが読み取れる。北欧のフィンランドは、冷涼な気候で農用地としての開発があまり進まず、森林率が高い国である(Cが該当する)。隣国のスウェーデンとともに森林率が高いが、両国とも林業が盛んで、伐採後の植林によって森林が保たれている。イギリスは、冷涼で氷食を受けたやせ地が大部分を占めている。もともとあった森林を伐採し、羊・肉牛などの放牧が古くから行われてきた(Bが該当する)。アイルランドとともに牧場・牧草地率の高い国である。ヨーロッパ中央部に位置するハンガリーは、温暖な気候と平坦な地形のもと、主に混合農業が行われ、耕地率が高い(Aが該当する)。氷期に発達していた大陸氷河の低緯度地域に位置するハンガリーでは、氷河に削られた砂や粘土が風で飛ばされて堆積した肥沃なレスも分布し、小麦やトウモロコシなどの穀物栽培が盛んである。そのほか、ヨーロッパで耕地率が高い国としては、気候は冷涼だが、平坦な地形が国土の大半を占め、混合農業が盛んなデンマークやポーランドが挙げられる(表②参照)。

表② ヨーロッパの主要な国々の土地利用

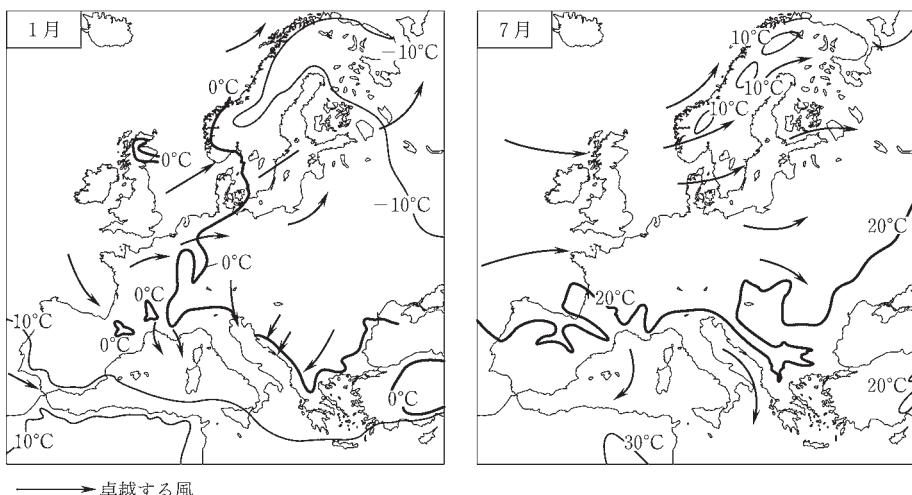
牧場・牧草地率 40%以上	イギリス(46.1%)、アイルランド(44.1%)
耕地率50%以上	デンマーク(56.6%)、ハンガリー(51.4%) (ポーランドは41.4%)
森林率60%以上	フィンランド(65.5%)、スウェーデン(62.6%)

統計年次は2009年。

『地理統計』により作成。

問4 [16] ②

①正しい。Pのスカンディナヴィア山脈北部は、寒冷なため樹木が育たないツンドラ気候(ET)が広がっている。短い夏に永久凍土の表層が融けて、地衣類や蘚苔類が生育するツンドラが広がり、そこに住むサーミとよばれる人々は、伝統的にトナカイの遊牧や狩猟を行ってきた。②誤り。Qのデンマークを含むヨーロッパ北部はかつて大陸氷河に覆われたため、穀物栽培には適さなかった。デンマークでは、土壤改良が進められ、現在は集約的な酪農や混合農業が行われており、小麦の自給率も高い。酪農では乳牛の、混合農業では主に豚の飼育が行われているが、放牧での飼育は少なく、耕地で生産した飼料作物を与えて家畜小屋での飼育(舍飼い)が中心であるため、問3で問うたハンガリーと同様、耕地率の高い国である。③正しい。Rのアルプス山脈一帯では、夏に山地の草地(アルプ)で乳牛を放牧し、冬には谷底の畜舎で飼育する移牧がみられる。移牧は、地中海式農業が行われている地域でもみられ、夏の乾燥で牧草が不足するため、牧草が得られる高地で羊やヤギなどの放牧を行う。④正しい。Sのギリシャは、夏に高温で乾燥する地中海性気候のた



図④ ヨーロッパの気候

め、乾燥に強いブドウやオリーブなどの樹木作物を灌漑により栽培し、降水のある冬に小麦を栽培する地中海式農業がみられる。

問5 [17] ④

Xはジャガイモ、Yはブドウ、Zはオリーブである。ジャガイモは、アンデス原産で冷涼地域での栽培に適する作物であり、穀物栽培が困難なやせ地でも栽培が可能であるため、最も高緯度まで栽培されているXが該当する。ヨーロッパでは、ドイツやポーランドなど、冷涼な地域での栽培が多い。オリーブは、寒さに弱く、栽培に長い日照時間を必要とする樹木作物であるため、夏に晴天が多く、年降水量が少ない地域での栽培が適し、最も低緯度で栽培されているZが該当する。オリーブの栽培限界は、地中海性気候地域の北限とほぼ一致し、地中海沿岸のスペインやイタリア、ギリシャのほか、モロッコやトルコなど、ヨーロッパから西アジア、北アフリカに生産が集中している。オリーブと同じ樹木作物のブドウは、地中海性気候地域での生産も多いが、オリーブより冷涼湿潤な地域でも栽培できるため、地中海沿岸だけでなくパリ盆地周辺やドイツ南部でも栽培が行われているYが該当する。ブドウの生産は、ヨーロッパでは、イタリア、スペイン、フランスで多いが、世界で最も多いのは中国(2010年)である。

問6 [18] ①

果実類の割合の高い③は、温暖な南部に位置するイタリアである。イタリアでは、南部を中心に耐乾性の樹木作物を生産する地中海式農業が行われている。また、イタリアやスペインなど地中海沿岸の国々では、温暖な気候を生かして輸出向けの野菜の栽培が行われ、野菜の自給率も高い。③に次いで果実類の割合が高い①は、南部が地中海に面するフランスである。フランスは、小麦の世界的な生産国で(生産5位:2010年、輸出4位:2009年)、穀物の自給率が100を大きく上回っている。パリ盆地では経営規模が大きく、機械化も進み、混合農業での小麦栽培のほか、大規模な单一栽培もみられる。

果実類の自給率の低い②と④は、果樹栽培に適さない冷涼な北部に位置するオランダとドイツで、乳製品、野菜の割合の高い④がオランダである。オランダでは、おもに干拓地(ポルダー)では酪農が、沿岸の砂丘地域では集約的な園芸農業が行われ、乳製品や野菜の輸出が多い。また、豚肉を中心とした肉類の輸出も多い。残った②がドイツで、野菜や果実類は輸入が多く、自給率は低くなっている。

第4問 資源と工業

【出題のねらい】

資源と工業について、エネルギー資源や鉱産資源、工業の立地、主要な工業品の生産上位国を問うた。エネルギー・鉱産資源は、上位産出国のほか、主要産地も重要である。工業は、主要工業の立地条件や代表的な工業都市、工業品の上位生産国の変化を確認しておこう。産業分野は、統計を用いて出題されることが多いが、背景も踏まえて覚えてほしい。

【設問別解説】

問1 [19] ⑥

化石エネルギー(石炭、原油、天然ガスなど)は、現在、世界で最も利用されているエネルギーであり、途上地域の経済発展などによって、その消費量は増加を続けている。

まずは、生産量の偏りが大きいものから判別していく。石炭の生産が最も多い国は中国で、世界の54.2%を占める(2009年)。石炭は、製鉄用の原料や発電用の燃料として主に利用される。現在は、埋蔵量が多い中国やインド、アメリカ合衆国での生産が多く、3か国で世界の7割以上を占めている。とくに、経済発展著しい中国では、エネルギー需要の増加に加えて、粗鋼生産用の石炭の需要が高まり、石炭の生産量が増加するだけでなく、輸入国となっている。また、石炭は、生産国での消費が多いため、石炭の輸出は、良質の石炭を大規模な露天掘りで輸出向けに産出するオーストラリアが、世界1位となっている。

原油の産出が最も多い国は、中東のサウジアラビアと並ぶ原油産出国のロシアである。原油は、自動車の燃料や化学工業の原料などに主に利用され、世界で最も消費量が多いエネルギーである。サウジアラビアをはじめとする中東地域での生産が多いが(約3割)、ロシアでは、ロシア卓状地(ヴォルガ・ウラル油田)やシベリア卓状地(チュメニ油田)などでの生産が多く、ロシアとサウジアラビアで、世界の約25%を占める。原油は、石炭に比べて偏在し、先進国や中国の輸入が多いため、生産量に占める貿易量の割合は高く、生産の多いサウジアラビアとロシアは、輸出国の上位2か国でもある。

天然ガスの生産がア(ロシア)と並んで多い国は、アメリカ合衆国である。天然ガスは、油田から原油とともに産出するものと、ガス田から産出するものがあり、埋蔵量は、中東のほかロシアやアメリカ合衆国で多く、生産はロシアとアメリカ合衆国で世界の約4割を占める。天然ガスは、熱効率がよく、環境への負荷も石炭や原油に比べて小さいため、消費

量は増加している。貿易量も増加傾向にあるが、海上輸送をする際に、加圧して液化天然ガス(LNG)にする必要があるため、生産国での消費が多い。

統計は、上位の国名だけでなく、その割合にも注目して確認していくと判別しやすい。原油はロシアとサウジアラビア、天然ガスはアメリカ合衆国とロシアの順位が統計年次によって入れ替わることがあるため、順位で覚えるのではなく、上位国の組合せて覚えておこう。

問2 [20] ②

鉄鉱石は、**安定陸塊**の楯状地での埋蔵が多い。鉄鉱石の産出は、安定陸塊に位置する面積上位国で多く、**中国**、オーストラリア、**ブラジル**、**インド**、**ロシア**が上位産出国で、上位3か国で世界の半分以上を占めている。また、アルミニウムの原料となるボーキサイトは、熱帯・亜熱帯の赤色土分布地域に埋蔵が多いいため、低緯度地域での産出が多く、**オーストラリア**、**中国**、**ブラジル**、アフリカの**ギニア**、カリブ海の**ジャマイカ**が上位産出国である（表③参照）。

中国、オーストラリア、**ブラジル**での産出が多い①と②が、鉄鉱石とボーキサイトに該当するが、上位3か国のはかにカナダや南アフリカ共和国での産出が多い①が鉄鉱石、ギニア、ジャマイカ、南アメリカのガイアナ、スリナムでの産出が多い②がボーキサイトである。オーストラリアは、熱帯に属する北部地域がボーキサイトの主産地で、世界の産出量の約1/3を占める最大の産出国である。

銅鉱は、主に**新期造山帯**に埋蔵されており、とくに、アンデス山脈やロッキー山脈など、南北アメリカ大陸の環太平洋造山帯地域に産地が集中し、南アメリカのチリが最大の産出国である（④が銅鉱）。チリのはか、アメリカ合衆国、南アメリカのペルーやアフリカのコンゴ民主共和国南部からザンビアにかけてのカッパーベルトを覚えておきたい。

北欧のスウェーデンやフィンランドが上位にある④は、木材(用材)と判断できる。木材の用途は、建

築材や紙・パルプ工業の原料となる**用材**と燃料となる**薪炭材**に分けられるが、先進国では用材の割合が、途上国では薪炭材の割合が高い。木材の生産(用材と薪炭材を合わせたもの)は、面積が広く、人口の多いアメリカ合衆国やインド、中国で多いが、インドなどでは薪炭材としての利用が多いため、上位には入っていない。

問3 [21] ②

①正しい。紙・パルプ工業は、原料の木材が重量・体積とも大きく、製品のほうが軽くなるので、苫小牧(北海道)など木材産地に近接して立地するほか、処理用の水を大量に必要とするため、湧水の豊富な富士(静岡県)など工業用水の得やすい地域に立地する。近年では、原料となるチップやパルプの輸入が増加しているため、臨海地域にも多く立地している。②誤り。セメント工業は、大型の設備で生産する工業で、製造工程も自動化されており、多くの労働力が必要な労働集約型産業ではない。工場はおもに、秋吉台に近い宇部(山口県)や秩父(埼玉県)など、原料となる**石灰石**産地に立地する。③正しい。日本の鉄鋼業は、重量の大きい原料の鉄鉱石や石炭を輸入に依存するため、船舶で直接搬入することで輸送コストが削減できる京葉地区など**太平洋ベルト**の臨海地域に立地する。④正しい。ビールの原料は、水、大麦、ホップなどであるが、主原料である水はどこでも得られるうえ、製品にすると瓶や缶の分だけ重くなり、輸送コストがかかるため、消費地でもある大都市近郊に立地する。

問4 [22] ①

Pはカリフォルニア州のサンノゼ、Qはテキサス州のヒューストン、Rはミシガン州のデトロイトである。力は「大学や研究機関が立地」、「先端技術産業」からPのサンノゼと判断できる。サンフランシスコ郊外に位置するサンノゼ周辺は、シリコンバレーとよばれ、電子機器工業や情報関連産業を中心に先端技術産業が集積している。シリコンバレーでは、大学や企業の研究機関が集まり、先端技術産

表③

(単位：%)

鉄鉱石		ボーキサイト		銅鉱	
中国	25.9	オーストラリア	32.7	チリ	33.9
オーストラリア	21.2	中国	21.1	ペルー	7.8
ブラジル	18.8	ブラジル	13.4	中国	7.5
インド	11.5	インド	8.6	アメリカ合衆国	6.9
ロシア	4.6	ギニア	8.3	インドネシア	5.5
ウクライナ	3.4	ジャマイカ	4.1	オーストラリア	5.4

統計年次は2010年。

『世界国勢図会』により作成。

業に関する情報を入手しやすいほか、技術者も確保しやすく、高度な作業を行う工場などが集積している。キは「原油」、「石油化学工業」から、Qのヒューストンと判断できる。ヒューストンのあるテキサス州をはじめとするメキシコ湾岸一帯では、原油や天然ガスの産出が多い。原油をさまざまな石油製品に加工する工場をパイプラインで結ぶ石油化学コンビナートが形成されている。また、ヒューストンには、NASA(アメリカ航空宇宙局)のジョンソン宇宙センターがあり、宇宙関連産業も立地している。クは「自動車」からRのデトロイトと判断できる。デトロイトは、自動車企業の本社や最終組立工場が立地するなど、アメリカ合衆国の自動車産業の中心地となっている。デトロイトを中心に五大湖沿岸地域には、部品を生産する自動車関連産業の集積がみられる。

問5 [23] ④

aは誤り。西ヨーロッパのドイツ、フランス、イギリスなどは、第二次世界大戦後、アメリカ合衆国で成長する航空機産業に対抗するため、共同で会社(エアバス)を設立し、各国が製造した部品を組み立てる最終組立工場をフランスのトゥールーズに建設した。第二次世界大戦後は、航空機のエンジンが、プロペラエンジンからジェットエンジンへと移行する時期であり、研究開発には多くの資本を必要とするため、ヨーロッパ各国は、一国では開発できず、共同で開発を進めるにいたった。当時、社会主義国のソ連の構成国であったロシアとは、東西冷戦期にあたり、共同開発を進められる状況ではなかった。

bは誤り。テレビなどを製造する電気機械製造業は、労働集約的な工程が多く、低賃金労働力が得られる地域に立地する。先進国で労働賃金の高いオーストラリアは、労働集約型産業の立地には適さない。日本の電気機械製造業は、国内労働力の賃金の上昇や1985年の円高による輸出競争力の低下を受けて、豊富な低賃金労働力を抱える近隣の東アジア、東南アジア地域など、途上地域へと生産拠点を移動させた。かつては、日本から輸出した部品を、豊富な低賃金労働力で組み立てて完成品を日本やアメリカ合衆国などの先進地域に輸出する分業が中心であったが、近年では、進出先での技術の向上とともにない部品の生産も行われるようになり、高付加価値な部品を日本から輸出し、低付加価値な部品は現地で調達するなど、企業は最も安価に製造できる最適立地を求めて、分業も複雑化している。また、経済発展によって市場として規模も拡大し、アジア向けに生産する製造業も増えてきている。

問6 [24] ②

2011年にはすべての品目で中国が1位となっているため、中国以外の国もしくは、2000年の年次に注目してみよう。Xは2000年に日本、アメリカ合衆国、ドイツの先進工業国が上位3か国であることから、高度な技術を必要とする自動車である。自動車は、先進工業国での生産が中心であったが、近年は先進国企業が巨大市場を求めて中国などの新興国で生産することで、新興国での生産が増加し、とくに中国ではこの10年間でその生産量が急増している。Yは先進工業国の日本、アメリカ合衆国に加え、中国、ロシアが上位にあり、2011年にはインドも上位にあることから、用途の広い粗鋼である。粗鋼には、建築資材に用いられる汎用鋼や自動車のボディなどに用いられる高級鋼が含まれる。汎用鋼の生産は需要の多い新興国で多く、高級鋼の生産は技術水準の高い先進工業国で多い。中国は現在、世界の粗鋼生産のうち5割近くを占めており、その割合の高さも合わせて覚えておこう。Zは2011年で東アジアの中国、韓国、日本の3か国が9割以上を占めることから商船である。造船業は、多くの労働力を要する労働集約的な側面に加え、制御技術などで高度な技術も必要(流れ作業で組立を行う自動車と異なり、注文を受けてから生産を行うためオートメーション化できない)とするため、鉄鋼の生産ができ、労働力が比較的安く、かつ技術をともなう国で生産が行われてきた。そのため、かつては日本での生産が多かったが、その後、こうした条件をあわせもつ韓国での生産が伸びてきた。現在では、中国での生産が1位となっている。

第5問 都市と消費・余暇活動

【出題のねらい】

都市の立地と発達、都市人口、都市の内部構造、日本の消費の変化、国際観光の動向について問うた。都市は、先進国と発展途上国における都市化の違いや都市機能、都市システム(国内における都市相互間の関係)、大都市圏での地域的な機能の分化のほか、ここでは扱わなかったが、都市問題についても確認してほしい。消費・余暇活動は、消費行動の変化や商業施設の立地、観光行動の特徴を押さえておこう。

【設問別解説】

問1 [25] ③

①正しい。シカゴは、五大湖の一つであるミシガン湖の南西岸に位置し、ニューヨーク、ロサンゼルスに次ぐアメリカ合衆国第三の都市である。五大湖の水運や大陸横断鉄道など、水上交通・陸上交通が

発達し、周辺の農業地域で生産された穀物や畜産物の集散地となっている。世界の穀物価格に大きな影響を与える穀物取引市場があることでも知られる。

②正しい。ロッテルダムは、ライン川の河口に位置し、外洋(北海)と国際河川のライン川を結ぶ港湾都市として発達した。ロッテルダム港は、原油の取扱量が多く、石油精製や石油化学工業などの石油関連工業も立地している。ロッテルダム港の西に新設されたユーロポートを含むロッテルダム港は、EUで貨物取扱量が最も多い。③誤り。モスクワは、東ヨーロッパ平原に位置するロシア最大の都市で、ウラル山脈山麓には位置していない。東ヨーロッパ平原を流れるヴォルガ川の支流沿いに立地し、中世以来、サンクトペテルブルクに首都が移った一時期を除いて、政治の中心として発達してきた。④正しい。イスタンブールは、黒海と地中海を結ぶボスポラス海峡の両岸にまたがるトルコ最大の都市である。ボスポラス海峡はアジアとヨーロッパを分ける海峡で、イスタンブールは、陸上交通や海上交通の要地として、古くからさまざまな文化の交流がみられた。

問2 [26] ④

商工業の発達にともない、都市に居住する人が増えるため、都市人口割合は一般に、先進地域で高く、発展途上地域では低い傾向にある。しかし近年では発展途上地域でも都市人口割合が上昇し、最新年次の数値だけでは判定がしづらいため、古い年次からの推移に注目してみよう。

1950年の時点で最も都市人口割合が高いAは、早い段階で商工業が発達した先進地域の北アメリカ(先進国のアメリカ合衆国とカナダのみ)と判定でき、残ったB・Cが、発展途上国が多いアジアと中南アメリカである。Cは、1950年の時点で最も都市人口割合が低く、割合が上昇しているものの2010年でも50%を下回っていることからアジアである。アジアでは、モンスーンアジアを中心に、労働集約的な稻作や畑作が広く行われ、農業人口は多い。一方、Bは、1950年時点で約40%と高めで、2010年には約80%まで割合が上昇していることから、発展途上地域でも都市人口割合の高い国が多い中南アメリカである。中南アメリカでは、植民地時代にヨーロッパ系白人が沿岸部の入植拠点に上陸し、その後もそのまま都市に居住する人が多く、農業もアジアやアフリカに比べ経営規模が大きく、農業人口も少ないと、発展途上地域のなかでも早い段階から都市人口割合は高めであった。発展途上国における、近年の都市人口割合の上昇は、商工業の発達によるも

のもあるが、農村での人口増加や機械化などによって、職を得られない農民が、職を求めて都市へ流入することによるものもある。

問3 [27] ④

4か国の中、首都が人口最大都市となっていないのは、オーストラリア(首都キャンベラ)とアメリカ合衆国(首都ワシントン)である。オーストラリアは、人口2300万人に対して、シドニー、メルボルンの二大都市の都市圏が400万前後の人口を抱えているため、国内人口に占める割合は高くなり①となる。アメリカ合衆国の上位3都市(ニューヨーク、ロサンゼルス、シカゴ)は、それぞれ1890万人、1280万人、950万人(郊外含む)と多いが、国全体の人口が3億人を超えるため、各都市の占める割合は低くなり④となる。メキシコとタイが該当する②・③は、判定がやや難しい。ともに、首都が人口最大都市であるが、首都の人口の割合が極めて高く、2位の都市との差が極端に大きいことが読み取れる。発展途上国では、首都に人口が集中し、2位以下の都市とは人口の差が大きい首位都市(プライメートシティ)となっていることが多い。問2でみたように、都市人口割合の低いアジアの発展途上国では、都市人口に占める首位都市への集中は極めて高いものの、総人口に占める各都市の人口の割合は低くなりやすい。タイの場合、都市人口割合が低く(33.7%: 2010年、以下同じ)、首都バンコクの人口が688万人(郊外含む)で、総人口(6731万人)に占める割合は10.2%となる(③)。それに対して、中南アメリカのメキシコは、都市人口割合が高く(77.8%)、首都メキシコシティの人口が2011万人(郊外含む)で、総人口(1億1342万人)に占める割合は17.7%と高くなる(②)。

問4 [28] ②

①正しい。大都市の中心部(都心)は、官公庁や大企業の本社などの中枢管理機能が集積し、**中心業務地区(CBD)**とよばれる。都心は利便性が高いため地価が高く、過密によって住環境はあまりよくないため、夜間人口(常住人口)は昼間人口に比べて少なくなる。また、地価の高い都心では、少ない土地で高い収益を上げるために、建物は高層化し、地下街も発展し、おもに高級品を扱う都心商店街も形成される。②誤り。都心周辺部は、古くからの市街地で、機能分化が進まない混合地区(漸移地帯)となっている。軽工業が住宅や商店と混在してみられるものの、大規模な工場が集積する重化学工業地域とはなっていない。この地区は、**インナーシティ**(旧市街地)とよばれ、欧米では、建物の老朽化などによ

ってスラム化しているところもみられる。工場が集まる工業地区は、安価で広大な用地が得られ、原材料や製品の搬出入の便がよい港湾付近や郊外の幹線道路沿いなどに形成される。③正しい。古くからの市街地と郊外を結ぶ鉄道ターミナル駅周辺には、百貨店などの商業・娯楽施設のほか、都心から移転した官公庁やオフィスなどの諸機能が立地し、都心の機能を補完する副都心が形成される。④正しい。大都市の外縁部にあたる郊外では、古くからの市街地と結ばれた鉄道が建設され、その鉄道沿線に、都心へ通勤・通学する人向けの住宅地区が増えている。住宅地区を抱える都市は、住宅衛星都市とよばれ、大都市圏の住機能を分担する一方、都心のある大都市に多くの機能を依存し、都心とは逆に、夜間人口（常住人口）は昼間人口に比べて多い。

問5 [29] ②

経済発展にともない、家電製品やぜいたく品、レジャーなどの支出が増加するため、生活必需品の支出割合は低下する。したがって、割合が低下している①・②が、食料と被服及び履物であり、割合が高い①は、食料である。食料の支出割合は、他の品目の支出が増加することにより低下しているが、家計消費支出では、現在でも最も金額が多い。②が被服及び履物で、1990年代初めのバブル崩壊以降、その支出額の減少が著しい。これは、バブル崩壊による景気の低迷に加え、安価な同一規格品を大量生産・大量販売する大型専門店が急増したことでも大きい。その一方で、高級品を扱っていた百貨店などは売り上げが減少に転じた。割合の上昇が著しい③は、交通・通信である。交通・通信の割合が上昇した背景には、まず、自家用車の普及が背景にある（全世帯における乗用車の保有世帯の割合は、22.1%：1970年から82.7%：2011年に上昇している）。自家用車の普及にともない、自動車の燃料費や維持費が増加したことにも加え、近年は、インターネットや携帯電話が普及し、通信関連の支出も増えている。④が教養娯楽である。教養娯楽には、問題文の注釈にもあるように、テレビや文房具、書籍などの購入のほかに、パック旅行の代金やカルチャーセンターの月謝、映画入场料など娯楽サービス業への支出も含まれる。所得の増加にともない消費する物・サービスは多様化しているが、家計に占める割合にあまり変化はみられない。

問6 [30] ⑥

観光は、自国に近い国・地域へ向かうことが多いため、日本への入国者数が最も多いFは、韓国と判断できる。日本への入国者数（観光目的）において、

韓国は1位で、以下台湾、中国、香港、アメリカ合衆国と続き（2010年）、4位までは近隣の国・地域からの入国が多い。余暇活動による支出は、所得水準の高い先進地域で多くなるため、国際観光支出が最も多いDは、フランスと判断できる。残ったEがタイで、3か国中、人口規模では最も多いが、ほかの2か国に比べて経済水準が低く、国際観光支出は少ない。

先進地域、とくにヨーロッパでは、有給休暇の取得日数が長く（4～5週間程度）、夏に長期休暇（バカンス）を過ごす人が多い。フランスは、陽光に恵まれる地中海沿岸や、アルプスの山岳リゾート地にバカンスで訪れる人に加え、首都パリが観光地でもあることから、外国人旅行者受入数は最も多く（2011年）、国際観光収入も多いため、国際観光収支は黒字となっている。ヨーロッパでは、北部（ドイツ、イギリスなど）から、地中海沿岸（フランスやイタリア、スペインなど）に、夏のバカンスで訪れる人が多いため、国際観光収支は、北部の国では赤字、南部の国では黒字の傾向にある。

第6問 モンスーンアジアを中心とする地域の自然と人々の生活

【出題のねらい】

モンスーンアジアにおける降水量の地域的な違い、河川の特色、森林の分布状況、稲作や産業面での国ごとの違い、宗教分布に関して出題した。地誌分野では、地域を比較しながら、自然や産業、文化などの共通点や相違点を整理するといった学習方法が大切である。

【設問別解説】

問1 [31] ②

モンスーン（季節風）は、季節により風向きが反対になる風で、夏は海洋から、冬は大陸から吹く（図⑤参照）。そのため、モンスーンアジア地域は一般的に、夏は多雨、冬は少雨となる。

②は、7月にきわめて多雨、1月に少雨で、降水量の季節変化が最も大きいことから、ムンバイである。ムンバイに吹き込む夏の南西モンスーンは、水温の高いインド洋上を通過するため、とくに多くの水蒸気を運び、背後に位置する山脈の影響でこの地域に多雨をもたらす。その一方で、冬の北東モンスーンは乾いているため降水をほとんどもたらさず、雨季と乾季が明瞭なサバナ気候（Aw）となる。①は、どの月も比較的降水量が多いことから、季節変化の小さい赤道付近に位置し、年間を通して赤道低圧帯の影響を受け、年中多雨な熱帯雨林気候（Af）

となるシンガポールである。年中湿潤だが、雨が多い月でも①・②ほど多くはない③・④は、札幌とシャンハイ(上海)で、両者は降水の季節配分に注目して区別する。冬に降水が多い④は、冬にシベリア高気圧から吹き出す乾いた北西モンスーンが、日本海を通過する際に水蒸気を含み、降雪をもたらす札幌である。夏にも降水があるが、冬も比較的多い。また、日本でも北に位置する北海道は、亜寒帯湿潤気候(Df)であり、梅雨がないため6月に降水が少ないのが特徴である。②と同じく夏に多く、冬に少ない③は、温暖湿潤気候(Cfa)のシャンハイ(上海)である。中緯度の大陸東岸に位置するシャンハイや東京は、夏はモンスーンや熱帯低気圧の影響で高温・湿潤となり、冬は大陸の高気圧からのモンスーンの影響で少雨となるが、低気圧や前線の影響もあり、極端な少雨にはならず年中湿潤な気候となる。温暖湿潤気候が中国の長江流域や日本の東北地方以南にみられるることは、地図帳で確認しておこう。

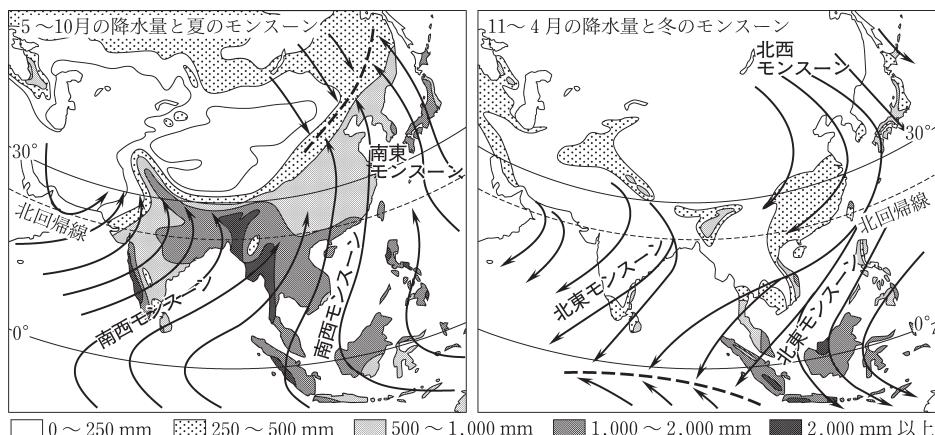
問2 [32] ③

アは「流域は6か国にまたがり」とあることから、メコン川(B)である。メコン川は東南アジア最大の国際河川(複数の国を流れ、条約等により各国船舶の自由航行が可能な河川)で、内陸水運に利用されるほか、氾濫が下流国のカンボジアなどに肥沃な土壌をもたらし、稻作を支えてきた。上流で中国やタイがダムを建設したため、ラオス、カンボジア、ベトナムで水位が低下して船舶が航行できなくなったり、川に生息する固有種が絶滅の危機に瀕したりするといった事態が生じている。イは、「中流から河口まで平坦な地形で」とあることから、インドとバングラデシュを主に流れるガンジス川(A)である。ヒマラヤ山脈に源流を持つガンジス川は、中

流部ではヒンドスタン平原を流れ、下流部では支流のプラマップトラ川とともに広大な三角州(デルタ)を形成している。中下流域では肥沃な沖積土に恵まれ、一大農業地帯となっており、人口も多い。ウは、「土砂の運搬量がぎわめて多く、下流部の平原では大規模な天井川」とあることから、黄河(C)である。黄河は中流部で砂質の厚い堆積物からなるホワツツー(黄土)高原を流れ、これを侵食して大量の土砂を運び出す。下流では、氾濫をくり返してきたため、古くから堤防が建設され、河床に土砂が堆積して、周囲よりも高いところを流れる天井川となっている。農業用水や工業用水の取水量が急増した20世紀末には下流で水流が断えることが多かった。

問3 [33] ②

①誤り。インド東部のH地域は、年降水量1000mm以上の地域で、農耕が行われているところである。低緯度に位置し、モンスーンの影響を受けるインドの樹木被覆率が低いのは、砂漠となっているためではなく、農地としての開発が進んでいるためである。インドは、耕地率は51.6%(2009年)と高い国である。②正しい。中国のユンコイ(雲貴)高原からラオスにかけてのI地域は、山地や高原となっており、夏のモンスーンの影響で降水量多く、森林が繁茂し、樹木被覆率は高い。③誤り。フィリピンのルソン島のJ地域は、もともと熱帯林に覆われていたが、開発によって樹木被覆率が低下したところである。ただし、工業地帯ではなく、棚田などの農業的土地利用によるものである。フィリピンやインドネシアのジャワ島など、東南アジア島嶼部の人口が多いところでは、山地斜面を棚田にして稻作が行われている。④誤り。ニューギニア島西部のK地域は、沿岸部を除いてまだ開発はあまり行われておらず



図(5) モンスーンアジア地域

ず、自然のままの熱帯林が繁茂している。油ヤシのプランテーションは、インドネシアとマレーシアのカリマンタン(ボルネオ)島や、インドネシアのスマトラ島で進められ、熱帯林の破壊が問題となっている。

問4 [34] ④

栽培される穀物の大部分は、米、小麦、トウモロコシのいずれかであり、このうち米はとくに多くの降水量(年間 1000 mm 以上)を必要とする。韓国とタイは、国土の全域で降水量に恵まれ、広い範囲で水田稲作を行えるため穀物生産量に占める米の割合が高い(①・②)。一方、中国では北部や西部、インドでは西部やデカン高原の年降水量が少ないため、それらの地域では水田耕作は難しく、小麦や雑穀を栽培する畑作地帯となっている。中国、インドは、米、小麦ともに世界 1 位・2 位の生産国であり、穀物全体に占める米の割合は韓国、タイに比べて低い(③・④)。

次に 1 ha 当たり収量では、一般に肥料投入量が多い東アジア諸国が高く、東南アジアと南アジアの国々は低い。よって①・④が東アジアの中国か韓国であり、上記の米の割合から①が韓国、④が中国と判定する。また、②と③のうち、②はタイ、③がインドである。モンスーンアジアの米生産国は、おおむね米を国内で自給しており、大量に輸入する国は少ない。このため多くの国で自給率は 100% 前後だが、タイは例外的に古くから米の輸出国として知られ、この国だけは自給率がとくに高い。

問5 [35] ①

日本に次いで工業化が進み、経済成長を遂げたのは、韓国である。その後、マレーシア、中国の順で工業化が進み、ベトナムの工業化は最も遅れて始まった。1 人当たり国民総所得もこの順に低くなる。そのため①韓国、②マレーシア、③中国、④ベトナ

ムと判断できる。産業別人口構成も 1 人当たり国民総所得にほぼ対応しており、所得の高い国は第 1 次産業人口率が低く、第 3 次産業人口率が高い。所得の低い国はこの逆となる。第 2 次産業人口率は、工業化が進むと上昇するが、ある時期を過ぎると停滞、下降する。表 2 ではマレーシア、中国の第 2 次産業人口率が、日本、韓国よりも高い。日本と韓国、とくに日本では脱工業化(サービス経済化)が進んでおり、過去に比べ第 2 次産業人口率が下がっており、その分、第 3 次産業人口率が上昇している。

問6 [36] ④

①正しい。インドで生まれ発展したヒンドゥー教は、インドのほか、ネパールやインドネシアのバリ島で信仰されているが、ヒンドゥー教徒のほとんどはインド国内の住民である。この点で、起源地から世界へと広がったキリスト教、イスラーム(イスラム教)、仏教とは異なっている。これら三つを世界宗教とよび、ヒンドゥー教など特定の民族に信仰されているものを民族宗教とよぶ。②正しい。イスラームは乾燥地域のアラビア半島が起源地だが、モンスーンアジアのインドネシアが国別では最大のイスラム教徒(ムスリム)を有する。ほかにマレーシア、南アジアのバングラデシュでも国民の過半数がイスラームである。③正しい。フィリピンはアメリカ合衆国から独立したが、アメリカ合衆国領となる前は長期にわたりスペインの植民地であった。このため国民の大半がキリスト教徒(カトリック)である。また、ポルトガル植民地であった東ティモールではカトリックを信仰する人が多く、2002 年にインドネシアから独立した。④誤り。仏教のうち、起源地であるインド北部からスリランカを経てミャンマー、タイなどに伝わったのは上座仏教、中国を経て日本などに伝わったのは大乗仏教である。

【公 民】

■ 現代社会 ■

【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解番 答号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1 ②	3		
	問2	2 ①	3		
	問3	3 ①	3		
	問4	4 ③	3		
	問5	5 ⑧	2		
	問6	6 ④	3		
	問7	7 ③	2		
	問8	8 ③	3		
第1問 自己採点小計			(22)		
第2問	問1	9 ③	2		
	問2	10 ②	3		
	問3	11 ⑦	3		
	問4	12 ②	3		
	問5	13 ⑥	3		
第2問 自己採点小計			(14)		
第3問	問1	14 ④	3		
	問2	15 ②	3		
	問3	16 ④	2		
	問4	17 ②	3		
	問5	18 ②	2		
	問6	19 ⑥	3		
	問7	20 ④	3		
	問8	21 ②	3		
第3問 自己採点小計			(22)		
第4問	問1	22 ①	3		
	問2	23 ④	3		
	問3	24 ①	3		
	問4	25 ③	3		
	問5	26 ②	2		
第4問 自己採点小計			(14)		

問題番号	設問	解番 答号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	27 ③	3		
	問2	28 ④	3		
	問3	29 ②	3		
	問4	30 ①	3		
	問5	31 ④	2		
第5問 自己採点小計			(14)		
第6問	問1	32 ①	3		
	問2	33 ⑤	3		
	問3	34 ④	3		
	問4	35 ③	2		
	問5	36 ④	3		
第6問 自己採点小計			(14)		
自己採点合計			(100)		

【解説】

第1問 民主政治と基本的人権の保障

【出題のねらい】

本問は、社会契約説、民主政治の原理、各国の政治制度、人権、国際人権条約などに関して、基本的な理解を網羅的に問うものである。いずれも政治分野の基礎となる事柄なので、単に暗記するのではなく、原理や理念に関する理解を心掛けてもらいたい。

【設問別解説】

問1 1 ②

ロック(1632～1704)は、自然状態を基本的には平和状態ととらえたが、自然権の確実な保障のためにには、人民は自然権の一部を政府に信託する必要があると説いた。ロックによれば、政府が信託に反する政策を実施した場合には、人民は、政府を作り変える権利(抵抗権・革命権)行使できる。

①ルソー(1712～78)は、自然状態を自由と平等が確保された理想的な状態ととらえた。したがって、「自然状態を混沌とした戦争状態ととらえ」という記述は誤り。②ホップズ(1588～1679)は、自然状態を混沌とした戦争状態ととらえ、これを「万人の万人に対する闘争」と表現した。したがって、「自然状態を平和状態ととらえ」という記述は誤り。また、「人民主権に基づく直接民主制の仕組み」を提唱したのは、ホップズではなくルソーである。④ロックは抵抗権を認めるが、ホップズは、抵抗権を原

則として認めず、また、ルソーも一般意志への全面的服従を説く。したがって、社会契約説を唱えた思想家はすべて抵抗権を認めるという趣旨の記述は誤りである。

問2 [2] ①

日本国憲法は、**信教の自由**を確保するため、「いかなる宗教団体も、國から特權を受け、又は政治上の権力を行使してはならない」(第20条1項)とともに、「公金その他の公の財産は、宗教上の組織若しくは団体の使用、便益若しくは維持のため、又は公の支配に属しない慈善、教育若しくは博愛の事業に対し、これを支出し、又はその利用に供してはならない」(第89条)うたい、**政教分離の原則**を規定している。

②**思想・良心の自由**(第19条)などの内心の自由は、内心にとどまっている限り**無制約的自由**であり、**公共の福祉**による制限を一切受けない。③「検察官」は裁判官(裁判所)の誤り。また、現行犯の場合には、令状は不要なので、「いかなる場合であっても」という記述も誤り。日本国憲法は、被疑者の逮捕や搜索・押収の際には、現行犯の場合を除いて、「司法官憲」すなわち**裁判官(裁判所)**の発する令状によらなければならないとしている(令状主義。第33条・第35条)。④日本国憲法は、**財産権の保障**を規定するが(第29条1項)，一方で、「財産権の内容は、公共の福祉に適合するやうに、法律でこれを定める」(第29条2項)と規定し、**公共の福祉**による制約を認めている。なお、財産権を公共のために用いる場合には、**正当な補償**が必要である(第29条3項)。

問3 [3] ①

17世紀、イギリスの裁判官クック(コーク)(1552～1634)は、13世紀の法律家ブラクトン(?～1268)の「国王といえども神と法の下にある」という言葉を引用し、国王の恣意的な支配をいさめたとされる。これは、**法の支配**の考え方を示した出来事として知られる。したがって、「『国王といえども神と法の下にある』という法の支配の考え方を否定」という記述も、「絶対君主の恣意的な支配を擁護」という記述も誤り。

②アメリカでは、判例法上、裁判所に**違憲立法審査権**が認められており、連邦裁判所が連邦議会の制定した法律の憲法適合性を審査できる。その意味において、イギリスの法の支配とは異なり、司法権が立法権に優位する**司法権優位**の法の支配が採用されている。③**法の支配**は、法によって政治権力担当者を拘束し国民の自由と権利を保障しようとする考え方

方であり、法の内容が重視される。法の支配に似た法の原理に**法治主義**がある。これは、議会の制定した法律に基づいて行政が行われるべきであるとする法の原理を意味し、法律の内容は問わない形式主義的な傾向がある。④日本国憲法で規定されている**憲法の最高法規性**(第98条)も公務員の**憲法尊重擁護義務**(第99条)も、政治権力者を法で拘束し、国民の自由と権利を確保することを目指しており、その点で法の支配の考え方を示す規定であると言える。

問4 [4] ③

③は、とくに経済的な事情により就学が困難な者に対する奨学制度を創設することによってその就学を可能にし、所得の多寡による「社会的な格差」を是正しようとするものであり、**実質的平等**の考え方へ沿った政策と言える。

これに対して、①は「国会議員選挙に立候補する権利」について、②は「公平な裁判所による迅速な裁判を受ける権利」について、④は自動車運転免許証交付について、いずれも、社会的格差を是正しようとする実質的平等の考え方へ沿うものではなく、人種、信条、性別、社会的身分、門地、教育、財産又は収入などによって差別することなく、すべての国民・個人を形式的に一律に取り扱う**形式的平等**の考え方へ沿うものである。

問5 [5] ⑧

A：**生存権**を中心とする**社会権**は、1919年に制定されたドイツの**ワイマール憲法**(ドイツ共和国憲法)において、憲法上、初めて保障された。

B：日本国憲法は、第25条で「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」(生存権)を保障しており、これを具体化するため、公的扶助、社会保険、社会福祉、公衆衛生の四つを柱とする**社会保障制度**の充実が図られてきた。「生活保護」は、公的扶助の一環なので、この空欄に適合しない。

C：最高裁判所は、朝日訴訟において、憲法第25条の規定は、國家の責務を宣言したものであり、直接個々の国民に具体的な権利を賦与したものではないとする**プログラム規定説**を採用し、同条を根拠に司法的救済を受けることはできないという考え方を示した。なお、**三菱樹脂訴訟**は、憲法第14条の法の下の平等及び憲法第19条の思想・良心の自由をめぐる事件である。

以上のことから、最も適当な組合せは⑧となる。

問6 [6] ④

イギリスは、小選挙区制で選出された5年の任期の議員で構成される下院(庶民院)と、非民選の終身議員で構成される上院(貴族院)の二院制を採用して

いる。両院の関係については、1911年に下院優越の原則を定めた国会法が制定されている。

①中国では、憲法上、全国人民代表大会(全人代)に権力が集中する民主集中制(民主的権力集中制)が採用されている。②ドイツでは、大統領は連邦会議により選出される。また、大統領は国家元首であるが、象徴的存在であり、法案拒否権をもたない。③アメリカでは、下院も上院も大統領に対する不信任決議権を有しておらず、また大統領も下院・上院の解散権を有していない。

問7 [7] ⑧

女性差別撤廃条約は、1979年に国連総会で採択され、日本は1985年に批准している。日本では批准に先立ち国籍法が改正され、出生による日本国籍取得の要件として、父が日本国籍を有することとしていた父系優先血統主義から、父母のいずれかが日本国籍を有すればよいとする父母両系血統主義に改められた。

①世界人権宣言は、1948年に国連総会で採択された。世界に共通する人権保障の基準を示した文書であり歴史的大きな意義を有するが、条約ではなく、法的拘束力を有しないものであった。1966年に国連は、世界人権宣言の考えを継承し、それに法的拘束力を賦与した国際人権規約を採択した。②難民条約で保護の対象とされている難民は、政治的意見の相違、宗教上・人種上の理由などにより迫害を受け、国境を越えて避難した人々である。経済上の理由で故国を離れるを得なくなった経済難民は保護の対象としていない。④死刑廃止条約(国際人権規約のB規約に関する第2選択議定書)は、1989年に国連総会で採択され、アメリカなどを除いてほとんどの先進国が批准したが、死刑を存置すべきであるとの根強い世論を背景に日本は調印していない。

問8 [8] ⑧

情報公開法(1999年)は、中央省庁の有する行政文書を公開の対象とする法律である。地方公共団体の行政文書については、それぞれの地方公共団体が定める情報公開条例に基づいて、開示の請求が行われる。また、情報公開法に基づく開示請求は、日本国民に限らず、誰でも請求できる。なお、情報公開法には知る権利は明記されていない。

①環境アセスメント法(環境影響評価法)は、1997年に制定された法律で、開発による環境悪化を未然に防ぐことを目的としている。なお、憲法第13条の幸福追求権と第25条の生存権に基づいて環境権が主張されて久しいが、この権利を明記した法律はない。②個人情報保護法は、2003年に制定された法律

で、個人情報の適切な取扱いを民間事業者に義務づけるとともに、自己情報に関する管理権を定めている。なお、個人情報の適切な取扱いの義務づけに関し、個人情報保護法は、表現の自由や学問の自由などに配慮して、報道・著述・学術研究・宗教活動・政治活動を目的とする行為については義務づけの対象外とした。④男女雇用機会均等法は、募集・採用・配置・昇進・定年・解雇などについて、男女の差別的取扱いを禁止している。

第2問 現代社会の特質と青年

【出題のねらい】

本問では、インターネットを利用した情報収集をめぐって交わされた二人の高校生の会話をもとに、多文化主義、情報社会、大衆社会など、現代社会をめぐる諸問題についての基本事項を取り上げた。また、防衛機制、「調べ学習」に関しても出題した。

【設問別解説】

問1 [9] ③

プレゼンテーションにおいて、自分の主張の正当性を根拠づけるために統計・資料を利用するには効果的である。しかし、データを「プレゼンテーションで発表する自分の結論に合致するように、統計上の数値などを改変」することはデータの改ざんであり、許されることではない。

①②④は、いずれも正しい。①あらゆる人間関係において相手の立場に配慮することは当然のことであり、インタビューもその例外ではない。②自分自身の意見と、引用元の意見との区別を明確にすることは、文章表現の基本であり、プレゼンテーションでも求められる。また、著作権に配慮し、出典を明示することも必要なことである。④インターネット上には、根拠のない情報も大量にアップされている。その情報が信頼できるサイトのものかどうか十分に注意する必要がある。また、複数のサイトの情報を照合するなどして、その真偽を慎重に判断することも大切である。

問2 [10] ②

多文化主義とは、少数民族などのマイノリティの文化をマジョリティの文化と同等に扱い、文化相互の共存を図ろうとする考え方、あるいはその考えに沿った政策を言う。こうした考えに照らせば、②は少数民族の伝統を尊重する立場からの取組みであり、多文化主義に沿った政策と言える。

①「カリキュラムの内容を統一し单一の公用語で教える」ことは、マイノリティの独自の言語・文化などの学習機会が損なわれることになりかねず、マ

ジョリティの文化に同化されることにつながる。したがって、多文化主義を推進する政策として不適切である。多文化主義の立場からすれば、むしろ、少数民族の歴史や言語などを教える授業を設けるべきであろう。**⑧**と**④**は性差別解消の取組みであって、複数の民族の共存を目指す多文化主義の考えに沿った取組みではない。**⑧**は日本の男女雇用機会均等法で規定されている間接差別の禁止を念頭においた記述である。間接差別とは、外見上は性別以外の事由を要件とする措置であっても、事実上、一方の性にとって相当程度の不利益を与えるおそれがあり、しかもそこに合理性・正当性が認められない措置のことと言う。**④**は性差別を解消し、男女の平等を実質化するための措置、すなわち、アファーマティブ・アクション(積極的差別是正措置)の例である。

問3 [11] ⑦

A：著作権とは、著作者がその著作物を排他的・独占的に利用できる権利のこと、著作権法では、著作物を「思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するもの」と定義している。一方、意匠権は、産業財産権の一つであり、意匠法では、意匠を「物品…の形状、模様若しくは色彩又はこれらの結合であつて、視覚を通じて美感を起こさせるもの」と定義している。簡単に言えば、デザインのことであり、意匠権はそのデザインを独占的に所有できる権利である。したがって、「文芸、学術、美術、音楽の範囲に属するもので、思想や感情を創作的に表現した作家のオリジナリティ」を権利として「保護する」のは著作権である。知的財産権は、こうした著作権と、意匠権、特許権、実用新案権、商標権などの産業財産権の総称である。

B：各種メディアを通じて提供される、映像や画像、音楽、文章、あるいはそれらの組合せを意味するコンテンツの制作・販売に関与する事業全般を、一般にコンテンツ産業と言う。日本政府は「新成長戦略」(2010年)を発表し、海外で人気が高い日本のアニメやマンガなどのコンテンツ(「クール・ジャパン」)の輸出促進を重点的な成長分野に位置づけた。具体的には、海外の番組枠の買取りやデジタル配信の強化、海外コンテンツの流通規制の緩和・撤廃、海賊版の防止などの措置を通じて、民間企業を中心としたクール・ジャパンの海外展開を図り、2020年までにアジアにおけるコンテンツ収入1兆円を実現することを目標として掲げている。ニッチ産業とは、すき間産業とも言い、市場全体の一部を構成する特定のニーズ(需要、客層)に対応した規模の小さ

い市場(ニッチ市場、すき間市場)に特化した産業のことである。ニッチ産業とコンテンツ産業は重なる部分はあるが、「映像やゲームなどの情報素材」をニッチとは言ないので、コンテンツが適切である。

C：日本では2005年に、特許権、実用新案権、半導体集積回路の回路配置利用権及びプログラムの著作物についての著作者の権利に関する控訴事件を専門に取り扱う知的財産高等裁判所が設置された。これは特別裁判所ではなく、通常の司法裁判所の一つである。特別裁判所は、日本国憲法第76条2項で、その設置が禁止されている。なお、特別裁判所とは、特定の身分あるいは事件のみを取り扱い、通常の司法裁判所の系列に属さない裁判所を言う。

以上のことから、最も適当な組合せは**⑦**となる。

問4 [12] ②

防衛機制とは、精神分析学者フロイト(1856～1939)の心理学説に由来する考え方で、欲求が満たされないことから自我崩壊の危機に陥った場合、無意識のうちに自我を守ろうとする心の働きのことである。そのうちの昇華とは、反社会的な欲求や感情を社会に受け入れられる価値ある行動へと置き換える心の働きであり、その例としては、**②**が適当である。

なお、**①**は空想の世界などに逃げ込んで不安を解消する逃避、**③**は自分の短所などを他人のものとみなす投射、**④**は他人の長所などを自分のものとみなして満足する摂取の例である。投射も摂取も同一視(同一化)に分類される。防衛機制には、これらばかりに、もっともらしい理屈をつけて自らを正当化する合理化、欲求を抑えつけて意識に上らないようにする抑圧、幼児期などの発達の前段階に逆戻りする退行、実現できない欲求を他の似たものに置き換えて満足する代償などがある。いずれも、無意識のうちに働く心の働きであることに注意しよう。

問5 [13] ⑥

A：フランクフルト学派第一世代のアドルノ(1903～69)の説明である。彼は強者や権威をもった者に対しては媚びへつらい、弱者に対しては暴力的にふるまう社会的性格を権威主義的パーソナリティと呼んで、これを批判した。なお、アドルノは、ホルクハイマー(1895～1973)との共著『啓蒙の弁証法』などにおいて、西欧近代哲学(啓蒙思想)の伝統を支えた近代的理性(啓蒙的理性)が、自己保存を目的とする他者支配のための道徳的理性に堕落したことで、第二次世界大戦やアウシュヴィッツなどのホロコースト(ナチスがユダヤ人などに対して組織

的かつ意図的に行ったとされる大量殺戮^{きつりく})といった野蛮な暴力的事象が発生したと論じたことでも知られている。

B：アメリカの社会学者リースマン(1909～2002)の説明である。彼は、『孤独な群衆』において、前近代社会にみられる、伝統に服従する伝統指向型や、近代社会で典型的にみられる、親や学校教育などを通じて内面化した規範に従ってふるまう内部指向型と対比しながら、他人指向型という言葉で現代人の類型化を試みた。この他人指向型という社会的性格類型のモデルになったのは、1940年代後半にアメリカの大都市で生活し物質的な「豊かさ」を享受していた中産階級だが、日本の大衆にも当てはまる点が多いと言えよう。

C：ドイツ生まれの社会心理学者フロム(1900～80)の説明である。彼は、『自由からの逃走』において、現代人は前近代的な束縛からの解放という意味での自由を手に入れたが、この自由は生活に安定感と意味を与える確かな基盤の喪失を通じてはじめて獲得されたと論じた。そして、現代人はこの自由の重荷から逃走して新たな隸従を求めるか、より積極的な自由の実現に向かうかという二者択一に迫られていると論じた。

以上のことから、最も適当な組合せは⑥となる。

第3問 日本経済の現状と課題

【出題のねらい】

本問は、日本経済の発展と現状を中心に、金融政策、労働・雇用問題や少子化対策などについて、基本的な知識と理解を試すことをねらいとしている。あわせて、分野横断的な設問や図表の読み取り問題も出題した。

【設問別解説】

問1 [14] ④

1986年から91年にかけてのバブル期に、金融機関は企業などに活発に融資を行った。しかし、バブル崩壊による景気悪化に伴い、受けた融資の返済に窮する企業が相次いだ。そのため、金融機関は不良債権(回収困難あるいは回収不能な貸付金)を抱えることとなった。これが金融機関の経営を苦境に陥れ、1990年代後半には大手金融機関の中にも経営破綻するところが現れた。

①円高は日本の輸出を不振にさせる要因なのだから、「円高は、日本の輸出企業にとって、国際競争力が増すなど有利に働き」という選択肢の論理は成立せず、不適当。景気拡大の要因としては、当時の低金利政策によって市中にあふれ出た資金が土地や

株式への投資に向けられたことによる資産価格の上昇を背景に、住宅投資・消費需要など、内需が拡大したことが大きかった。②市場機構において、需要の増加は価格上昇の要因となるのだから、「消費需要が著しく増加したため、物価が急速に下落し、デフレーションが進行」という選択肢の論理は成立せず、不適当。バブル期には、円高による輸入品価格の下落もあり、物価水準は安定していた。③この時期の資本収支は赤字が続いている。また、対外投資の増加は資本収支の赤字要因であるから、「対外投資が増加したことから、日本の資本収支は黒字基調が続いた」という選択肢の論理は成立しないことからも不適当と判断できる。

問2 [15] ②

例えば、2010年現在、ILO(国際労働機関)が定義した失業率に基づいて各国の失業率を比較すると、日本は5.1%なのにに対し、アメリカは9.6%，フランスは9.8%である(独立行政法人労働政策研究・研修機構『データブック国際労働比較2012』による)。

①完全失業者とは、仕事に就いておらず、仕事があればすぐに就くことのできる者で、仕事を探す活動をしていた者のこと。したがって、「就業する意志のない」者はこれに含まれない。③有効求人倍率とは、選択肢にあるように、「求職者一人あたりの求人数を示す数値」である。ということは、例えばこの値が2であったとすると、一人の求職者に対して二つの求人があることになるので、単純計算の上ではこの求職者は二つの求人のうちのどちらかで就業することが可能となる。反対に、例えばこの値が0.5であったとすると、二人の求職者に対して一つの求人しかないことになるので、単純計算の上では求職者のうちの一人は就業できない、つまり失業者が発生することになる。したがって、この値が低くなるほど、一般に完全失業率は高くなる。④近年、都道府県が若者の就業支援のための「ジョブカフェ」と呼ばれるセンターを設置していることは事実である。しかし、「国の機関であるハローワーク(公共職業安定所)」は現在でも公的職業紹介の中心的機関であり、これが「廃止され」たという事実はない。

問3 [16] ④

1950年代半ばから1970年代前半にかけての高度経済成長期には、工業化の進展に伴って、東京や大阪などの大都市圏に人口が集中し(過密化)，農山漁村部の人口が減少する傾向(過疎化)がみられた。若者が都市部で労働者となるために農山漁村部から移動したことが、その大きな要因である。したがって、

「農村部では」若者人口が減少し、「人口構成が高齢化する傾向を示した」という記述は正しい。

①高度経済成長をもたらした要因の一つに、国民の高い貯蓄率があげられる。すなわち、人々が積極的に銀行などに預金をし、銀行からその資金が企業に貸し出され、設備投資などに充てられたのである（間接金融方式）。したがって、「家計の余裕資金の大部分が、銀行預金ではなく株式投資に回された」という記述は、不適当。②1955年から1993年にかけて、日本の政党政治は、自由民主党（自民党）と日本社会党（社会党）との対立を軸に動いていた。この枠組みを55年体制と言うが、この体制下では、自民党が常に政権与党の座にあり、55年体制が崩壊するまでは社会党は政権に就くことはなかった。したがって、「両党は交互に政権を担当した」という記述は、不適当。③政府が高度経済成長期の1960年に「国民所得倍増計画」を策定したのは事実である。しかし、同じ1960年に政府は「貿易・為替自由化大綱」を策定し、貿易の自由化を進めるとともに、1967年からは資本の自由化をスタートさせた。つまり、高度経済成長期には「貿易や資本の自由化」を「拒否」したのではなく推進したのである。

問4 [17] ②

図と選択肢とを照らし合わせれば、特定の知識がなくてもおのずと正解に至れるタイプの設問である。図の「交通・通信費」をみると、いずれの階級でもその割合は14~15%台であって、大きな差はない。しかし、これは「支出額」ではなく割合であることに注意しよう。例えば年間収入が最も低いIの階級の場合、「交通・通信費」の1か月あたりの支出額は、1か月あたり消費支出21.5万円の14.9%であるから、およそ3.2万円である。これに対し年間収入が最も高いVの階級の場合、1か月あたり消費支出43.7万円の14.5%であるから、およそ6.3万円である。つまり、支出額でみると両者には2倍近い差があるので、「支出額は…ほぼ同じ金額である」という記述は不適当。

残る選択肢は、いずれも適当である。①は支出額ではなく「割合」での傾向をみている。「食料費」の割合は年間収入の階級がIからVへと上昇するのに伴って低下している。なお、消費支出に占める食料費の割合をエンゲル係数と言い、所得の上昇に伴って低下する傾向が指摘されている。③「実収入に占める消費支出の割合」を計算すると、最も年間収入の高いVの階級では約53%（実収入82.9万円のうちの消費支出43.7万円）だが、IVの階級では約59%，IIIの階級では約63%，IIの階級では約66%，最も年

間収入の低いIの階級では約75%となっており、その割合は一貫して「年間収入が低い階級になるほど…上昇する傾向にある」。④「教育費」に関しては、年間収入が高くなればなるほど、消費支出に占める教育への支出割合が高くなる傾向がある。したがって、支出額も高くなる傾向にある。

問5 [18] ②

近年の少子化の進行への対応として、政府は様々な子育て支援策を打ち出している。例えば、少子化社会対策基本法に基づいて少子化への対処施策の大綱を定めており、2010年には「子ども・子育てビジョン」が閣議決定された。このプランでは、社会全体で子育てを支えることなどを基本的な考えに据え、保育サービスの拡充に向けた数値目標などを盛り込んでいる。

①保育所と幼稚園は、法律上の位置づけや保育を行う者の資格の違いなどから、別々の施設として区分される（保育所は児童福祉法に基づく厚生労働省所管の施設／幼稚園は学校教育法に基づく文部科学省所管の学校）が、実際の保育活動の内容や保護者のニーズなどに重なりが大きいことから、その完全統合（幼保一元化）に向けた議論がされている。しかし、認定子ども園の制度はあるが、保育所と幼稚園が完全に一元化されたわけではない。③未就学児の医療費の自己負担を無料化する政策は、一部の地方自治体で独自に実施している例はあるものの、国などによる全国的な制度とはなっていない。④育児休業の取得は権利（取得することができる）であるから、「義務づけている」（取得しなければならない）とする趣旨の記述は不適当。

問6 [19] ⑥

A：日本銀行は、経済の安定化に向けて金融政策を実施するが、「今日…主要な手段としている」のは、「市中金融機関との間で国債や手形などの有価証券の取引を行う」公開市場操作である。かつてはこの他に、市中銀行に日本銀行が資金を貸し出す際の金利（公定歩合／基準割引率及び基準貸付利率）を操作する政策や、市中銀行が受け入れている預金に対する支払準備（市中銀行が日本銀行に預け入れるべき預金）の比率を操作する預金準備率操作（支払準備率操作）があったが、これらは今日、政策として使われていない。

B：「景気の回復を図る場合」には、市中銀行の資金量を増やしてコール市場の金利を引き下げる政策がとられる。すなわち、日本銀行が市中銀行から有価証券を買い入れ（買いオペレーション）、金融機関の資金量を増加させるのである。

C：資金量が増加すれば、コール市場における資金需要が低下し、金利も低下する。コール市場における金利が低下すれば、銀行が企業や家計に貸し出す際の市中金利も低下するため、例えば企業は資金を借りやすくなるので、それだけ設備投資などの増加が期待できる。こうして、金利を低めに誘導することで景気回復を図るわけである。

以上のことから、最も適当な組合せは⑥となる。

問7 [20] ④

労働者派遣法(労働者派遣事業法)が1985年に制定された当時は、派遣労働は通訳など専門的な職種に限って認められていた(すなわち特定の職種以外は禁止されていた)。しかし、その後の規制緩和の流れを受けて同法はたびたび改正され、警備業など限られた職種を除き原則的に認められるようになった(すなわち例外の職種だけが禁止となった)。

①「最低賃金法」は廃止されていない。すなわち現在でも、最低賃金法に基づいて、地域や職種ごとに最低賃金が定められている。②いわゆる残業など「時間外労働を従業員に命じる」には、労働基準法の規定により、労働者の代表(労働者の過半数で組織する労働組合があればその組合、それがない場合は、労働者の過半数を代表する者)と会社側との間で協定(三六協定)を締結することが必要である。したがって、この協定がなければ、たとえ「従業員本人の同意」があったとしても、時間外労働を命じることはできない。③公務員の争議行為は、現在でも一律に禁止されている。

問8 [21] ②

2008年に生じたアメリカの大手証券会社リーマン・ブラザーズの破綻(リーマンショック)をきっかけに起きた世界的な金融危機の影響で、日本の実質経済成長率は、2008年、2009年と連続してマイナスとなった。しかしマイナス成長は、戦後初めての経験ではない。戦後初のマイナス成長は、1974年のことである。これは前年に起きた第一次石油危機の影響によるものである。

残る選択肢は、いずれも適当である。①これまで長期にわたって黒字を続けてきた日本の貿易収支は、2011年に赤字を記録した。③例えば、2009年から2011年までは輸出も輸入も、日本の最大の貿易相手国は、中国である。④2012年度末の日本の国債発行残高(普通国債残高)は、約709兆円となる見込みである。一方、日本の2010年度の名目GDP(国内総生産)は、約479兆円である。このように、「国債発行残高…の額は日本の国内総生産の額を上回っている」。

第4問 グローバル化と国際社会の諸問題

【出題のねらい】

本問では、軍縮条約、地域紛争、国際法、国際政治の動向など、冷戦及び冷戦終結後の国際社会の諸問題について出題した。

【設問別解説】

問1 [22] ①

包括的核実験禁止条約(CTBT, 1996年)は、部分的核実験禁止条約(1963年)においては禁止されていなかった地下核実験も含めて、核爆発を伴うすべての実験を禁止した条約である。その発効のために、核兵器保有国及び核兵器を保有することが可能とされる計44か国の批准が必要だが、このうちアメリカ、中国、イラン、インド、北朝鮮、パキスタン、イスラエルなどが未批准(2012年8月現在)のため、発効していない。

②核拡散防止条約(NPT)は、1967年1月1日までに核実験に成功したアメリカ、ソ連(現在のロシア)、イギリス、フランス、中国の5か国を「核兵器国」と定め、この「核兵器国」以外の国・地域への核兵器の拡散を防止することを目的として作られた条約である。1968年に締結され、1995年には無期限延長が決まった。③2010年にアメリカとロシアとの間で新戦略兵器削減条約(新START)が締結されたが、これは戦略兵器の削減を目指したものであって、全廃を目指すものではない。核兵器に限し、全廃を目指した条約に、1987年に締結された中距離核戦力(INF)全廃条約がある。④非核三原則は、日本の国会で決議されたもので、国連ではその種の決議は採択されていない。

問2 [23] ④

韓国と北朝鮮は1991年に国連同時加盟を果たしている。そのため「両国は現在も国連に加盟していない」という記述は誤り。

①1959年に起きたキューバ革命の後、アメリカとの関係が悪化したキューバはソ連に接近した。1962年には、キューバにおけるソ連のミサイル基地の建設が明らかとなり、米ソ関係は一気に緊張した(キューバ危機)が、米ソの交渉を通じて危機は回避された。②第二次世界大戦の敗戦国であるドイツは、アメリカ、ソ連など戦勝国による共同統治下に入った。1949年には、アメリカ、フランス、イギリス占領地域がドイツ連邦共和国(西ドイツ)として、ソ連占領地域がドイツ民主共和国(東ドイツ)としてそれぞれ分離・独立した。そして西ドイツは1955年に北大西洋条約機構(NATO)、東ドイツは1956年にワルシャワ条約機構という、それぞれ「敵対する軍事同

盟に加盟」した。③1985年にソ連の最高指導者の地位に就いたゴルバチョフ(1931～)は、ペレストロイカ(建て直し、改革)、グラスノスチ(情報公開)とともに、西側諸国との軍事的な対決姿勢を放棄し協調的な外交方針への転換を図ろうとする新思考外交を、政策の柱として掲げた。こうした政策が、INF全廃条約の締結や、東欧諸国の民主化を促したと言われる。

問3 [24] ①

国連海洋法条約は、1982年に国連海洋法会議において採択され、1994年に発効した。この条約では、「いずれの国も、この条約の定めるところにより決定される基線から測定して12海里を超えない範囲でその領海の幅を定める権利を有する」と規定している。なお、1海里は1852mである。また、排他的經濟水域に関しては、「排他的經濟水域は、領海の幅を測定するための基線から200海里を超えて拡張してはならない」と定めている。すなわち、基線から測定して200海里以内の領海の外側の水域を排他的經濟水域として設定できるということである。

②条約はあくまで批准国・締約国だけを拘束する。⑨国際社会にも自然法に基づく国際法があると主張し、「国際法の父」と呼ばれたのは、ウィルソン(1856～1924)ではなく、グロティウス(1583～1645)である。ウィルソンは、アメリカ大統領在任中に国際連盟の創設を提唱したことで知られる。④「国家間の紛争を解決するための裁判所」は「国際刑事裁判所」ではなく国際司法裁判所である。「国際刑事裁判所」は国際法上の重大犯罪(戦争犯罪、集団殺害犯罪など)を行った個人を裁くための裁判所である。

問4 [25] ⑧

A：イラク戦争は、2003年に米英を中心とする多国籍軍とイラクとの間で起きた戦争であるから、冷戦期の戦争ではない。したがって、ベトナム戦争が空欄に入る。ベトナム戦争は、北ベトナム及び南ベトナム解放民族戦線と、アメリカ及び南ベトナムの親米政権との間で行われた戦争である。

B：多国籍軍とは、国連安全保障理事会の決議など国際的な合意に基づいて複数の国の軍隊により編制されたものである。湾岸戦争時に、米軍主体で編制された多国籍軍がその典型である。国連軍は、国連憲章に定められている国際平和と安全維持のための軍隊であるが、現在に至るまで、国連憲章に定めた正式の国連軍は編制されたことがない。

C：北大西洋条約機構(NATO)軍が介入した紛争は、コソボ紛争であって、チェチェン紛争ではな

い。コソボ紛争は、旧ユーゴスラビアのセルビア共和国コソボ自治州における、セルビア人とアルバニア人の民族紛争である。1998年頃に激化し、翌1999年には、セルビア人勢力によるアルバニア系住民迫害の阻止を理由に、北大西洋条約機構(NATO)軍が、セルビア人勢力への空爆という形で「人道的介入」を行った。国連安全保障理事会による武力行使容認決議がなかったことなどから、この介入の是非は大きな議論を呼んだ。チェチェン紛争は、ロシア連邦内のチェチェン共和国におけるチェチェン独立派とロシア連邦との紛争である。

以上のことから、最も適当な組合せは⑨となる。

問5 [26] ②

地雷禁止国際キャンペーン(ICBL)は、対人地雷の製造・使用の禁止を目的とした非政府組織(NGO)の連合体である。その活動は1997年のオタワ会議で121か国が署名した対人地雷全面禁止条約として結実した。

①世界保健機関(WHO)は政府間機関(IGO)であってNGOではない。また、アムネスティ・インターナショナルは国際的なNGOであるが、医療活動ではなく人権擁護活動を行っている。なお、国際的な医療活動に従事するNGOとして有名なものに国境なき医師団(MSF)がある。③日本国憲法上、「外交関係の処理」は「国会の権限」ではなく内閣の権限(第73条2号)である。また、「民間外交は禁止されている」という記述も誤り。いわゆる「民間外交」と呼ばれている民間人による国際交流は、国際法や関係各国の法令に反しない限り認められている。④国連総会の表決の方式は一国一票制度をとつており、加盟国以外の国家やNGOなどには議決権は認められていない。

第5問 地球環境の保全と持続可能な開発

【出題のねらい】

本問は、地球環境の保全と持続可能な開発をテーマに、オゾン層破壊や酸性雨、砂漠化や熱帯林破壊、地球温暖化といった地球環境問題、生命倫理に関わる医療問題など、基本的事項を問う内容となっている。あわせて、2011年3月に発生した福島第一原発の事故後の各国の原子力エネルギー政策の動向や利用の現状など、時事問題も出題した。

【設問別解説】

問1 [27] ③

国別二酸化炭素排出量の上位5か国は、中国、アメリカ、インド、ロシア、日本である。カナダは、この上位5か国の中に入っていないが、一人あたり

排出量では、アメリカに次いで多い。

①インドは、一人あたり二酸化炭素排出量が1.37 t CO₂で、世界平均の4.29 t CO₂を下回っている。②国別二酸化炭素排出量でみると日本よりも上位のインドや中国は、一人あたり排出量では日本より少ない。④中国、アメリカ、日本の二酸化炭素排出量の占める割合は合計で45.4%であり、50%を下回っている。

問2 [28] ④

環境省『世界の森林を守るために』によると、2000年から2010年までの平均で、毎年520万ヘクタールの森林が減少している。地域別では特に、南アメリカ、アフリカなど、国別でみると、ブラジル、オーストラリア、インドネシア、ナイジェリアの熱帯の森林を中心に、減少面積が大きい。その主な原因として、「木材伐採や農地への転用」などが指摘されている。

①「フロンガス」を紫外線の照射量に直すと正しい文となる。オゾン層は生物に有害な紫外線を吸収する言わば天然のバリアーであるが、地上から放出されたフロンガスが成層圏に到達すると、大量の紫外線を浴びて塩素原子を放出し、これが原因となってオゾン層を破壊する。なお、1985年にはオゾン層保護のためのウィーン条約が採択されている。②「ダイオキシン」を窒素酸化物・硫黄酸化物に直すと正しい文になる。酸性雨は、直接川や湖沼に流入したり、土壤に浸透して土を酸性化したりするなど、その被害は生態系全体に及ぶ。特にヨーロッパにおいて被害が深刻であるが、今後は産業活動を活性化させているアジア地域において、その被害が深刻化すると懸念されている。③砂漠化が進行している地域は、サハラ砂漠南部のサヘル地帯などアフリカがよく知られているが、中東や南アジア、南アメリカなどでも砂漠化の被害は報告されている。したがって、「アフリカ地域だけで進行している」という記述は誤りである。

問3 [29] ②

2001年に設置された原子力安全・保安院は、東京電力などの事業者に対する規制を行う特別の機関であった。しかし、原子力発電を推進している経済産業省・資源エネルギー庁の下に原子力安全・保安院をおいても、十分な検査や監督は期待できないという批判を受け、2012年に新たに、環境省の下に原子力規制委員会が設置され、原子力安全・保安院は廃止された。したがって、「原子力規制委員会を廃止して、原子力安全・保安院を創設」という記述は誤りである。

①イタリアでは、2011年6月に原子力発電再開の是非を問う国民投票が行われ、原発反対票が94%と多数を占めた。これを受け、ベルルスコーニ首相(1936～)は原発再開を断念する意向を表明した。③フランスの一次エネルギー供給に占める原子力の割合は、41.7%と諸外国に比べ高い。なお、日本は15.4%，アメリカは10.0%，ドイツは11.0%である(『世界国勢図会(2012/13)』による)。④ドイツは、2011年に原子力法を改正し、同法に基づき、2022年までに国内にある17基すべての原子力発電所を停止することになった。

問4 [30] ①

2009年に臓器移植法が改正され、生前における本人の意思が不明な場合でも、遺族が書面で承諾すれば、脳死者からの臓器提供が可能となった。ただし、本人が臓器移植拒否の意思表示をしている場合には、遺族が承諾したとしても、脳死者からの臓器提供はできない。

②安楽死法は制定されておらず、安楽死を法的に認める制度は日本にはない。ただし、その違法性を阻却する判例はある。なお、安楽死とは、末期がんなどで不治とされ、耐え難い苦痛を伴う患者の求めに応じて、医師が薬物を投与するなどして死に至らしめることを言い、オランダやベルギーなど、これを法的に認めている国もある。③インフォームド・コンセントとは、医師は患者に対して病状、治療内容などについて十分に説明し、患者の同意を得て、医療行為を行うべきだとする考え方を言う。したがって、これは「医師に一切の判断を任せる」という考えではない。④胎児の異常の有無の判定を目的とする出生前診断は、日本で行われている。近年は、羊水検査だけでなく、妊婦の血液を調べるだけで胎児の異常が判断できる新しい出生前診断が注目されている。しかし、出生前診断は、その結果として中絶が選択されるケースも考えられ、生命倫理上の問題が生じる場合がある。

問5 [31] ④

2010年、愛知県名古屋市において、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催された。同会議では、人類が自然と共生する世界を2050年までに実現することを目指す愛知ターゲットなどが採択された。

①「国連環境開発会議(地球サミット)」を国連人間環境会議に直すと正しい文になる。1972年に開催された国連人間環境会議において、人間環境宣言が採択されるとともに、国連で環境問題を専門的に扱う国連環境計画(UNEP)の設置の方針が決定され

た。②「バーゼル条約」をワシントン条約に直すと正しい文になる。バーゼル条約は、**有害廃棄物の国境を越える移動や処分を規制すること**を目的としている。③「モントリオール議定書」ではなく**京都議定書**が正しい。温室効果ガスの排出量を、1990年を基準に先進国全体で少なくとも5%削減するという目標が定められた。**モントリオール議定書**は1987年に採択された条約で、オゾン層の破壊につながるフロンガスの削減目標を定めたものである。

第6問 戦後国際経済の動向

【出題のねらい】

本問では、戦後経済の展開の中、グローバル化と国民生活をテーマに、貿易理論、国際収支、為替、グローバル化などについて出題した。

【設問別解説】

問1 [32] ①

イギリスの経済学者リカード(1772~1823)は、『経済学及び課税の原理』を著し、**比較生産費説**を唱えて自由貿易のメリットを主張した。これは、各国が比較優位にある商品の生産に特化し、比較劣位にある商品の生産は他国に委ねるという形の分業を行い、貿易を通じて特化した商品を交換すれば、各國とも貿易を行わなかった場合よりも利益を多く得ることができるという考え方である。

②③④はいずれも、自由貿易論の立場をとったリカードとは異なり、保護貿易論を唱えていることに注意しよう。②ドイツの経済学者リスト(1789~1846)の考えである。リストは、イギリスと比べて経済発展段階の低いドイツでは、国民的な観点に立った**保護貿易政策**をとる必要があることを説いた。経済発展段階の低い国では、輸入数量の制限や高い関税の賦課などにより競争力が弱い自国の**幼稚産業**を保護する必要があると説いた。③イギリスの経済学者マルサス(1766~1834)の考えである。マルサスとリカードは、穀物条例をめぐって論争を交わし、リカードが自由貿易の立場から穀物条例に反対したのに対し、マルサスは、地主を擁護する立場から穀物条例に基づく輸入規制の維持を唱えた。④のような考えを**重商主義**と言う。こうした説を唱えた経済学者に、例えば、イギリスのトマス・マン(1571~1641)がいる。

問2 [33] ⑤

A: IMF(国際通貨基金)は、1944年のブレトンウッズ協定に基づいて創設された。したがって、ブレトンウッズ協定が入る。スミソニアン協定は、1971年8月のニクソンショックを契機として崩壊した固

定為替相場制の立て直しのために、同年12月に開かれた会議である。

B: IMF体制では、アメリカのドルが国際取引の決済に一般的に使われる通貨、すなわち、**基軸通貨**とされた。したがって、基軸通貨が入る。預金通貨とは、通貨の一つで、普通預金や当座預金のような要求払い預金のこと言う。

C: ブレトンウッズ体制では、35ドル=1オンスのレートで、アメリカ政府は各國政府に対しドルと金との交換を保証することを義務づけられ、また、加盟各國は、自國通貨とドルとの交換比率をIMF平価の上下1%の範囲内に収まるようにすることを義務づけられた。こうして、金に裏づけられた**固定相場制**を採用することにより、IMFは為替の安定を目指したのである。したがって、固定相場制が入る。IMFが変動相場制を正式に承認したのは、1976年のキングストン合意に基づくIMF協定の改正によってである。

以上のことから、最も適当な組合せは⑤となる。

問3 [34] ④

消費財向けの無償の对外援助は、**経常収支**のうちの**経常移転収支**にマイナスとして計上される。

①海外旅行は経常収支のうちの**サービス収支**に、受取はプラスとして、支払はマイナスとして計上される。海外での自国民の旅行費用は、支払にあたり、マイナスとして計上される。②国連分担金や労働者の送金のように、対価を伴わない一方的な資金の移動は、**経常移転収支**に、支払はマイナスとして、受取はプラスとして計上される。国連分担金の拠出は支払にあたりるので、マイナスとして計上される。③海外から受け取った配当金は、経常収支のうちの**所得収支**にプラスとして計上される。

問4 [35] ③

多国籍企業とは、海外に多数の現地法人を設立し、世界的な事業活動を展開する巨大企業を言う。子会社や合弁企業を設立して、現地で生産・販売を行うようになると、工場機械設備や生産技術の投入のみならず、経営管理・販売のノウハウをもった技術者や経営管理・販売専門家の派遣が行われるなどして、企業活動が拡大する。このように多国籍企業の海外進出は、進出先の雇用を創出するだけではなく、技術の移転などの効果ももつ。

①WTO(世界貿易機関)に、中国は2001年に、ロシアも2012年に、それぞれ加盟した。②グローバル化の進展は、貿易の拡大だけでなく、資本取引の拡大ももたらしている。日本でもそれに対応するために、金融の自由化や日本版金融ビッグバンを通じ

て、金融面での規制緩和が行われてきた。④日本における外国人労働者受入れの状況を考えれば分かりやすい。日本は、出入国管理及び難民認定法に基づいて、外国人の「単純労働」への就労を原則として禁止している。また、EUでは域内の労働力の移動の自由は確保されているが、域外からの流入には制限を設けている。

問5 [36] ④

中国の人民元は暴落していないし、アジア開発銀行の緊急支援も受けていない。中国は、やや陰りはみえるものの高成長を維持しており、また、2011年の貿易収支は約1600億ドル(中国税関総署)の黒字を記録している。

①タイのバーツの暴落をきっかけに発生したアジア通貨危機(1997年)に対して、IMFなどの国際機関や日本・アメリカなどの先進国は経済支援を行った。②サブプライム・ローンと呼ばれるアメリカの低所得者向け住宅ローン問題に起因するアメリカの大手証券会社リーマン・ブラザーズの破綻を契機に、「100年に一度」とも言われる世界金融危機が生じた。③2009年、ギリシャで財政危機が表面化し、深刻化した。この危機に対処するため、2010年5月、ギリシャに対してEUやIMFが資金支援を行った。その後、アイルランド、ポルトガルも財政危機に陥り、EUやIMFが緊急融資を行った。

倫 理

【解答・採点基準】 (100点満点)

問題番号	設問	解 答 号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	⑥	2	
	問2	2	③	3	
	問3	3	③	3	
第1問 自己採点小計			(8)		
第2問	問1	4	④	3	
	問2	5	③	3	
	問3	6	③	3	
	問4	7	①	2	
	問5	8	②	3	
	問6	9	③	3	
	問7	10	①	2	
	問8	11	②	2	
	問9	12	②	3	
第2問 自己採点小計			(24)		
第3問	問1	13	②	3	
	問2	14	②	3	
	問3	15	①	3	
	問4	16	①	2	
	問5	17	④	2	
	問6	18	②	3	
	問7	19	④	3	
	問8	20	③	2	
	問9	21	③	3	
第3問 自己採点小計			(24)		
第4問	問1	22	③	2	
	問2	23	③	3	
	問3	24	①	2	
	問4	25	⑧	3	
	問5	26	②	3	
	問6	27	①	3	
	問7	28	③	2	
	問8	29	⑥	3	
	問9	30	③	3	
第4問 自己採点小計			(24)		

問題番号	設問	解 答 号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	31	④	3	
	問2	32	③	3	
	問3	33	②	2	
	問4	34	④	2	
	問5	35	④	3	
	問6	36	⑥	2	
	問7	37	③	2	
	問8	38	②	3	
第5問 自己採点小計			(20)		
自己採点合計			(100)		

【解説】

第1問 青年期の特質と発達課題

【出題のねらい】

本問は、青年期に関する基礎的な知識と理解力を試すことをねらいとしている。青年期の特質や防衛機制に加え、簡単な資料読み取り問題も出題した。

【設問別解説】

問1 1 ⑥

防衛機制(防衛反応)とは、葛藤(コンフリクト)や欲求不満(フラストレーション)によって心が不安定な状態になったとき、自我を守ろうとする心の無意識の働きであり、オーストリアの精神分析学者フロイト(1856~1939)などにより明らかにされた(下に防衛機制の代表的なものをあげておく)。下の表にある説明からも分かるように、A反動形成の内容はウ、B同一視の内容はイ、C合理化の内容はアがそれぞれ正しい。したがって、⑥の組合せが正解となる。

なお、エは欲求不満を合理的に解決したのだから防衛機制ではなく合理的解決にあたる。これは防衛機制の一つである「合理化」ではないので注意したい。

《防衛機制の例》

- 1 抑圧……社会的に好ましくない欲求を記憶に上らせずに忘れようとする。
- 2 合理化……自分の行動に対してもっともらしい理由をつけ、自己正当化する。
- 3 同一視……尊敬する他者のもつ特質などを自分の中に取り入れて満足する。
- 4 反動形成……抑圧された欲求とは正反対の行動を

とる。

- 5 逃避……困難に直面したとき、その状況を避ける。
- 6 退行……欲求が満たされないときに、前の発達段階に戻る(赤ちゃん返りなど)。
- 7 代償……満たされない欲求をそれとは異なる他の欲求で満たそうとする。
- 8 升華……満たされない欲求を社会的に価値の高い活動に転換する。

問2 [2] ③

ドイツの心理学者レヴィン(1890～1947)は、青年を、子どもの集団と大人の集団のどちらにも完全には属さないという意味でマージナル・マン(周辺人、境界人)と呼んだ。

①青年期を「第二の誕生」と名付けたのはホリングワース(1886～1939)ではなくルソー(1712～78)なので誤り。フランスの思想家ルソーは、青年期が人間として精神的に自立する時期であることから、「私たちは、いわば、二回この世に生まれる。一回目は存在するために、二回目は生きるために」(『エミール』)と述べ、青年期を「第二の誕生」と名付けた。なお、アメリカの心理学者ホーリングワースは、幼児期が母親から肉体的に離乳する時期であるのに対し、青年期は親から精神的に自立する時期であることから、それを心理的離乳期として捉えた人物である。②ニートではなく、フリーターについての説明になっているので誤り。ニート(NEET: Not in Education, Employment or Training)とは、一般に、就学も就業もしておらず、職業訓練も受けていない若者のこと。内閣府の定義では、15歳以上34歳以下で、どの学校にも通学しておらず、普段収入を伴う仕事をしていない独身の若年無業者のことである。就業していないことがフリーターと異なる。④近代社会以前には青年期は社会的に認知されておらず、また、子どもはイニシエーション(通過儀礼)により一足飛びに大人集団の仲間入りをしていたと考えられているので誤り。青年期が人間の発達段階の一つとして位置づけられるようになったのは一般に産業革命を経た工業社会成立以降だとされる。なぜなら、工業化により、高度な知識や技能を習得する必要性が生じ、国家もそのための学校制度を整えるなど、大人になるための準備期間が必要になったためである。さらに20世紀以降の先進国では社会が要請する知識・技能が高度化したため、青年期は長期化する傾向にある。

問3 [3] ⑧

日本では「結婚すべきだ」「結婚したほうがよい」と回答した者を合わせた割合は77.3%(22.9%+54.4%)、韓国では73.3%(34.9%+38.4%)となっており、両国とも5割を超えており、一方、イギリスではその割合は42.0%(15.6%+26.4%)、フランスでは41.2%(12.4%+28.8%)となっており、両国とも5割を下回っている。

①「結婚しないほうがよい」と回答した者の割合が最も高いのはイギリス(5.0%)ではなく、フランス(8.3%)である。②「結婚すべきだ」と回答した者の割合が最も高いのは日本(22.9%)ではなく、韓国(34.9%)である。④アメリカでは「結婚しなくてもよい」「結婚しないほうがよい」と回答した者を合わせた割合は32.0%(28.8%+3.2%)となっており、5割を超えていない。

第2問 思想の源流

【出題のねらい】

本問は、「人間の所有欲」をテーマとして、東西の源流思想を総合的に扱った問題である。設問では、古代ギリシア思想、キリスト教・イスラーム教といった世界宗教、ジャイナ教や仏教などの古代インド思想や、中国の思想を取り上げるとともに、資料文や本文の趣旨読取り問題も出題した。

【設問別解説】

問1 [4] ④

資料文は、アリストテレス(前384～前322)の『政治学』(田中美知太郎、北嶋美雪、尼ヶ崎徳一、松居正俊、津村寛二訳、中公クラシックス)からの引用である。資料文の後半部分に「幸福に生きるということは、外部的な善を必要以上に所有しながら徳において欠けている人々よりも、品性と知性を高度に練磨して外部的な善の所有はほどほどにしている人々にこそ、よりいっそうそなわっているのである」というアリストテレスの主張が見られる。この主張に合致するのは、④の「限界なく外部的な善を求めながら徳において欠けている者は、必要以上に外部的な善を求めず徳をそなえる者に比べて、幸福とは言えない」という記述である。

①設問の指示にあるように、この資料文は「外部的な善(富、名声など)と身体の善(健康、美貌など)と精神の善(勇気、節度、正義、思慮などの徳)の三つの善をそれぞれどれだけもつべきかについて、人々の意見が分かれる中で、アリストテレスが自身の考えを述べたもの」である。アリストテレスは、「外部的な善を必要以上に所有しながら徳において欠けている人々」に比べ、「品性と知性を高度に練

磨して外部的な善の所有はほどほどにしている人々」の方が幸福と結び付くと主張している。したがって、「外部的な善は精神の善よりもいっそう尊く、幸福な生活に最も関わるものである」とする記述は、資料文のアリストテレスの主張に合致しない。②資料文は、その前半部分で「人々は外部的な善をそなえることによって徳を獲得し保持するのではなく、むしろ徳をそなえることによって外部的な善を獲得し保持するのである」と述べている。したがって、精神の善(勇気、節度、正義、思慮などの徳)をそなえることが外部的な善(富や名声など)の獲得に「結び付くことはなく」、「むしろ外部的な善をそなえることで徳を獲得することができる」とする記述は誤り。③資料文は、「外部的な善をそなえること」が「徳を獲得するうえで有効な手段」となるといった主張をするものではない。

問2 [5] ③

プラトン(前427～前347)は、人間の魂を理性・気概・欲望の三つの部分に分け、これらを二頭の馬(ペガサス)(気概・欲望)とその御者(理性)にたとえた。彼によれば、天上へ向かおうとする馬(気概)と、地上に向かいがちな馬(欲望)を、御者(理性)がコントロールできたときに、魂の三部分である理性・気概・欲望はそれぞれ知恵、勇気、節制という徳を実現して調和を保ち、正義の徳が実現する。したがって、気概が「理性と欲望を統制し正義の徳へと導く役割を担う」とする記述は誤り。

①プラトンによれば、事物の原型・理想としてのイデアは、人間の身体的感覚によっては知覚することができない。イデアを認識するのは、理性の働きによる。②プラトンによれば、人間の魂はかつてイデアの世界(イデア界)に住んでいたが、この世(現象界)では肉体という牢獄に囚われている。そして人間の魂は、感覚で捉えられる個々の事物を真の实在であると錯覚し、真の实在であるイデアを忘却していると言う。しかし人間の魂は、この不完全な現象界にあっても、イデアを想起(アナムネシス)し、それに憧れる。こうした、価値あるもの、理想的なものを求める向上的な愛をエロースと言う。④プラトンは、理想的な国家のあり方を人間の魂のあり方と結び付けて説いた。すなわち、知恵の徳をそなえた統治者が、勇気の徳を身につけた防衛者と、節制の徳を身につけた生産者を指導し全体の調和がとれたとき、国家に正義が実現するとした。そしてプラトンは、善のイデアを認識する哲学者が統治者になるか、統治者が理性を働かせて哲学を学ぶか、そのいずれかが求められると説いた。プラトンが説

いたこのような政治の理想的なあり方を哲人政治と言ふ。

問3 [6] ③

パウロ(?~64?)は、熱心なユダヤ教徒として、最初はキリスト教徒の迫害に加わっていたが、復活したイエス(前4?~30?)の声を聞くという宗教的体験を経て回心し、その後はイエスの教えをユダヤ人以外の異邦人に伝道すること(異邦人伝道)に力を尽くした。彼によれば、罪深い人類を救うために、神がイエスを神の子としてこの世に送り、十字架のあがな(懲罰)のだとされる。そしてパウロは、イエスの死と復活に示された神の愛を信じることによる救いの道を説くとともに、信仰の核心を「人が義とされるのは、律法を守ることによるのではなく、信仰による」と主張した(信仰義認論)。

①民族宗教であるユダヤ教のヤハウェ(神)についての記述である。ヤハウェは裁きの神という側面が強い。また、とりわけパリサイ派は律法の厳格な遵守を重視する傾向が強く、イエスはそうした形式にこだわる律法主義のあり方を批判した。なお、キリスト教で説かれる神(イエスの説く神)は、悪い者のうえにも良い者のうえにも同じように恵みを与え、分け隔てなく愛する無差別・無償の愛(アガペー)を全人類に与える愛の神としての側面が強調される。②キリスト教では、『旧約聖書』は『新約聖書』とともに聖書とされている。『旧約聖書』は律法・預言などからなるユダヤ教の聖典であるが、『旧約聖書』という呼称はキリスト教から見てのものであり、「旧約」とは、神がイスラエルの民と結んだ古い契約を意味する。『新約聖書』は、イエスの生涯と言行を記した四つの福音書(マタイ伝・マルコ伝・ルカ伝・ヨハネ伝)や使徒たちの手紙などからなる。なお、新約とは、イエスによってもたらされた神と人間との新しい契約を意味する。④キリスト教会最大の教父とされるアウグスティヌス(354~430)は人間の原罪を強調し、人間は罪深く、神の恩寵によらなければ善を志すこともできないし、救われることもないと考えた。したがって、「人間は自らが望む善を自発的に行うことによってのみ、神の恩寵により原罪から救われる」という記述はアウグスティヌスの考えに反する。

問4 [7] ①

空欄 [a] には「業」が入る。古代インドで見られた輪廻の思想では、生あるものは死後、生存中の業(カルマ、行為)に相応しい姿に生まれ変わり(転生)，これを無限に繰り返すあいだは心の安らぎを

得ることができないと考えられた。それゆえ、インドでは、救いを輪廻からの解脱に求める教えが説かることになった。③と④に出てくる「身分」は正解とはならないが、古代インド社会は、バラモン(祭司)、クシャトリア(王侯・武人)、ヴァイシャ(庶民)、シューデラ(隸属民)の四つの身分(ヴァルナ)を基本とするカースト制度によって秩序づけられていたということを押さえておきたい。⑤と⑥に出てくる「気」も不適当。宋代の中国で生まれた朱子学によれば、氣とは、あらゆるものを構成する物質的な要素を意味する。

空欄**b**には「勝者」が入る。仏教とほぼ同時代(前5～前4世紀頃)にヴァルダマーナ(マハーヴィーラ、前549?～前477?)によって開かれたジャイナ教(ジナ教)は、徹底した苦行と不殺生(アヒンサー)を説き、商人階級を中心に大きな影響を与えた宗教である。ジャイナとは、迷いに打ち克った勝者(ジナ)を意味する。②と⑥に出てくる「慈悲」は正解とならないが、大乗仏教では、他者に安樂を与える(与楽)とともに、他者の苦しみに同情しそれを除去すること(抜苦)を願う心である慈悲の重要性が強調されるということを押さえておきたい。④と⑥に出てくる「修証一等」も不適当。修証一等とは、日本に曹洞宗を伝えた道元(1200～53)の説く、坐禅の修行と悟りとの不二一体性を言う。道元によれば、坐禅は悟りに到達するための手段ではなく、坐禅に打ち込む姿がそのまま悟りの姿であるとされる。

したがって、①の組合せが正解となる。

問5 **8** ②

イスラーム教の聖典『クルアーン(コーラン)』では、モーセ(前13世紀頃)やイエスなども神の言葉を預かり人々にそれを伝えた預言者としている。ただし、イスラーム教では人類の歴史における最大にして最後の預言者はムハンマド(マホメット、570?～632)であるとされている。

①イスラーム教は、アッラーを唯一絶対の神と信じる一神教である。万物を創造したアッラーは、この世を終焉させる全知全能の神とされる。アッラーの偉大きさはどのようなものにも比較することができず、アッラーを偶像によって表すことは許されない(偶像崇拜の禁止)。したがって、「偶像崇拜を重んじる宗教である」とする記述は誤り。③イスラーム教においては、預言者ムハンマドはあくまでも人間であって、神と同一の存在ではないし、神の子でもない。なお、キリスト教の正統教義においては、父なる神と子イエスと聖霊は一つのものの三つの位格

(ペルソナ)であるとする三位一体の考え方方がとられている。④断食は、イスラーム教徒が神に対して果たすべき義務である五行(信仰告白、礼拝、断食、喜捨、巡礼)の一つである。断食月(ラマダーンの月)にイスラーム教徒は日の出から日没までのあいだ一切の飲食物を断ち、ムハンマドの時代に受けた迫害の際に味わった飢えを追体験することで、食物を恵むアッラーに感謝する。したがって、「断食月であっても、肉類以外のものについては昼夜を問わずに食すことができる」とする記述は誤り。

問6 **9** ③

ソクラテス(前470?～前399)は、「ソクラテス以上の知者はいない」というデルフォイの神託を契機に、当時、賢者との評判が高い人々を訪問し、問答を行った。その結果得られたのは、次のような確信であった。すなわち、賢者だと評判の対話の相手は世間から知者だと思われ、自分自身でもそう思っている。ところが、実際は魂にとって最も大切な善美的事柄について何も知らないし、自分が知らないということにも気づいていない。もし、自分が彼らよりも優れているとすれば、それは自分は何も知らないという自覚があるという点であろう、とソクラテスは考えたのである。このような自覚のことを無知の知と言う。なお、相手にもこの無知の知を自覚させ正しい知に至るのを手助けするソクラテスの方法は問答法(助産術)と呼ばれる。

①相対主義の態度をとり、「人間は万物の尺度である」と説いたのは、ソフィストのプロタゴラス(前500?～前430?)である。ソクラテスは、普遍的な真理は存在しないと説くソフィストとは異なり、人間の生き方の指針となる普遍的真理を探求した。②ソクラテスが「善とは何かを知ることと善を行うこととは一致しない」と考えたとする記述は誤り。ソクラテスは、善とは何かを正しく知ればおのずから善い行いができるはずだという知行合一の立場をとった。④ソクラテスではなく、ゼノン(前335?～前263?)を祖とするストア派の思想についての記述である。ヘレニズム時代のストア派は、人間には自然(宇宙、マクロコスモス)の原理であるロゴス(理性)の種子が等しく分有されているとし、その意味ですべての人間が平等であると説いた。ここから、ポリスに縛られることのないコスモポリテース(世界市民)として生きることが、人間の理想とされた。なお、ストア派によれば、人間はロゴスの種子を宿す小宇宙(ミクロコスモス)であり、そのロゴスに従って生きることにより、情念に動かされることのない理想の境地(アパティア)に至ることができ

る。ストア派は、ここから、「自然に従って生きること」を生活信条とした。

問7 [10] ①

ア：孟子の思想についての記述である。孟子(前372年～前289年)によれば、人は誰でも、仁・義・礼・智という四徳の芽生え、すなわち四端しきしゆうを生まれながらにそなえている。仁の芽生えが惻隱の心(他者を思いやる心)、義の芽生えが羞惡の心(自己の不善を恥じ、他者の不善を憎む心)、礼の芽生えが辭讓の心(他者に譲る心)、そして智の芽生えが是非の心(善悪をわきまえる心)である。これらをうまく育てていけば四徳を身につけることができるとするのが、孟子の考え方である。

イ：莊子の思想についての記述である。莊子(生没年不詳)は、善と惡、美と醜といった価値の區別・対立は人間が小賢しい知恵を働かせた結果生じたものであるとし、ありのままの自然の世界においては、あらゆるもののは価値は齊せいしいと説いた(万物齊同せいどう)。そして、そのような相対的な区別を生む人為を去って、天地自然と一体となり(心斎坐忘), 絶対的な自由の境地に遊ぶ人を、真人しんじん(至人しじん)と呼んで、人間の理想とした。

ウ：韓非子の思想についての記述である。法家として知られる韓非子(？～前233年)は、法律や刑罰に基づく信賞必罰の実践を強調する法治主義を主張した。

エ：墨子の思想についての記述である。墨家の祖とされる墨子(生没年不詳)は、孔子など儒家の説く仁は近親重視の差別的な愛(別愛)であるとしてこれを批判し、血縁や身分を超えた無差別・平等の愛(兼愛)と、それにより互いを利すること(兼愛交利)を重んじた。

以上により、適当な組合せは①となり、これが正解となる。

問8 [11] ②

この選択肢の記述は、ウパニシャッド哲学で説かれる梵我一如を想定したものであり、ブッダ(釈迦：前463年～前383年)の思想を示したものではない。ウパニシャッド哲学は、宇宙の本体であるブラフマン(梵)と個々人の自我の本体であるアートマン(我)が一体であること(梵我一如)を悟ることで輪廻の苦しみから解脱できると説く。また、梵我一如の境地に到達するためには、欲望に囚われている小さな自我を否定しなければならないとし、世俗の生活から離れ、苦行や瞑想に励むことを説いた。

①中道についての記述である。ブッダは、快樂と苦行の両極端を排した修行のあり方(中道)の大切さ

を説いた。中道の具体的な実践のあり方が、正見(正しい見方)、正思(正しい考え方)、正語(正しい言葉)、正業(正しい行為)、正命(正しい生活)、正精進(正しい努力)、正念(正しい思念)、正定(正しい瞑想)という八正道(八聖道)である。③涅槃寂靜についての記述である。ブッダが到達した根本的な四つの真理を四法印(一切皆苦・諸行無常・諸法無我・涅槃寂靜)と言う。その内容は、(1)人生は苦しみに満ちているということ(一切皆苦)、(2)あらゆるものは時の流れとともに絶えず変化し、生滅していくということ(諸行無常)、(3)いかなる存在も不变の実体をもたないということ(諸法無我)、そして(4)これらの真理を悟ると、人は、煩惱の炎が消えた安らぎの境地に達することができる(涅槃寂靜)，ということである。④無明についての記述である。無明とは、ブッダが苦の根本原因として見いだしたものであり、この世界を貫く真理(ダルマ、法)についての根源的な無知を言う。

問9 [12] ②

人間の所有欲には「道徳性を失わせる側面がある」とする前半部分の記述は、本文第1段落の「人間の所有欲の追求は満足を知らないだけでなく、人間から道徳性を奪う危険性をもつ」とする記述に合致する。また、「自己の欲望を杓子定規に抑制するのではなく、自らの人生の目的に照らして、自覚的に吟味していくことが大切である」とする後半部分の記述は、第3段落の「人間の所有欲をやみくもに抑制すれば、それで問題がすべて解決するというわけではない。大切なのは、どのような欲望をどのようになかたちで充足するのかを自覚的に吟味することであ」るとする記述や、最終段落の「自己の所有欲を、自らを取り巻く社会との関わりにおいて、そして自分がいかに生きていくかに照らして、主体的に吟味する習慣を身につける必要があるだろう」とする記述に合致する。したがって、②が正解となる。

①人間の「所有欲を契機とする活力に満ちた営為」に「全幅の信頼をおく」とする記述は、所有欲にふりまわされたり、私欲に目がくらむような人間のあり方に対して警鐘を鳴らしている本文の趣旨に反する。③本文では、最終段落で「自己の所有欲を、自らを取り巻く社会との関わりにおいて、……主体的に吟味する習慣を身につける必要がある」と述べられていることから、「社会との関わりを断ち切り、自らの価値観と信念に従って欲望を統制していくことが求められる」とする記述は本文の趣旨に反する。④本文では、「所有欲を満たすこと」が、本当に人間の幸福と直結するのかどうか、という疑

問を投げかけている。そして、最終段落で「他者を思いやる余裕がなくなるようなことは避けるべきである」と述べて、所有欲に翻弄される人間のあり方に警鐘を鳴らしている。こうしたことから、「人間はあるがままに欲望を追求すべきであり、それを抑制することは好ましいことではない」とする記述は、本文の趣旨に照らして適当でない。

第3問 日本の思想

【出題のねらい】

日本の思想について、近世(安土桃山・江戸時代)の位置づけを柱としながら、概観したものである。特に出題頻度の高い国学、江戸儒学、日本仏教、近代思想などの分野については、網羅的に出題した。

【設問別解説】

問1 [13] ②

折口信夫(1887～1953)は、柳田国男に学んだ民俗学者・歌人である。彼は、共同体の外部からの来訪者を「まれびと(客人)」とする古くからの考えに注目し、「まれびと」を豊かな常世の国から定期的に訪れる神と考え、和歌や物語はこの神に関わって発せられた言葉に源流をもつとした。

①柳田国男(1875～1962)は、武士ではなく農民など、民間伝承の担い手としての民衆を常民と呼び、これを研究する民俗学を創始した。彼は常民の研究のためには文献史料ではなく、口承伝承や民具、行事などを重視した。③加藤周一(1919～2008)は、日本の文化を雑種文化と呼んだ。加藤の名を知らなくても、古代から積極的に外来文化を取り入れ、固有の文化と融合しながら日本文化が作り上げられてきたことはしばしば指摘されるから、その観点から判断できるだろう。④和辻哲郎(1889～1960)は、人間を間柄的存在として捉え、人間の学としての倫理学を主張した。つまり、西洋に見られるような孤立した個人を前提とする倫理ではなく、共同体の中に生きる「人間」の倫理を論じたのである。

問2 [14] ②

センター試験の「倫理」では、必ず資料の読解問題が出題されるが、最近は古文や漢文がほとんど出題されていない。ただし、この文章は古文とはいえ幕末期のもので、しかも常用漢字、新仮名遣いに改めてるので、明治期の資料と同じ感覚で読めるはずである。

『茶湯一会集』の筆者である井伊直弼(1815～60)は、幕末の彦根藩主で大老を務め、最後の將軍徳川慶喜(在位1866～67)の擁立や欧米との通商条約締結に尽力したが、桜田門外の変で暗殺された。彼は茶

人としても有名で、千利休の提唱した侘び茶の精神の延長上に、この本を書いた。今日でも一期一會という言葉を普通に使うが、「1回限りのこと」というような表面的な理解では、正解できない。きちんと資料を読んで選択肢を選ばなければならない。

正解の②の内容は、「いつも同じ物をもちい、かぎり、手前まで尋常にして、心を引き替え改めもてなす事、茶道の大本なり」という部分と、「幾度おなじ主客公会するとも、今日の会にふたたびかえらざる事を思えば、実に我が一世一度の会なり」という部分が正しく理解できれば、その通りの内容を言い換えたものだと分かる。

①同じ客に対しても、「主人は万事に心を配り、いささかも籠未なきよう深切実意を尽し」と言っているのだから、選択肢の後半はこれと正反対である。②先ほど注意したように、「1回限り」というような表面的な理解では引っかかってしまう。「幾度おなじ主客公会するとも」というのが前提だから、同じ客を二度と招いてはいけないなどとは言っていない。また、「手前まで尋常にして」も、つまり茶を点てる所作はいつも通りだとしても心を改めてもてなすべきだと言っており、手前を変えろとは言っていない。④これも同じように、「いつも同じ物をもちい、かぎり、手前まで尋常に」したとしても、「心を引き替え改めもてなす事」が重要だと述べているのだから、繰り返しを否定しているのではなく常に新たな気持ちでもてなすべきだと言っている。したがって、そうした態度を「論外である」とする記述は誤り。

問3 [15] ①

a の清明心(清き明き心)は、他人に対して、あざむき偽るところのない心情を言う。これは、神に対するときの心であると同時に、人ととの関係における道徳も示していた。なお、存心持敬は、日本の朱子学者である林羅山(1583～1657)らの言葉で、為政者は敬によって欲望や情念を捨て(持敬)，本来の心を保ち(存心)，そのことによって天と通じ合い合一しなければならない(天人合一)ということを意味する。天道は、江戸時代の農政家として知られる二宮尊徳(1787～1856)の言葉で、彼は農業が天道と人道が合わさって成り立つと考え、分度(分をわきまえる)と推讓(将来に備え他者に譲る)による僕約を勧める報徳思想を説いた。

b の和も、清明心と同じく共同体の秩序を維持するための倫理である。聖徳太子(574～622)が制定したと伝えられる「十七条憲法」は、第1条で「和をもって貴しとなし」と述べ、和の精神を強調

している。

したがって、①の組合せが正解となる。

問4 [16] ①

賀茂真淵(1697～1769)は、『万葉集』の歌風を、男性的でおおらかな「ますらをぶり」だとして、仏教や儒学の影響を受けないこのような簡素で力強い精神を尊重すべきだと主張した。
かんながら

②惟神の道は、本居宣長(1730～1801)が『古事記』の神々の事績に見られる、生まれながらの真心に基づく人為の加わらない生き方として指摘した。
③幽玄は、室町時代に強調された、言葉や形にあからさまに表れない、秘められた美や奥深い余情などを表す言葉である。④からごころ(漢意)は、本居宣長が、儒学や仏教に見られるような理屈でものごとを捉えようとする精神を批判して用いた言葉である。

問5 [17] ④

本居宣長は、世の中の様々なことに出会い、その趣や味わいをそのまま感受して「ああ！」と心が動かされること(あはれ)を、日本の文芸の本質として説いた(問4の解説も参照)。

①これは、問4で正解となった賀茂真淵の「ますらをぶり」の説明である。②穢れや禊の説明自体は正しいが、「もののあはれ」とは関係がない。③これは、邪馬台国の女王と伝えられる卑弥呼に見られるようなあり方として正しいが、「もののあはれ」とは関係がない。

問6 [18] ②

平安時代には本地垂迹説が広まり、日本の神はインドの仏が仮の姿をとって現れた存在だと考えられた。また、仏教と伝統的な山岳信仰が結び付いて修驗道も生まれた。こうした神仏習合は明治時代に禁止されるまで続き、仏教寺院の中に日本古来の神々の社を建てたり、神社の境内に、仏事を修するための寺院である神宮寺などがおかれることが珍しくなかった。

①加持祈禱と結び付く真言宗・天台宗の密教は、日本独特の教えではなく中国から伝えられたもので、奈良時代ではなく平安時代のはじめから流行した。③鎌倉時代になると、中国仏教の影響を受けた末法思想に基づいて、淨土信仰から淨土宗・淨土真宗が生まれた。坐禅による自力修行を勧める禪宗(特に曹洞宗)は、末法思想を批判した。④室町時代の無常観(無常感)は、仏教の影響を受けながら、素朴で簡素な侘(侘び)や、秘められた美である幽玄などの日本的美意識を生み出して、水墨画・石庭・能などの芸術や生活文化にも影響を与えた。

問7 [19] ④

垂加神道は山崎闇斎(1618～82)が創始したもので、朱子学と神道を融合して神人合一を説いた。また幕末の尊王論に影響を与えた思想としては、垂加神道のほかに、平田篤胤(1776～1843)の復古神道がある。なお、中江藤樹(1608～48)は、天地人をつらぬく道徳原理としての孝を説いた人物で、日本陽明学の祖といわれる。

①林羅山は朱子学が幕府の官学となる道を開いたが、それは上下定分の理などの考え方が江戸時代の社会制度に合致していたためである。②伊藤仁斎(1627～1705)は古義學を確立し、人に対しても自分に対しても偽り飾ることのない誠の大切さを説いた。③荻生徂徠(1666～1728)は経世済民を重要視し、古典の言葉の意味を探求する古文辞学を唱え、中国古代の先王の道を理想とした。

問8 [20] ③

福沢諭吉(1834～1901)は明治の啓蒙思想家で、センター試験では、彼の説いた天賦人権論、実学、独立の精神、脱亜論などがよく出題される。ここでは、中津藩の下級武士の家に生まれた福沢が、本人の実力や努力ではなく、生まれによって貴賤が決まる身分制度を批判した言葉を取り上げた。

そのほかの人名を、倫理の文脈の中で押さえておけば、①夏目漱石(1867～1916)は、日本の近代化は西洋のような内発的開化ではなく、外発的開化にすぎないと主張した。②丸山真男(1914～96)は、第二次世界大戦後に活躍した政治学者で、様々な思想が無秩序に混在する日本思想の特質を「精神的雜居性」と呼んで批判した。④中江兆民(1847～1901)は、自由民権運動の中で、為政者の恵み与える恩賜的民権を育てながら、人が自ら獲得する回復的(恢復的)民権を目指すべきだと説いた。

問9 [21] ③

近世の新しい美意識としては本文第4段落のわび・さび、学問の方法論としては第5段落の原典批判、国際認識としては第6段落の小中華思想があげられていて、どれも近代に受け継がれたと書かれているので、③が正しい。

①近世の文化が「古代や中世の文化の焼き直し」ではないことは、第4段落の国学による古代の美意識の再認識で主張されているし、「私たちが日本の伝統を理解するためには、古代以来の文化をしっかり学ぶことが重要である」というのは第2段落に引用された内藤湖南の主張(これがこの問題文の趣旨につながる)に反する。②「中国への崇拜」とは逆のことが第6段落の小中華思想として紹介されてい

るし、「西洋の近代的な学問の方法論」は第5段落の原典批判で指摘されている。④「近世以後の歴史だけを見ていればよいという議論」を前提にこの問題文が成り立っている。

第4問 西洋の思想

【出題のねらい】

本問は、科学の特徴と対比しながら哲学の意義について考えることをテーマとして、ルネサンス・宗教改革、近代哲学、現代思想など、西洋思想について幅広く出題した。扱っている範囲が広いので解答には苦労するかもしれないが、この解説を活用して、様々な思想の内容の理解を深めよう。

【設問別解説】

問1 [22] ③

宗教改革の口火を切ったルター(1483～1546)は、当時のローマ教会が、財政上の必要から、民衆を罪から救済するという名目で贖宥状しゆゆうじょうを売り出したことに教会の腐敗を見てとり、痛烈に批判した。彼によれば、人間が神によって義とされるのは、贖宥状を買ったり善行を積み重ねたりすることによってではなく、ただ信仰をもつことによってのみ可能となる(信仰義認説)。そして信仰の拠り所は、教会の説く教義や儀式にあるのではなく、ただ聖書に記されている神の言葉であるとする聖書中心主義の立場をとった。

①ルネサンス(文芸復興)は、中世までの観念や思想に囚われることなく、人間性の解放を目指して、古代ギリシア・ローマ文化の復興を図ろうとするものである。ルネサンスの時代においては、特定の分野で優れた能力をもつ専門人よりも、様々な分野で能力を発揮する万能人が理想とされた。②マキアヴェリ(1469～1527)は、君主は国家の維持と発展のためには、非道徳的な行動をとることが必要となる場合もあるとして、政治を道徳・宗教とは分離して捉えた。④カルヴァン(1509～64)は、神の絶対性を強調し、誰が救済されるか否かは、あらかじめ神により定められているとする予定説を主張し、人ができるることは、ただ神から与えられた職業に禁欲的に勤しむことで、神の栄光をこの世に示すことのみであるとした(職業召命觀)。したがって、「誰が救済されるかをあらかじめ定めているわけではなく」という記述も、「世俗の職業に勤勉に打ち込めば誰でも救済される」という記述も誤り。

問2 [23] ③

デカルト(1596～1650)によれば、人間の精神は「思考すること(思惟)しわい」にその本質があるのに対

し、人間の身体や物体は空間的な「広がり(延長)」をその本質とする。そして彼は二つの実体は全く異なるものであり、それぞれ独立して存在するという物心二元論を展開した。したがって、「人間の精神と身体は、どちらも延長を本質とする同一の実体」としているこの選択肢は誤り。

①ペーコン(1561～1626)は、実験や観察により集められた事実を比較対照して分析し、それらに共通する一般的法則を導き出す帰納法を新しい学問の方法として提唱した。②ペーコンは、学問が求めるべきは、自然を支配し人間の生活を豊かにしていくための知であると考えた。こうした彼の考え方は「知は力なり」という言葉で表される。④デカルトは、あるべき学問の方法として、明確で疑いの余地のない原理から出発し、理性的な推論を積み重ねていくことで新たな知を得る演繹法を唱えた。

問3 [24] ①

パスカル(1623～62)は、人間の真のあり方について考えたモラリストの代表的な人物である。彼は、人間は「考える葦」であるとし、死すべき肉体をもつ人間を葦のように弱くはかない存在であると指摘する一方、人間は、自分がどのような存在であるかを考え、自分が葦のように弱い存在であると自覚することができ、その意味において人間は偉大な存在であると指摘した。このように人間は、悲惨さと偉大きさのはざまで揺れ動く中間者である。そして、不安定な中間者としての人間は、神への信仰を心の拠り所として生きるのがその本来の生き方である、とパスカルは主張した。したがって、「神に依存することのない」生き方で「完全で偉大な存在になることができる」としているこの選択肢は誤り。

②モラリストの一人であるモンテーニュ(1533～92)は、「私は何を知っているか」(ク・セ・ジュ)と自己に問いかける自省的な態度を重視した。人は自分の考え方方に固執するあまり、偏見をもつてしまったり独断に陥ってしまったりすることがある。そこで彼は、「自分はすべて分かっているというのか?いや、分かっていないこともある」と自問自答することで、自分の誤りを修正することができると主張した。③啓蒙主義の代表的思想家であるディドロ(1713～84)は、知識を体系的にまとめ上げた『百科全書』へんさんの編纂の中心となり、合理的精神の普及に努めた。啓蒙主義とは、理性を発揮することで、人々を無知から解き放ち、不条理な旧習や伝統・偏見を打破することを目指す思想運動である。④啓蒙主义思想家の一人であるフランスのヴォルテール(1694～1778)は、イギリスに渡航した際にイギリスの思

想や政治制度に感銘を受け、フランスに帰国後、『哲学書簡』を著してイギリスの思想や政治を紹介する一方、フランスの旧態依然の社会体制を批判した。

問4 [25] ⑧

ヘーゲル(1770～1831)は、事物の発展の論理としての弁証法を提唱した。弁証法とは、あるものと、それと矛盾したものとが対立し、やがてそれが克服されてより高いレベルのものが生まれる(止揚)という世界の運動ないし発展の法則である。例えば、家族においては、その構成員たる個人は深い愛情で結びついているが、個人は未だ自由を自覚していない。一方、市民社会においては、個人は独立し自由な存在である一方、自らの欲望の充足を第一に考えて他者と関係を結ぶため、争いが絶えない。したがって、市民社会は欲望の体系とも言える。家族のもつ人間相互の結び付きと市民社会のもつ個人の独立性を、より高い次元で生かした共同体が国家である。この国家は、人倫の最高形態であり、国家において真の自由が実現する、とヘーゲルは主張した。またヘーゲルは、人類の歴史は、自由を本質とする絶対精神(世界精神)が、自己を実現させようとした過程であると考えた。したがって、⑧の組合せが正解となる。

なお、aにある良識は、問2で出題したデカルトが、人間に平等にそなわるものと指摘したもので、理性と同じ意味である。また、cにある全体意志は、『社会契約論』の著者であるルソーが、個人の利益の実現を目指す意志である特殊意志の総和を表すのに用いた言葉である。

問5 [26] ②

資料文は、フロム(1900～80)『自由からの逃走』(日高六郎訳、東京創元社)からの引用である。資料文では、「近代人は伝統的権威から解放されて」自由を得たが、そうして自由を得た「個人」が、「自分自身や他人から引きはなされ」て、自ら「新しい束縛へすんで服従する」ようになってしまふという、近代人が自ら自由を放棄しようとする傾向をもつことが述べられている。

①上の解説で触れたように、「伝統的権威から解放された」近代人は、「他人から引きはなされた」存在になってしまったことが資料文に述べられているので、「近代人は…他者との絆を深めるに至った」という記述は誤り。③資料文には、「伝統的権威から解放されて」獲得された自由(消極的な自由)と、「能動的自発的に生きる能力」を含んだ、「個人の諸能力の十分な実現」につながる自由(積極的な自

由)とがある、ということが記されている。しかし、資料文で「危機」であると記されているのは、二つの自由について「そのどちらを選ぶべきか迷い、精神的に不安定になっている」ことではなく、「自由」が「自由の反対物に転換しようとする」こと、すなわち、②の解説で触れた、近代人が自ら自由を放棄しようとする傾向をもつことである。④資料文では、「積極的な自由は…個人の諸能力の十分な実現と一致する」とある。したがって、「積極的な自由を手にしたことにより、自らの様々な能力を発揮することができなくなってしまった」としている本選択肢の記述は誤り。

問6 [27] ①

キルケゴー(1813～55)は、実存的生活には三つの段階があると述べた。第一の段階は美的実存である。これは、「あれも、これも」とひたすら快楽を追い求めている状態である。しかし、有限な人間が際限のない欲望や享楽を追求することは不可能であり、やがて生きることに絶望してしまう。そこから立ち直ることができた人間は倫理的実存の段階に至る。これは数々の選択肢の中から「あれか、これか」を選択した結果、享楽を捨て、良心に従って人間の義務を果たそうとする状態である。だが、正しく生きようとすればするほど、人間は自らの有限性を深く自覚してしまい、結局、倫理的に生きられずにまたもや絶望に陥ってしまう。こうして絶望を繰り返した人間は、自分は神の前にたった一人で立つ者(単独者)であることを認識した宗教的実存の段階に到達する。この段階に至って、人間は自らの眞の実存を自覚できるとキルケゴーは主張した。

②ニーチェ(1844～1900)は、弱者への愛を説くキリスト教道徳は、弱者が自分たちの立場を正当化しようとする奴隸道徳であると批判した。その上で彼は、人間が本来もつ自らの生命力を發揮して生きんとする力(権力)への意志を發揮すべく、「神は死んだ」という事実を認め、自らの力で生きることを目指さなければならないと説いた。なお、「『自分を愛するがごとく隣人を愛せ』というイエスの黄金律」を重視した思想家としては、J. S. ミル(1806～73)がいる。人間に快楽をもたらす行為を善とする功利主義思想の代表的人物である彼は、他者のためになることを実行していくことが、結局自分の快楽につながるということを説き、イエスの黄金律を、功利主義の道徳の理想であるとした。③ハイデッガー(1889～1976)によれば、人間は死すべき運命を避けることができない「死への存在」であるが、日常生活を生きる中で、人はその事実から目を背け、世間の

中に埋没し、他者と区別のつかない没個性的な生き方をした「ひと(ダス・マン)」になってしまっている。そこで彼は、人間は自らが死への存在であるということを受け入れることで、「ひと」という非本來的な人間のあり方を脱し、自らの実存を自覚することができる、と主張した。したがって、「『死への存在』であることを自覚しながら生きる生き方を否定し、日常性の中にとどまつて」とする本選択肢は誤り。④この選択肢はサルトル(1905～80)ではなく、ヤスバース(1883～1969)についての記述。ヤスバースは、人間は、死・苦しみ・争いなど、自分自身の力では克服することが不可能な限界状況に直面することで、自らの有限性を痛感させられる、と主張した。こうした状況下におかれた人間は、有限な自己を支える、現実の状況を超越した神的な存在である超越者(包括者)の存在に気づくことで、自己の実存に目覚める、と彼は主張した。

問7 [28] ③

カント(1724～1804)は、行為が道徳性を有するかどうかは、行為の結果にあるのではなく行為の動機にあると考えた。そして彼は、無条件に善とみなすことができる的是善意志(道徳法則の命令に従おうとする意志としての動機の善さ)だけである、という動機主義の立場をとった。したがって、行為の道徳性が「行為の結果によって評価される」とする選択肢の記述は適当でない。

①カントは、人間の科学的認識は、感覚によって得られた経験的な「素材」を、理性が先天的な「形式」によって能動的に構成することで成り立つ、と主張した。このことについて彼は、「すべての知識は経験とともに始まるが、経験によって生じるのでない」と述べている。つまり、カントは、「主観(認識の主体)が客観(認識の客体)に従う」ことで認識が成立するという従来の考え方を逆転させ、「客観が主観に従う」ことで認識が成立するとしたのである。このように、認識の基準を逆転させ、人間の理性(主観)の能動性・主体性を明らかにしたことの意義を、カントは自ら(認識論上の)「コペルニクス的転回」と呼んでいる。②カントによれば、人間の意志を決定する命令の方式には、仮言命法と定言命法の二つがある。仮言命法は、「もし～ならば、～せよ」というかたちの条件付きの命令であり、例えば、「もし成功したいのなら、勤勉に働け」というのがそれにあたる。それに対して、定言命法は、「～せよ」という無条件の命令であり、「勤勉に働け」というかたちをとる。そしてカントは、普遍的妥当性のある行為を命じる道徳法則は定言命法のか

たちをとると主張した。④カントは、自律的自由の主体としての人間を人格と呼び、すべての人間は人格として等しく尊厳をもつと主張した。そしてカントは、すべての人間が人格の道徳的な完成を目指し、互いの人格を目的として尊重しあう共同体を「目的の王国」と呼んで市民社会の理想とした。

問8 [29] ⑥

Aはイのハーバーマス(1929～)についての記述。彼は、近代の理性は、技術の発展を促すとともに、人間を支配するものになってしまったとして、近代理性への批判を展開したフランクフルト学派に属する。彼によれば、科学技術によってもたらされた合理性により私たちの生活が規定されるようになると、法や倫理などの存在意義が失われていくことになる。こうした状況を脱するためには、人間が自由に討論し、そこで合意を重ねていくことが重要であり、彼はそのような討論と合意を重ねることで、認識や行為をより適切なものへと修正していく働きをもつ対話的理性の可能性に期待した。

Bはウのレヴィ＝ストロース(1908～2009)についての記述。彼は、文化に優劣をつけることはできず、文化はその多様性を保って共存し合うべきだという文化相対主義を唱えた。南米の諸部族に関して調査した彼は、西洋文明化されていない「未開社会」に根付く独特の野生の思考は、理性に基づく西洋の科学的思考と比較して、決して劣ったものではないと主張した。

Cはアのウィトゲンシュタイン(1889～1951)についての記述。彼は、これまでの哲学が取り上げてきた問題は、言語についての誤解から生じていると指摘した。そして、私たちが思考の対象にするべきものは、言語や文章でその事実を正確に表現することができる事柄であり、「神の存在」「善悪」「人生の意味」など、言語でその事実を正確に示すことができないものについては、論理的にその内容を示せるものではないから、論理的思考の対象とするべきではない、と主張した(「語りえぬものについては、沈黙しなければならない」)。

Dはエのロールズ(1921～2002)についての記述。彼は、社会を構成する前提としての正義(公正としての正義)の確立により、はじめて人がよりよい生活を営むための条件が確立する、と主張した。この正義には、二つの原理が含まれている。(a)各人は基本的自由を均等にもつ(第一原理)。(b)社会的・経済的不平等は、公正な競争の機会が各人に平等に与えられ、かつ、それが最も不遇な立場におかれた人々の生活の改善に貢献することが確保されている場合

にのみ容認される(第二原理)。したがって、⑥の組合せが正解となる。

問9 [30] ⑧

本文最終段落では、科学や技術が「人間の生活の利便性を高めるための『手段』」であると位置づけられ、さらにその「『手段』のあり方や活用の仕方について考えるだけではなく、それらを利用する人間が『何をするべきか』」という、人間の目指すべき目標について思索する必要性が述べられている。

①本文には、科学や技術の進展により生じた問題として、第3段落に「人々の画一化や人間疎外」、最終段落に「核兵器の脅威」「地球規模で起きる環境破壊」が記されている。しかし、こうした問題が、人類による科学や技術の「活用法を誤ったことが原因である」との内容を、本文から読み取ることはできない。②③で述べた、科学や技術の発展が引き起こした問題の解決のために、「その発展による成果はすべて否定」すべきであるとか、「新たな形態の科学や技術を創造すべきである」という記述は、本文にはない。④本文最終段落では、「人はどう生きるべきか」という哲学的な問いに対しては、「様々な思想をもつ人々が自由で理性的な対話を通じて」思索を重ねていくことが大切である、と述べられている。したがって、「既存の哲学思想に依拠して思考する姿勢は望ましくない」という本選択肢の記述は、本文の内容に反する。

第5問 現代社会の特質と倫理

【出題のねらい】

本問は、現代社会の特質と倫理的課題について、大衆社会、大量消費社会、地球環境問題、医療技術の発達と倫理、少子高齢社会、高度情報社会などの側面から幅広く出題した。また、プラグマティズムの哲学者ジェームズの著作の読解問題や問題本文の読み取り問題も出題した。

【設問別解説】

問1 [31] ④

20世紀の初め、アメリカで「自動車王」と呼ばれることになるフォードは、同一種類の車(T型フォード)をベルトコンベヤーの導入による流れ作業で大量生産する方式(フォード・システム)を採用し、それまで金持ちのぜいたく品であった自動車を広く一般大衆のものとする役割を果たした。以後、この少品種大量生産方式は他の分野にも採用され、大量消費社会が実現した。しかし、こうした社会では、規格化された同一の商品を多くの人が用いるため、生活様式の画一化といった現象も広く見られるよう

になった。

①「他人指向型」の説明が不適当である。アメリカの社会学者リースマン(1909~2002)が『孤独な群衆』において述べた他人指向(志向)型とは、同時代を生きる人々の平均的な態度を手本として自らの行動を決定するというものである。「自己の内的規範に基づいて行動する」のは、彼の類型でいえば近代社会に見られる内部指向(志向)型にあたる。②スペインの哲学者オルテガ(1883~1955)は『大衆の反逆』を著し、自立心や主体性を喪失した大衆が支配する社会のあり方を痛烈に批判した。したがって、「大衆社会を高く評価した」という選択肢の記述は不適当である。③「企業の宣伝や広告に左右されることになった」という選択肢の記述は不適当である。例えば、アメリカの経済学者ガルブレイス(1908~2006)は、『ゆたかな社会』を著し、現代の大量消費社会では、消費者の欲望が企業の広告・宣伝活動によって喚起あるいは創出される傾向があることを指摘し、これを依存効果と呼んだ。

問2 [32] ③

資源問題や環境問題を考える場合には、現在の世代の活動が、将来の世代の生活や生存に大きな影響を与えるという自覚をもつことが大切である。その意味で、環境倫理には世代間倫理という側面がある。

①アメリカの経済学者ボールディング(1910~93)は、1966年の論文「来るべき宇宙船地球号の経済学」において、閉ざされた空間である地球の環境破壊が人類に致命的な結果をもたらすと警鐘を鳴らし、地球環境の保護や開発の抑制を訴えた。したがって、「さらなる開発に歩み出すべきだと說いた」という選択肢の記述は不適当である。②1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された国連環境開発会議では、環境保全を重視する先進国と開発を促進したい開発途上国との間で深刻な対立が見られた。したがって、「意見の対立は見られなかった」という選択肢の記述は不適当である。④フランスの医師で神学者でもあったシュバイツァー(1875~1965)が説く「生命への畏敬」は、すべての生命の生きんとする意志を尊重するものであるから、「人間」だけに限定されるものではない。また、この考え方は、現代の環境倫理の考え方にもつながるものである。したがって、「根本的に矛盾する」という記述も不適当。

問3 [33] ②

出生前に胎児の状態を診断する出生前診断が、胎児の治療、分娩方法の選択や出生後のケアの準備の

ために行われるのであれば問題は少ない。しかし、例えば先天的異常が判明した場合に妊娠継続の判断材料に使われるとすれば、「優良ではない遺伝形質」をもつ子孫の出生を防止するという優生思想の復活につながりかねず、倫理的に重大な問題が生じる。

①「確立された治療方法」「日本でも人間にに対してこの技術を用いた治療が盛んに行われている」という選択肢の記述は不適当である。クローン技術を人間に適用することは、まだ安全面や倫理面から検討すべき問題が多いため、日本では、2000年に制定されたヒトクローン技術規制法(ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律)により規制されている。ただし、ヒトクローン胚の作製は、再生医療実現のためなどの基礎的研究に限り例外的に認められている(2004年生命倫理専門調査会『最終報告書』)。②2009年に改正された現行の臓器移植法は、脳死者本人の臓器提供の意思が不明な場合には、家族の書面による承諾があれば臓器移植のために脳死者から臓器を摘出することを認めている。したがって、「いかなる場合にも認められていない」という選択肢の記述は不適当である。④代理出産については、日本産科婦人科学会により自主規制が行われているものの、代理出産自体を規制する日本国内の法律はない。したがって「法律で禁止され」という選択肢の記述は不適当。また、日本ではすでに「代理出産で生まれた子どもの戸籍上の扱いをめぐる訴訟」が起きているので、その点でも選択肢の記述は不適当である。

問4 [34] ④

ノーマライゼーションとは、高齢者や障害者を施設に隔離するのではなく、すべての人が社会の中とともに生活できることを目指す考え方をいう。したがって、「ノーマライゼーションの理念に基づいて施設での介護が中心となっている」という記述は論理的に矛盾しており、不適当である。なお、事実としても、現在では、施設での介護ではなく在宅での介護を中心とする体制が目指されている。

①日本は、1970年に高齢化社会(国連の示した基準によれば全人口に占める65歳以上の高齢者の割合が7%を超えた社会)に、1994年に高齢社会(同じく、全人口に占める65歳以上の高齢者の割合が14%を超えた社会)に突入した。この急激な高齢化は、他の西欧諸国には例を見ないものである。②日本の合計特殊出生率(一人の女性が生涯に産む子どもの平均数)は、2005年に1.26(2011年は1.39)を記録するなど、2.0を下回る傾向が長期にわたり続いている。このことが、日本の少子高齢化の一因となって

いる。③少子高齢化の進行は、高齢者や障害者など扶養を必要とする人たちを、以前よりも少ない人数で支えることを意味する。その結果、高齢者を支える現役世代の負担が増える要因となる。

問5 [35] ④

a：従来の医師と患者の関係は、慈悲深い父親としての医師が患者を無知な子どものように扱い、その治療方針を決定するというものであった。こうした医師のあり方をパターナリズム(家父長的温情主義)と言う。したがって、空欄にはパターナリズムが入る。なお、「リビング・ウィル」とは、意思決定能力のあるうちに自分の意思を表明することで、延命治療を拒否するという意思を生前に書面で表明しておくことがその例である。

b：患者の自己決定権が重視される現代の医療現場では、医師と患者の関係は、以前とは大きく変わってきた。すなわち、「医師が患者に対して病状や治療方法について十分に説明し、患者の同意を得た上で治療を行う」ことが目指されるようになってきたのである。こうした医療のあり方を、インフォームド・コンセント(十分な説明に基づく同意)という。したがって、空欄にはインフォームド・コンセントが入る。なお、「ターミナルケア」とは、死期の近い人の苦痛や死の恐怖を和らげるための医療(終末期医療)を言う。

c：終末期医療では、とりわけクオリティ・オブ・ライフ(QOL)，すなわち「生命の質」「生活の質」に配慮した医療や介護が望まれる。したがって、空欄には、クオリティ・オブ・ライフが入る。なお、「ホスピス」とは、治療の手立てがなくなつた終末期の患者に対してQOLに配慮したケアを行う施設やサービスを言う。

したがって、④の組合せが正解となる。

問6 [36] ⑥

A：「日本人男性は背が低く眼鏡をかけている」のように、ある事柄に対して、特定の社会集団が抱いている固定的で画一的なイメージをステレオタイプと言う。したがって、ウがそれに該当する。ステレオタイプは、複雑な事象を簡単に説明しようとするとするものであるため、極度の単純化や歪曲化の危険を伴い、偏見や差別につながることが多い。

B：現代では様々な情報が氾濫しているが、そうした膨大な情報の中から、真偽を見極め、必要な情報を取捨選択し、生活や仕事に役立てていく能力を情報リテラシーと言う。したがって、イがそれに該当する。

C：パソコンやインターネット等の急速な普及を

背景に、所得、教育、人種、居住地域などが要因となって、情報技術を使いこなせる人と使いこなせない人の間に生じる経済的・社会的格差をデジタルデバイドと言う。したがって、アがそれに該当する。

以上の組合せを正しく示しているのは⑥である。

問7 [37] ⑧

資料文はジェームズ(1842~1910)の『宗教的経験の諸相(下)』(舛田啓三郎訳、岩波文庫)からの引用である。プラグマティズムの学者ジェームズは、現実の生活に役立つ有用性があるか否かを真理の判断基準であるとした(真理とは有用性)。資料文もそうした立場から、神を信仰することで様々な良い効果が得られるのであれば、神は現実に存在していると考えることができるという趣旨を述べている。こうした趣旨に合致するのは③である。

①「欲望の赴くままに自然体で生きる」、②「現実的に存在するなどという迷妄からいち早く自らを解き放つようにしなければならない」、④「神の意志に沿って生きていかなければならない」は、いずれも課題文の趣旨に反する。

問8 [38] ②

本文の第1段落では、経済的な豊かさを追求する「大量消費社会」が、「私たちを本当に幸福にしているのだろうか」と問い合わせ、むしろ私たちは、様々な商品を「消費することに囚われ振り回されている、という面はないだろうか」と問い合わせている。そして、本文の最終段落では、「経済的な豊かさの増大

が、必ずしも人々の幸福の増大に結びつくとは限らない」という、いわゆる「幸福のパラドックス」が指摘されていることに触れ、このような指摘が人々を真の幸福とは何かという問いにあらためて導くことに言及している。したがって、このような本文の趣旨に合致した記述である②が正解となる。

①本文の第2段落では、「貧困は、今もなお現代社会が最優先で克服すべき課題の一つである」と述べられている。したがって、「貧困の克服は今では現代社会の最優先の課題とは言えず」という選択肢の記述は誤り。③本文の第3段落では、「いつでもどこでも世界中とつながる高度情報社会」が「人間を時間や空間の制約から解放した」と述べられている。したがって、「情報技術の発達がもたらした問題は、人間に対する時間の制約を強め、人間から自由時間を奪ったことである」という選択肢の記述は誤り。④本文で取り上げられた現代社会の諸課題を解決するためは、一人ひとりの主体的な省察や取組みが必要である。しかし、それらの課題は、人々の連帯と社会的合意がなくては解決できない問題であることも明らかである。本文の最終段落でも、私たちが人間の幸福とは何かという問題について、「社会的な合意や連帯をすすめつつ答えることが求められている」と述べられている。したがって、個々人が「他者に配慮することなく」考え方行動すべきであるという選択肢の記述は適当でない。

＝＝＝ 政治・経済 ＝＝＝

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解番 答号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1 ④	2		
	問2	2 ④	2		
	問3	3 ④	2		
	問4	4 ④	3		
	問5	5 ③	3		
	問6	6 ②	2		
	問7	7 ⑤	2		
	問8	8 ④	3		
	問9	9 ⑥	3		
	問10	10 ②	2		
第1問 自己採点小計			(24)		
第2問	問1	11 ③	2		
	問2	12 ③	3		
	問3	13 ②	3		
	問4	14 ②	3		
	問5	15 ④	2		
	問6	16 ③	3		
	問7	17 ①	3		
第2問 自己採点小計			(19)		
第3問	問1	18 ②	3		
	問2	19 ④	3		
	問3	20 ①	3		
	問4	21 ②	3		
	問5	22 ④	2		
	問6	23 ③	2		
	問7	24 ①	3		
第3問 自己採点小計			(19)		
第4問	問1	25 ④	3		
	問2	26 ⑤	2		
	問3	27 ③	3		
	問4	28 ②	3		
	問5	29 ③	3		
	問6	30 ②	3		
	問7	31 ④	2		
第4問 自己採点小計			(19)		

問題番号	設問	解番 答号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	32 ③	3	2	
	問2	33 ②	2	3	
	問3	34 ③	3	3	
	問4	35 ①	2	2	
	問5	36 ②	3	3	
	問6	37 ③	3	3	
	問7	38 ③	3	3	
第5問 自己採点小計			(19)		
自己採点合計			(100)		

【解説】

第1問 日本の国際貢献

【出題のねらい】

本問は、日本の国際貢献を軸に、国際政治と国際経済の分野の基本事項を広く問うものである。為替変動の要因、地域紛争や民族紛争、難民の保護、世界経済の現状、人口問題や食料問題、国際連合(国連)の主要機関、地球環境問題、地域的経済統合、人間の安全保障などに加えて、ODA(政府開発援助)に関する図表問題も出題した。

【設問別解説】

問1 1 ④

外国為替相場とは、自国通貨と他国通貨との交換比率をいう(たとえば、1ドル=100円)。外国為替相場の仕組みには、為替相場を一定の範囲内に維持することを各国の政府に義務づける固定為替相場制と、為替相場を外国為替市場での通貨の需要と供給に委ねる変動為替相場制があるが、現在では、ドルや円などの主要通貨については、変動為替相場制が採用されている。この変動為替相場制の下では、為替相場は、外国為替市場における通貨に対する需要と供給によって決定される。したがって、ある通貨の需要が増えればその通貨の為替相場は高くなり、供給が増えれば安くなる。通貨当局が為替介入を行って円を売れば、円の供給が増えるので、円安がもたらされる。

①「円安」ではなく円高がもたらされる。日本の輸出が増加すれば、輸出が増加した分だけ外貨(ドル)の受取りが増える。受け取ったドルは、外国為替市場に供給されて円と交換されることになるので、その結果、円の需要が増加して円高がもたらされる。②「円安」ではなく円高がもたらされる。日本国内の金利が上昇し、海外に比べ、相対的に日本

の金利が高くなれば、日本の国外で資金を運用するよりも日本の国内で資金を運用するほうが有利となる。その結果、国外から国内に投資資金が流入することになるが、日本の国内では円で投資することになるから、ドルを売って円を買う必要がある。したがって、円の需要が増加して円高となる。^③「円安」ではなく円高がもたらされる。日本国内の物価水準が下落すれば、日本国内で製造した製品のドルで表示した価格は安くなる。たとえば、1ドル=100円の為替相場の場合、200円の日本製品が100円に下落した場合、ドルで表示した価格は、2ドルから1ドルに下落したことになる。その結果、日本製品の輸出が増加することになるので、^①と同じプロセスを経て、円高がもたらされることになる。

問2 2 ④

スーダンでは、1956年の独立前後から北部のイスラム教徒が多数を占める政府と南部のキリスト教徒などが多数を占める反政府勢力との間で内戦が続いてきたが、2011年に南部は独立を達成し、南スーダン共和国としてアフリカで54番目の独立国となった。そして、国連への加盟も認められ、193番目の加盟国となった。

^①「パレスチナの独立を承認しエルサレムを国連の管理の下に置くとする」という記述が誤り。1993年にイスラエルとPLO(パレスチナ解放機構)との間で成立したオスロ合意は、ヨルダン川西岸とガザにおけるパレスチナの自治を認めたものであり、パレスチナ国家の独立を認めたものではない。また、オスロ合意には、エルサレムを国連の管理の下に置くという内容は含まれていない。^②「イラク」ではなくカンボジアが正しい。1991年の湾岸戦争を契機として、人員による国際貢献の必要性が説かれるようになったことを背景として、1992年にPKO協力法(国連平和維持活動協力法)が制定され、武力の行使を伴わないことを条件に、PKO(国連平和維持活動)への自衛隊の部隊参加が認められるようになった。この法律に基づいて、自衛隊が最初に派遣されたのは、UNTAC(国連カンボジア暫定統治機構／1992～93年)である。なお、自衛隊は、PKO協力法ではなく、2003年に制定されたイラク復興支援特別措置法に基づいてイラクに派遣されたことがある。^③先進国においても地域紛争や民族紛争で武力が行使される例が見られる。たとえば、イギリス領内の北アイルランドでは、1960年代から多数派のプロテスタン系住民と自治などを求める少数派のカトリック系住民との間で武力衝突が続いてきた。なお、この紛争については、1998年に和平合意が成立し、

現在では武力衝突は収束している。

問3 3 ④

日本は、1981年に難民条約を批准した。そして、同条約の批准に際して、出入国管理及び難民認定法を制定し、難民の受入れも行っている。

^①「経済的理由による難民を保護の対象としている」という記述が誤り。1951年に採択された難民条約は、人種、宗教、政治的意見の違いなどによる迫害の恐怖から国外に逃れた政治難民(政治的亡命者)の国際的保護について定めている。経済的な困難を理由に国外に逃れた経済難民などは保護の対象とされていない。^②「原則として難民を本国へ送還することにしている」という記述が誤り。難民条約は、迫害のおそれのある国への難民の追放・送還の禁止(ノン・ルフルールマンの原則)を定めているから、迫害のおそれのある本国への送還は原則として禁止される。^③「信託統治理事会」ではなく国連難民高等弁務官事務所が正しい。1951年に設立されたUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)は、人道的な立場から、難民を保護し、食料、医療、住居などの援助を行っている。なお、信託統治理事会は、信託統治地域(非自治地域)の行政を監督することを目的としてきたが、1994年に唯一残っていたパラオがアメリカの信託統治地域を離れ独立したため、それ以降活動を停止している。

問4 4 ④

WTO(世界貿易機関)は、モノの貿易における国際的ルールだけでなく、サービス貿易や知的所有権(知的財産権)などの広範な分野における国際的ルールの確立に取り組んでいる。

^①「IBRD(国際復興開発銀行)」をIMF(国際通貨基金)にすれば、設立当初のIMFの役割についての正しい記述になる。IMF(国際通貨基金)は、設立当初、為替相場の安定のため、国際収支が悪化して外貨不足となった加盟国に対し、短期資金の融資を行ってきた。これに対して、IBRD(国際復興開発銀行／世界銀行)は、戦後の経済復興と開発途上国の経済開発のために長期資金の融資を行ってきた。^②「金と交換が約束されている」という記述が誤り。アメリカのドルは現在でも国際取引の際に使用される基軸通貨であるが、金との交換は約束されていない。1944年に成立したブレトンウッズ協定では、金1オンス(約31グラム)=35ドルで金との交換が約束されていたが、1971年8月にアメリカのニクソン大統領は、金とドルの交換停止を宣言した(ニクソン・ショック／ドル・ショック)。^③「開発途上国に関税上の優遇措置を供与することは認められ

ていない」という記述が誤り。WTO(世界貿易機関)では、無差別原則が採用されているが、国際競争力の弱い開発途上国に対する例外措置として、一般特恵関税の供与が認められている。特恵関税とは、特定の国からの輸入品に対し低い税率を適用する関税をいう。主に先進国が開発途上国に対して実施する優遇措置である。

問5 [5] ③

バイオエタノールとは、トウモロコシやサトウキビなどの植物性原料から生産されるエタノール(エチルアルコール)をいう。近年では、二酸化炭素の排出量抑制という見地から、バイオエタノールを燃料とした自動車の普及が進んでいる。このようなバイオエタノールの原料としての需要増加は、トウモロコシの国際価格高騰の要因となっている。

①「多産少死型」と「多産多死型」を入れ換えれば正しい記述となる。開発途上国の人口爆発は、人口動態の多産多死型から多産少死型への移行に伴って発生している。②「生産年齢人口の割合の増大に伴って歳出に占める社会保障費の割合が増大し」という記述が論理的に誤り。生産年齢人口の割合が増大しているなら、老人人口と年少人口を合計した割合が低下していることになるから、歳出に占める社会保障費の割合は低下し、経済的な負担は減少するはずである。なお、中国では、人口抑制を目的として「一人っ子政策」が採用されてきたため、生産年齢人口の割合が急速に低下し、社会保障費の増大によって経済的な負担が増大するという問題に直面している。④「穀物不足は徐々に緩和している」という記述が誤り。肉を生産するのにその何倍ものカロリーの穀物が必要となるといわれている。したがって、肉食の習慣が広がれば、それだけ穀物の需要が急激に増加することになるので、穀物不足はより深刻になる。

問6 [6] ②

経済社会理事会は、経済的・社会的・文化的な国際交流を促進する主要機関である。総会で選出された54か国の理事国で構成され、総会を補佐する。権限が広範囲に及んでいるため、国連の専門機関と連携し、NGO(非政府組織)とも協力しながら活動している。

①「安全保障にかかわる事項について審議することはできない」という記述が誤り。国際の平和と安全の維持に第一次的責任を負うのは安全保障理事会であるが、朝鮮戦争(1950年)を機に国連総会で採択された「平和のための結集」決議に基づいて、安全保障理事会が常任理事国の拒否権の行使によって機

能^{まきひ}麻痺に陥った場合、安全保障理事会の9理事国または加盟国の過半数の要請により緊急特別総会を開いて、平和と安全を維持するための勧告(軍事的措置を含む)をすることが可能となった。③「紛争当事国の方の付託があれば裁判を開始できる」という記述が誤り。国際司法裁判所(ICJ)は、国連の主要機関として、1945年にオランダのハーグに設置された。国際司法裁判所は、国家のみが訴えを提起することができ、かつ、紛争当事国双方の同意がある場合にのみ裁判を開始することができる。これに対して、国内の裁判所における民事裁判の場合、紛争当事者的一方が訴えを提起すれば、裁判は開始される。なお、日本政府は、1954年と1962年に竹島の帰属について国際司法裁判所に付託することを韓国政府に提案したことがあるが、韓国政府がこの提案を拒否したため、裁判は開始されなかった。④「すべての理事国が拒否権をもっている」という記述が誤り。安全保障理事会の理事国の中のうち拒否権をもっているのは、常任理事国であるアメリカ、イギリス、フランス、ロシア、中国の5か国である。総会の選挙によって選ばれる任期2年の非常任理事国に拒否権は認められていない。

問7 [7] ⑤

まず、DAC(開発援助委員会)加盟国中、ODAの総額(純額ベース)の第1位の国はアメリカなのでODA(政府開発援助)の総額が最大のAが「アメリカ」と判断することができる。次に、この3か国の中でODA(政府開発援助)の総額がAのアメリカに次いで大きく、対GNI(国民総所得)比がAのアメリカと同程度であるBが「日本」と判断することができる。なお、日本のODA総額は、現在、第5位である。残りのCが「スウェーデン」となる。スウェーデンはODAの総額は少ないが対GNI比は国際目標の0.7%を超えていている。

問8 [8] ④

1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された国連環境開発会議(地球サミット)には、世界の約180か国・地域の政府代表が参加し、多数のNGO(非政府組織)も参加した。同会議では、開発途上国の急速な工業化による地球環境の悪化を危惧する先進工業国と、経済開発の権利を主張する開発途上国との対立もあったが、「持続可能な開発」を共通理念として、環境保護の指針となるリオ宣言とその行動計画であるアジェンダ21が採択された。

①「ラムサール条約」ではなくワシントン条約が正しい。1973年に成立したワシントン条約は、絶滅のおそれのある野生動植物を保護するために、それ

らの国際取引を規制している。なお、ラムサール条約は、1971年に成立した「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」であり、多様な生態系をもっている湿地の保全を目的としている。
②「ワシントン条約」ではなくバーゼル条約が正しい。バーゼル条約は、1989年に採択された条約で、一定の有害廃棄物の国境を越える移動などを規制するものである。
③「1972年に開催された国連人間環境会議」ではなく1992年に開催された国連環境開発会議が正しい。国連環境開発会議では、気候変動枠組み条約(地球温暖化防止条約)や生物多様性条約の署名が開放された。

問9 [9] ⑥

A一ウ EU(欧州連合)の前身である EC(欧州共同体)時代の1987年に発効した単一欧州議定書に基づいて、1993年1月に域内の市場統合が完成し、商品(モノやサービス)・資本・労働力の域内移動の自由化が実現した。また、2012年10月現在、加盟国27のうち17の国において共通通貨ユーロが導入されている。

B一イ NAFTA(北米自由貿易協定)は、1994年にアメリカ・カナダ・メキシコの3か国の間で発効した地域的経済統合の組織であり、関税の撤廃や投資規制の解除などを図っている。また、メキシコは、日本との間でEPA(経済連携協定)を締結している。

C一ア MERCOSUR(南米南部共同市場／メルコスール)は、1995年にブラジル・アルゼンチン・ウルグアイ・パラグアイの4か国で発足した地域的経済統合の組織であり、関税同盟(域内関税の撤廃・域外共通関税の設定)として出発した。その後、2012年7月31日にペネズエラが正式に加盟し、現在の加盟国は5か国となっている。

問10 [10] ②

近年では、貧困・紛争・感染症・環境破壊などの脅威が国境を越えて人々を脅かすようになっているが、こうした新たな状況に対応するためには、従来の「国家の安全保障」のような国家を単位とした枠組みだけでは不十分であり、個々の人々に直接焦点をあてた「人間の安全保障」の考え方が必要となっている。選択肢のうち、個々の人々に直接焦点をあてた施策を考えているのは、②だけである。

①③④それぞれ、国家を単位とした施策であるから、「人間の安全保障」ではなく「国家の安全保障」の見地からの取組みである。

第2問 日本の政党政治と選挙制度

【出題のねらい】

本問は、日本の政党政治と選挙制度、および地方自治についての基本事項を理解しているかどうかを試すことをねらいとしている。日本の選挙制度については、選挙運動をめぐるルールについて理解を深めるとともに、衆議院議員選挙と参議院議員選挙の違いを意識しながら、それぞれの内容を正しく理解しておきたい。また、問6の住民による直接請求の手続についても、請求の種別ごとに「必要署名数・請求先・その後の取扱い」を正確に押さえておこう。

【設問別解説】

問1 [11] ③

日本国憲法第92条は、「地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基いて、法律でこれを定める」と規定している。ここにいう「地方自治の本旨」とは、民主主義の基礎としての地方自治の原理・原則を意味し、地方公共団体の政治が住民の意思に基づいて行われるという住民自治の原理と、地方公共団体が国から相対的に独立して政治を行うという団体自治の原理からなる。地方公共団体は条例制定権をはじめとする自治的権能を有するが(日本国憲法第94条)，これは、団体自治の原理を具体化したものである。また、住民による長や議員の直接選挙(日本国憲法第93条2項)や、地方自治法における住民の直接請求の仕組み(問6を参照)は、住民自治の原理を具体化したものである。したがって、文章中のイ・ウには団体自治が、ア・エには住民自治が入り、正解は③となる。

問2 [12] ③

公職選挙法は、連座制と呼ばれる制度を採用しており、候補者本人が選挙違反を行っていなくても、候補者と一定の関係にある者が買収などの選挙違反を犯して刑に処せられた場合に当選が無効となり、また5年間は同じ選挙で同じ選挙区から立候補することができなくなる。連座対象者には、選挙運動の総括責任者や出納責任者のほかにも、候補者と意思を通じて選挙運動をした一定範囲の親族(父母・配偶者・子・兄弟姉妹)や秘書などが含まれる。
③では、「国会議員の候補者と意思を通じて選挙運動を行った秘書」が「買収の罪を犯して禁錮刑に処せられ」ているのだから、候補者の当選は無効となる。

①「違憲判決を下したことはない」という記述が誤り。「一票の格差」とは、選挙区の間で、議員定数と有権者数との間に不均衡がある(定数不均衡)ために、有権者が投じる一票の価値に格差が生じてしまうことをいう。この問題について、最高裁判所

は、1976年(格差4.99倍)と1985年(格差4.40倍)に、公職選挙法上の衆議院議員の定数配分規定が日本国憲法第14条の法の下の平等に反し違憲であるという判断を示したことがある。②公職選挙法は、買収などの選挙違反の温床になるなどの理由から、選挙に關し、投票を依頼することを目的として有権者の住居などを戸別訪問することを禁止している。④国政選挙にインターネット投票が導入されているという事実はない。なお、2002年に施行された電子投票法は、地方選挙において、有権者が投票所でタッチパネル画面などを用いた電子投票機によって投票する制度を導入しており、いくつかの実施例もある。

問3 [13] ②

1955年には、それまで左派と右派に分裂していた社会党(日本社会党)が統一される一方で、自由党と日本民主党が合同して自民党(自由民主党)が結成された(保守合同)。この保守(旧来の習慣・制度・考え方などを尊重しようとする立場)の自民党と革新(現状を改革しようとする立場)の社会党との対立を軸とした政治体制を55年体制という。55年体制は、1960年代以降の野党の多党化や1970年代後半の与野党伯仲の時代を経て、1993年の総選挙において自民党が過半数を割って敗北し、非自民の立場をとる7党1会派による細川連立政権が成立したことで終わりを迎えた。

①「自民党と社会党の間でたびたび政権が交代した」という記述が誤り。55年体制の下では、衆議院における社会党の議席は自民党の議席の半分程度しかなく、当時の政党制は「 $1\frac{1}{2}$ 政党制」と揶揄されたように、社会党が政権を握ったことは一度もなかった。③「自民党と社会民主党の連立与党」という記述が誤り。「社会民主党」を公明党に直せば正しい記述となる。2005年に小泉(純一郎)内閣の下で行われた衆議院議員総選挙(いわゆる郵政選挙)では、定数480議席のうち自由民主党296議席・公明党31議席となり、与党の合計議席が3分の2を超えた。④「単独政権を樹立した」という記述が誤り。2009年に麻生(太郎)内閣の下で行われた衆議院議員総選挙では、自民党が歴史的惨敗を喫し、民主党が圧勝した。衆議院議員の定数480議席のうち民主党308議席、自由民主党119議席、公明党21議席であった。しかし、総選挙後に発足したのは、民主党の単独政権ではなく、民主党・社会民主党・国民新党による連立政権(鳩山内閣)であった。

問4 [14] ②

衆議院議員総選挙では、小選挙区選挙に立候補した者を、同時に比例代表選挙の名簿に登載すること

ができる重複立候補制が採用されている。この制度の下では、小選挙区選挙で落選した候補者が比例代表選挙で復活当選することがある。なお、参議院には重複立候補の制度はない。

①衆議院議員総選挙では、小選挙区比例代表並立制が採用され、総定数480名のうち300名を小選挙区選挙で選出し、残りの180名については、全国を11ブロックに分けて行われる比例代表選挙で選出することになっている。なお、2012年11月に小選挙区の定数を5名削減するための法改正が行われたが、選挙区の区割り作業は数か月かかるため、2012年12月に行われた衆議院議員総選挙は従来の定数の下で行われた。③「6年ごとに総定数242名のすべてが改選される」という記述が誤り。参議院議員は、3年ごとに半数が改選される(日本国憲法第46条)。④「全国を11のブロックに分けて」という記述が誤り。上でみたように、比例代表選挙を「全国を11のブロックに分けて」行っているのは、衆議院である。参議院の比例代表選挙は全国を一つの単位として行われる。

問5 [15] ④

公職選挙法は、選挙運動に関する支出金額に制限を設けているので(法定選挙費用)，資力に応じていぐらでも支出することができるわけではない。支出がこの限度額を超えた場合、出納責任者には罰則が適用され、連座制(問2の解説参照)によって候補者の当選が無効となる。

①国会議員を5人以上有するか、国会議員を有しきつ直近の国政選挙で2%以上の得票があった政党は、政党助成法に基づいて、所属国会議員の数や直近の国政選挙における得票率に応じて国費から政党交付金が交付される。②国会議員が、その職務に関して一定の依頼を受け、依頼者に便宜を図ることを約束して金品を受け取った場合には、受託収賄罪が成立する。③政治資金規正法では、政党や、政党に資金援助を行うために設立された政治資金団体への企業・団体献金は認められている。しかし、政治家個人や、政治家が政治資金の提供を受けるために設置する資金管理団体への企業・団体献金は禁止されている。

問6 [16] ③

地方自治法が定める住民の直接請求権についてまとめるに以下の通りである。

請求の種別	必要署名数	請求先	取扱い
事務監査請求	有権者の50分の1以上	監査委員	監査結果の公表。議会・長などへの報告。
条例の制定・改廃請求	有権者の50分の1以上	長	長が議会にかけ、その結果を公表。
議会の解散請求	有権者の3分の1以上(*)	選挙管理委員会	住民投票で過半数の同意があれば解散。
長・議員の解職請求	有権者(選挙区)の3分の1以上(*)	選挙管理委員会	住民投票で過半数の同意があれば失職。
その他の役員の解職請求	有権者の3分の1以上(*)	長	議会にかけ、総議員の3分の2以上が出席し、その4分の3以上の同意があれば失職。

(*) 長・議員の解職請求や議会の解散請求の必要署名数については、有権者が40万人を超える部分に関して、要件が緩和されている。

したがって、空欄Aには「50分の1」、空欄Bには「監査委員」、空欄Cには「住民投票で過半数の同意があれば失職」が入り、正しい組合せは③となる。

問7 [17] ①

市民運動やNPO(民間非営利団体)の中には、地球環境問題など特定地域の枠を越えて問題の解決に取り組んでいるものもある。

②今日では、特定の支持政党をもたない無党派層が増えているが、こうした人々の意見や投票行動も、マスメディアの影響を受けている。したがって、「無党派層が増大したため、既存のマスメディアが世論の形成や有権者の投票行動に影響を与えることはほとんどなくなった」という記述は適当ではない。③「多様な政策分野に精通し、自らの支持者の意見のみを国政に反映させようとする」という記述が誤り。族議員とは、特定の政策分野に精通し、その分野の政策決定過程に強い影響力をもつ議員の俗称である。建設族(道路族)、農林族、防衛族などの例がある。④「マニフェスト」ではなくパブリックコメントが正しい。パブリックコメント(意見公募手続)とは、行政手続法に基づく制度であり、行政機関が新たな規制を設けたり規制を改廃したりしようとするとき、その案を公表し、国民や事業者からの意見・情報・専門的知識を得て公正な意思決定をするための制度である。なお、マニフェストとは、候補者や政党などが、選挙に際して、当選後・政権獲得後に実施する政策を具体的に挙げ、実施期限や数値目標などについて明確に有権者に提示した文書をいう。

第3問 日本の統治機構

【出題のねらい】

本問は、国会、内閣、裁判所といった日本の統治機構に関して、それぞれの権能や相互の関係など重要事項を幅広く問うている。また外国の政治制度、権力分立、国民主権などについても出題した。

【設問別解説】

問1 [18] ②

「アメリカの大統領は、連邦議会の解散権…を有している」という記述が誤り。アメリカの大統領は、連邦議会が可決した法案を拒否する権限や、連邦議会に教書を送り予算や立法を要請・勧告する権限をもっているが、法律案の提出権や連邦議会を解散する権限をもたない。なお、連邦議会は大統領に対する不信任決議権をもたない。

①イギリスの議会は、国民によって選挙された議員で構成される下院(庶民院)と、非民選の貴族や聖職者などの議員によって構成される上院(貴族院)の二院制を採用している。ただし、両院は対等ではなく、下院優越の原則が採用されている。③フランスの政治制度は、大統領制と議院内閣制の中間的な形態(半大統領制)を採用しているが、大統領に、首相の任免権や下院(国民議会)の解散権など強い権限が認められている。④中国では、全国人民代表大会(全人代)に国家権力を集中させる民主集中制(権力集中制)が採用されている。全国人民代表大会は、省・直轄市・自治区・軍隊の代表で構成される最高の国家権力機関であり、法律の制定と改正、国家主席の選出、国家予算の承認などの権限をもつ。

問2 [19] ④

日本の裁判所が有する違憲立法審査権は、刑事事件や民事事件などの具体的な事件を審理する過程において、裁判の当事者が違憲の主張をした場合に限り行使される(アメリカ型の付隨的審査制)。したがって、具体的な事件が提起されていないのに、裁判所が抽象的に法律の規定などの違憲審査を行うことはない。また、裁判の当事者が法律の規定などの違憲性を主張していないのに、裁判所が法律の規定などの違憲審査を行なうことはない。なお、憲法違反かどうかを専門に判断する憲法裁判所を設けている国(ドイツなど)では、具体的な事件を前提とせずに、抽象的に違憲審査を行う制度が採用されている。

①違憲立法審査権は、最高裁判所だけでなく、下級裁判所も有する。ただし、最高裁判所が終審裁判所として、合憲・違憲について最終的に判断する。

②違憲立法審査権は、日本国憲法に明文の規定がある。日本国憲法第81条は、「最高裁判所は、一切の

法律、命令、規則又は処分が憲法に適合するかしないかを決定する権限を有する終審裁判所である」と定めている。ちなみに、アメリカの場合、裁判所の違憲立法審査権は憲法に明文の規定がなく、最高裁判所の判例の積み重ねによって19世紀初頭に確立された。^⑧違憲判決の効力は、対象となった事件だけに限られると解釈されている。したがって、違憲判決が下されたからといって、直ちにその法律の規定が削除され、将来にわたって無効となるわけではない。立法機関である国会がその法律の規定を削除するなどの法改正を行う必要がある。

問3 [20] ①

日本国憲法第64条は、国会に、罷免の訴追を受けた裁判官を裁判する**弾劾裁判所**を設置する権限を認めている。弾劾裁判所は、両議院の議員各7名の合計14名で組織される。別に組織される**訴追委員会**(両議院の議員各10名の合計20名で組織される)の訴追に基づいて裁判が開始される。裁判官は、職務上の義務に著しく違反し、または職務を甚だしく怠ったときや、職務の内外を問わず、裁判官としての威信を著しく失う非行があったときに罷免されることがある。2012年10月1日現在までに、8名の裁判官が弾劾裁判の対象となり、そのうち6名の裁判官が罷免されている。

②条約の承認については、事後承認も認められている。日本国憲法第73条3号は、条約の承認について「事前に、^{じき}時宜によつては事後に、国会の承認を経ることを必要とする」と規定している。条約の締結に対する国会の承認は事前承認が原則であるが、緊急に条約を締結する必要がある場合などには例外的に事後承認も認められている。^③「過半数」ではなく3分の2以上が正しい。日本国憲法第96条は、憲法改正の発議について、衆参各議院の**総議員の3分の2以上**の賛成が必要であると規定している。^④**国政調査権**を行使して、裁判所の判決内容を批判することは許されない。衆参両議院は、その権限を有効・適切に行使するため、広く国政に関する調査を行う権限(国政調査権)をもつが、裁判内容を批判するなど司法権の独立を侵害するような形で行使することは許されないと考えられている。

問4 [21] ②

「権力分立制を否定している」という記述が誤り。1789年に発表された**フランス人権宣言**の第16条は、「権利の保障が確保されず、権力の分立が規定されないすべての社会は、憲法をもつものではない」と規定し、権利の保障と権力の分立が憲法の重要な原則であることを明らかにしている。

①ロック(1632~1704)は、『市民政府二論』において、立法権をもつ議会が執行権や同盟権(連合権・外交権)をもつ国王を監視する形の**議会優位の権力分立制**を説いた。^③権力分立の考え方は、国家機関の間だけでなく、地方自治体における長と議会の関係や行政委員会制度などさまざまな政治の仕組みに見られる。^④大統領は議会の議員を兼任できないなど、アメリカの大統領制は厳格な三権分立制を採用している。

問5 [22] ④

内閣総理大臣や国務大臣には、議院への出席の権利と義務がある。日本国憲法は、「内閣総理大臣その他の国務大臣は、両議院の一に議席を有すると有しないとにかくらず、何時でも議案について発言するため議院に出席することができる。又、答弁又は説明のため出席を求められたときは、出席しなければならない」(第63条)と定めている。

①まず、日本国憲法第69条は、**内閣不信任決議権**を衆議院のみに認め、参議院には認めていない。また、不信任決議が可決された場合でも、内閣は10日以内に衆議院を解散することができるので、「直ちに総辞職しなければならない」という点も誤り。なお、衆議院が解散された場合、衆議院議員総選挙後に**特別国会**が召集されたときに内閣は総辞職する(日本国憲法第70条)。②内閣総理大臣は国会議員でなければならないが、国務大臣のすべてが国会議員である必要はない。日本国憲法は、「内閣総理大臣は、国務大臣を任命する。但し、その過半数は、国会議員の中から選ばれなければならない」(第68条1項)と定めており、国務大臣については過半数が国会議員であればよいとしている。③参議院の問責決議には**法的拘束力**がない。したがって、参議院が特定の国務大臣に対する問責を決議した場合にも、内閣総理大臣はその国務大臣を罷免する必要はない。

問6 [23] ③

日本国憲法は、「両議院の議員は、法律の定めるところにより、国庫から相当額の歳費を受ける」(第49条)と定めている。ここで国庫とは、国家を財産権の主体として捉えた場合の名称である。また、歳費とは、国から国会議員に支給される一年間の報酬を意味する。

①「任期中」ではなく会期中が正しい。国会議員は、国会の**会期中**における**不逮捕特権**が保障されている。この点につき、日本国憲法は、「両議院の議員は、法律の定める場合を除いては、国会の会期中逮捕されず、会期前に逮捕された議員は、その議院

の要求があれば、会期中これを釈放しなければならない」(第50条)と定めている。また、国会法は、「法律の定める場合」の例外として、現行犯の場合や所属する議院の許諾があった場合には、会期中であっても国会議員を逮捕できると定めている。②「院外」と「院内」を入れ替えれば正しい記述となる。日本国憲法は、「両議院の議員は、議院で行った演説、討論又は表決について、院外で責任を問はれない」(第51条)と定めている。ここで「院外で責任を問はれない」とは、刑事責任(名誉毀損罪などで処罰される)や民事責任(プライバシーの侵害などで損害賠償の支払いを命じられる)が免除されているという意味である。なお、免責されるのは「院外」での責任であるから、議院で行った演説などについて、議院の内部で懲罰の対象となることがある(日本国憲法第58条2項)。④日本国憲法第48条は、衆議院議員と参議院議員の兼職を禁止している。

問7 [24] ①

選挙権取得年齢は日本国憲法ではなく公職選挙法によって規定されている。したがって、同法を改正すれば選挙権取得年齢を20歳から18歳に引き下げることができる。

②日本国憲法は、内閣総理大臣は国会の議決によって指名されると定めている(第67条1項)。したがって、内閣総理大臣を国民の直接選挙で選ぶ首相公選制を導入するには、日本国憲法第67条1項の規定を改正しなければならない。③日本国憲法は、「両議院は、全国民を代表する選挙された議員でこれを組織する」(第43条1項)と定めている。したがって、参議院議員を選挙以外の方法で選出する制度を実現するには、日本国憲法第43条1項の規定を改正しなければならない。④日本国憲法は、「すべて選挙における投票の秘密は、これを侵してはならない」(第15条4項)と定め、秘密投票を保障している。したがって、仮に記名投票を導入するとしたら、日本国憲法第15条4項の規定を改正しなければならない。

第4問 市場と企業

【出題のねらい】

本問では、資本主義経済の基本的な仕組みの理解を問うという視点から、各経済主体の活動や、市場の機能とその限界、経済学説および株式会社について出題した。また、会社法や企業の社会的責任、消費者問題に関する近年の取組みなど理論的な側面だけでなく、現実社会の動向についても学習ができているかを試す問題も出題した。いずれも基本的な知識や理解を問う

問題であり、基礎固めができるれば容易に正答を導き出せるはずである。

【設問別解説】

問1 [25] ④

「生産手段である機械を打ち壊すべきであると考えた」という記述が誤り。マルクス(1818~83)は、生産手段の私的所有を廃し、社会的所有に変えることによって労働者の搾取がなくなると考えた。機械を打ち壊すことによって失業などの問題が解消されるという考え方は、産業革命期に機械の導入によって失業した熟練労働者を中心にイギリスで起こったラダイト運動(1810年代)で見られた主張である。

①アダム・スミス(1723~1790)は自由放任主義(レッセ・フェール)の立場から国家が経済に過度に介入することを批判し、国家の役割は国防などの必要最小限にとどめるべきであると主張した。②ケインズ(1883~1946)は、不況時には政府が公共事業などを積極的に行い有効需要(貨幣支出の裏づけのある需要)を増やすことで景気を回復させることができると考え、政府が積極的に経済に介入すべきことを主張した。③フリードマン(1912~2006)は、政府が経済へ裁量的に介入すべきであるとするケインズが説いた考え方に対する反対し、中央銀行が一定のルールに基づいて通貨を供給すべきであるというマネタリズムの考え方を説いた。

問2 [26] ⑥

家計は、企業の従業員や政府の職員(公務員)として働いて賃金を受け取る。即ち企業や政府に労働力を売り、その対価として賃金を受け取っている。また、政府に対しては租税を納め、年金など各種の社会保障給付を受け取る一方、企業から財やサービスを購入しその代金を企業に支払う。こうした経済活動を行っているのはBなので、Bが「家計」であるとわかる。なお、家計は企業に資本を提供すれば利子・配当を受け取り、土地を貸せば地代を受け取る。

企業は、政府や家計に財やサービスを売り、その代金を受け取る。また政府に対しては租税を納める。こうした経済活動を行っているのはCなので、Cが「企業」であるとわかる。

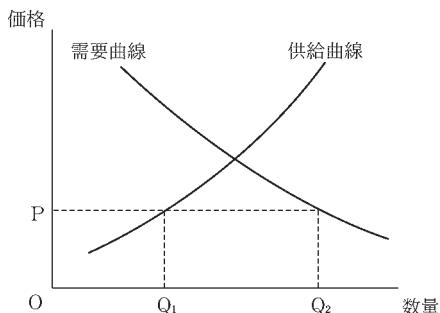
政府は、家計や企業から租税を徴収し、社会保障を給付したり補助金を出したりする。また、企業から財やサービスを購入すればその代金を支払う。こうした経済活動を行っているのはAなので、Aは「政府」である。

以上から、正解は⑥となる。

問3 [27] ③

下の図を使って説明しよう。価格Pのとき、需要量は Q_2 であり、供給量は Q_1 となるから、 Q_2-Q_1 の超過需要(品不足)が発生している。超過需要が発生していれば、財の価格は上昇することになる。その結果、需要量は減少し、供給量は増加するので、需要量と供給量の不均衡は価格の上昇に伴って自動的に調節される。価格の自動調節機能が働いている状況では、需給の間に不均衡があれば価格が変化してその不均衡を解消する。

①②いずれの選択肢も価格が変化しないことを想定しているため不適切である。価格の自動調節機能が働いている状況では、価格の変動を通じて需要量と供給量の不均衡が解消される。④価格がPから下落すれば、需要量は増える一方で供給量は減少するので、需要量と供給量の不均衡はますます拡大してしまう。



問4 [28] ②

寡占市場では、企業は利益を確保するため価格引下げ競争を回避し、広告・宣伝、デザイン、品質などの面で他社製品との差異を強調して(製品差別化)自社製品の市場占有率拡大を図ろうとする非価格競争が活発化する。

①「市場価格は下がりやすくなる」という記述が誤り。寡占市場では、有力な大企業がプライス・リーダー(価格先導者)として有利な価格を設定し、他の企業がこれに追随することで価格が決まることがあり(プライス・リーダーシップ/価格先導制)、こうして成立した価格を管理価格という。このように、寡占市場では必ずしも需給によって価格が決まるわけではないため、超過供給や生産コストの下落が生じても価格が下がりにくくなる(価格の下方硬直化)。③「カルテル」ではなくトラストが正しい。同一産業部門の複数の企業が合併することをトラストという。カルテルとは、同一産業部門の複数の企業が価格や生産量などについて協定を結ぶことである。④「持株会社の設立は禁止されている」という記述が誤り。日本の独占禁止法は財閥の復活を阻止

するため持株会社の設立を禁止してきた。しかし、企業再編の必要性にこたえるため、1997年の独占禁止法の改正により持株会社の設立が認められるようになった。

問5 [29] ③

「消費者の自立支援」と「消費者保護」を入れ替えれば正しい記述となる。消費者保護基本法が2004年に全面改正されて消費者基本法となり、これにより消費者行政の目的が「消費者保護」から「消費者の自立支援」に変更された。

①製造物責任法(PL法)では、商品の欠陥によって受けた被害について、製造業者は過失の有無にかかわらず賠償責任を負う(無過失責任)制度が採用されている。②特定商取引法や割賦販売法などにおいて、特定の契約について消費者が一定期間内に書面で通知すれば、違約金なしで契約を解除できるクーリング・オフ制度が定められている。④消費者行政の一元化を目的として、2009年に消費者庁が内閣府の外局として設置された。消費者庁は政府の消費者行政部門の司令塔となることを期待されている。

問6 [30] ②

「一人一票」ではなく一株一票が正しい。株主総会において株主は出資額に応じた議決権を有する。つまり、株主は一株一票の議決権をもっている。

①2006年に会社法が施行される以前は、株式会社の設立には1,000万円以上の資本金が必要であったが、会社法の施行により最低資本制度は撤廃された。③株主は、株式会社の利益の中から配当を受け取ることができる。したがって、配当の額は会社の業績に応じて変動し、利益がなければ無配当もある。④大規模な株式会社では、会社の所有者である株主が直接に経営を行うのではなく、経営の専門家を選任して会社の経営を任せすることが一般化している。このように株式会社の所有者と経営者が別の人物になる現象を「所有(資本)と経営の分離」という。

問7 [31] ④

A—イ 「コンプライアンス」は、法令遵守と訳され、各種の法令や自主的に定めた倫理基準、社会常識・通念などを遵守することである。したがって、コンプライアンスにあたる記述はイである。

B—ウ 「メセナ」とは、企業による文化・芸術活動への支援のことである。したがってメセナにあたる記述はウである。なお、企業による福祉や慈善的寄付などの社会貢献活動をフィランソロピーという。

C—ア 「ディスクロージャー」とは、企業の利

害関係者に財務状況など企業の経営情報を開示することを指す。したがって、ディスクロージャーにある記述はアである。近年は、ディスクロージャーによって企業の経営を透明化するなど、コーポレート・ガバナンス(企業統治)の強化を図ることが求められるようになってきている。

第5問 日本の社会保障

【出題のねらい】

本問は、社会保障についての基本的理解を試すものである。社会保障の歴史のほか、日本の社会保障制度の内容などについて少子高齢化の問題と結びつけて出題した。

【設問別解説】

問1 [32] ③

第二次世界大戦中のイギリスで公表されたベバリッジ報告(1942年)に基づき、第二次世界大戦後の労働党政権の下で、「ゆりかごから墓場まで」と表現される社会保障制度が整備された。このベバリッジ報告は、ナショナル・ミニマム(国民に対して保障する最低限の生活水準)の実現をめざすものである。

①「社会保険」と「公的扶助」を入れ替えれば正しい記述になる。まず、生活困窮者に公費で最低限の生活を保障する公的扶助は、1601年のイギリスのエリザベス救貧法により始まったとされている。また、疾病・老齢・負傷など生活を脅かす事由が発生したとき、一定の給付を行う社会保険は、1880年代のドイツのビスマルク首相の社会保険制度から始まったとされている。②「全国民を対象とした公的医療保険が整備された」という記述が誤り。アメリカでは1935年、ニューディール政策の一環として社会保険法が制定された。同法は、「社会保険」という言葉を初めて公式に使用したものといわれている。しかし、同法に公的医療保険は含まれていなかった。なお、オバマ政権下で既存の低所得者向け公的医療扶助制度の適用拡大などの医療制度改革が行われたが、現在でもアメリカには全国民が加入する公的医療保険は存在しない。④「公的扶助や社会保険の制度が導入されることはなかった」という記述が誤り。公的扶助や社会保険の制度は、戦前の日本にも一応存在した。第二次世界大戦前の日本では、公的扶助として恤救規則(1874年)や救護法(1929年)が存在し、また、社会保険として健康保険法(1922年)などが存在した。

問2 [33] ②

医療保険は、仕事の種類などによって加入する保険が異なっている。民間被用者は健康保険に、公務

員などは各種の共済組合が運営する医療保険に、被用者以外の自営業者や農業従事者などは国民健康保険に加入する。

①「外国人労働者には適用されない」という記述が誤り。労災保険(労働者災害補償保険)は、業務上、あるいは、通勤途上に生じた事故・疾病などの災害に対して補償を行うものであるから、被用者であれば国籍に関係なく適用される。なお、保険料は全額事業主負担となっている。③「任意で厚生年金に加入することができる」という記述が誤り。日本の年金制度は、20歳以上の全国民を対象とする基礎年金(国民年金)に、厚生年金や共済年金などが上乗せされる構造となっており、その上乗せ部分については、仕事の種類などによって加入する保険が異なっている。民間被用者は基礎年金と厚生年金に、公務員などは基礎年金と各種共済年金にそれぞれ加入しているが、いずれの年金も加入が強制されている。④「被用者は保険料を負担する必要はない」という記述が誤り。労働者を雇用する事業所には雇用保険への加入が義務づけられており、保険料は事業主と被用者の双方で負担することになっている。この雇用保険制度により、失業者への給付金の支給や雇用安定事業・能力開発事業などが実施されている。

問3 [34] ③

公的扶助は、生活困窮者に対して最低限度の生活を国が保障する制度であり、日本の場合は生活保護法を中心に実施されている。財源は、全額公費(租税)で賄われる。

①「減少傾向にある」という記述が誤り。1990年代半ば以降は、長期にわたる不況や高齢化により生活保護の受給者数は増加し続けており、2012年3月末現在、210万人を超えている。②「高齢者世帯の割合が一番低い」という記述が誤り。生活保護の現状を類型別被保護世帯数の割合で見ると、高齢者世帯が一番高く42.9%，次いで傷病・障害者が33.1%，その他が16.2%，母子が7.7%の順(2010年度)になっている。④「一律に支給される」という記述が誤り。生活保護の受給には、地方自治体の福祉事務所に申請して世帯単位の資力調査(ミーンズテスト)を受ける必要がある。また、生活保護の支給は本人の資産や労働能力、扶養義務者の有無などによって異なっており、一律支給ではない。

問4 [35] ①

「1.0を下回っている」という記述が誤り。一人の女性が生涯に産む子どもの数の平均値である合計特殊出生率は2005年に1.26を記録し史上最低となっ

たが、2006年には1.32、2007年には1.34、2008年と2009年は1.37、2010年と2011年は1.39となっており、やや回復傾向にある。したがって、1.0を下回ったことはない。

②少子化は労働力人口の減少をもたらすため、その分、労働力の減少を引き起こし、経済成長にマイナスの影響を及ぼすことが懸念されている。これに対しては、高齢者や女性の就業率の向上、外国人労働者の受入れによって経済成長は可能との見解もある。③日本は1970年に高齢化率(全人口に占める65歳以上人口)が7%を超えて高齢化社会になり、1994年には高齢化率が14%を超えて高齢社会になった。また2005年には、高齢化率は20%を超え、2011年は23.3%となっている。④合計特殊出生率の低下に伴って年少人口(15歳未満の人口)の割合が低下し、2011年には13.1%となっている(2011年10月1日現在)。

問5 [36] ②

「在宅ケアに代えて施設ケアをケアサービスの中心に位置づけている」という記述が誤り。ゴールドプランなどは、ノーマライゼーションの理念(①の解説を参照)を反映し、在宅ケアを重視する方向を打ち出している。ただし、それと並行して、特別養護老人ホームなどの施設ケアの充実も進められている。

①高齢者や障がい者がそれ以外の人々とともに普通の社会生活を送れるようにすべきだというのがノーマライゼーション(normalization)の理念である。この理念を実現するため、公共交通機関や公共建築物などにおいてバリアフリー化が進められている。③介護保険は、高齢者の介護と自立支援を目的として2000年度に発足した制度である。40歳以上の国民から保険料を徴収し、介護サービスの給付は要支援・要介護状態と認定された原則65歳以上の国民に対して行われ、市町村および特別区(東京都23区)が運営する。なお、介護サービスは、認定を受けた社会福祉法人や株式会社などが提供し、利用者がその中から選択する。費用の1割を本人が負担し、残りを保険料と公費で賄う。④老人医療制度は、老人保健法(1982年)により70歳以上の老人医療費が一部有料化されて以降、対象年齢の段階的引上げが行われてきた。その後、2008年度には老人保健法が廃止され、75歳以上の全国民を対象とする後期高齢者医療制度(長寿医療制度)が導入された。

問6 [37] ⑧

年金の財源調達方式には、積立方式と賦課方式がある。積立方式は給付に必要な費用を被保険者が在職中に積み立て、老後にその積立金から給付を受け

取る仕組みである。それに対して、賦課方式は、現役労働者が納めた保険料を財源として現在の高齢者に給付する仕組みである。日本の年金制度は積立方式でスタートしたが、現在はほぼ賦課方式となっている。

①「国債費に次ぐ大きな割合となっている」という記述が誤り。近年の一般会計歳出の主要経費別割合を見ると、社会保障関係費が最も高く、これに国債費、地方交付税交付金が続いている。2012年度の一般会計歳出(当初予算)に占める割合は、社会保障関係費が29.2%、国債費が24.3%、地方交付税交付金が18.2%である。②2009年度における社会保障給付費に占める割合は、年金給付費が51.8%、医療給付費が30.9%であり、医療給付費よりも年金給付費のほうが割合が高い。④「低下する傾向にあり、現在は25%を下回っている」ではなく、「増加する傾向にあり、現在は25%を上回っている」が正しい。社会保障給付費とは、医療、年金、社会福祉サービスなどとして国民に直接給付された費用の総額である。バブル崩壊後、日本経済は長期にわたる不況や高齢化により、国民所得に比べた社会保障給付費の割合は大幅に上昇し2009年度には29.44%となった(『社会保障給付費(平成21年度)』国立社会保障・人口問題研究所)。

問7 [38] ③

1994年の厚生年金法の改正によって、厚生年金の定額部分の支給開始年齢が60歳から65歳へ引き上げられることになり、2001年度から段階的に実施された。また、2000年の改正によって、厚生年金の報酬比例部分の支給開始年齢についても60歳から65歳へ引き上げられることになり、2013年度から段階的に実施される。

①「所得に応じて保険料と給付額が決まる所得比例主義が採用された」という記述が誤り。基礎年金(国民年金)の保険料と給付額は所得額に関係なく一律である。②「3割から2割に引き下げられた」という記述が誤り。健康保険法の改正によって、民間被用者が加入する健康保険の被保険者本人の自己負担割合は、1984年にゼロから1割に、1997年には1割から2割に引き上げられていたが、2002年の改正によって、さらに2割から3割に引き上げられた。④「休業期間中の賃金の支払いが事業主に義務づけられることになった」という記述が誤り。育児・介護休業法には、休業期間中の所得補償に関する規定がない。なお、休業中の所得については、雇用保険などから一定額の給付(育児休業は5割、介護休業は4割)が行われている。

倫理、政治・経済

【解答・採点基準】

(100点満点)

問題番号	設問	解番 答号	正解	配点	自己採点
第1問	問1	1	④	2	
	問2	2	③	2	
	問3	3	①	2	
	問4	4	④	3	
	問5	5	①	3	
	問6	6	②	3	
	問7	7	②	3	
第1問 自己採点小計			(18)		
第2問	問1	8	③	2	
	問2	9	②	3	
	問3	10	②	3	
	問4	11	①	2	
	問5	12	③	3	
	問6	13	⑥	2	
	問7	14	③	3	
第2問 自己採点小計			(18)		
第3問	問1	15	⑥	3	
	問2	16	③	3	
	問3	17	②	3	
	問4	18	②	2	
	問5	19	⑥	3	
第3問 自己採点小計			(14)		
第4問	問1	20	⑥	2	
	問2	21	②	3	
	問3	22	⑤	2	
	問4	23	③	2	
	問5	24	②	3	
	問6	25	②	2	
第4問 自己採点小計			(14)		

問題番号	設問	解番 答号	正解	配点	自己採点
第5問	問1	26	②	3	
	問2	27	④	3	
	問3	28	①	2	
	問4	29	②	3	
	問5	30	④	3	
	問6	31	③	2	
	問7	32	①	2	
第5問 自己採点小計			(18)		
第6問	問1	33	④	3	
	問2	34	⑤	2	
	問3	35	③	3	
	問4	36	②	2	
	問5	37	③	2	
	問6	38	②	3	
	問7	39	④	3	
第6問 自己採点小計			(18)		
自己採点合計			(100)		

【解説】

第1問 東西の源流思想と日本の思想

【出題のねらい】

本問は、「人間の所有欲」をテーマとして、東西の源流思想と日本思想を総合的に扱った問題である。設問では、古代ギリシア思想、キリスト教・イスラーム教といった世界宗教、ジャイナ教や仏教などの古代インド思想や、中国の思想、日本思想の原型や江戸儒学を取り上げるとともに、資料文や本文の趣旨読取問題も出題した。

【設問別解説】

問1 1 ④

資料文は、アリストテレス(前384～前322)の『政治学』(田中美知太郎、北嶋美雪、尼ヶ崎徳一、松居正俊、津村寛二訳、中公クラシックス)からの引用である。資料文の後半部分に「幸福に生きるということは、外部的な善を必要以上に所有しながら徳において欠けている人々よりも、品性と知性を高度に練磨して外部的な善の所有はほどほどにしている人々にこそ、よりいっそうそなわっているのである」というアリストテレスの主張が見られる。この

主張に合致するのは、④の「際限なく外部的な善を求めるながら徳において欠けている者は、必要以上に外部的な善を求めず徳をそなえる者に比べて、幸福とは言えない」という記述である。

①設問文の指示にあるように、この資料文は「外部的な善(富、名声など)と身体の善(健康、美貌など)と精神の善(勇気、節度、正義、思慮などの徳)の三つの善をそれぞれどれだけもつべきかについて、人々の意見が分かれる中で、アリストテレスが自身の考えを述べたもの」である。アリストテレスは、「外部的な善を必要以上に所有しながら徳において欠けている人々」に比べ、「品性と知性を高度に練磨して外部的な善の所有はほどほどにしている人々」の方が幸福と結び付くと主張している。したがって、「外部的な善は精神の善よりもいっそう尊く、幸福な生活に関わるものである」とする記述は、資料文のアリストテレスの主張に合致しない。②資料文は、その前半部分で「人々は外部的な善をそなえることによって徳を獲得し保持するのではなく、むしろ徳をそなえることによって外部的な善を獲得し保持するのである」と述べている。したがって、精神の善(勇気、節度、正義、思慮などの徳)をそなえることが外部的な善(富や名声など)の獲得に「結び付くことはなく」、「むしろ外部的な善をそなえることで徳を獲得することができる」とする記述は誤り。③資料文は、「外部的な善をそなえること」が「徳を獲得するうえで有効な手段」となるといった主張をするものではない。

問2 [2] ③

パウロ(?~64?)は、熱心なユダヤ教徒として、最初はキリスト教徒の迫害に加わっていたが、復活したイエス(前4?~30?)の声を聞くという宗教的体験を経て回心し、その後はイエスの教えをユダヤ人以外の異邦人に伝道すること(異邦人伝道)に力を尽くした。彼によれば、罪深い人類を救うために、神がイエスを神の子としてこの世に送り、十字架のイエスをいけにえとして、人類の罪を贖った(贖罪)のだとされる。そしてパウロは、イエスの死と復活に示された神の愛を信じることによる救いの道を説くとともに、信仰の核心を「人が義とされるのは、律法を守ることによるのではなく、信仰による」と主張した(信仰義認論)。

①民族宗教であるユダヤ教のヤハウェ(神)についての記述である。ヤハウェは裁きの神という側面が強い。また、とりわけパリサイ派は律法の厳格な遵守を重視する傾向が強く、イエスはそうした形式にこだわる律法主義のあり方を批判した。なお、キリスト教で説かれる神(イエスの説く神)は、悪い者のうえにも良い者のうえにも同じように恵みを与え、分け隔てなく愛する無差別・無償の愛(アガペー)を全人類に与える愛の神としての側面が強調される。

②キリスト教では、『旧約聖書』は『新約聖書』とともに聖書とされている。『旧約聖書』は律法・預言などからなるユダヤ教の聖典であるが、『旧約聖書』という呼称はキリスト教から見てのものであり、「旧約」とは、神がイスラエルの民と結んだ古い契約を意味する。『新約聖書』は、イエスの生涯と言行を記した四つの福音書(マタイ伝・マルコ伝・ルカ伝・ヨハネ伝)や使徒たちの手紙などからなる。なお、新約とは、イエスによってもたらされた神と人間との新しい契約を意味する。④キリスト教会最大の教父とされるアウグスティヌス(354~430)は人間の原罪を強調し、人間は罪深く、神の恩寵によらなければ善を志すこともできないし、救われることもないと考えた。したがって、「人間は自らが望む善を自発的に行うことによってのみ、神の恩寵により原罪から救われる」という記述はアウグスティヌスの考えに反する。

問3 [3] ①

ア：孟子の思想についての記述である。孟子(前372?~前289?)によれば、人は誰でも、仁・義・礼・智という四徳の芽ばえ、すなわち四端を生まれながらにそなえている。仁の芽ばえが惻隱の心(他者を思いやる心)、義の芽ばえが羞惡の心(自己の不善を恥じ、他者の不善を憎む心)、礼の芽ばえが辞讓の心(他者に譲る心)、そして智の芽ばえが是非の心(善悪をわきまえる心)である。これらをうまく育てていけば四徳を身につけることができるとするのが、孟子の考え方である。

イ：莊子の思想についての記述である。莊子(生没年不詳)は、善と惡、美と醜といった価値の区別・対立は人間が小賢しい知恵を働かせた結果生じたものであるとし、ありのままの自然の世界においては、あらゆるもののが価値は齊しいと說いた(万物齊同)。そして、そのような相対的な区別を生む人為を去って、天地自然と一体となり(心斎坐忘)，絶対的な自由の境地に遊ぶ人を、真人(至人)と呼んで、人間の理想とした。

ウ：韓非子の思想についての記述である。法家として知られる韓非子(?~前233?)は、法律や刑罰に基づく信賞必罰の実践を強調する法治主義を主張した。

エ：墨子の思想についての記述である。墨家の祖とされる墨子(生没年不詳)は、孔子など儒家の説く

仁は近親重視の差別的な愛(別愛)であるとしてこれを批判し、血縁や身分を超えた無差別・平等の愛(兼愛)と、それにより互いを利すること(兼愛交利)を重んじた。

以上により、適当な組合せは①となり、これが正解となる。

問4 [4] ④

垂加神道は「中江藤樹」ではなく山崎闇斎(1618~82)が創始したもので、朱子学と神道を融合して神人合一を説いた。また幕末の尊王論に影響を与えた思想としては、垂加神道のほかに、平田篤胤(1776~1843)の復古神道がある。なお、中江藤樹(1608~48)は、天地人をつらぬく道徳原理としての孝を説いた人物で、日本陽明学の祖といわれる。

①林羅山(1583~1657)は朱子学が幕府の官学となる道を開いたが、それは上下定分の理などの考え方が江戸時代の社会制度に合致していたためである。②伊藤仁斎(1627~1705)は古義学を確立し、人に対しても自分に対しても偽り飾ることのない誠の大切さを説いた。③荻生徂徠(1666~1728)は経世済民を重要視し、古典の言葉の意味を探求する古文辞学を唱え、中国古代の先王の道を理想とした。

問5 [5] ①

a の清明心(清き明き心)は、他人に対して、あざむき偽るところのない心情を言う。これは、神に対するときの心であるとともに、人と人との関係における道徳も示していた。なお、存心持敬は、日本の朱子学者である林羅山らの言葉で、為政者は敬によって欲望や情念を捨て(持敬)，本来の心を保ち(存心)，そのことによって天と通じ合い合一しなければならない(天人合一)ということを意味する。天道は、江戸時代の農政家として知られる二宮尊徳(1787~1856)の言葉で、彼は農業が天道と人道が合わさって成り立つと考え、分度(経済力に応じた合理的な生活設計を行うこと)と推讓(分度によって生じた余剰を他者に譲ること)によって天地・君主・親・祖先の徳恩に報いなければならないとする報徳思想を説いた。

b の和も、清明心と同じく共同体の秩序を維持するための倫理で、そのことは聖徳太子(574~622)が「十七条憲法」の中で述べた「和をもって貴しとなし」という言葉にも見て取ることができる。

したがって、①の組合せが正解となる。

問6 [6] ②

この選択肢の記述は、ウパニシャッド哲学で説かれる梵我一如を想定したものであり、ブッダ(釈迦:前463?~前383?)の思想を示したものではな

い。ウパニシャッド哲学は、宇宙の本体であるブラフマン(梵)と個々人の自我の本体であるアートマン(我)が一体であること(梵我一如)を悟ることで輪廻の苦しみから解脱できると説く。また、梵我一如の境地に到達するためには、欲望に囚われている小さな自我を否定しなければならないとし、世俗の生活から離れ、苦行や瞑想に励むことを説いた。

①中道についての記述である。ブッダは、快楽と苦行の両極端を排した修行のあり方(中道)の大切さを説いた。中道の具体的な実践のあり方が、正見(正しい見方)、正思(正しい考え方)、正語(正しい言葉)、正業(正しい行為)、正命(正しい生活)、正精進(正しい努力)、正念(正しい思念)、正定(正しい瞑想)という八正道(八聖道)である。③涅槃寂靜についての記述である。ブッダが到達した根本的な四つの真理を四法印(一切皆苦・諸行無常・諸法無我・涅槃寂靜)と言う。その内容は、(1)人生は苦しみに満ちているということ(一切皆苦)、(2)あらゆるものは時の流れとともに絶えず変化し、生滅していくということ(諸行無常)、(3)いかなる存在も不変の実体をもたないということ(諸法無我)、そして(4)これらの真理を悟るとき、人は、煩惱の炎が消えた安らぎの境地(涅槃寂靜)に達することができるということである。④無明についての記述である。無明とは、ブッダが苦の根本原因として見いだしたものであり、この世界を貫く真理(ダルマ、法)についての根源的な無知をいう。

問7 [7] ②

人間の所有欲には「道徳性を失わせる側面がある」とする前半部分の記述は、本文第1段落の「人間の所有欲の追求は満足を知らないだけでなく、人間から道徳性を奪う危険性をもつ」とする記述に合致する。また、「自己の欲望を杓子定規に抑制するのではなく、自らの人生の目的に照らして、自覚的に吟味していくことが大切である」とする後半部分の記述は、第3段落の「人間の所有欲をやみくもに抑制すれば、それで問題がすべて解決するというわけではない。大切なのは、どのような欲望をどのようになかたちで充足するのかを自覚的に吟味することであ」るとする記述や、最終段落の「自己の所有欲を、自らを取り巻く社会との関わりにおいて、そして自分がいかに生きていくかに照らして、主体的に吟味する習慣を身につける必要があるだろう」とする記述に合致する。したがって、②が正解となる。

①人間の「所有欲を契機とする活力に満ちた営為」に「全幅の信頼をおく」とする記述は、所有欲にふりまわされたり、私欲に目がくらむような人間

のあり方に対して警鐘を鳴らしている本文の趣旨に反する。③本文では、最終段落で「自己の所有欲を、自らを取り巻く社会との関わりにおいて、……主体的に吟味する習慣を身につける必要がある」と述べられていることから、「社会との関わりを断ち切り、自らの価値観と信念に従って欲望を統制していくことが求められる」とする記述は本文の趣旨に反する。④本文では、「所有欲を満たすこと」が、本当に人間の幸福と直結するのかどうか、という疑問を投げかけている。そして、最終段落で「他者を思いやる余裕がなくなるようなことは避けるべきである」と述べて、所有欲に翻弄される人間のあり方に警鐘を鳴らしている。こうしたことから、「人間はあるがままに欲望を追求すべきであり、それを抑制することは好ましいことではない」とする記述は、本文の趣旨に照らして適当でない。

第2問 西洋の近現代思想と現代の倫理的課題 【出題のねらい】

本問は、科学の特徴と対比しながら哲学の意義について考えることをテーマとして、近代哲学や現代思想などの西洋思想をはじめ、生命・医療倫理や環境倫理といった現代の諸課題について幅広く出題した。扱っている範囲が広いので解答には苦労するかもしれないが、この解説を活用して、様々な思想の内容について理解を深めよう。

【設問別解説】

問1 [8] ③

デカルト(1596～1650)によれば、人間の精神は「思考すること(思惟)」にその本質があるのに対し、人間の身体や物体は空間的な「広がり(延長)」をその本質とする。そして彼は二つの実体は全く異なるものであり、それぞれ独立して存在するという物心二元論を展開した。したがって、「人間の精神と身体は、どちらも延長を本質とする同一の実体」としているこの選択肢は誤り。

①ベーコン(1561～1626)は、実験や観察により集められた事実を比較対照して分析し、それに共通する一般的法則を導き出す帰納法を新しい学問の方法として提唱した。②ベーコンは、学問が求めるべきは、自然を支配し人間の生活を豊かにしていくための知であると考えた。こうした彼の考え方は「知は力なり」という言葉で表される。④デカルトは、あるべき学問の方法として、明確で疑いの余地のない原理から出発し、理性的な推論を積み重ねていくことで新たな知を得るえんえき演繹法を唱えた。

問2 [9] ②

出生前に胎児の状態を診断する出生前診断が、胎児の治療、分娩方法の選択や出生後のケアの準備のために行われるのであれば問題は少ない。しかし、例えば先天的異常が判明した場合に妊娠継続の判断材料に使われるとすれば、「優良ではない遺伝形質」をもつ子孫の出生を防止するという優生思想の復活につながりかねず、倫理的に重大な問題が生じる。

①「確立された治療方法」「日本でも人間に對してこの技術を用いた治療が盛んに行われている」という選択肢の記述は不適当である。クローン技術を人間に適用することは、まだ安全面や倫理面から検討すべき問題が多いため、日本では、2000年に制定されたヒトクローン技術規制法(ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律)により規制されている。ただし、ヒトクローン胚の作製は、再生医療実現のためなどの基礎的研究に限り例外的に認められている(2004年生命倫理専門調査会『最終報告書』)。③2009年に改正された現行の臓器移植法は、脳死者本人の臓器提供の意思が不明な場合には、家族の書面による承諾があれば臓器移植のために脳死者から臓器を摘出することを認めている。したがって、「いかなる場合にも認められていない」という選択肢の記述は不適当である。④代理出産については、日本産科婦人科学会により自主規制が行われているものの、代理出産自体を規制する日本国内の法律はない。したがって「法律で禁止され」という選択肢の記述は不適当。また、日本ではすでに「代理出産で生まれた子どもの戸籍上の扱いをめぐる訴訟」が起きているので、その点でも選択肢の記述は不適当である。

問3 [10] ②

資料文はフロム(1900～80)『自由からの逃走』(日高六郎訳、東京創元社)からの引用である。資料文では、「近代人は伝統的権威から解放されて」自由を得たが、そして自由を得た「個人」が、「自分自身や他人から引きはなされ」て、自ら「新しい束縛へすすんで服従する」ようになってしまふという、自ら自由を放棄しようとする傾向をもつことが述べられている。

①上の解説で触れたように、「伝統的権威から解放され」た近代人は、「他人から引きはなされた」存在になってしまったことが資料文に述べられているので、「近代人は…他者との絆を深めるに至った」という記述は誤り。③資料文には、「伝統的権威から解放されて」獲得された自由(消極的な自由)と、「能動的自発的に生きる能力」を含んだ、「個人の諸能力の十分な実現」につながる自由(積極的な自

由)とがある、ということが記されている。しかし、資料文で「危機」であると記されているのは、二つの自由について「そのどちらを選ぶべきか迷い、精神的に不安定になっている」ことではなく、「自由」が「自由の反対物に転換しようとする」こと、すなわち、②の解説で触れた、近代人が自ら自由を放棄しようとする傾向をもつことである。④資料文では、「積極的な自由は…個人の諸能力の十分な実現と一致する」とある。したがって、「積極的な自由を手にしたことにより、自らの様々な能力を発揮することができなくなってしまった」としている本選択肢の記述は誤り。

問4 [11] ①

キルケゴー(1813~55)は、実存的生き方には三つの段階があると述べた。第一の段階は美的実存である。これは、「あれも、これも」とひたすら快楽を追い求めている状態である。しかし、有限な人間が際限のない欲望や享楽を追求することは不可能であり、やがて生きることに絶望してしまう。そこから立ち直ることができた人間は倫理的実存の段階に至る。これは数々の選択肢の中から「あれか、これか」を選択した結果、享楽を捨て、良心に従って人間の義務を果たそうとする状態である。だが、正しく生きようとすればするほど、人間は自らの有限性を深く自覚してしまい、結局、倫理的に生きられずにまたもや絶望に陥ってしまう。こうして絶望を繰り返した人間は、自分は神の前にたった一人で立つ者(単独者)であることを認識した宗教的実存の段階に到達する。この段階に至って、人間は自らの眞の実存を自覚できるとキルケゴーは主張した。

②ニーチェ(1844~1900)は、弱者への愛を説くキリスト教道徳は、弱者が自分たちの立場を正当化しようとする奴隸道徳であると批判した。その上で彼は、人間が本来もつ自らの生命力を発揮して生きんとする力(権力)への意志を発揮すべく、「神は死んだ」という事実を認め、自らの力で生きることを目指さなければならないと説いた。なお、「『自分を愛するがごとく隣人を愛せ』といいうイエスの黄金律」を重視した思想家としては、J. S. ミル(1806~73)がいる。人間に快楽をもたらす行為を善とする功利主義思想の代表的人物である彼は、他者のためになることを実行していくことが、結局自分の精神的な快楽につながるということを説き、イエスの黄金律を、功利主義の道徳の理想とした。③ハイデッガー(1889~1976)によれば、人間は死すべき運命を避けることができない「死への存在」であるが、日常を生きる中で、人はその事実から目を背

け、世間の中に埋没し、他者と区別のつかない没個性的な生き方をする「ひと(ダス・マン)」になってしまっている。そこで彼は、人間は自らが死への存在であるということを受け入れることで、「ひと」という非本来的な人間のあり方を脱し、自らの実存を自覚することができる、と主張した。したがって、「死への存在」であることを自覚しながら生きる生き方を否定し、日常性の中にとどまつてとする本選択肢は誤り。④この選択肢はサルトル(1905~80)ではなく、ヤスバース(1883~1969)についての記述。ヤスバースは、人間は、死・苦しみ・争いなど、自分自身の力では克服することが不可能な限界状況に直面することで、自らの有限性を痛感させられる、と主張した。こうした状況下に置かれた人間は、有限な自己を支える、現実の状況を超越した神的な存在である超越者(包括者)の存在に気づくことで、自己の実存に目覚める、と彼は主張した。

問5 [12] ③

資源問題や環境問題を考える場合には、現在の世代の活動が、将来の世代の生活や生存に大きな影響を与えるという自覚をもつことが大切である。その意味で、環境倫理には世代間倫理という側面がある。

①アメリカの経済学者ボールディング(1910~93)は、1966年の論文「来るべき宇宙船地球号の経済学」において、閉ざされた空間である地球の環境破壊が人類に致命的な結果をもたらすと警鐘を鳴らし、地球環境の保護や開発の抑制を訴えた。したがって、「さらなる開発に歩み出すべきだと説いた」という選択肢の記述は不適当である。②1992年にブラジルのリオデジャネイロで開催された国連環境開発会議では、環境保全を重視する先進国と開発を促進したい開発途上国との間で深刻な対立が見られた。したがって、「意見の対立は見られなかった」という選択肢の記述は不適当である。③フランスの医師で神学者でもあったシュバイツァー(1875~1965)が説く「生命への畏敬」は、すべての生命の生きんとする意志を尊重するものであるから、「人間」だけに限定されるものではない。また、この考え方は、現代の環境倫理の考え方にもつながるものである。したがって、「根本的に矛盾する」という記述も不適当。

問6 [13] ⑥

Aはイのハーバーマス(1929~)についての記述。彼は、近代の理性は、技術の発展を促すとともに、人間を支配するものになってしまったとして、近代理性への批判を展開したフランクフルト学派に属す

る。彼によれば、科学技術によってもたらされた合理性により私たちの生活が規定されるようになると、法や倫理などの存在意義が失われていくことになる。こうした状況を脱するためには、人間が自由に討論し、そこで合意を重ねていくことが重要であり、彼はそのような討論と合意を重ねることで、認識や行為をより適切なものへと修正していく働きをもつ対話的理性の可能性に期待した。

Bはウのレビュイ＝ストロース(1908～2009)についての記述。彼は、文化に優劣をつけることはできず、文化はその多様性を保って共存し合うべきだという文化相対主義を唱えた。南米の諸部族に関して調査した彼は、西洋文明化されていない「未開社会」に根付く独特の野生の思考は、理性に基づく西洋の科学的思考と比較して、決して劣ったものではないと主張した。

Cはアのヴィトゲンシュタイン(1889～1951)についての記述。彼は、これまでの哲学が取り上げてきた問題は、言語についての誤解から生じていると指摘した。そして、私たちが思考の対象にするべきものは、言語や文章でその事実を正確に表現することができる事柄であり、「神の存在」「善惡」「人生の意味」など、言語でその事実を正確に示すことができないものについては、論理的にその内容を示せるものではないから、論理的思考の対象とするべきではない、と主張した(「語りえぬものについては、沈黙しなければならない」)。

Dはエのロールズ(1921～2002)についての記述。彼は、社会を構成する前提としての正義(公正としの正義)の確立により、はじめて人がよりよい生活を営むための条件が確立する、と主張した。この正義には、二つの原理が含まれている。(a)各人は基本的自由を均等にもつ(第一原理)。(b)社会的・経済的不平等は、公正な競争の機会が各人に平等に与えられ、かつ、それが最も不遇な立場におかれた人々の生活の改善に貢献することが確保されている場合にのみ容認される(第二原理)。したがって、⑥の組合せが正解となる。

問7 [14] ⑧

本文最終段落では、科学や技術が「人間の生活の利便性を高めるための『手段』」であると位置づけられ、さらにその「『手段』のあり方や活用の仕方について考えるだけではなく、それらを利用する人間が『何をするべきか』」という、人間の目指すべき目標について思索する必要性が述べられている。

①本文には、科学や技術の進展により生じた問題として、第3段落に「人々の画一化や人間疎外」、

最終段落に「核兵器の脅威」「地球規模で起きる環境破壊」が記されている。しかし、こうした問題が、人類による科学や技術の「活用法を誤ったことが原因である」との内容を、本文から読み取ることはできない。②①で述べた、科学や技術の発展が引き起こした問題の解決のために、「その発展による成果はすべて否定」すべきであるとか、「新たな形態の科学や技術を創造すべきである」とかの記述は、本文にはない。④本文最終段落では、「人はどう生きるべきか」という哲学的な問いに対しては、「様々な思想をもつ人々が自由で理性的な対話を通じて」思索を重ねていくことが大切である、と述べられている。したがって、「既存の哲学思想に依拠して思考する姿勢は望ましくない」という本選択肢の記述は、本文の内容に反する。

第3問 倫理難題

【出題のねらい】

本問は、防衛機制(防衛反応)、青年期の特徴、日本仏教の歴史的展開、日本の伝統・文化について研究した近現代の思想家、現代社会の特質を取り上げた。

【設問別解説】

問1 [15] ⑥

防衛機制(防衛反応)とは、葛藤(コンフリクト)や欲求不満(フラストレーション)によって心が不安定な状態になったとき、自我を守ろうとする心の無意識の働きであり、オーストリアの精神分析学者フロイト(1856～1939)などにより明らかにされた(下に防衛機制の代表的なものをあげておく)。下の表にある説明からも分かるように、A反動形成の内容はウ、B同一視の内容はイ、C合理化の内容はアがそれぞれ正しい。したがって、⑥の組合せが正解となる。

なお、エは欲求不満を合理的に解決したのだから防衛機制ではなく合理的解決にあたる。これは防衛機制の一つである「合理化」ではないので注意したい。

《防衛機制の例》

- 1 抑圧………社会的に好ましくない欲求を記憶に上らせずに忘れようとする。
- 2 合理化………自分の行動に対してもっともらしい理由をつけ、自己正当化する。
- 3 同一視………尊敬する他者のもつ特質などを自分の中に取り入れて満足する。
- 4 反動形成…抑圧された欲求とは正反対の行動をとる。

- 5 逃避……困難に直面したとき、その状況を避ける。
- 6 退行……欲求が満たされないときに、前の発達段階に戻る(赤ちゃん返りなど)。
- 7 代償……満たされない欲求をそれとは異なる他の欲求で満たそうとする。
- 8 昇華……満たされない欲求を社会的に価値の高い活動に転換する。

問2 [16] ⑧

ドイツの心理学者レヴィン(1890～1947)は、青年を、子どもの集団と大人の集団のどちらにも完全には属さないという意味でマージナル・マン(周辺人、境界人)と呼んだ。

①青年期を「第二の誕生」と名付けたのはホーリングワース(1886～1939)ではなくルソー(1712～78)なので誤り。フランスの思想家ルソーは、青年期が人間として精神的に自立する時期であることから、「私たちは、いわば、二回この世に生まれる。一回目は存在するために、二回目は生きるために」(『エミール』)と述べ、青年期を「第二の誕生」と名付けた。なお、アメリカの心理学者ホーリングワースは、幼児期が母親から肉体的に離乳する時期であるのに対し、青年期は親から精神的に自立する時期であることから、それを心理的離乳期として捉えた人物である。②ニートではなく、フリーターについての説明になっているので誤り。ニート(NETT: Not in Education, Employment or Training)とは、一般に、就学も就業もしておらず、職業訓練も受けていない若者のこと。内閣府の定義では、15歳以上34歳以下で、どの学校にも通学しておらず、普段収入を伴う仕事をしていない独身の若年無業者のことである。就業していないことがフリーターと異なる。④近代社会以前には青年期は社会的に認知されておらず、また、子どもはイニシエーション(通過儀礼)により一足飛びに大人集団の仲間入りをしていたと考えられているので誤り。青年期が人間の発達段階の一つとして位置づけられるようになったのは一般に産業革命を経た工業社会成立以降だとされる。なぜなら、工業化により、高度な知識や技能を習得する必要性が生じ、国家もそのための学校制度を整えるなど、大人になるための準備期間が必要になったためである。さらに20世紀以降の先進国では社会が要請する知識・技能が高度化したため、青年期は長期化する傾向にある。

問3 [17] ②

平安時代には本地垂迹説が広まり、日本の神は

インドの仏が仮の姿をとて現れた存在だと考えられた。また、仏教と伝統的な山岳信仰が結び付いて修験道も生まれた。こうした神仏習合は明治時代に禁止されるまで続き、仏教寺院の中に日本古来の神々の社を建てたり、神社の境内に仏事を修するための寺院である神宮寺などが置かれることも珍しくなかった。

①加持祈禱と結び付く真言宗・天台宗の密教は、日本独特の教えではなく中国から伝えられたもので、奈良時代ではなく平安時代のはじめから流行した。③鎌倉時代になると、中国仏教の影響を受けた末法思想に基づいて、淨土信仰から淨土宗・淨土真宗が生まれた。坐禅による自力修行を勧める禪宗(特に曹洞宗)は、末法思想を批判した。④室町時代の無常観(無常感)は仏教の影響を受けながら、素朴で簡素なわびや、秘められた美である幽玄などの日本の美意識を生み出して、水墨画・石庭・能などの芸術や生活文化にも影響を与えた。

問4 [18] ②

折口信夫(1887～1953)は、柳田国男に学んだ民俗学者・歌人である。彼は、共同体の外部からの來訪者を「まれびと(客人)」とする古くからの考えに注目し、「まれびと」を豊かな常世の國から定期的に訪れる神と考え、和歌や物語はこの神に関わって発せられた言葉に源流をもつとした。

①柳田国男(1875～1962)は、武士ではなく農民など、民間伝承の担い手としての民衆を常民と呼び、これを研究する民俗学を創始した。彼は常民の研究のためには文献史料ではなく、口承伝承や民具、行事などを重視した。③加藤周一(1919～2008)は、日本の文化を雑種文化と呼んだ。加藤の名を知らないても、古代から積極的に外来文化を取り入れ、固有の文化と融合しながら日本文化が作り上げられてきたことはしばしば指摘されるから、その観点から判断できるだろう。④和辻哲郎(1889～1960)は、人間を間柄的存在として捉え、人間の学としての倫理学を主張した。つまり、西洋に見られるような孤立した個人を前提とする倫理ではなく、個人と社会との相互作用において成立する倫理を論じたのである。

問5 [19] ⑥

A: 「日本人男性は背が低く眼鏡をかけている」のように、ある事柄に対して、特定の社会集団が抱いている固定的で画一的なイメージをステレオタイプと言う。したがって、ウがそれに該当する。ステレオタイプは、複雑な事象を簡単に説明しようとするものであるため、極度の単純化や歪曲化の危険を伴い、偏見や差別につながることが多い。

B：現代では様々な情報が氾濫しているが、そうした膨大な情報の中から、真偽を見極め、必要な情報を取捨選択し、生活や仕事に役立てていく能力を情報リテラシー(メディア・リテラシー)と言う。したがって、イがそれに該当する。

C：パソコンやインターネット等の急速な普及を背景に、所得、教育、人種、居住地域などが要因となって、情報技術を使いこなせる人と使いこなせない人の間に生じる経済的・社会的格差をデジタルデバイドという。したがって、アがそれに該当する。

以上の組合せを正しく示しているのは⑥である。

第4問 國際社會の動向と日本の課題

【出題のねらい】

本問は、地域的經濟統合の動向、国連の主要機関、日本の地方自治における原則、日本の高齢者福祉、日本の選挙制度など、国際社會と日本の課題について基本的な知識を問おうとするものである。あわせて、各國のODA(政府開発援助)の動向に関する表の読み取り問題も出題した。

【設問別解説】

問1 [20] ⑥

A一ウ EU(欧洲連合)の前身である EC(欧洲共同体)時代の1987年に発効した单一欧洲議定書に基づいて、1993年1月に域内の市場統合が完成し、商品(モノやサービス)・資本・労働力の域内移動の自由化が実現した。また、2012年10月現在、加盟国27のうち17の国において共通通貨ユーロが導入されている。

B一イ NAFTA(北米自由貿易協定)は、1994年にアメリカ・カナダ・メキシコの3か国との間で発効した地域的經濟統合の組織であり、関税の撤廃や投資規制の解除などを図っている。また、メキシコは、日本との間でEPA(経済連携協定)を締結している。

C一ア MERCOSUR(南米南部共同市場／メルコスール)は、1995年にブラジル・アルゼンチン・ウルグアイ・パラグアイの4か国で発足した地域的經濟統合の組織であり、関税同盟(域内関税の撤廃・域外共通関税の設定)として出発した。その後、2012年7月31日にペネズエラが正式に加盟し、現在の加盟国は5か国となっている。

問2 [21] ②

経済社会理事会は、經濟的・社会的・文化的な國際交流を促進する主要機関である。総会で選出された54か国の理事国で構成され、総会を補佐する。權限が広範囲に及んでいるため、国連の専門機関と連

携し、NGO(非政府組織)とも協力しながら活動している。

①「安全保障にかかる事項について審議することはできない」という記述が誤り。国際の平和と安全の維持に第一次的責任を負うのは安全保障理事会であるが、朝鮮戦争(1950年)を機に国連総会で採択された「平和のための結集」決議に基づいて、安全保障理事会が常任理事国の拒否権行使によって機能麻痺に陥った場合、安全保障理事会の9理事国または加盟国^{まちゆうこく}の過半数の要請により緊急特別総会を開いて、平和と安全を維持するための勧告(軍事的措置を含む)をすることが可能となった。③「紛争当事国の方の付託があれば裁判を開始できる」という記述が誤り。国際司法裁判所(ICJ)は、国連の主要機関として、1945年にオランダのハーグに設置された。国際司法裁判所は、国家のみが訴えを提起することができ、かつ、紛争当事国双方の同意がある場合にのみ裁判を開始することができる。これに対して、国内の裁判所における民事裁判の場合、紛争当事者の一方が訴えを提起すれば、裁判は開始される。なお、日本政府は、1954年と1962年に竹島の帰属について国際司法裁判所に付託することを韓国政府に提案したことがあるが、韓国がこの提案を拒否したため、裁判は開始されなかった。④「すべての理事国が拒否権をもっている」という記述が誤り。安全保障理事会の理事国の中でもあるアメリカ、イギリス、フランス、ロシア、中国の5か国である。総会の選挙によって選ばれる任期2年の非常任理事国に拒否権は認められていない。

問3 [22] ⑤

まず、DAC(開発援助委員会)加盟国中、ODAの総額(純額ベース)の第1位の国はアメリカなのでODA(政府開発援助)の総額が最大の**A**が「アメリカ」と判断することができる。次に、この3か国の中でODAの総額が**A**のアメリカに次いで大きく、対GNI(国民総所得)比が**A**のアメリカと同程度である**B**が「日本」と判断することができる。なお、日本のODA総額は、現在、第5位である。残りの**C**が「スウェーデン」となる。スウェーデンはODAの総額は少ないが対GNI比は国際目標の0.7%を超えていている。

問4 [23] ③

日本国憲法第92条は、「地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基いて、法律でこれを定める」と規定している。ここにいう「地方自治の本旨」とは、民主主義の基礎としての

地方自治の原理・原則を意味し、地方公共団体の政治が住民の意思に基づいて行われるという住民自治の原理と、地方公共団体が国から相対的に独立して政治を行うという団体自治の原理からなる。地方公共団体は条例制定権をはじめとする自治的権能を有するが(日本国憲法第94条)，これは、団体自治の原理を具体化したものである。また、住民による長や議員の直接選挙(日本国憲法第93条2項)や、地方自治法における住民の直接請求の仕組みは、住民自治の原理を具体化したものである。したがって、文章中のイ・ウには団体自治が、ア・エには住民自治が入り、正解は③となる。

問5 [24] ②

「在宅ケアに代えて施設ケアをケアサービスの中に位置づけている」という記述が誤り。ゴールドプランなどは、ノーマライゼーションの理念(①の解説を参照)を反映し、在宅ケアを重視する方向を打ち出している。ただし、それと並行して、特別養護老人ホームなどの施設ケアの充実も進められている。

①高齢者や障がい者がそれ以外の人々とともに普通の社会生活を送れるようにすべきだというのがノーマライゼーション(normalization)の理念である。この理念を実現するため、公共交通機関や公共建築物などにおいてバリアフリー化が進められている。②介護保険は、高齢者の介護と自立支援を目的として2000年度に発足した制度である。40歳以上の国民から保険料を徴収し、介護サービスの給付は要支援・要介護状態と認定された原則65歳以上の国民に対して行われ、市町村および特別区(東京都23区)が運営する。なお、介護サービスは、認定を受けた社会福祉法人や株式会社などが提供し、利用者がその中から選択する。費用の1割を本人が負担し、残りを保険料と公費で賄う。③老人医療制度は、老人保健法(1982年)により70歳以上の老人医療費が一部有料化されて以降、対象年齢の段階的引上げが行われてきた。その後、2008年度には老人保健法が廃止され、75歳以上の全国民を対象とする後期高齢者医療制度(長寿医療制度)が導入された。

問6 [25] ②

衆議院議員総選挙では、小選挙区選挙に立候補した者を、同時に比例代表選挙の名簿に登載することができる重複立候補制が採用されている。この制度の下では、小選挙区選挙で落選した候補者が比例代表選挙で復活当選することがある。なお、参議院には重複立候補の制度はない。

①衆議院議員総選挙では、小選挙区比例代表並立

制が採用され、総定数480名のうち300名を小選挙区選挙で選出し、残りの180名については、全国を11ブロックに分けて行われる比例代表選挙で選出することになっている。なお、2012年11月に小選挙区の定数を5名削減するための法改正が行われたが、選挙区の区割り作業は数か月かかるため、2012年12月に行われた衆議院議員総選挙は従来の定数の下で行われた。③「6年ごとに総定数242名のすべてが改選される」という記述が誤り。参議院議員は、3年ごとに半数が改選される(日本国憲法第46条)。④「全国を11のブロックに分けて」という記述が誤り。上でみたように、比例代表選挙を「全国を11のブロックに分けて」行っているのは、衆議院である。参議院の比例代表選挙は全国を一つの単位として行われる。

第5問 日本の統治機構

【出題のねらい】

本問は、国会、内閣、裁判所といった日本の統治機構に関して、それぞれの権能や相互の関係など重要事項を幅広く問うている。また外国の政治制度、権力分立、国民主権などについても出題した。

【設問別解説】

問1 [26] ②

「アメリカの大統領は、連邦議会の解散権…を有している」という記述が誤り。アメリカの大統領は、連邦議会が可決した法案を拒否する権限や、連邦議会に教書を送り予算や立法を要請・勧告する権限をもっているが、法律案の提出権や連邦議会を解散する権限をもたない。なお、連邦議会は大統領に対する不信任決議権をもたない。

①イギリスの議会は、国民によって選挙された議員で構成される下院(庶民院)と、非民選の貴族や聖職者などの議員によって構成される上院(貴族院)の二院制を採用している。ただし、両院は対等ではなく、下院優越の原則が採用されている。③フランスの政治制度は、大統領制と議院内閣制の中間的な形態(半大統領制)を採用しているが、大統領に、首相の任免権や下院(国民議会)の解散権など強い権限が認められている。④中国では、全国人民代表大会(全人代)に国家権力を集中させる民主集中制(権力集中制)が採用されている。全国人民代表大会は、省・直轄市・自治区・軍隊の代表で構成される最高の国家権力機関であり、法律の制定と改正、国家主席の選出、国家予算の承認などの権限をもつ。

問2 [27] ④

日本の裁判所が有する違憲立法審査権は、刑事事

件や民事事件などの具体的な事件を審理する過程において、裁判の当事者が違憲の主張をした場合に限り行使される(アメリカ型の付隨的審査制)。したがって、具体的な事件が提起されていないのに、裁判所が抽象的に法律の規定などの違憲審査を行うことはない。また、裁判の当事者が法律の規定などの違憲性を主張していないのに、裁判所が法律の規定などの違憲審査を行うことはない。なお、憲法違反かどうかを専門的に判断する憲法裁判所を設けている国(ドイツなど)では、具体的な事件を前提とせずに、抽象的に違憲審査を行う制度が採用されている。

①違憲立法審査権は、最高裁判所だけでなく、下級裁判所も有する。ただし、最高裁判所が終審裁判所として、合憲・違憲については最終的に判断する。②違憲立法審査権は、日本国憲法に明文の規定がある。日本国憲法第81条は、「最高裁判所は、一切の法律、命令、規則又は処分が憲法に適合するかしないかを決定する権限を有する終審裁判所である」と定めている。ちなみに、アメリカの場合、裁判所の違憲立法審査権は憲法に明文の規定がなく、最高裁判所の判例の積み重ねによって19世紀初頭に確立された。③違憲判決の効力は、対象となった事件だけに限られると解釈されている。したがって、違憲判決が下されたからといって、直ちにその法律の規定が削除され、将来にわたって無効となるわけではない。立法機関である国会がその法律の規定を削除するなどの法改正を行う必要がある。

問3 [28] ①

日本国憲法第64条は、国会に、罷免の訴追を受けた裁判官を裁判する弾劾裁判所を設置する権限を認めている。弾劾裁判所は、両議院の議員各7名の合計14名で組織される。別に組織される訴追委員会(両議院の議員各10名の合計20名で組織される)の訴追に基づいて裁判が開始される。裁判官は、職務上の義務に著しく違反し、または職務を甚だしく怠ったときや、職務の内外を問わず、裁判官としての威信を著しく失わせる非行があったときに罷免されることがある。2012年10月1日現在までに、8名の裁判官が弾劾裁判の対象となり、そのうち6名の裁判官が罷免されている。

②条約の承認については、事後承認も認められている。日本国憲法第73条3号は、条約の承認について「事前に、^{じき}時宜によつては事後に、国会の承認を経ることを必要とする」と規定している。条約の締結に対する国会の承認は事前承認が原則であるが、緊急に条約を締結する必要がある場合などには例外的に事後承認も認められている。③「過半数」では

なく3分の2以上が正しい。日本国憲法第96条は、憲法改正の発議について、衆参各議院の総議員の3分の2以上の賛成が必要であると規定している。④衆参両議院は、その権限を有効・適切に行使するため、広く国政に関する調査を行う権限(国政調査権)をもつが、裁判内容を批判するなど司法権の独立を侵害するような形で行使することは許されないと考えられている。

問4 [29] ②

「権力分立制を否定している」という記述が誤り。1789年に発表されたフランス人権宣言の第16条は、「権利の保障が確保されず、権力の分立が規定されないすべての社会は、憲法をもつものではない」と規定し、権利の保障と権力の分立が憲法の重要な原則であることを明らかにしている。

①ロック(1632~1704)は、『市民政府二論』において、立法権をもつ議会が執行権や同盟権(連合権・外交権)をもつ国王を監視する形の議会優位の権力分立制を説いた。②権力分立の考え方は、国家機関の間だけでなく、地方自治体における長と議会の関係や行政委員会制度などさまざまな政治の仕組みに見られる。③大統領は議会の議員を兼任できないなど、アメリカの大統領制は厳格な三権分立制を採用している。

問5 [30] ④

内閣総理大臣や国務大臣には、議院への出席の権利と義務がある。日本国憲法は、「内閣総理大臣その他の国務大臣は、両議院の一に議席を有すると有しないとにかくらず、何時でも議案について発言するため議院に出席することができる。又、答弁又は説明のため出席を求められたときは、出席しなければならない」(第63条)と定めている。

①まず、日本国憲法第69条は、内閣不信任決議権を衆議院のみに認め、参議院には認めていない。また、不信任決議が可決された場合でも、内閣は10日以内に衆議院を解散することができるので、「直ちに総辞職しなければならない」という点も誤り。なお、衆議院が解散された場合、衆議院議員総選挙後の特別国会が召集されたときに内閣は総辞職する(日本国憲法第70条)。②内閣総理大臣は国会議員でなければならないが、国務大臣のすべてが国会議員である必要はない。日本国憲法は、「内閣総理大臣は、国務大臣を任命する。但し、その過半数は、国会議員の中から選ばれなければならない」(第68条1項)と定めており、国務大臣については過半数が国会議員であればよいとしている。③参議院の問責決議には法的拘束力がない。したがって、参議院が

特定の国務大臣に対する問責を決議した場合であっても、内閣総理大臣はその国務大臣を罷免する必要はない。

問6 [31] ③

日本国憲法は、「両議院の議員は、法律の定めるところにより、国庫から相当額の歳費を受ける」(第49条)と定めている。ここで国庫とは、国家を財産権の主体として捉えた場合の名称である。また、歳費とは、国から国会議員に支給される一年間の報酬を意味する。

①「任期中」ではなく会期中が正しい。国会議員は、国会の会期中における不逮捕特権が保障されている。この点につき、日本国憲法は、「両議院の議員は、法律の定める場合を除いては、国会の会期中逮捕されず、会期前に逮捕された議員は、その議院の要求があれば、会期中これを釈放しなければならない」(第50条)と定めている。また、国会法は、「法律の定める場合」の例外として、現行犯の場合や所属する議院の許諾があった場合には、会期中であっても国会議員を逮捕できると定めている。②「院外」と「院内」を入れ替えれば正しい記述となる。日本国憲法は、「両議院の議員は、議院で行った演説、討論又は表決について、院外で責任を問はれない」(第51条)と定めている。ここで「院外で責任を問はれない」とは、刑事責任(名譽毀損罪などで処罰される)や民事責任(プライバシーの侵害などで損害賠償の支払いを命じられる)が免除されているという意味である。なお、免責されるのは「院外」での責任であるから、議院で行った演説などについて、議院の内部で懲罰の対象となることがある(日本国憲法第58条2項)。④日本国憲法第48条は、衆議院議員と参議院議員の兼職を禁止している。

問7 [32] ①

選挙権取得年齢は日本国憲法ではなく公職選挙法によって規定されている。したがって、同法を改正すれば選挙権取得年齢を20歳から18歳に引き下げることができる。

②日本国憲法は、内閣総理大臣は国会の議決によって指名されると定めている(第67条1項)。したがって、内閣総理大臣を国民の直接選挙で選ぶ首相公選制を導入するには、日本国憲法第67条1項の規定を改正しなければならない。③日本国憲法は、「両議院は、全国民を代表する選挙された議員でこれを組織する」(第43条1項)と定めている。したがって、参議院議員を選挙以外の方法で選出する制度を実現するには、日本国憲法第43条1項の規定を改正しなければならない。④日本国憲法は、「すべて選

挙における投票の秘密は、これを侵してはならない」(第15条4項)と定め、秘密投票を保障している。したがって、仮に記名投票を導入するしたら、日本国憲法第15条4項の規定を改正しなければならない。

第6問 市場と企業

【出題のねらい】

本問では、資本主義経済の基本的な仕組みの理解を問うという視点から、各経済主体の活動や、市場の機能とその限界、経済学説および株式会社について出題するとともに会社法や企業の社会的責任、消費者問題に関する近年の取組みなど理論的な側面だけでなく現実社会の動向についても学習ができているかを試す問題も出題した。いずれも基本的な知識を問う問題であり、基礎固めができていれば容易に正答を導き出せるはずである。まずは基本事項を確実に習得することを心がけよう。

【設問別解説】

問1 [33] ④

「生産手段である機械を打ち壊すべきであると考えた」という記述が誤り。マルクス(1818~83)は、生産手段の私的所有を廃し、社会的所有に変えることによって労働者の搾取がなくなると考えた。機械を打ち壊すことによって失業などの問題が解消されるという考え方には、産業革命期に機械の導入によって失業した熟練労働者を中心にイギリスで起こったラダイト運動(1810年代)で見られた主張である。

①アダム・スミス(1723~90)は自由放任主義(レッセ・フェール)の立場から国家が経済に過度に介入することを批判し、国家の役割は国防などの必要最小限にとどめるべきであると主張した。②ケインズ(1883~1946)は、不況時には政府が公共事業などを積極的に行い有効需要(貨幣支出の裏づけのある需要)を増やすことで景気を回復させることができると考え、政府が積極的に経済に介入すべきことを主張した。③フリードマン(1912~2006)は、政府が経済へ裁量的に介入すべきであるとするケインズが説いた考え方に対する反対し、中央銀行が一定のルールに基づいて通貨を供給すべきであるというマネタリズムの考え方を説いた。

問2 [34] ⑥

家計は、企業の従業員や政府の職員(公務員)として働いて賃金を受け取る。即ち企業や政府に労働力を売り、その対価として賃金を受け取っている。また、政府に対しては租税を納め、年金など各種の社会保障給付を受け取る一方、企業から財やサービス

を購入しその代金を企業に支払う。こうした経済活動を行っているのは**B**なので、**B**が「家計」であるとわかる。なお、家計は企業に資本を提供すれば利子・配当を受け取り、土地を貸せば地代を受け取る。

企業は、政府や家計に財やサービスを売り、その代金を受け取る。また政府に対しては租税を納める。こうした経済活動を行っているのは**C**なので、**C**が「企業」であるとわかる。

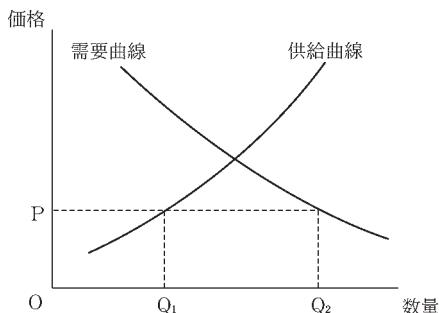
政府は、家計や企業から租税を徴収し、社会保障を給付したり補助金を出したりする。また、企業から財やサービスを購入すればその代金を支払う。こうした経済活動を行っているのは**A**なので、**A**は「政府」である。

以上から、正解は⑤となる。

問3 [35] ⑧

以下の図を使って説明しよう。価格Pのとき、需要量は Q_2 であり、供給量は Q_1 となるから、 Q_2-Q_1 の超過需要(品不足)が発生している。超過需要が発生していれば、財の価格は上昇することになる。その結果、需要量は減少し、供給量は増加するので、需要量と供給量の不均衡は価格の上昇に伴って自動的に調節される。価格の自動調節機能が働いている状況では、需給の間に不均衡があれば価格が変化してその不均衡を解消する。

①②いずれの選択肢も価格が変化しないことを想定しているため不適切である。価格の自動調節機能が働いている状況では、価格の変動を通じて需要量と供給量の不均衡が解消される。④価格がPから下落すれば、需要量は増える一方で供給量は減少するので、需要量と供給量の不均衡はますます拡大してしまう。



問4 [36] ②

寡占市場では、企業は利益を確保するため価格引下げ競争を回避し、広告・宣伝、デザイン、品質などの面で他社製品との差異を強調して(製品差別化)自社製品の市場占有率拡大を図ろうとする**非価格競**

争が活発化する。

①「市場価格は下がりやすくなる」という記述が誤り。寡占市場では、有力な大企業が**プライス・リーダー**(価格先導者)として有利な価格を設定し、他の企業がこれに追随することで価格が決まることがあり(**プライス・リーダーシップ／価格先導制**)、こうして成立した価格を**管理価格**という。このように、寡占市場では必ずしも需給によって価格が決まるわけではないため、超過供給や生産コストの下落が生じても価格が下がりにくくなる(**価格の下方硬直化**)。③「カルテル」ではなくトラストが正しい。同一産業部門の複数の企業が**合併**することをトラストという。カルテルとは、同一産業部門の複数の企業が価格や生産量などについて**協定**を結ぶことである。④「持株会社の設立は禁止されている」という記述が誤り。日本の独占禁止法は財閥の復活を阻止するため持株会社の設立を禁止してきた。しかし、企業再編の必要性にこたえるため、1997年の独占禁止法の改正により持株会社の設立が認められるようになった。

問5 [37] ③

「消費者の自立支援」と「消費者保護」を入れ替えれば正しい記述となる。消費者保護基本法が2004年に全面改正されて消費者基本法となり、これにより消費者行政の目的が「消費者保護」から「消費者の自立支援」に変更された。

①**製造物責任法(PL法)**では、商品の欠陥によって受けた被害について、製造業者は**過失の有無にかかわらず賠償責任**を負う(**無過失責任**)制度が採用されている。②**特定商取引法**や**割賦販売法**などにおいて、特定の契約について消費者が一定期間内に書面で通知すれば、違約金なしで契約を解除できる**クーリング・オフ制度**が定められている。④消費者行政の一元化を目的として、2009年に**消費者庁**が内閣府の外局として設置された。消費者庁は政府の消費者行政部門の司令塔となることを期待されている。

問6 [38] ②

「一人一票」ではなく一株一票が正しい。**株主総会**において株主は出資額に応じた議決権を有する。つまり、株主は**一株一票**の議決権をもっている。

①2006年に**会社法**が施行される以前は、株式会社の設立には1,000万円以上の資本金が必要であったが、会社法の施行により**最低資本金制度**は撤廃された。③株主は、株式会社の利益の中から配当を受け取ることができる。したがって、配当の額は会社の業績に応じて変動する。④大規模な株式会社では、会社の所有者である株主が直接に経営を行うのでは

なく、経営の専門家を選任して会社の経営を任せることが一般化している。このように株式会社の所有者と経営者が別の人になる現象を「所有(資本)と経営の分離」という。

問7 [39] ④

A—イ 「コンプライアンス」は、法令遵守と訳され、各種の法令や自主的に定めた倫理基準、社会常識・通念などを遵守することである。したがって、コンプライアンスにあたる記述はイである。

B—ウ 「メセナ」とは、企業による文化・芸術活動への支援のことである。したがってメセナにあ

たる記述はウである。なお、企業による福祉や慈善的寄付などの社会貢献活動をフィランソロピーという。

C—ア 「ディスクロージャー」とは、企業の利害関係者に財務状況など企業の経営情報を開示することを指す。したがって、ディスクロージャーにあたる記述はアである。近年は、ディスクロージャーによって企業の経営を透明化するなど、コーポレート・ガバナンス(企業統治)の強化を図ることが求められるようになってきている。

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

© Kawaijuku 2012 Printed in Japan

無断転載複写禁止・譲渡禁止

手引(国地公)